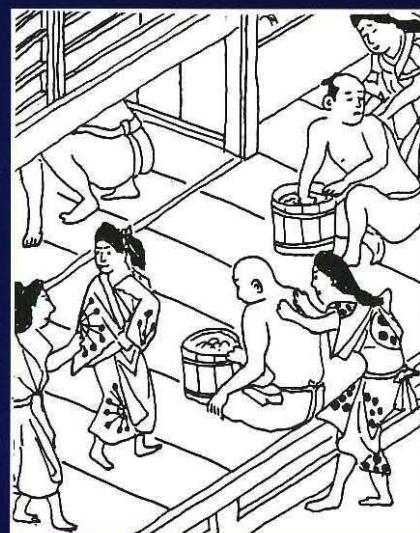
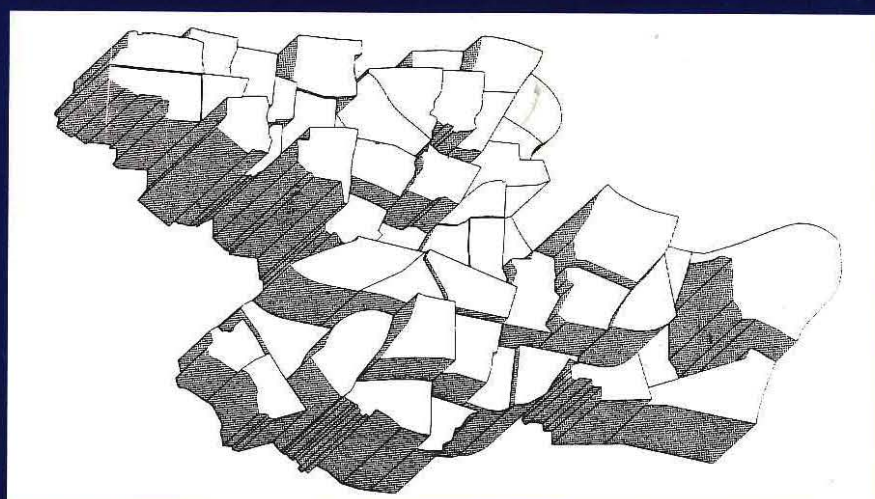
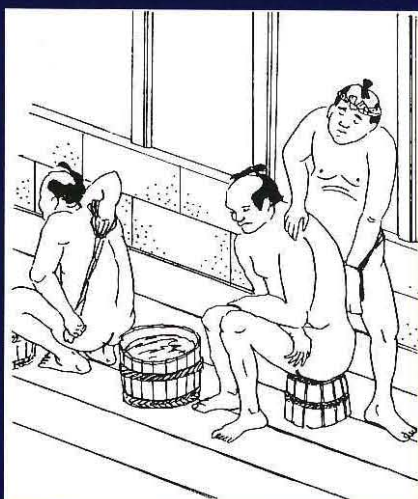


# 銭湯探偵物語

Downtown Story

調査ノート



# 1号

1988.1.1

荒川探偵団

荒川のまちは面白い。街自体も面白いが、面白い人に出会えるのが楽しい。都市計画的には、問題課題が多く、住宅条件も悪い為に住み難い所と言われるが、街全体に変化が少なく、昔を感じさせてくれる町並みや路地が多い点では、数少ない地域である。

新しいこと広いことだけがいいことだとは思えない。「温故知新」もあれば、経済原則にのらない生活の知恵や工夫だって、捨てたものではない。

荒川のまちには、デパートや駅ビルがない。ぴあmapにも載らない23区では唯一のまちである。だからこそ、デパートや駅ビルに匹敵する隠し技がまちの至るところに隠されていることを信じて疑わない。

先達が築いてきた都市生活の知恵や工夫を感じてみたいと思った時に「荒川探偵団」が誕生した。本当の職人は、ノウハウを教えてくれないという。観察することが唯一の方法であるなら街を歩き、探偵することから始めてみようと思う。

荒川探偵団設立にあたって 昭和62年7月15日

探偵団員	広瀬将人
	真鍋千恵子
	飯島玲子
	辻知子
	福田真琴
	田口智子
	宮迫三代子
顧問	藤沢毅



# 目 次

## 1. 「ゆ」あたり寸前レポート

1. 東尾久編	3
2. 西尾久編	25
3. 東日暮里編	35
4. 西日暮里編	53
5. 町屋編	65
6. 荒川編編	87
7. 南千住編	107

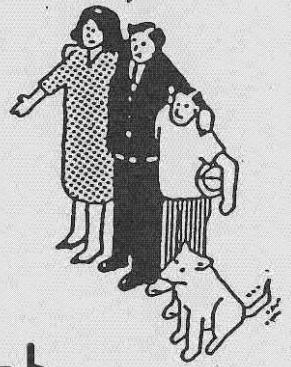
## 2. 荒川 銭湯考

1. 銭湯の現在と傾向	127
2. 銭湯ちょっと考現学	133
3. 銭湯分布の概要	138
4. 「はだかのふれあい」イベント報告	142

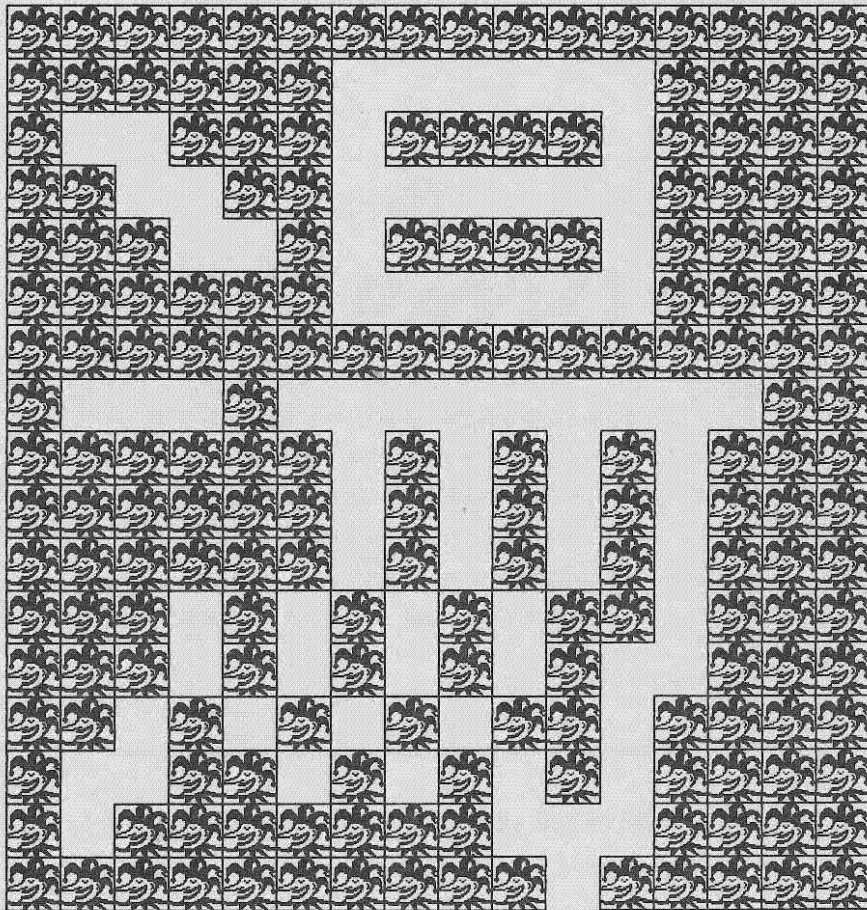
## 3. 「ゆ」アラカルト

1. あなたも銭湯通	147
2. 年譜でみる銭湯史	151
3. 銭湯関連 ブックレビュー	154

ぼくらは荒川  
探偵団



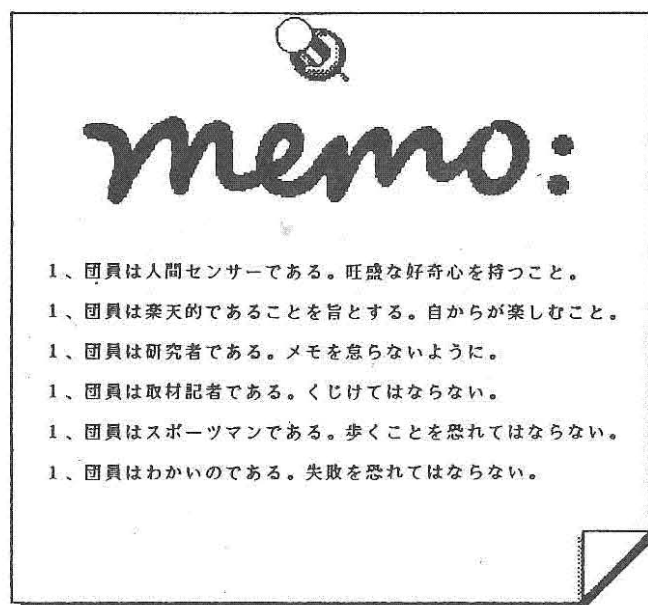
# 1. 「ゆ」あたり寸前レポート



何かおかげさではあるが、荒川探偵団が誕生した。とりあえず、まちの楽しさ、おもしろさ……を発掘するために我々は銭湯へ白羽の矢を立てた。今や内風呂全盛の時代に過去の遺物銭湯は忘れられようとし、経済原則からも淘汰しようとしている。ところが銭湯のもつイメージは実にノスタルジックなもので近年のレトロブームも合いまって藍に染めぬいたのれんや番台をいとおしむファンもいること見逃せない。また時代の流れか客離れに悩んだオーナーたちが、あれこれ工夫を重ねてイメチェンを計り、以前の銭湯と比べて、一味も二味もおもしろさが加わったものも出現している。

とは言われるものの、実態はいかなるものであろうか、その辺の真実を探るために、荒川探偵団は荒川区87カ所の銭湯へ乗り込んだのである。

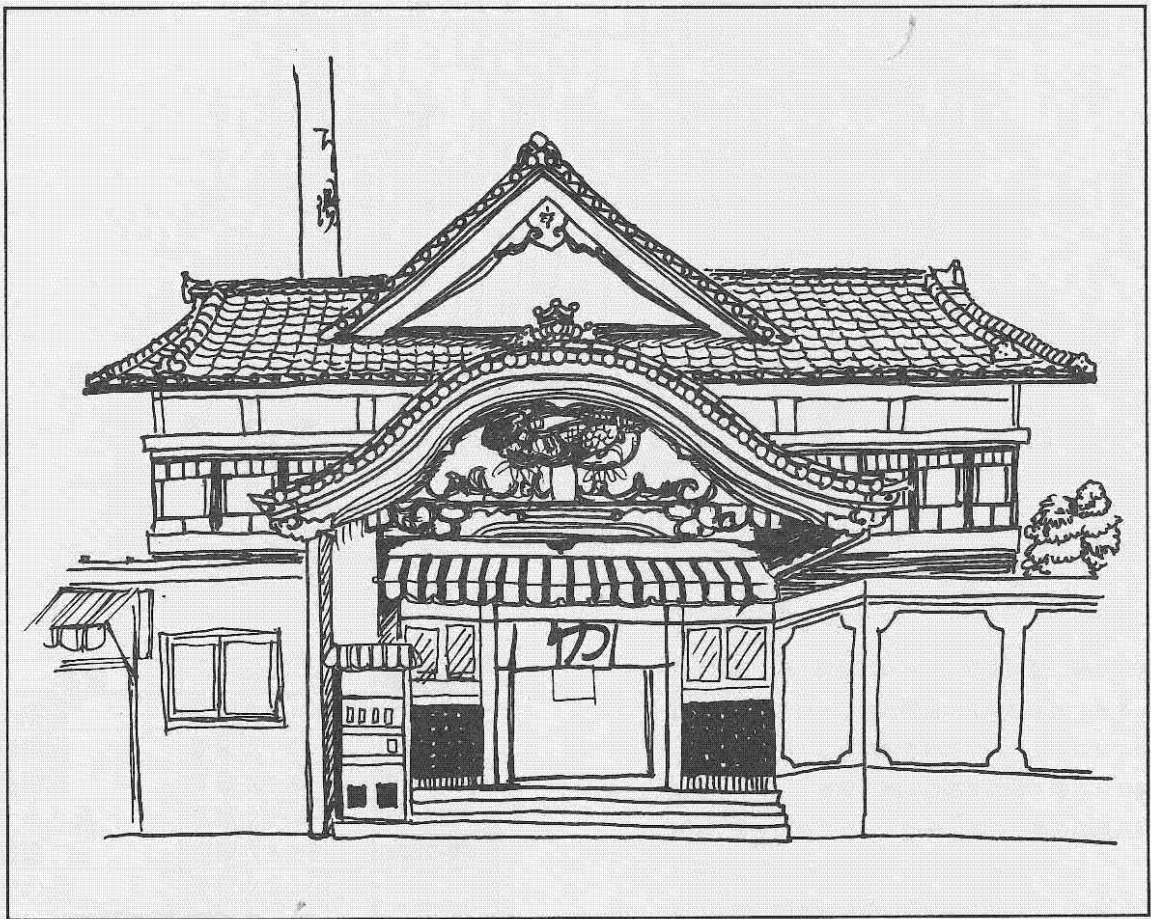
ここから始まる湯当り寸前レポートは、7人の探偵団員が雨、罵倒の中、以下の心構えを忘れず、潜入した汗と涙のページである。



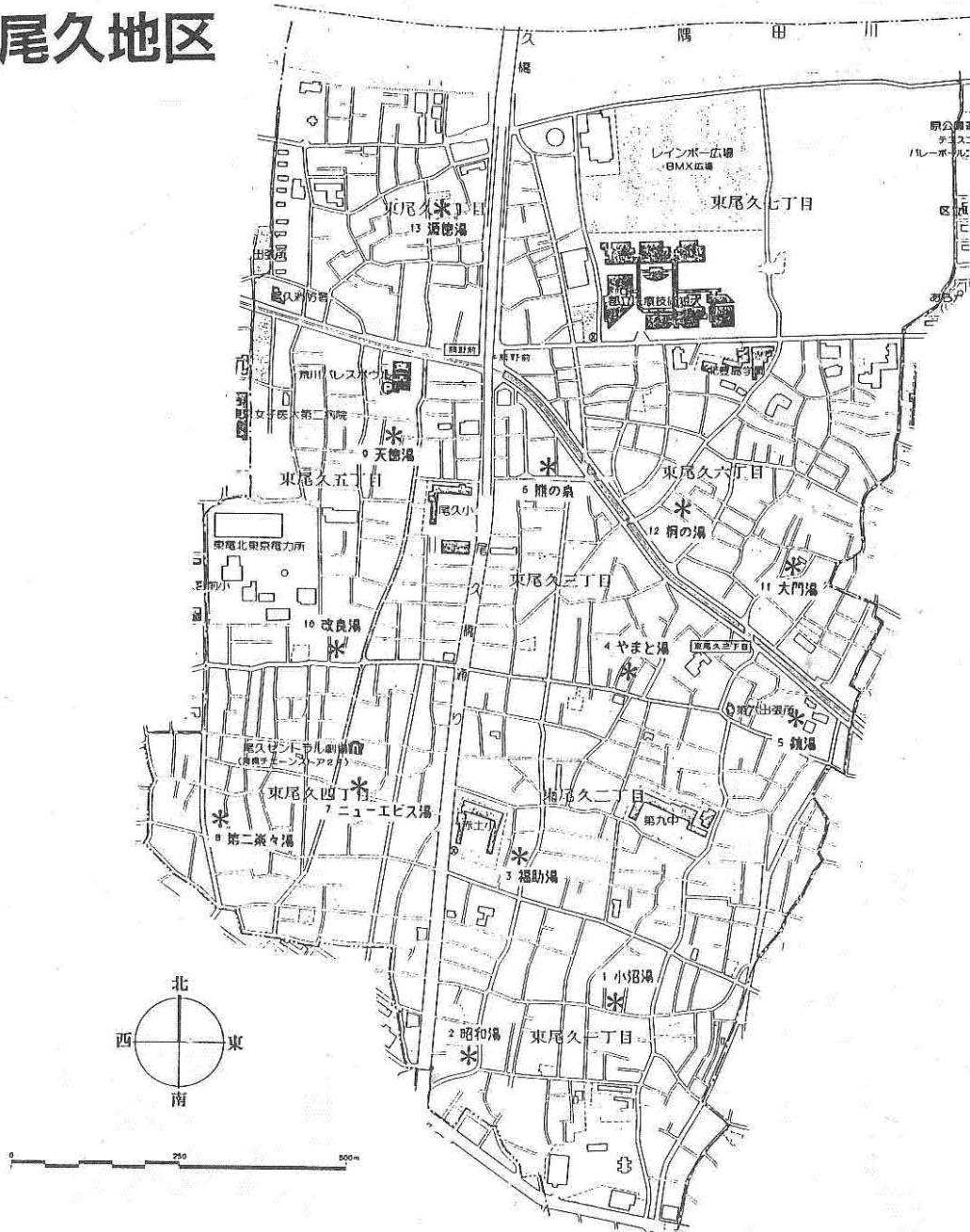
なお、各レポートには適切でない表現、記述及び観察が見うけられるかもしれないが探偵の性格上、お許しいただきたい。快く取材させてくれた方も、くれなかった方も、どうか御了承の程、よろしく願いたします。



# 1. 東尾久地区



# 東尾久地区



	名前	住所	電話番号
1	小沼湯	東尾久 1-15-3	(895)6043
2	昭和湯	東尾久 1-31-17	(895)0930
3	福助湯	東尾久 2-42-6	(895)0378
4	やまと湯	東尾久 3-13-3	(895)1528
5	鏡湯	東尾久 3-2-6	(895)3453
6	熊の泉	東尾久 3-34-12	
7	ニューエビス湯	東尾久 4-17-9	(894)7602
8	第二楽々湯	東尾久 4-41-11	(893)1420
9	天徳湯	東尾久 5-14-5	(800)2682
10	改良湯	東尾久 5-27-5	(895)6043
11	大門湯	東尾久 6-11-2	(895)4668
12	桐の湯	東尾久 6-27-9	(895)0629
13	源徳湯	東尾久 8-21-2	(893)3834

\*大規模工場の移転により、大学の移転、都市公園の設置の他は、これといった特徴のない住宅地である。

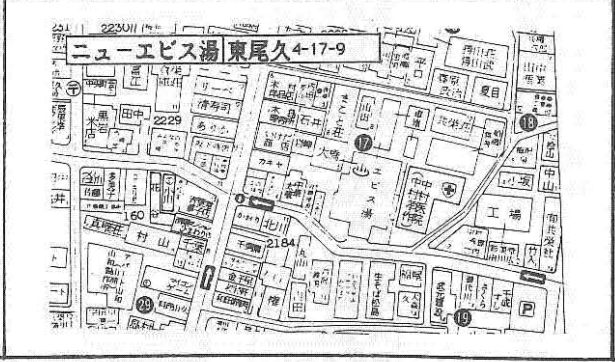
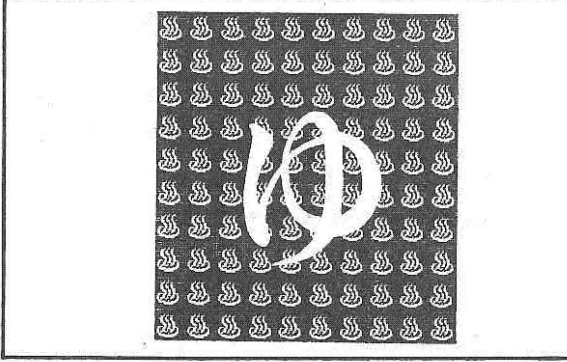
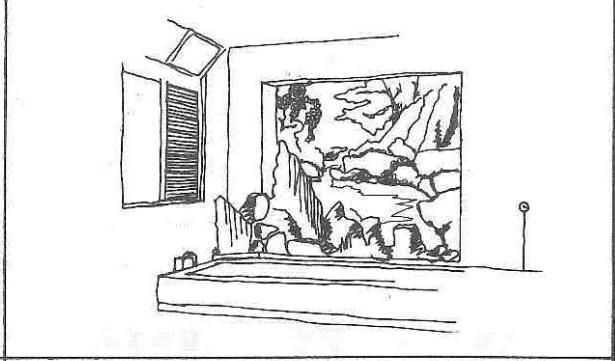
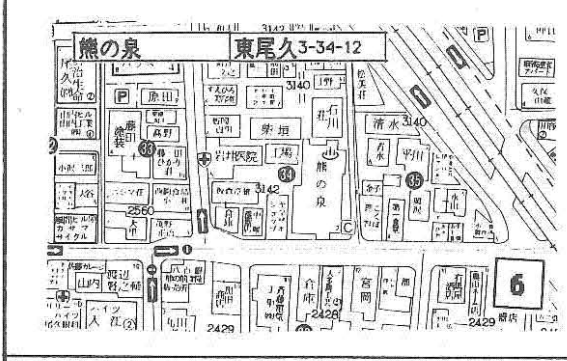
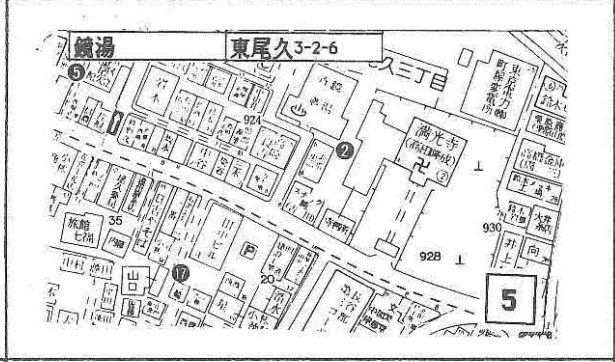
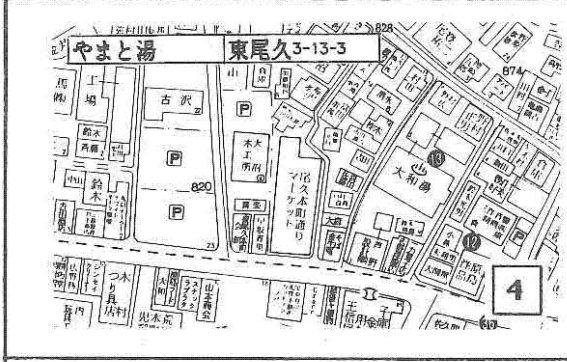
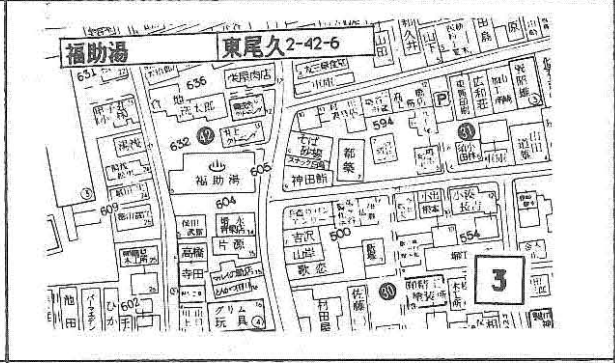
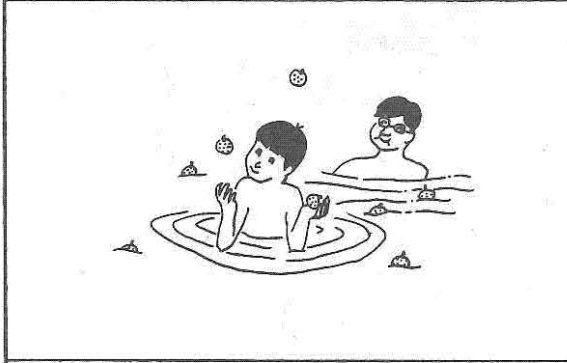
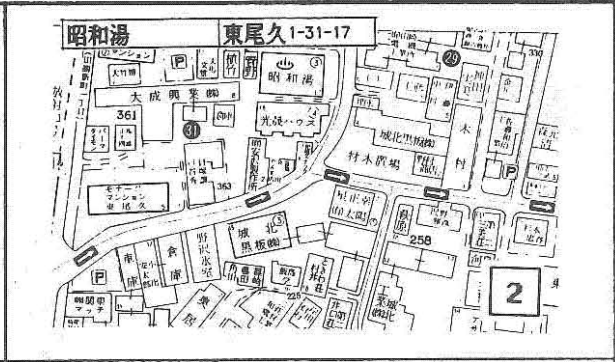
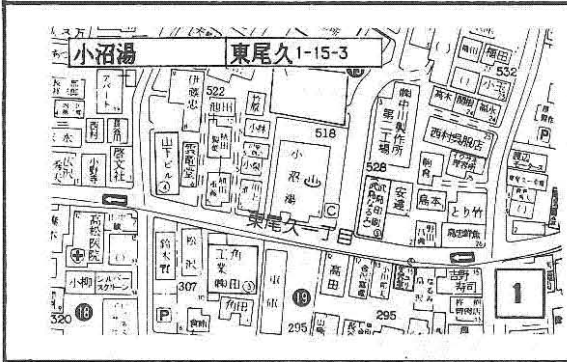
\*どの雑誌にも必ず紹介されているニューエビス湯が刺激になってか、東尾久地区は最新設備を導入した銭湯が多く、今流行のフロント形式の番台が他の地域に比べると多い。

\*銭湯間の競争が銭湯の活性化を図っている例として興味深い。

\*風呂屋の子供たちには優秀な人が多いという。なぜか？朝から夜中の2時頃まで働く親の重労働を子供達は見て育つため、「風呂やだけは継ぎたくない」と思い、ためによく勉強するからだそうだ。

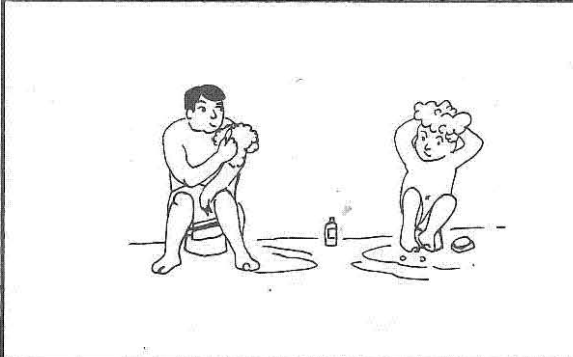
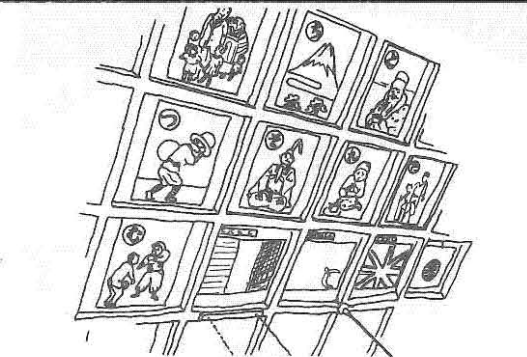
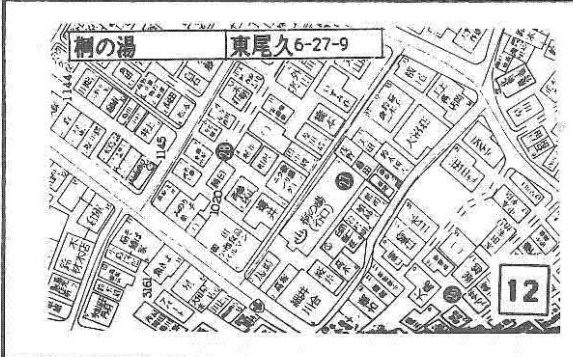
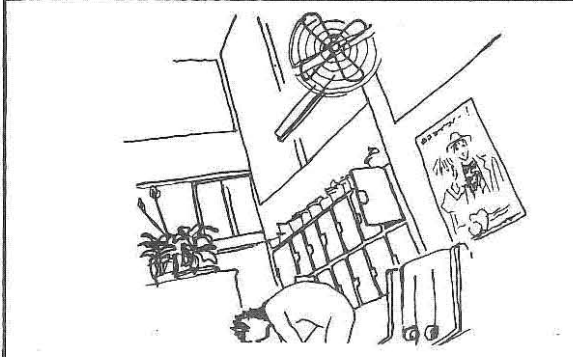
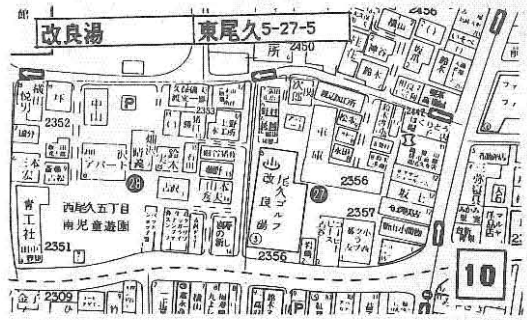
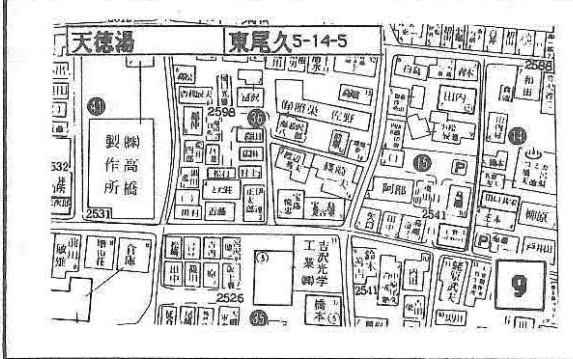
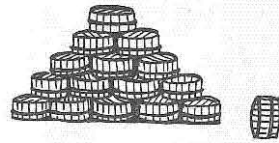
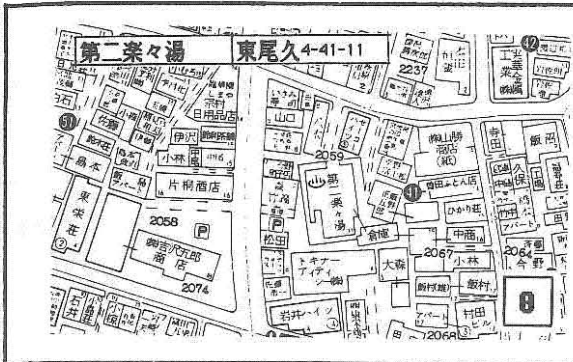


# 案内図





# 案内図





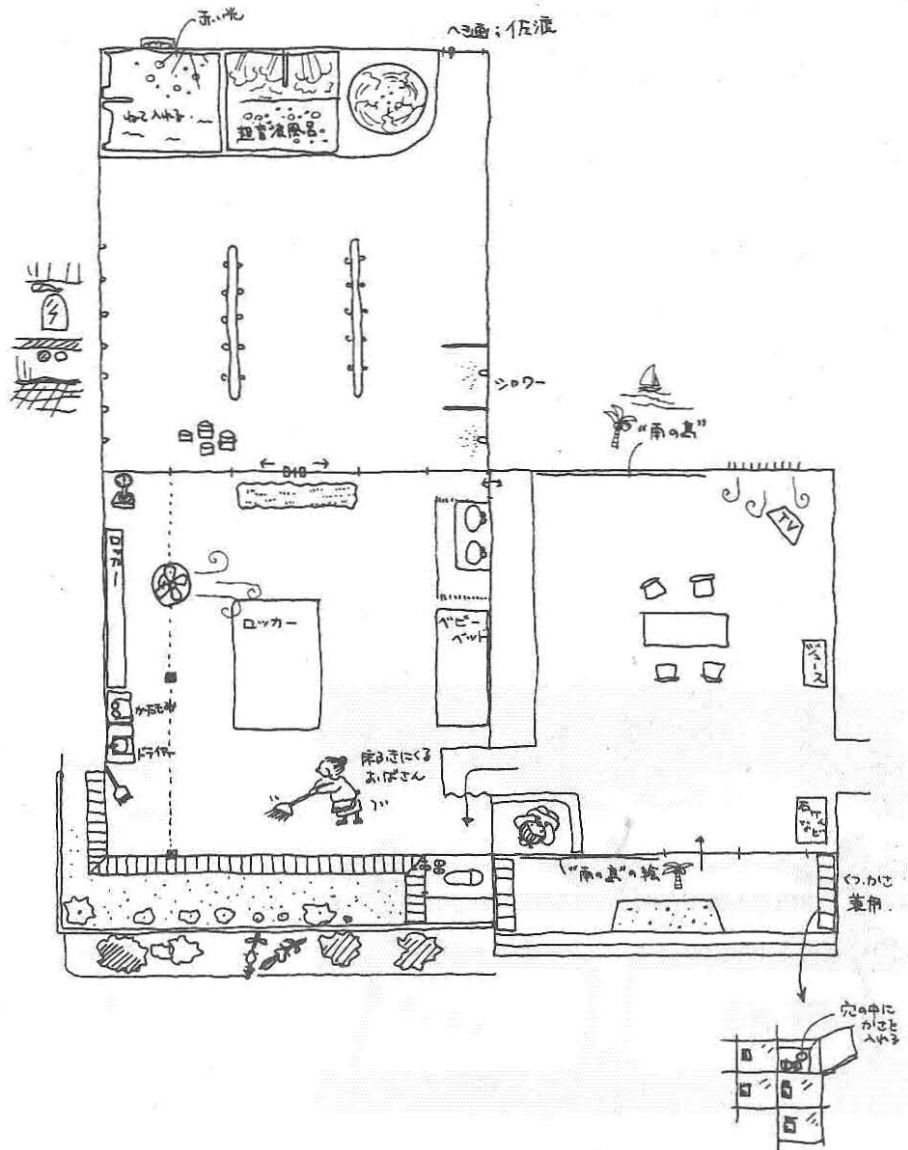
## 1. 小沼湯

☆ つとめてる人にしか会えなくて、必須事項さえ聞き出せない始末。そこで、内部観察事情だけお伝えしよう。

壁画は佐渡。あまし、尾久地区では見ることがなかったもの。というか、ここだけかもしれない。おかしな“樂園”の絵もあったことだし、どうやらここは変わり種もようだ。

1度目にきたときは、えらい雨ふりの日で、にもかかわらず、自転車でやってくるという強気とかむこうみずをしてしまった。ために、翌日熱が出そうになった。虚弱体質の身はいたわるべきだった。天は二物を与えないものだ。1度目というからには2度目にも当然来ているわけで、どうぞすごいだろう。いや、まなべさんのはまけていた。3回はいかんかった。ところで、2度もいったからには詳細かつ、奥深いレポートをさぞおもしろくまとめてきたことだろう、と思っはいけません。だいたいふろやにいて、質問にいぶかしげに答えたみずしらずのおっさんが見てるところで、はだか一貫、すっぽんぽんになることだけでも乙女心の大ショックなのに、この上、なにをくらべてこらりょうか。とにかくなんで2回も小沼湯にきたかという、2回目は汗びちよになった取材終了後、気ばらしにいったのであった。それでもつつい貧乏性がたたってノート1枚分スケッチとメモしてきたのではあった。とはいえ、1回よりは2回いった方が、慣れが出て、ゆったりとできるんじゃないか。そうすると、もっとこれは、ということが発見できるんでは、という、魂胆もあったんだけど。

前おきが長くなったのでそろそろやめて、中のことでも書きます。ここでいちばんよかったのは、別にありません。なにがあったかってのは左の図にかいてあるのでその通り。おふろに入りきてるおばあちゃん達って、老人の中でも、恵まれた方だと思う。体力あるていどあるし。どこのおふろやいっても老人はいるし、その度、あっ、いたいた、しわしわー、おなかだんだん、のろまー、と思うんだけど、彼女らがおふろに入れるうちが花、と思ってることは、ちょっとみにはわからないだろう。

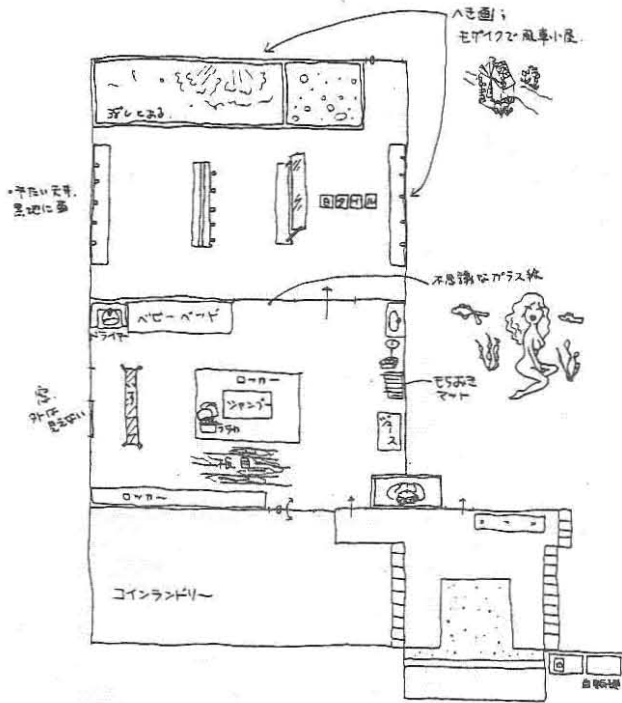


## 2. 昭和湯

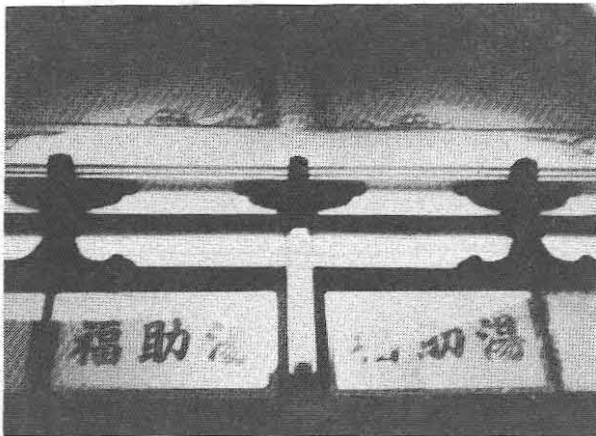


- 創業年数……昭和48年から14年間やってます。48年に建て直したということ。
- 客層は……（昔とくらべて）年代はかわらないけど、自家風呂ができてきたから、数は減ったわね。冬はあったまりにくるとか、こわれたからくるとい人もあります。別に客層は変わっていないわね。ただ移動はあるわね。値段は変わったわよね。あたしが結婚した時、95円だったかな。
- 次代は……あはは、そうねエ、やっぱり…。うち、おじいちゃんがやってきたけど、孫の代まではどういうふうにかえてるかわからない。意志にまかせてます。どうお、他のところではどういってるの？

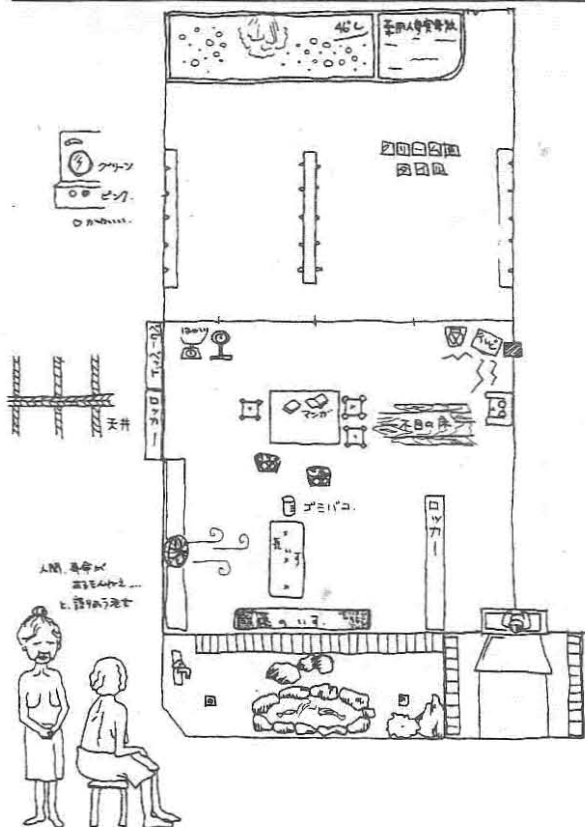




- ここはマンションですが……2Fにサウナもやってたけどこれはおじいちゃんおばあちゃんが、やってたの、でも、夜おそいときついからマンションにしちゃったのよ。おかしいでしょ。下にもお風呂あるのに、マンション全部お風呂いつてるんだから。
- よかったこと……夜おそいってのはきついのよね。子供に対しては違うでしょ。もうやんなっちゃったー、てのが、先かな。よそではどういった？(子供さんが人なれしたし、親の仕事を見れるというのがよかったと。) そうね。うちも2人とも男だから手伝ってくれたりするけど、番台にはちょっとあがらないわね。小さいときからみてるから、女の人の裸に関心がなくなっちゃったみたい。かえって見るのがいやだって。そうじも、女の人出てからするっていうのよ。商売を考えてるみたい。



### 3. 福助湯

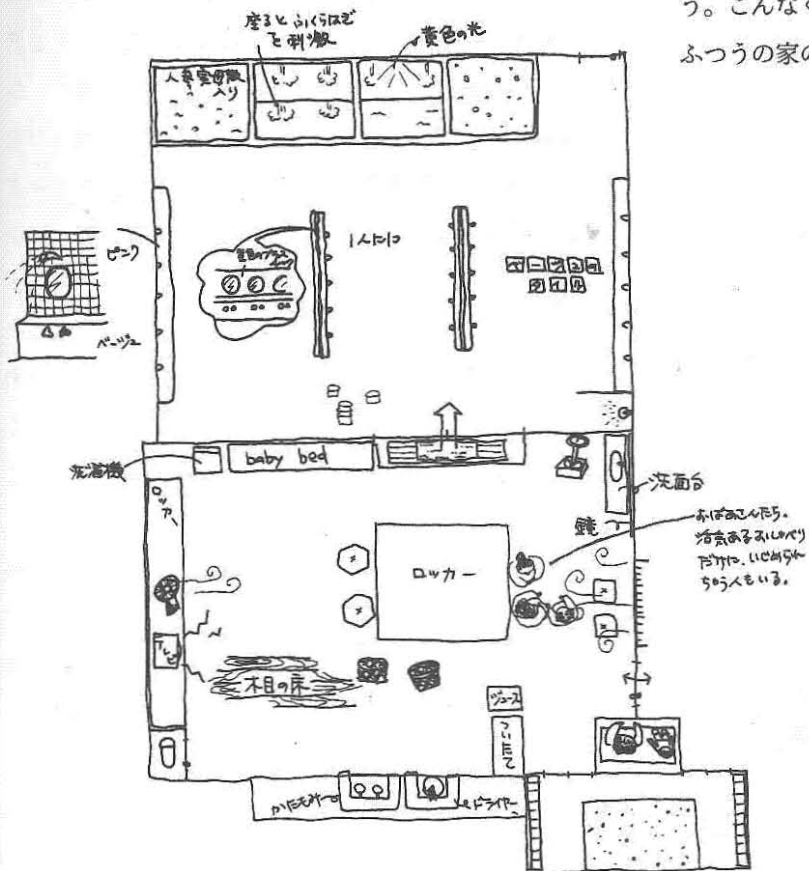


- 創業年数……何十年も。代々。親から生まれて小学生のときからで今や50才。
- 客層は……(昔とくらべて)時代はかわらないけど、
- これからの予定……この商売、つぶしがきかないからねえ。子供はどうするかわからない。子供の自由だ。
- お客さんの数……今日は暑いからねえ。混んでるが、おもしろいテレビのある日なんかからっぽ。裕ちゃんのと きなんか、がらがらだったよ。
- なにか独自のこと……お風呂屋にもいろいろある。うちは冷房はしないんだ。外にでりゃどうせ、玉の汗がでる。特別サウナとかしない。お風呂に入りゃどうせサウナと同じだ。あははは。うちは番台低いけど、高い方がいいよね。お風呂屋の商売も、おそばやのたれと同じで、まあ、場所によって違うということだよ。まあ、細かいところはその人その人の考え方だね。
- 昔と比べてどうです……その質問は失礼だよ。私は、今の若いもんはってなことは、いわないんだよ。その時代、時代、生きてくってことは大変なんだ。
- 感想……お客さんに愛想が良くて、人の良さそうなおじさんであった。こういう取材に応じるのは照れて嫌そうだったけど、頑固ななかにもポリシーがみえる。

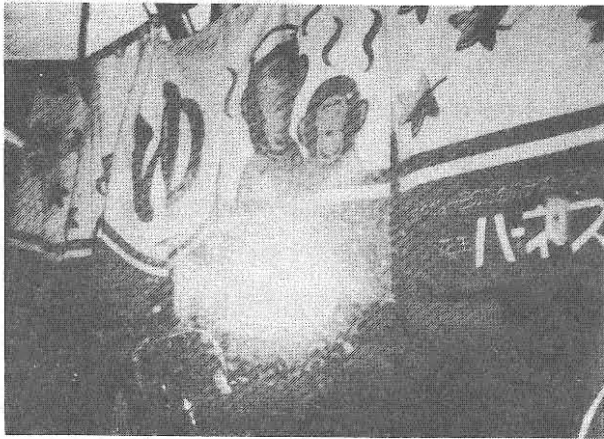


#### 4. やまと湯

- 創業は……わからない。よくもそんな難しいことをききますね。そうね。16年になる。その当時は38円だったわ。建物がたってからは30年。他の人が前やってたのよ。「大和湯」っていう屋号は変わらない。
- 営業時間…… 3:40~12:30まで。今は短くなった方なのよ。昔は3時前から。間にでて歩けるからそれでも楽は楽。
- 定休日……月1回。7~8年前から景気は悪くなったから休まなくなった。
- 客層……子供は少なくなったけど、平均してきている。どちらかっていうと、マンションのためか、若い人は少なくなってきた。
- やってよかったこと……そりゃ、むずかしいね。だいたい、したくなくたって会話があるでしょ。なおしたり、休んだりしてると、さみしいわね。
- 次の代は……予定はないですね。そんだけお金をかけても、元をとるのは難しい。
- 感想……ここんちの子供はうろうろと男湯、女湯をいききしていた。しまいには、「中学1年英語トップ」とかいうのもって、おかあさんといっしょに番台にあがってしまう。こんなぐらいのときから、番台に上って裸みてたら、ふつうの家の子とだいぶ違うだろうなとうらやましくなる。



## 5. 鏡湯



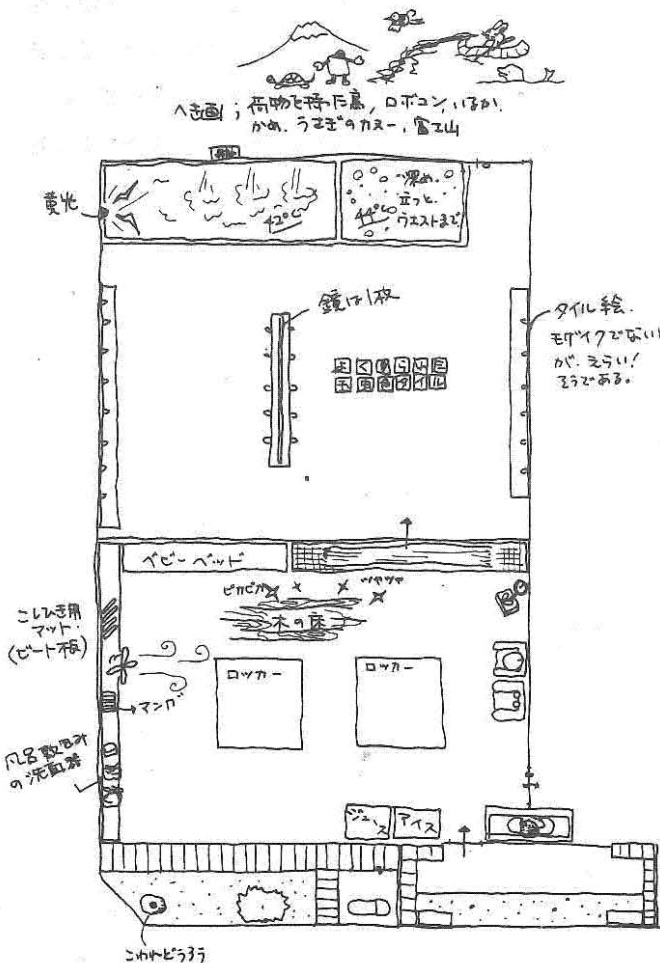
- 創業は……私の父がやった。S. 23 か24から。一時他へいったことはあります。建ったのはS. 30の12月。
- 定休日……だいたい、水曜日。2週に1回だ。競争が激しいから。自家風呂が増え、客が減ったってことでしょうかねえ。昔からみると、客の入りが半分から3分の1に減った、平均して。

(以下、質問しないのに、どんどん話が出てきたので、まとめてかきます。)

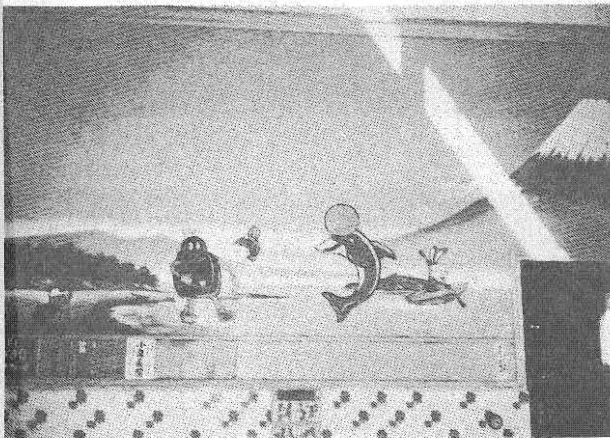
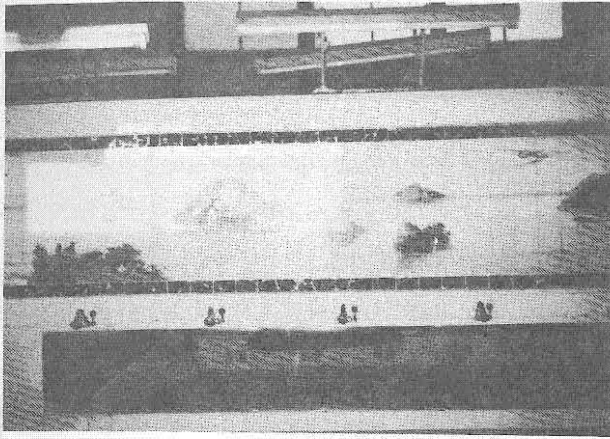
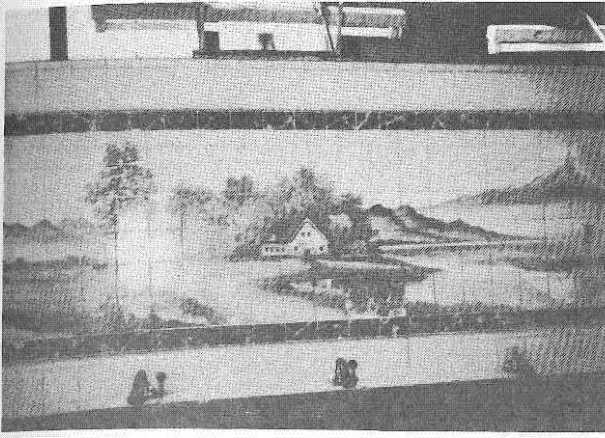
今、一番困っているのは何かっていうと、地価が上がってきてること。次代の人が風呂屋をやらなくなってきてること。収益が減っているし、客の数は減っていること。

風呂屋の経営者の年が、上がってきている。平均して50代半ばだ。とても体がもたない。結局、収益上がらないから人をつかうこともむずかしい。昔は7人ぐらいはたらいてたが、合理化したので今はいない。油をつかうようになったからなんだが、オイルショック以来、又、まきをつかうようになって、主人がやらなきゃいけなくなった。朝は11時におきて夜は2時までずっと働いているから、体力の限界だ。子供はそんな親の姿を見て育つから、風呂屋になりたくなくて、よく勉強して優秀です。だいたい風呂屋の子供は優秀で、うちの子供も医者になってる。尾久地区にもいっぱいあるけど、2代目夫婦がいない、銭湯が。長男は結婚できないんです。若夫婦に分配するサラリーが出せないから。みんな優秀な人ばかりですが、結婚できません、うちの親戚もつがない。大学出て風呂屋やる人は少ないです。

自家風呂の人を呼ぶだけの銭湯ってのは下町じゃあ難しいです。例えば奥さんが、たまたまいなくて、ダンナだけ来るとか、わかすめんどうで来るとか、急に髪が洗いたくなったとかね。そういうのでは来るけど。整備に金かけてそういう人達とらうって方針でやってるところもあるけど。そういうのはどう考えても短期では割に合わないわけ。長期でみて、生き残ろうとしてるわけ。結局地価があがってきてるから。わたしはだれにも言ってないけど、土地を持っていれば土地を売りゃあいいやってことで、過大投資してるんじゃないですかね。採算合わないのにやるってことは、どういうことかっていうと、(土地を)売らないためには、まわりの風呂屋をつぶそうって考えだ。自分だけ生







き残ろうとしてる。自己顕示してるわけ。生きのころうっという。今、競争のまっただ中、尾久地区はね。

(再び質問してこたえていただくことにした)

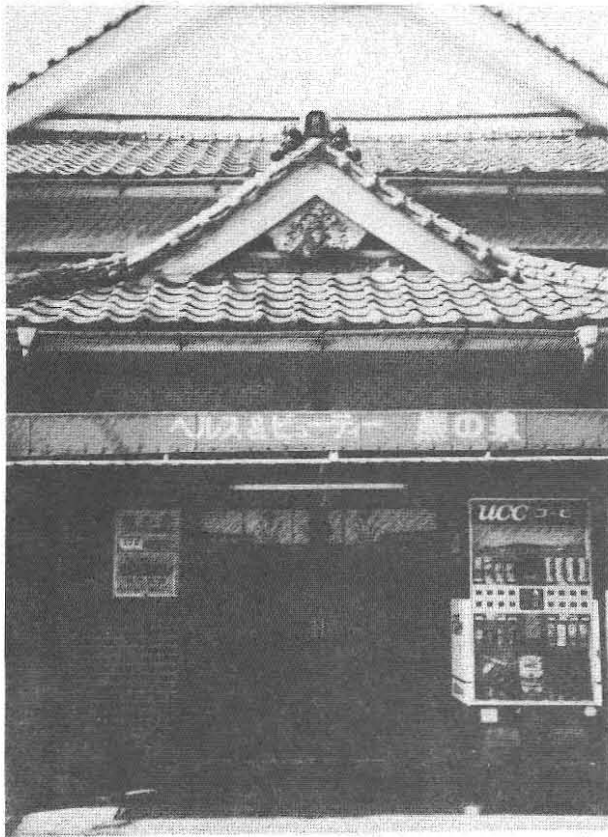
•客層は……今は7割が田舎から来ている人。そういう人は番台にみられるのはいやだから、カウンターには合ってるだろう。中央線沿線にゃ多い。我々は旧態然とやってるからそれほど変わらない。カウンター方式にすると、若い人が来るから付加価値を出てくる。物をうるんですよ。でも設備かえるには5~7千万円はかかる。ふろやってのはフリーの客がずっと入ってくるわけじゃないから、高価なもののは売れないし、大金もってくるわけじゃないし。結局、借金の返済におわれて、休みを減らして耐えてるってことです。

•これからは……55で風呂屋やめて何かやるっていう頭の柔かさがない。やむをえずです。(やってるのは。)

•壁画について……カウンター式のとはなくなってきている。昔はよろこばれてたんですがねえ。これは組合一括で背景屋さんにたのんでいる。会費でペイできるし、年に2回かえるぐらいだったが、(背景) 広告屋さんもダンピングされている。昔は広告看板もあまって横の壁にでてきてたくらい。今では写真をパコッとはめたりするともある。かきかえの時期ってのは、組合役員と広告屋の力関係によるんですよ。

(奥さん登場)

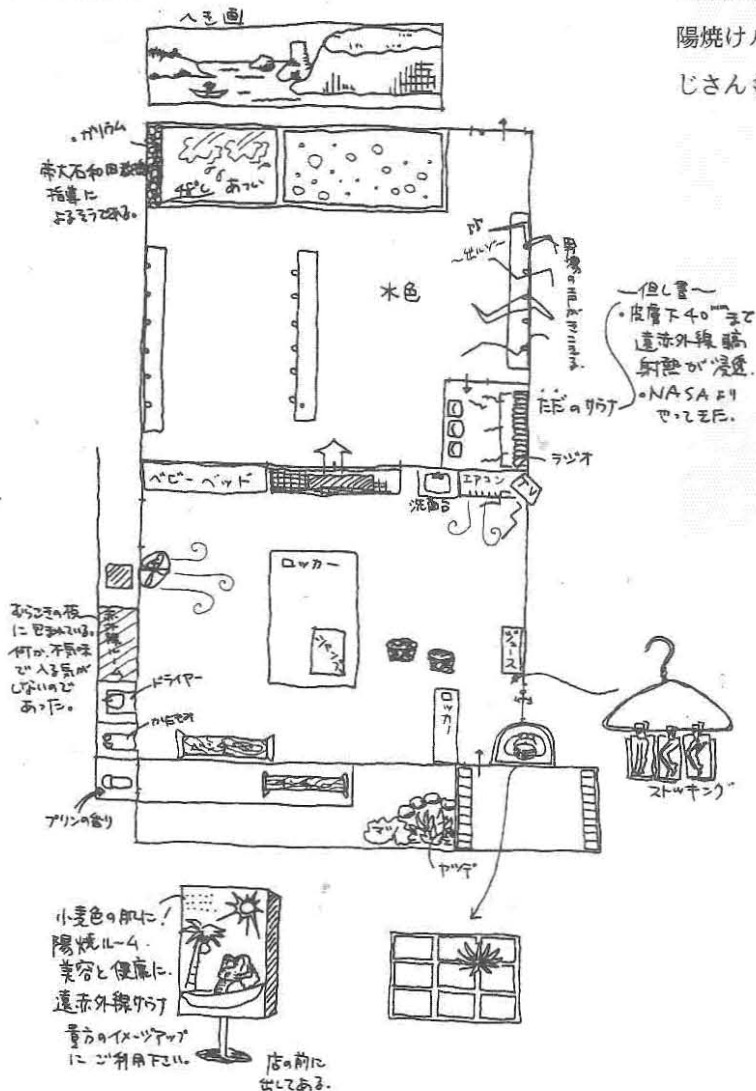
•やってよかったこと……主婦の立場でよかったことっていうのは、利益だけの追求だけじゃないこと、人のためのことだし、公衆衛生のためだから。もうかるもうからないは考えないで、やっている、子供にも伝わるし。子供のためにもよかったです。何らかの形で子も参加してるんです、小さいころから。数多くの人と接するので、他の子よりも人と接するのが上手よ。それに、のびのび育ったし、協力することも知っている。両親がいつも家にいるってことは子育てにもいいみたい。反対に、いつも両親のすることを見てるから自分は違う方向に進みたいと思うみたい。跡取りの問題はあるけど。好きな方向に進んで欲しいわ。



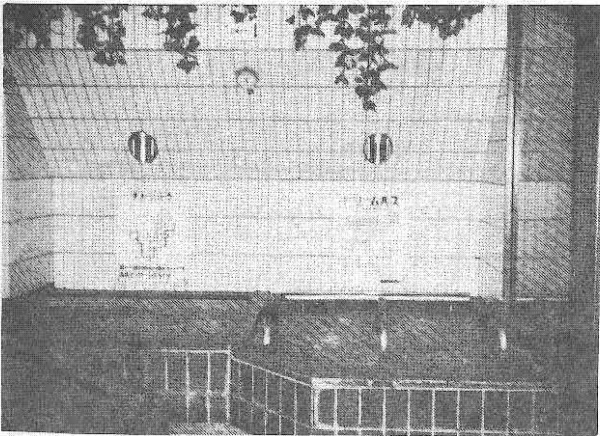
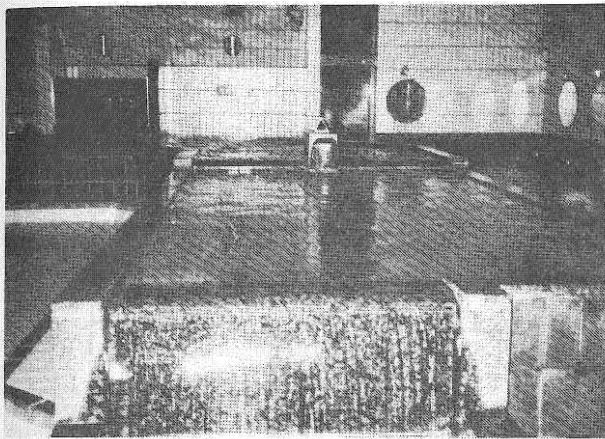
## 6. 熊の泉

- 創業は……昭和28年から。でも代々やってます。
- いつごろ混むか……10時ごろ。夏や冬は眠りやすいようにくる人が多い。
- 企画は……特にないが、しょうぶ湯、ゆず湯ぐらい。
- 客層……こどもは少ない。お年寄が多い。
- 定休日……水曜日。
- 客数の変化……マンション化で、あまり多くない。自家風呂の人も来るが、あまり多くない。日曜日よくくる。
- これからは……転業の予定はなし。口で言うほど簡単でない。
- 感想……おわってのんだポカリのおいしいことといたらありません。ここはいちばんさいしょにいったとこで、やはり、何にしても緊張した。

ここはいろいろとあるお風呂で、でもそれぞれ古びているのが、さびしさを増している。店の名前もふるっている。陽焼けルームなんて、つかうとはずかしい感じ。番台のおじさんも少し気弱そうに見える。



## 7. ニューエビス湯



- 営業時間…… 3 : 30~12 : 30まで。夏だから若い人が、夜遅くまでくる。
- 取材させて下さい……あのねえ。こういうのに出てるよ。( といって月刊誌をとりだす)( 9月号の「旅行読売」をひろげてみせてくれる。)お風呂屋さんの特集でね。( といい昔のもの、6月号もとりだす) ここにもあるわよ。
- 定休日…… 8月は、変ったけど、第1と第3の月曜日。
- 創業は……昔からやってるけど、こういうふうにしたのは昭和58年の12月。前は「恵美須湯」、今は「ニュー恵美須」っていうのよ。
- 客層について……土日には遠くから車でくる人も多い。無料の駐車場があるし。( 子供さんも多いです) 今日なんか少ない方よ。6 : 30ぐらいから男の人が増える。忙しいのはその辺。昔は、ほとんど年寄が多かった。今は( 客数は) 倍の々になったんじゃないかしら。若い人ふえたし。
- 企画……からおけ大会が水曜あります。8時から11時まで。それから、年1回男湯と女湯を交換するの。岩風呂は男湯にしかないのよね。女の人のがっかりしちゃってかわいそうでしょ。
- 感想……答えてくれたのは、つとめの女の人でうわっぱり制服をきていた。おかみさんにも写真をとりに行ったとき会ったけど、すごい親切心おーせいの人で、入浴中の男の人がいるにもかかわらず、中にいれてくださいました。頭にはカーラーをまいたまま、きさくな感じ。

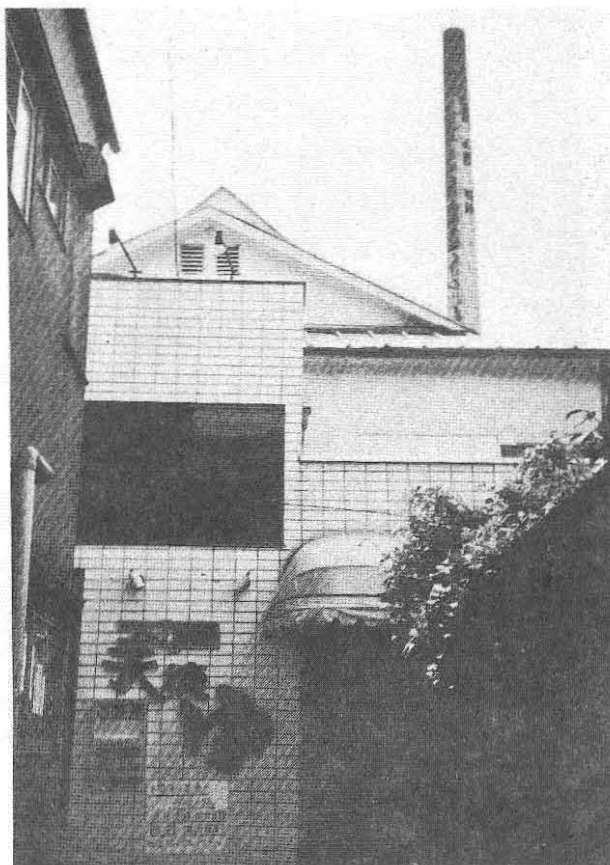
ニューエビス、エビスとさわがれているが、( そうでもないか) たっぷりがまんして、最後の最後にいきました。ちょっとおちつけないかんじもあるけど、けっこうたのしんできました。電気風呂なんて、中毒になる危険を感じる。ジュビナスもいいですね。西洋の女の子がきていて、美型だったんだけど、ずっとこわばった表情で、たったまま体をあらっていたのが、観察された。それにしても、新築するんだっていても、どうして、着がえる場所ぐらいは木のつくりを残しとかないのかと思う。







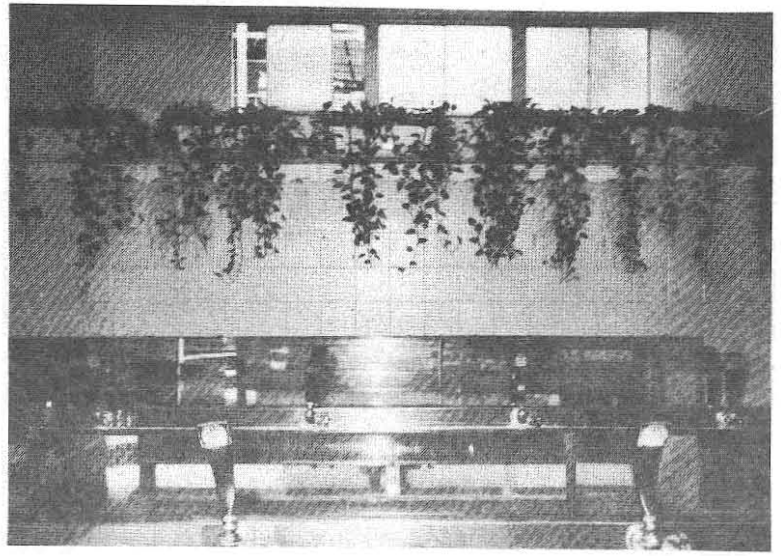
## 9. 天徳湯



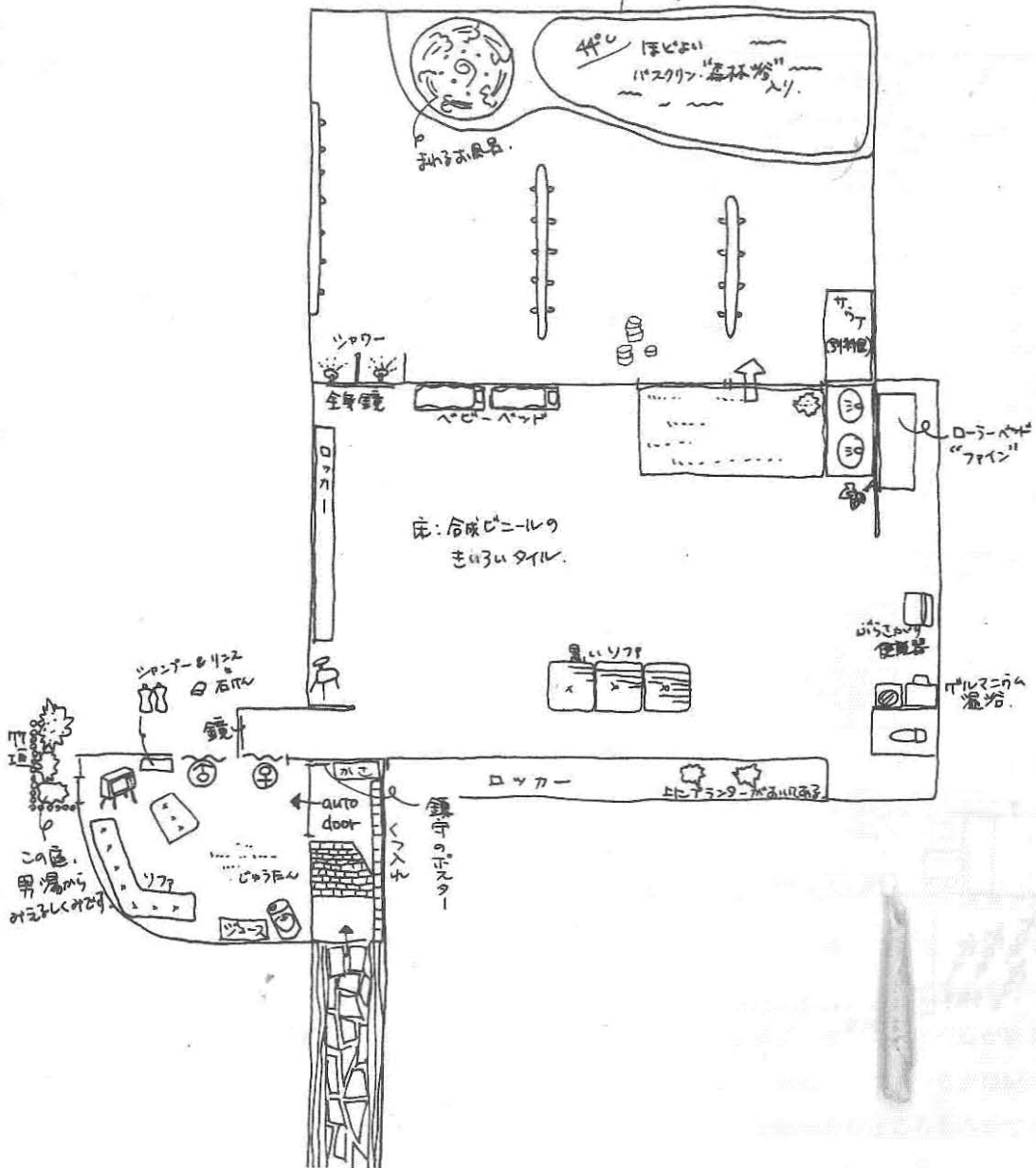
- 創業は……昭和23年から。この建物にかわったのは59年2月ね。
- 営業時間……4時から12時までかな。ん、そうねー、やっぱりお客さんかえるまでは。
- 定休日は……決まってないの。1週間前には貼り出すようにしてるけど。
- コミカって何……コミカ風呂っていうのは、コミュニケーションをするお風呂になりますように、てことで、石井さんって建築家さんにつけてもらった。  
そうね、最近の傾向としては、やっぱり地方の人たちって番台に抵抗あるから、うちみたいなのは、入りやすいみたい。土曜や日曜に内風呂もってる人たちが、来てくれるといいとは思ってるのよ。
- 緑色のお湯は……あれはバスクリン。(あ、そう)
- どうな客層で……子どもは多くないわよね。  
なおして(建物のこと)よかったこと?…やっぱりきれいなのはお客さんも気持ちいいし、やっぱり、ある程度変ってる方がいいと思う人多いだろうから。
- わくわく、おまけつきの感想……以上、答えてくれたのは、天徳湯ではたらいっている中年女性で、おかみさんではない。明るくきさくなおばちゃん、親しみのもてる人。取材らしくにさしてもらい、いい気になったけど、どっこいよみかえし、ふりかえてみると、なんのことはない、たいしたことを聞き出してない。ので、いろいろ手をかえ品をかえ、たまには相手を恐がらしてしまうのも1つの方法ではある。

ここはロビー形式をとる銭湯で、内部のかんじ、浴槽も新しい。特になんていうか、変わったお風呂でもないんだが、内風呂人を誘引しようとしてる作戦をもっている。やって良かったことについて質問したのが、新しい建物にして良かったことか、と勘違いされてしまった。ここんあたりの天徳湯さんちのお答えと、正統派を断固歩んでいる源徳湯、鏡湯といった親族コンビの御意見と、比べてみると、おどろおどろしい風呂屋の戦いを垣間みるのが、できるであろう。ああこわい。



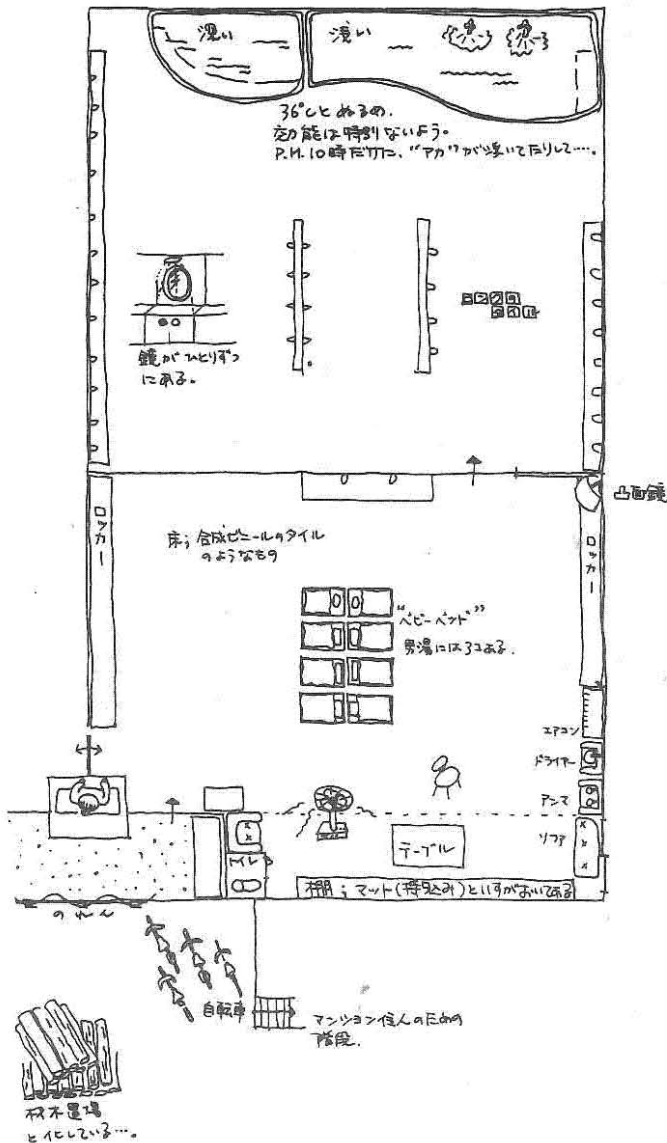


タイル: "二匹の夕カ"



## 10. 改良湯

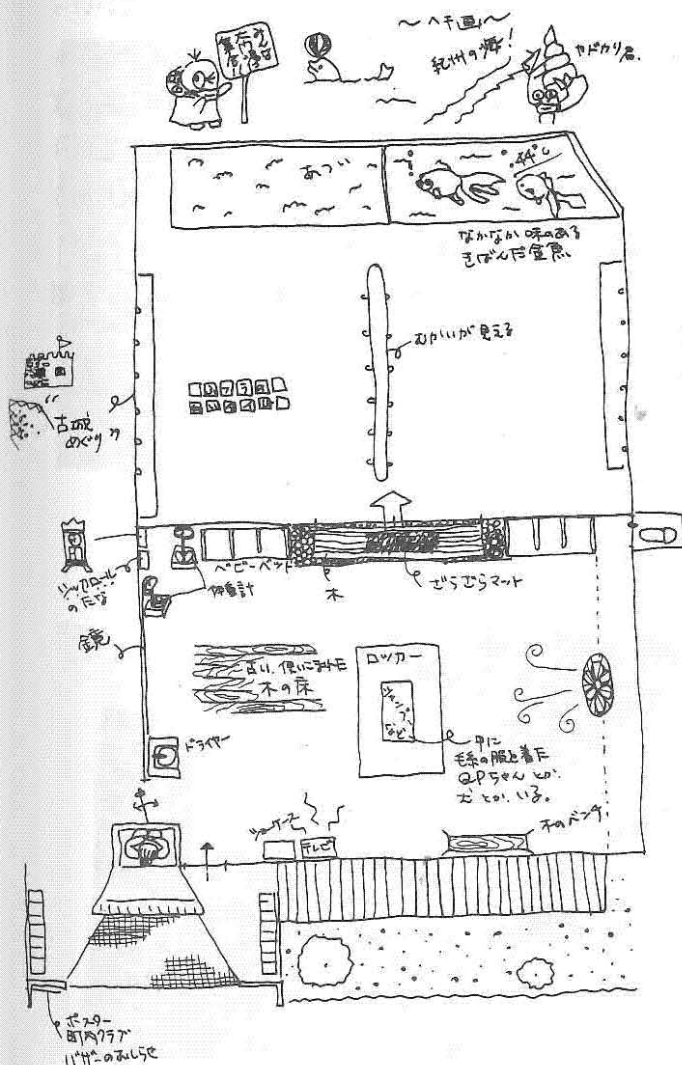
- 創業は……昭和45年か6年。ここにきたときゃ新しかったわよ。大家さんがいてね、もとは、おばあちゃんの持ち物で、息子さんに移って、それから未娘の旦那さんで、いろいろそれから変って、ま、何人かでかわるがわるにやってんの。
- いつごろこみます……私は臨時。よくわかんないわよ。
- 特に何か……しょうぶ湯は5月5日。袖湯は12月22日。レモンはいつだったかな、朝はなし。
- 定休日は……あるけど、元日はまず休みでしょ。2月3日は朝湯をやって。ほんとは月3回。でも組合の規則やぶるところもあるから。おとーさんがこないだ、のってる船が転覆してね。んだから、まえは交代したりして、休んだけど。休むとき、休みたいけどね。なんせお客少ないからやんなきゃしょうがないのよ。…あんたこんなこときいて、何につかうの？
- 男湯と女湯の位置について……（急にひそひそ声）そーそー、前は逆だったんだけど、ほらさ、こっち（男湯側）は道路でしょ。のぞく人がいたのよ。そいでかえたの。
- やっててよかった……今は、あまり良かったなんてんじゃないね。食っていくのにいっぱい。この商売は人がかかるし、設備がかかる。油も高いからやめて、またまきにしたから大変。たばこ、つかいもんにしったりして、もってきてもらうのよ。
- 営業時間……4時から。でも早くあけとくこともある。終わりの時間も決まってないね。11時までなんだけど、くる人もあるから、12時までではあけてきますよ。
- 感想……急に、身の上話をされたので、面食らってしまったが、それを聞いてしみりしたのも東の間、人の内情に首つこまなんでよね、といった顔をされてしまい、やっぱりおばあちゃんは気むずかしいのう、と苦笑いであった。ここは伝統継承派ではないのだが、かといって、“ニューエビス”にみられるような画期的スタイルを持つ新型銭湯でもない。昭和45年建てられたらしいから、中途半端なかんじもなんとなくわかるかんじ。そろそろたてなおせばいいのに。ちょっときたなっばいよ、というのは外部の意見であるだろう。大家さんがいるところというのは、複雑な事情がつとめ人の間にも生まれてくるようである。



## 11. 大門湯



- 創業は……昭和25年から。昭和19年に焼けたのでしばらく休んだか、それ以前からやっていた。
- 定休日は……一応月曜日なんだけど、商売になんないんで隔週にしている。
- 営業時間は……4時から11時。っていうけど、お客さん出るのは12時すぎですね。
- 企画は……菖蒲湯、柚湯、やるけど、今の子供はよろこばないですよ。年寄りだけだ。
- よかった事は……この商売は13才のときからでね。昭和6年に所帯持ってからずっとやってんですよ。よかったってのは、19、20才のときだね。奉公しててね。今は税金関係に経営、いろいろむずかしいけど、あたしこの道しか知らないですからね。そりゃ、辛いですよ、風呂屋の家業は。おたくなんかじゃ想像つかないよ。
- これからの予定……建てかえは考えないでもないけど、したからって果たしてどうなるか。今は若いもんの時代。つづけてきたいけど、やめても、文無しになっちゃうし。食べてければいいしね。…なんの商売でもやめちゃいけない。場所です。何事も。
- 客層について……年令は変わらない。年寄でなきゃはいらないってことはないしね。内風呂のうちの子供はこわいってなかなか入らない。ってことは、人とのふれあいが減ってきてるってことですよ。
- 壁画は……描く人の好みだね。このうちはまんががいいなんて見当つけてんだろ、大体。
- 天井が高くていいね……ああ、家は狭っ苦しいって、入りにくく人もいるけど。まあ、地元のお客さんしかこないでしょ。
- しずくが落ちませんね……しずくってのは、天井にたまるからおちるんです。うんと混めばおちてきますよ。冬とか。湯気がぬけないとおちてくるわけですよ。
- 感想……門がまえからして風格のある正統派であり、角地、商店街のはずれと好条件を備えている。はいってみたら、年輪が刻まれたおばあさんがしっかり番台を守っているという威厳にみちたお風呂。そしたらオバQが唐草もよりの風呂敷包みを背負い、宣伝しつつ、いるかは紀州の海で曲芸をしているという愛敬のあるところもみせてくれたの。







### 13. 源徳湯



- 定休日は……本来、法律もあって、問題ではあるが、年中無休です。
- 創業は……昭和23年から。建物の耐用年数は30年。だが20年に1回、（鉄筋だと40年もつが）又は10～15年に1回、中普をする。
- 営業時間……朝湯をやっている。都でも2軒だけだろう。夜が明けるまでやってもいいよという法律はある。《公衆浴場法》
- よかった事は……おじさんは学校出ても、ふろやの稼業を継いだが、収入が決まっていなかったのがよくもあり、わるくもあった。おかげで、子供が3人とも医者になれたと思う。9時～12時、4時～12時。

昭和35年以前なんてみんな公衆浴場をつかっていた。それが、家が建てかえられ、お風呂が自分の家にできてきたので、客数は激減した。S35を100%とすると、S55は20%だ。生活のやり方の違い、シャワーの普及などもその原因だろう。ところが、最近又、人とのふれ合いが大切だという風潮が出て来て、風呂屋が見直されるようになってきた。そうしたら、行政、自治体でも銭湯のみなおしができた。老人はここにすれば友達がいるから、くるし、そのお孫さんまでくるようになった。漸増してきている。だが、20%のお客では、古くなってきたものを建てかえるのも難しい。土地政策もあるし、固定資産税も高い。次代には税がのしかかってくるから、800～1,000軒は減少しているんです。維持でき切れないという事。また、都心部では、例えば銀座浴場なんか、区立です。文京区あたりでも1軒につき100万円は補助があるのに、荒川区では0にひとしい。ポスター1枚2万円というのはあるけど、あきらかに行政のひずみ！







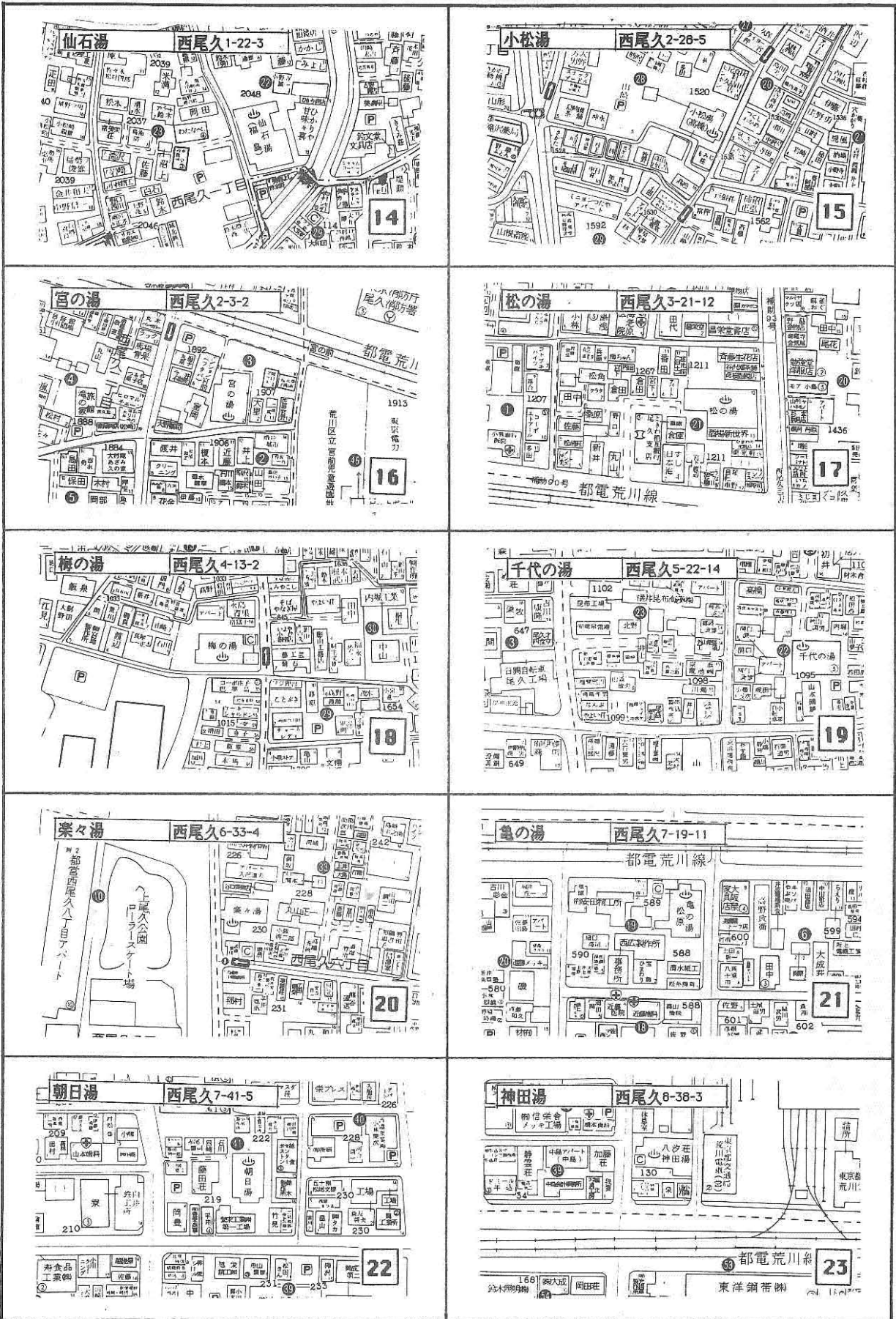
## 2. 西尾久地区



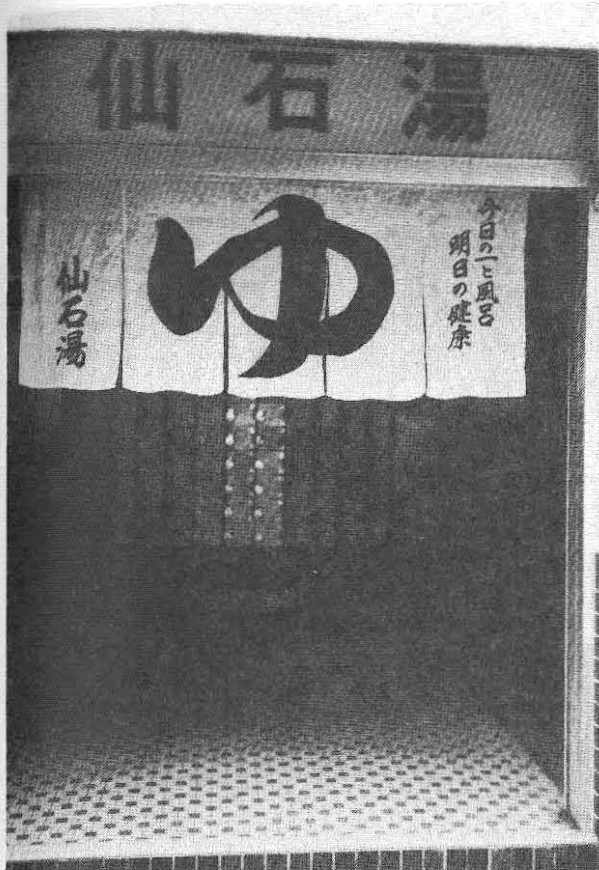




# 案内図







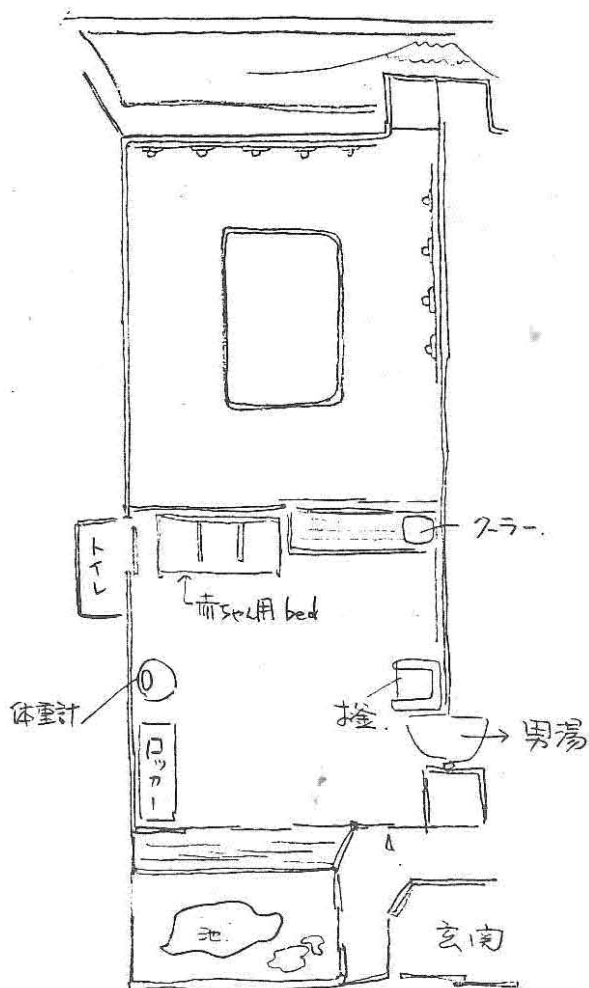
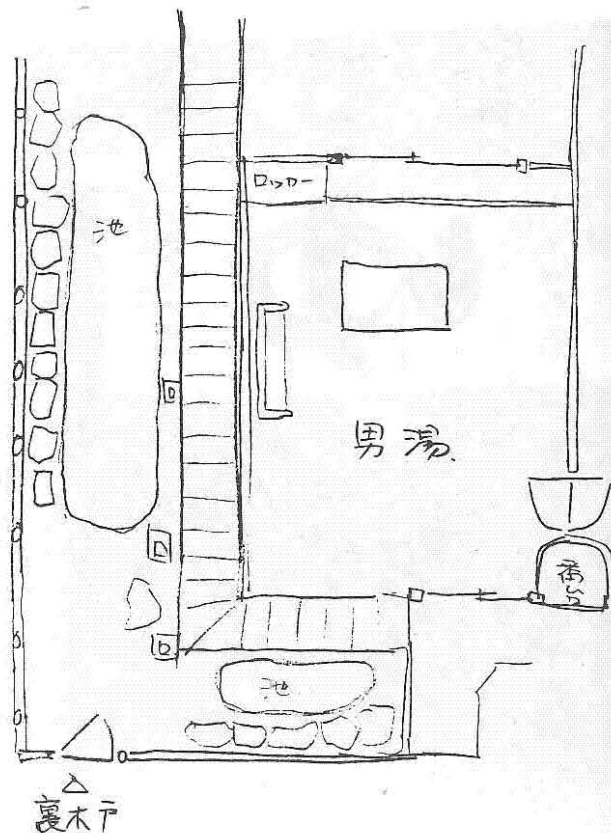
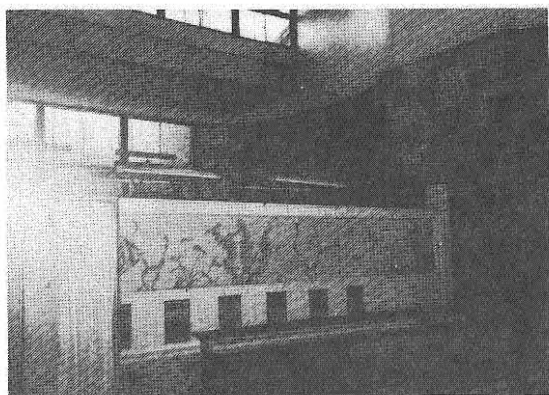
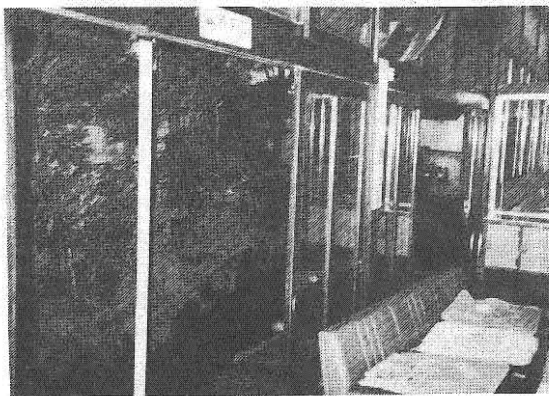
## 14. 仙石湯

- 特徴……「健康の泉」と書いて、ラドンを流しているそう。視覚的に精神衛生を、計ろうとしている。脱衣所に自動洗濯機がおいてある。男湯、女湯、それぞれにある庭も、小ざれいに手入れされている。床板の上には、ござが一面に敷いてあり、竹の長イスが夏の風情を思わせる。
- 私の目……壁画は、白樺の壁紙で済ませているのが、雑然とした感じを持たせている。今まで他人に管理をまかせ、今年のはじめに、もどって来たという。そのせいか、手の入れ用がいくらもありそうである。
- 番台より一言……番台やめて、カウンター式を取り入れ、カラオケ、薬湯も入れたい。



## 15. 小松湯

- 特徴……熱い湯・冷い湯はどうしようもないが、あつい場合は水をうめれば、調節がきく、という信念で運営している。裏木戸より入ると、見事なお庭がある。男湯から観える位置にあり、風情が感じられる。暖房はあるが冷房はおいていない。昔風の木造で天井がかなり高いので自然風があるので、冷房などはいらないとの事だ。
- 私の目……番台のおばあさんが自分が銭湯に奉公していた事分との違いを女の面から話してくれた。今の若い女の子は、羞恥心が少ないという話。でも、銭湯をやっていてよかったな—と思う事は、嫁と姑とが仲良く背中を流し合っている姿を見た時、あるいは、水を大切に使っている人を見た時だと言う。
- 番台さんの一言……お風呂は熱くなきゃ。



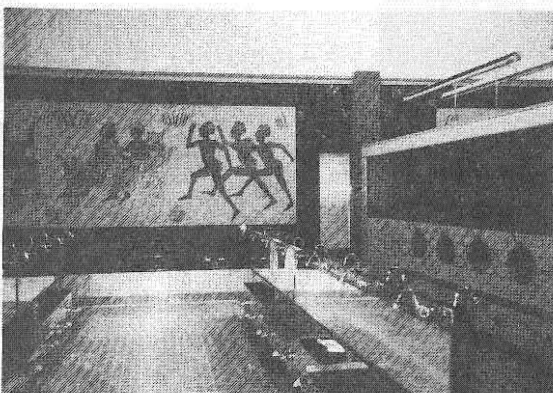
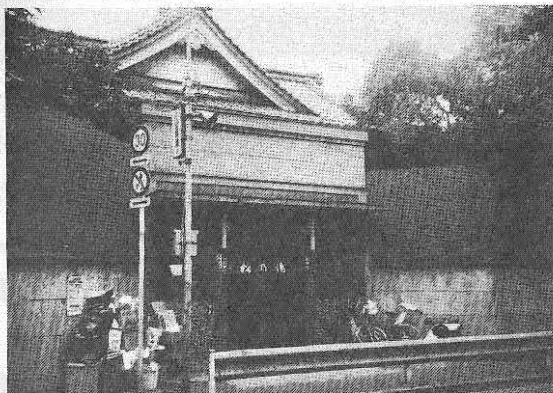
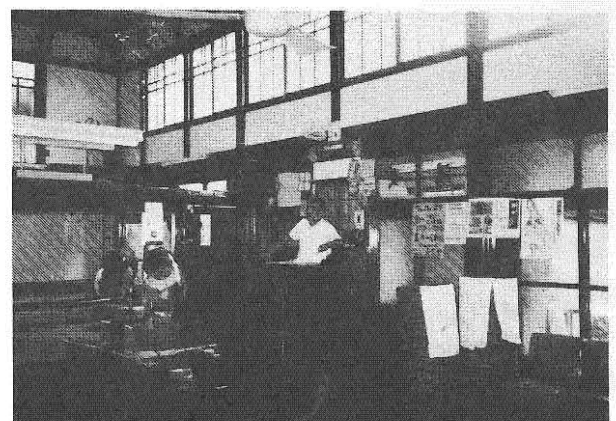
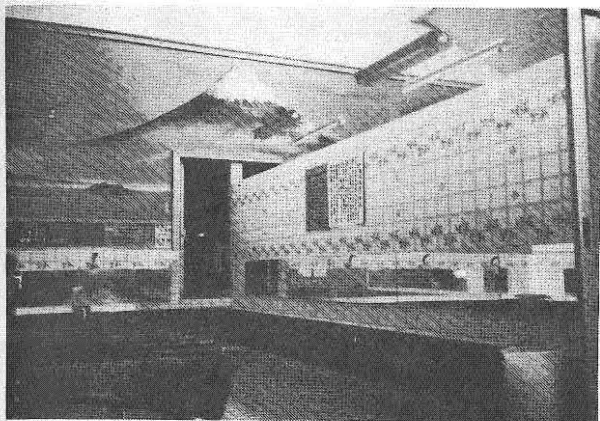
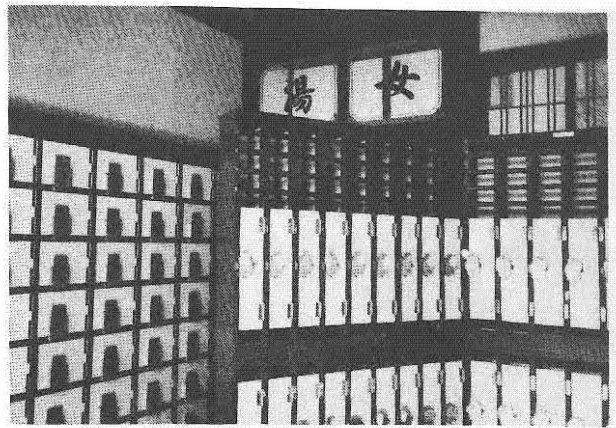
## 16. 宮の湯

- 特徴……東京都内でも、まだ、5～6軒しかない、軟水風呂を導入している。宮の湯では昨年（S61年）3月より軟水風呂へ変更、このため残念ながら池の鯉を、外へやってしまった。

銭湯の象徴とも言える富士山の壁画を、意識的に取り入れた。ぬりかえは、2年に1回の作業。

- 私の目……脱衣所の床板が、輝くばかりに、みがかれていて、とても気持ちが良い。ロッカーも置かれているが昔ながらの、カゴ（ザル）も、年気の入った色をして高くつみあげられている所に、風呂屋のいき込みが感じられた。
- その他……以前は、脱衣所の中央に、テーブルが置かれ、その上には新聞、雑誌が用意してあり人々が涼む時の場所として、提供されていた。
- 番台さんの一言……親は、自分の子供を、自分でしかろうとせず、「番台のおじちゃんにおこられちゃうよ」と言って来るのがさびしい。





## 17. 松の湯

・特徴……にぎやかな、商店街の中にあるだけあり、利用者が多い。この利用者の話しによると、この周囲にあって、「わりと大きくて、きれい。」ただ自転車を、置くスペースのないのが困る時がある様子である。

2～3年後に、ビル化の話があるため、コインロッカーその他の施設造営は、見合わせている状況。

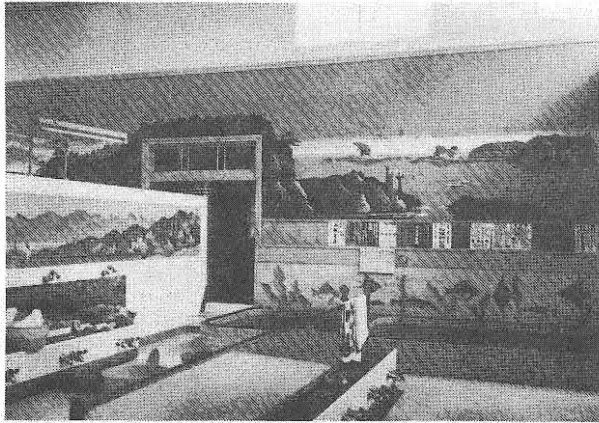
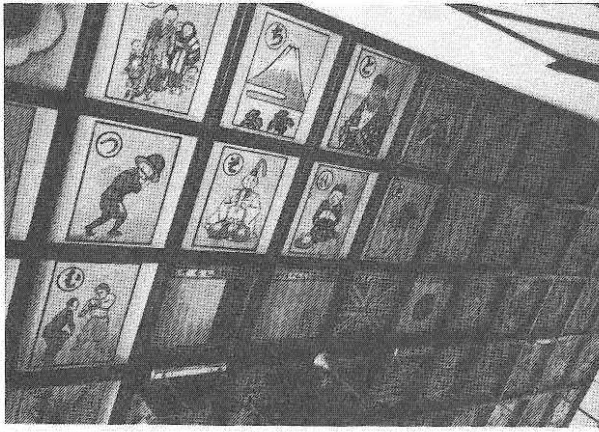
脱衣所の床板も、お手伝いさんによってピカピカにみがかれている。

・私の目……利用者が他に比べて多いのが目についた。全体的に、美しく保たれていて、入りやすい銭湯だ。これといって目玉的商戦を持っているわけではないが、場所柄、得をしているようだ。

2～3年後、アスレチックも入れた銭湯にしたいという、主人の意見が、どんな風呂屋になるのが楽しみである。

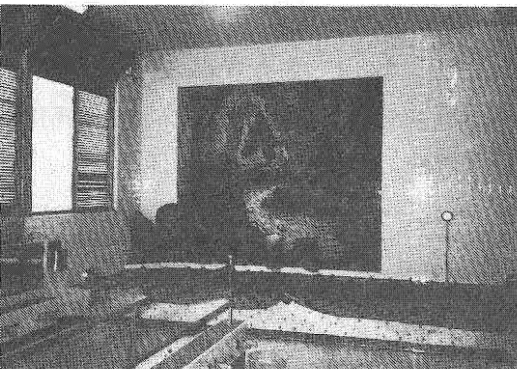
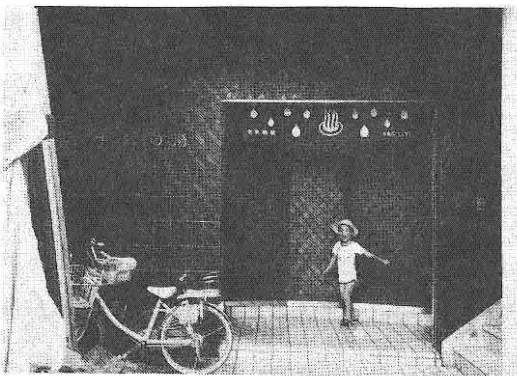
・番台さんの一言……270円でさっぱりした顔をして帰っていくのがうれしいね。





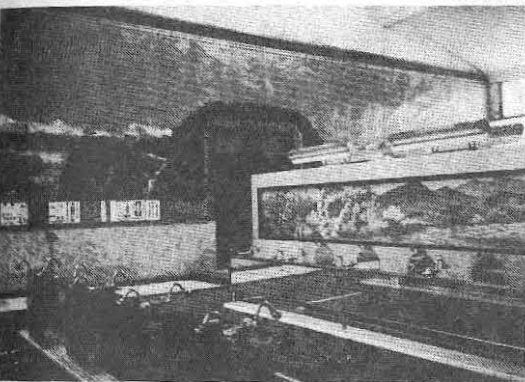
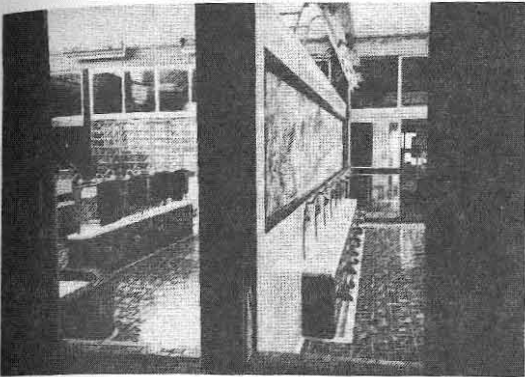
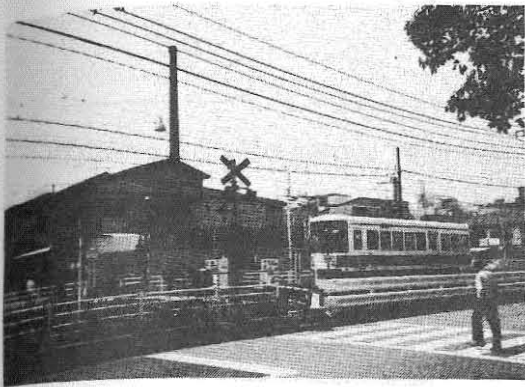
## 18. 梅の湯

- 特徴……小台本銀座商店街の人通りが多い中にある。入口の両脇は、以前は、涼み用として造られた庭であったろうが、現在は、コインランドリー化している。  
脱衣所の天井は、いろはガルトを大正期あるいは昭和初期の絵柄でもって、格子状に、はめられてある。古い感覚のせいか、単語と、絵からも、言葉が浮び上がってこないものが多あり、これが又おもしろい。  
浴場の壁画は、紀の松島の絵である。湯舟は2つあり接している壁のタイルには、海底と思われる風景が描かれてある。
- 私の目……脱衣所の天井は、昔、この銭湯が建てられた時に、時の人のアイデアでもって、来た客の子供の退屈しのぎに、思いついたものであろう。天井に比べ、床のビニルマット敷きというのが、何ともさびしい。
- 番台さんの一言……普通の銭湯だよ。



## 19. 千代の湯

- 特徴……ビルの1階に入っている銭湯である。古い銭湯を、建てかえた時に、銭湯は、1階に残し、2・3階は、アパートにしてしまった。中は、普通の銭湯と変わらない。ただ、ビルの中にあるということで、天井高が一般の銭湯にくらべると、だいぶ低くなっている。  
壁画のかわりにタイル画と、立体感を持たせるために岩組が施こされている。  
今時派行しているカウンター式ではなく、昔ながらの番台を残してある。
- 私の目……ロッカーの上には、うちわが竹筒に数本ささっており、これは、主人の、やさしそうな人柄をさりげなく表わしていた。
- 番台さんの一言……ビルになっても、風呂屋は変わらないですよ。



## 21. 亀の湯

・特徴……「お風呂セット貸出中」の張り紙が外に出ている。お勤め帰りのサラリーマンあるいは、ふらりと銭湯に入りたくなった人用に、亀の湯側で1日当たり30セット常備している。その内容は、写真にもあるように、おけの中に、セッケン、湯あらいタオル、洗髪ブラシ、シャンプー、タオル計5点が入って、使用料が300円である。

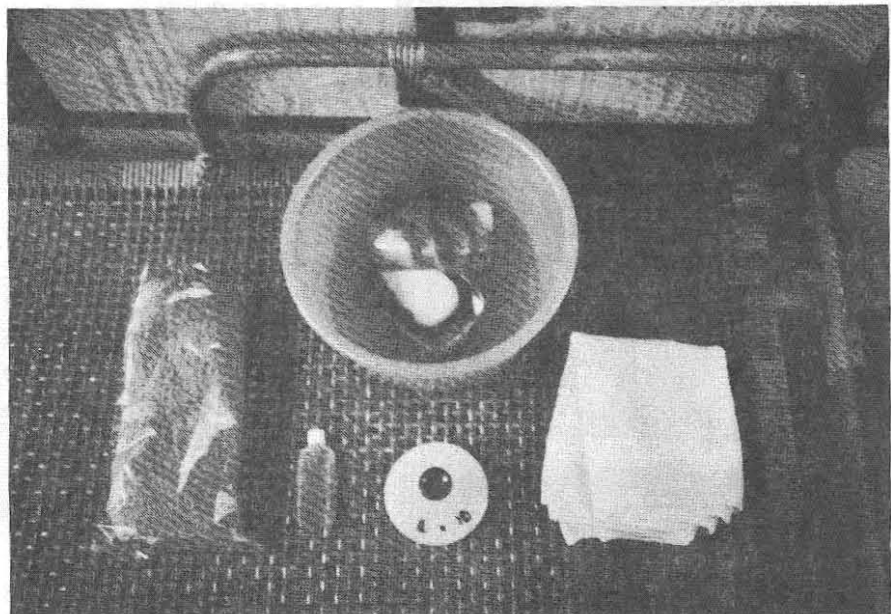
その他、コピーサービス、ゲーム機などを、置いてある。

・私の目……銭湯は施設を一つ変えるだけでも、〇百万、〇千万はすぐかかってしまう。そこを、ちょっとしたアイデアを、盛り込んで、少しでも多くのお客に来てもらおうとしているのがここ亀の湯の若頭首である。お風呂セットは、そのよい一例である。9割は、男性のサラリーマンが愛用しており、1日30セットは、フル活用、残る日はない程の利用ぶりである。

生き残るのには、お金も必要であるが、それと同様に、バイタリティーあふれた創造力が力を発揮する。

・番台さんの一言……昭和39年8月1日（今から23年前）に公布された都条例第184号による、古い規制があるために、他のやっていない新しい事が簡単に実行できない。どこの風呂屋も似たりよったりなもの、この条例のせいだ。何とかせにゃ。

キバツなアイデア？ あるけど、そりゃ内緒だよ。



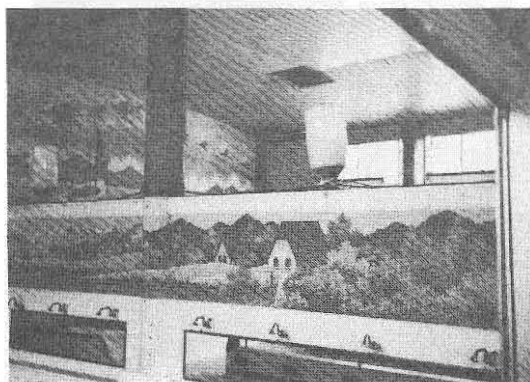
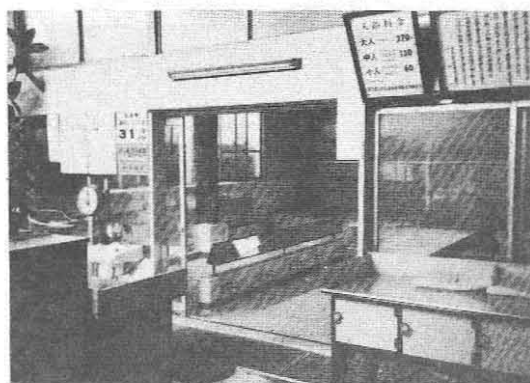


## 22. 朝日湯

- 特徴……まわりが小規模工場の集まりということから、仕事後の一風呂というケースが多少なりとも、他の湯銭と様子を異にしている部分がある。

外に、コインランドリーをつくってある。

- 私の目……西尾久地区で唯一取材を、断られ、残念。



## 23. 神田湯

- 特徴……木造であるが、1階を銭湯、2階は、間貸し、4軒分の下宿屋をしている。外には、コインランドリーと大きな清涼飲料水の自動販売機がおいてある。

湯舟は、それぞれ3つ、浅いの、深いの、熱いの。

壁は、タイルのモザイクが富士山と、アルプスを美しく描いている。

- 私の目……若夫婦のみが運営しており、建物も古いことから、あまりぱっとしないが、彼らの人柄はよい。

- 番台より一言……今はぱっとしないよ。





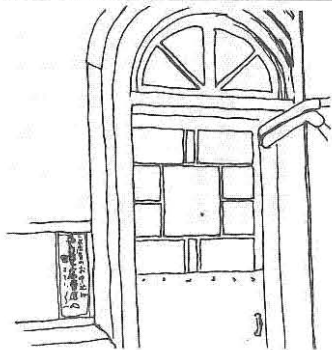
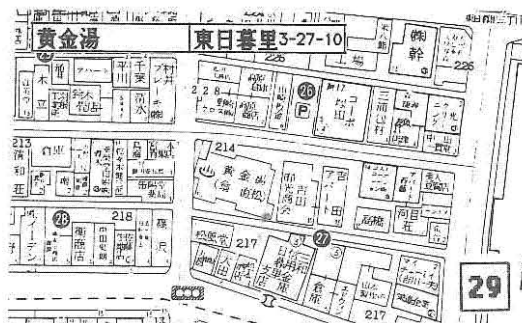
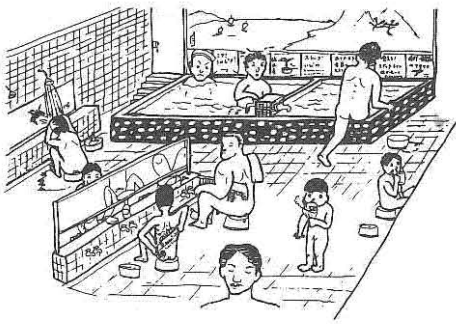
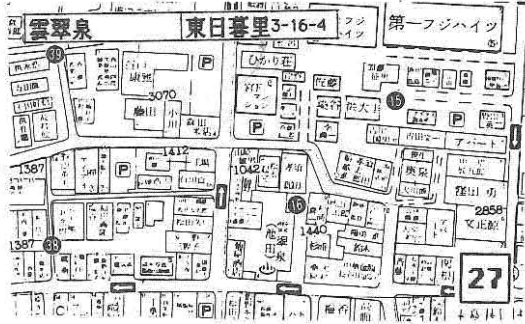
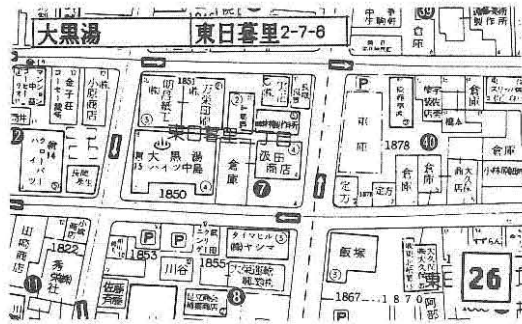
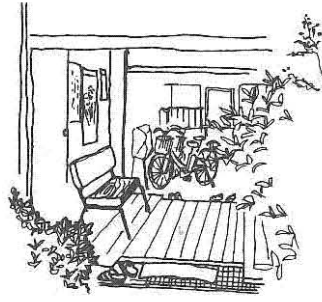
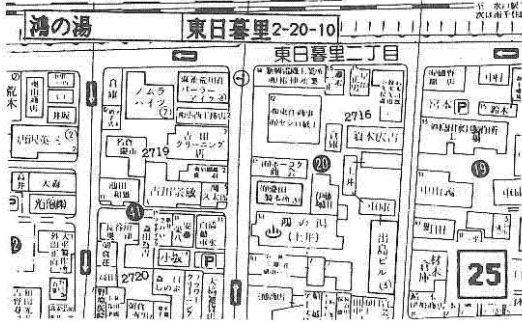
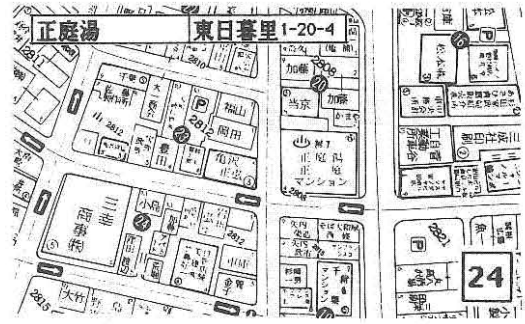
### 3. 東日暮里地区





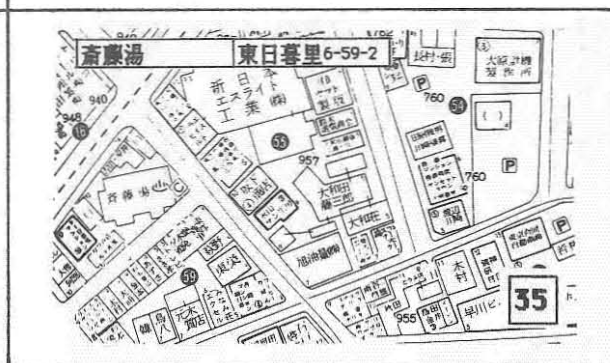
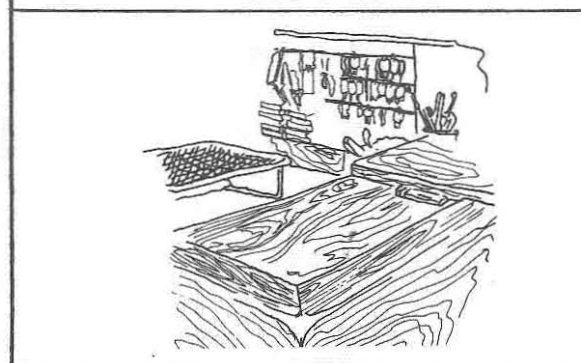
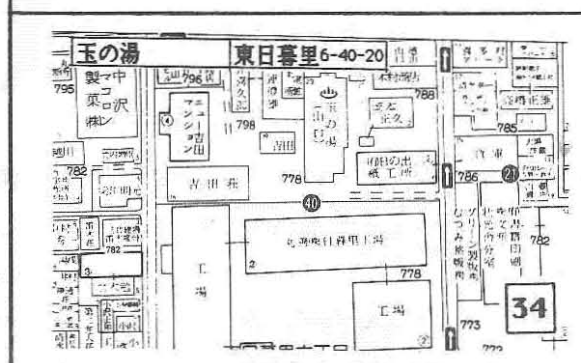
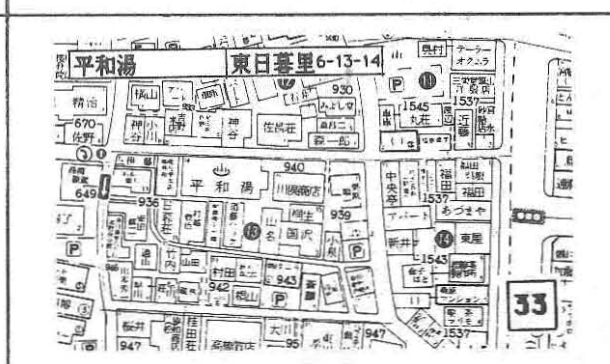
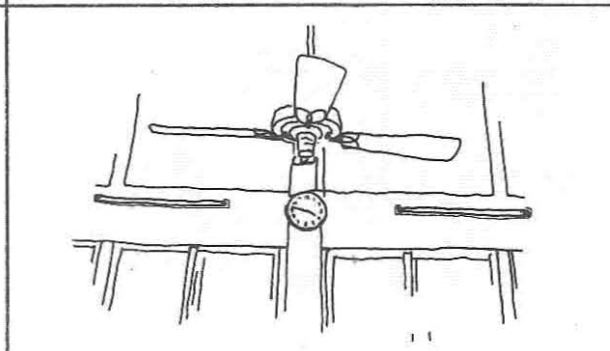
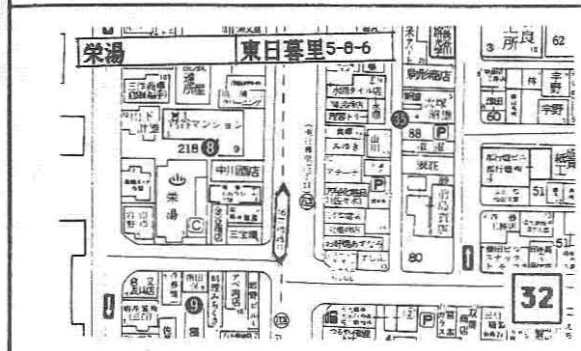
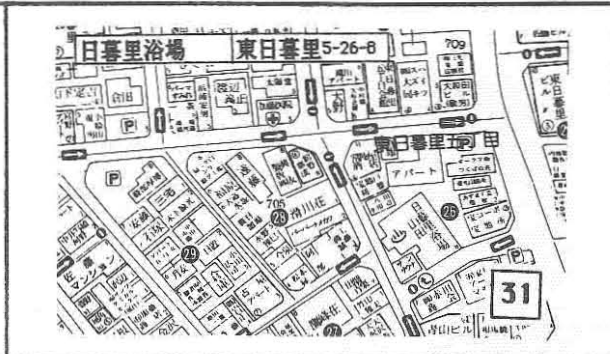
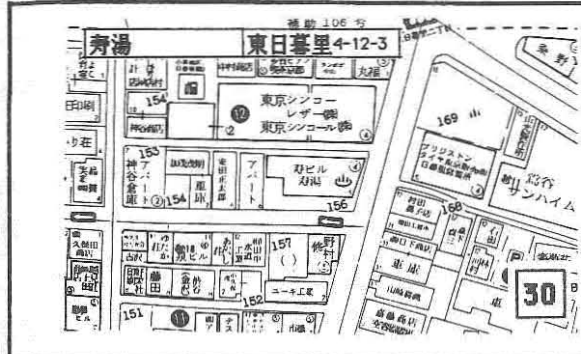


# 案内図

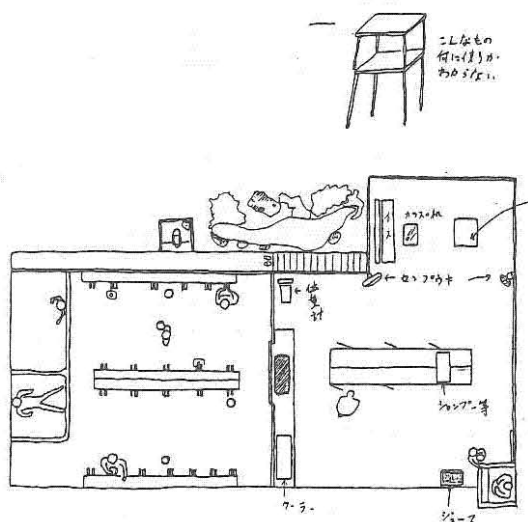




# 案内図



## 25. 鴻の湯



これといって特徴がない。高い番台によく笑うおばあさんが座っている。

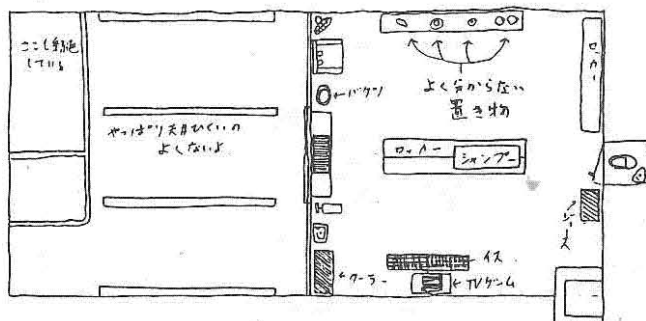
「昭和25年からやっています。私が来たころ花火が見えたけど今なんか火事があったってウーウー鳴っているだけでねエ。高いビルばかり建ってしまっで。」

「お湯屋はねエ、骨おってもうかんなくて、いっしょうけんめいやっても税金や経費にもっていかれちゃいます」

「私？私は石川県。石川県とお富山県から来た人、田舎からの人しかバカらしくてやらないですよお湯屋なんて。」

「せがれと嫁がつぐっていってますけどどうしますかねえ。やるっていっても47才だから、今の子供達じゃとっても出来ないとおもいますね」

## 26. 大黒湯



番台が心もち高い。

個人的な意見だが、番台は客と眼の高さと同じになるように作って欲しい。

「昭和23年からです。新しくしたのは50年。

いい商売じゃないわよ。これだけの土地つかって、これだけの利益じゃあ……。

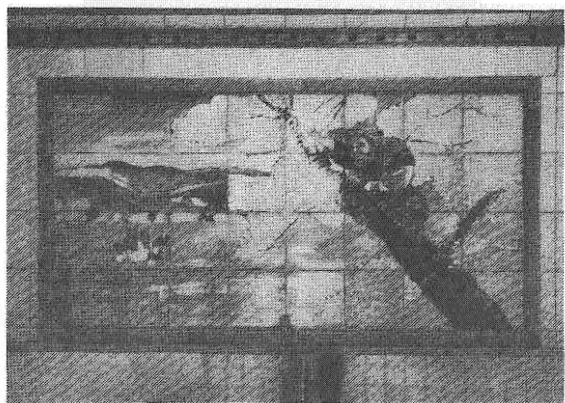
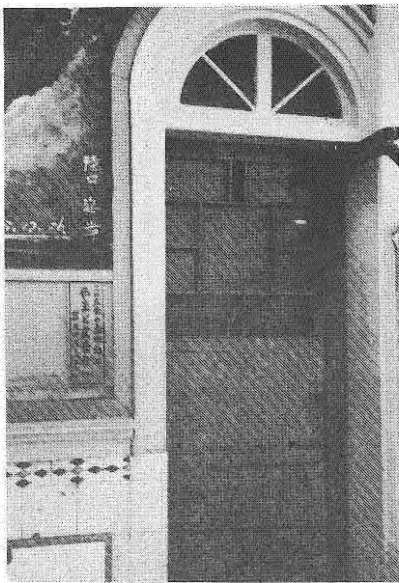
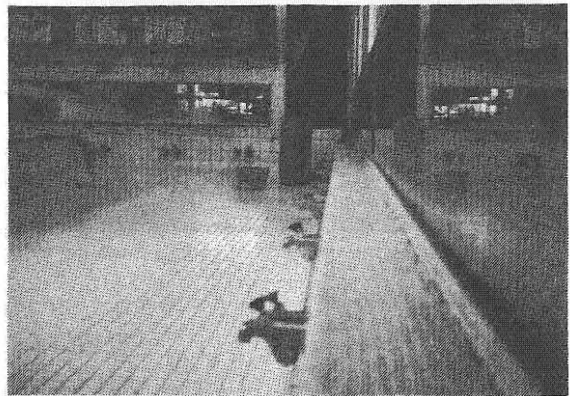
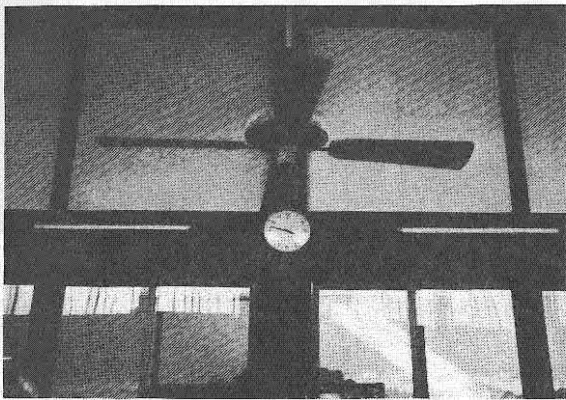
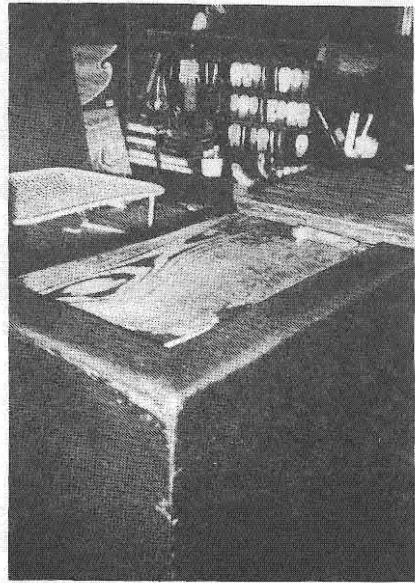
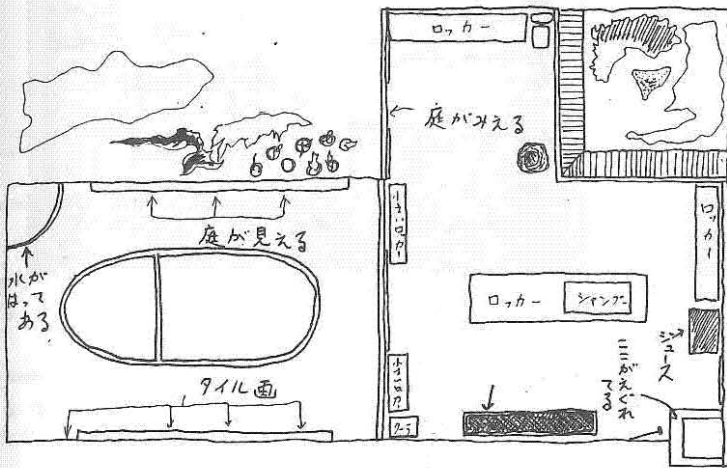
荒川は住みにくいわ。昔中野に住んでたんだけど — 東京の田舎じゃないかしら。あんまり好きじゃないわ、ここ。

私達の時は道で遊んでたけど、ウチの子なげいてるもの、セミがいないって。木が少ないからねえ。

ビルのお風呂の特徴ですか？空間です  
空間！！」



27. 雲翠泉







## 28. 帝国湯

自動で戸が開かれていくと、洗い場の人達を目のあたりにすることになる。脱衣場と洗い場の仕切りがないずいぶん奇妙なものだ。真ん中のカラン群には鏡がついてなく、すっきりとだっ広い。

一番手前には水のみがついているが使っている人は見かけなかった。

湯舟は三つあり、うち一つは薬湯だった。せまくてトロリとよどんでいて身をひたすのはためらわれた。

庭に面した壁は古い赤いレンガで気持ちが良い。

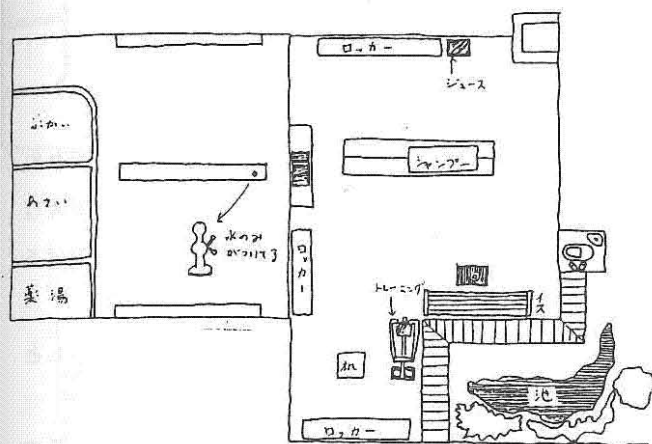
洗い場で体を洗いながら鏡がくもっていないことに気付く。

風呂屋につきものの白い蒸気がまったくないのだ。

そのかわりにあるのがレンガに沿い、庭を渡ってきた風の流れ。ゆっくり、ぐるぐると洗い場をまわっていて、のぼせることがない。他の風呂と少し違う。

他の風呂屋で聞いたことだが、庭をつぶしてコインランドリーをつくってしまうから風が入らなくなって、結果として冷房が必要となるそうである。

ここでは話は聞けなかった。

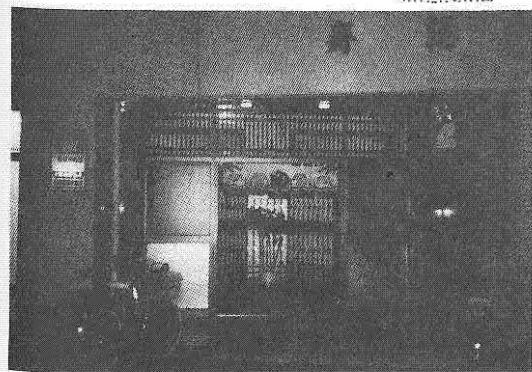
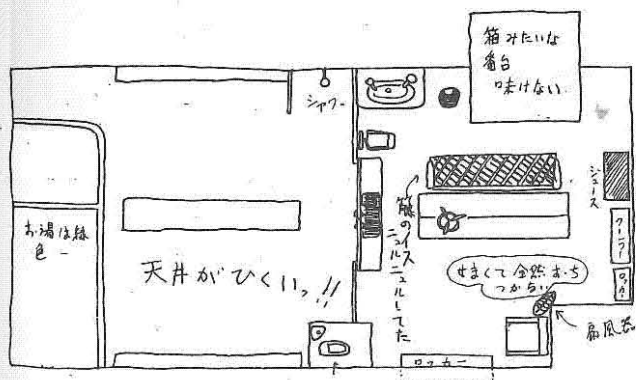


## 29. 寿湯

ビルの一階にあるので天井がひくい。たいした問題じゃあるまいと思ったんだが、お金を払って服脱いで、体を軽くながしてヨッコラショと湯舟に入り、『ウウウッ アッハーッえー気持ちや』と天井を見上げたとき、けっこうな問題となった。

なんと云えばよいか、この、スッコーンと抜ける感じが無いのだ。トコロテンの様に“気持ち良さ”に押され足の先から頭のとっぺんに集った全身の“疲れ”を一気に放出出来る場所が切り取られているのだ天井で。こりゃこまった。「親ゆずりだからねえ。自分ちのフロにすぐ入れるからいいんじゃないの……。

荒川？住めば都だから。」



### 30. 黄金湯



最初黄金湯だと思った訳だ。もしかしたら湯舟が金ピカなのではないかなぁと戸を開けると目に飛び込んできたのは中央上方にすえられたテレビに映る渡哲也の沈痛なおももちであった。

おももちって変な言葉だなあ。

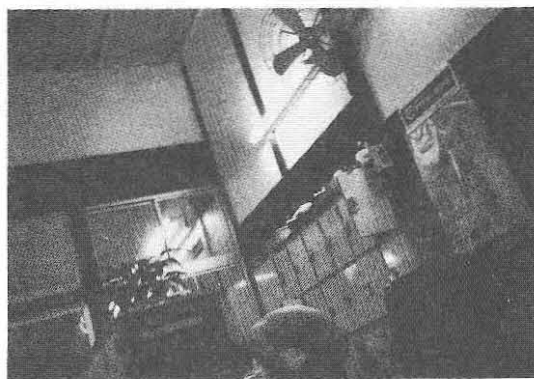
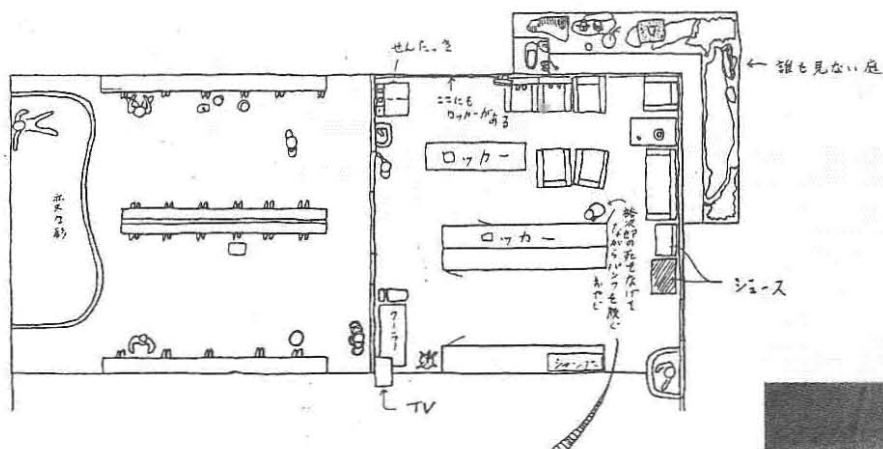
その日、3時間前、石原裕次郎が死んだのだ。

人が少ない。洗い場正面には田舎の山の中の風景が描かれてある。男湯と女湯の仕切りでその絵も真っ二つ。見えない絵とそこに広がる世界を想像することは風呂屋における幸福論につながるだろう。

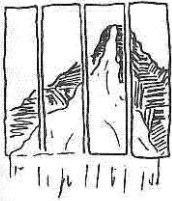
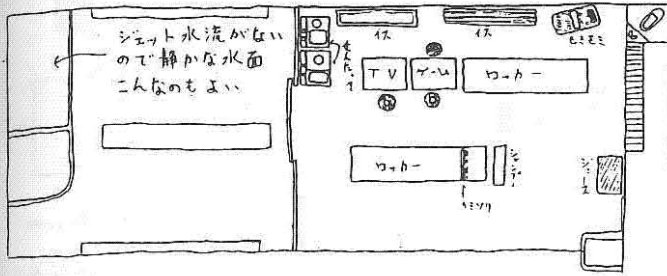
「死ぬ前に一度でいいからあっちの絵も見たいもんだ」とつぶやくじいさんがいればドラマだと思う。

ここまで僕は考えて、もう出来なくなってしまった。その日の黄金湯で石原裕次郎以外のことを想うのはちょっと無理があったのだ。番台のばあさんはTVに見いているし、女湯からの話し声もそのことばかり、中年男は「死んじゃいましたか、死んじゃいましたか」とくりかえしながらパンツを脱いでいる。黄金湯全体が石原裕次郎のことを考えているようで「太陽にほえろ」のボスしか知らない僕は逃げだすしかなかった。

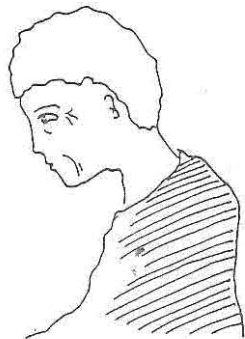
黄金湯は“こがねゆ”と読む。







壁がくりぬいてあって  
こんな風にお湯が  
ちょろちょろ出ている。



## 31. 日暮里浴場

鈴虫が鳴いている。

左耳でその音を聞くと正面に日暮里浴場を見る。

番台にはあんまり表情がないおばさんが座っている。

TVゲームが2つ置いてある。

時計の下にはまねき猫。

人は多くない、全部で8人位。

「絵ですか？絵は今書ける人がいなくなっちゃったって、聞きますよ。うちはタイルだけど。」

「お湯さえわかせばお金入ってくるから、ほかに？いいことですか？何かしらあるかしらねえ……。」

「お風呂屋は36年から、ここは46年からです。」

「ベビーベッドも昔は7つあったんですけど今は3つです。

皆さんお風呂に入ってる時間が短くなりました。

昔は2時間くらい入ってねえ。

背中が流しっこもしないし、最近の人はいそがしいんでしょうかねえ。

今、男の人の方が長いんじゃないでしょうかね。

女の人で早い人は15分くらいですでてらっしゃいますよ。」

「袋小路があるといいわ。荒川には子供が遊ぶところがなくてかわいそうだから。

校庭開放もねえ、誰々の責任になるからって やってないみたいですよ。よく知らないですけど。

子供にあれやっちゃダメこれやっちゃダメってあれじゃかわいそうね。

公園もつままないのばかりで雑木林みたいなのが必要ですよ。うちの子も小さいときすぐ帰ってきました。面白くないっていって。」

静かに色んなことを喋ってくれる奥さんだった。

TVゲームは恥ずかしながら2回程やってみた。銭湯には mismatch の様な気もする。



### 33. 平和泉



玉の湯に行くつもりだったが、月曜は定休日らしく、コインランドリーの洗たく機の回る音だけが露地にこぼれていた。予定変更平和泉に向かう。

9時半をまわっていたが小路では立ち話しをしている人が3組ぐらいいた。スタレをとおして、テレビを見ているおじさんのステテコ姿が見える。

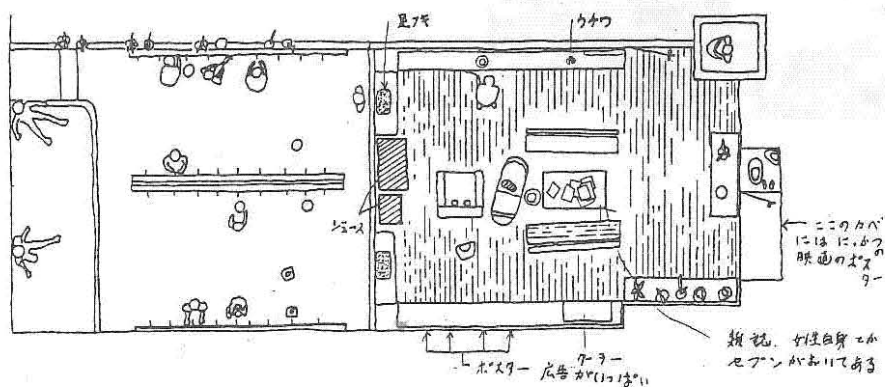
犬が首輪の金具を鳴らして追い抜き、平和泉は右手に見えてきた。暗い夜路にある風呂屋は、そこだけ光っていて葬式を出した家のように見える。

番台には、初老の、上品な、知的な、夫人が静かに座っていた。

私と同じ眼の高さで。彼女の頭上からつるされたくすんだ色の6個の手毬を見上げながら300円渡し、30円と札を受け取った。

風呂場には活気があった。

3人の中年の男達が常に喋っている。



「熱いねえ」

「そうかい」

「熱いよ、これは少し」

「水、いいよ」

「ウッ ウーン アーッ」

「……」

「フーッ俺猫舌だから熱いの駄目なんだよ」

「やっぱり風呂が一番だねエ」

「あんたんとこの息子さん大きくなったねエ」

「いやー体ばかりで」

:

:





延々と続く会話。

スカットを片手に話を聞く。

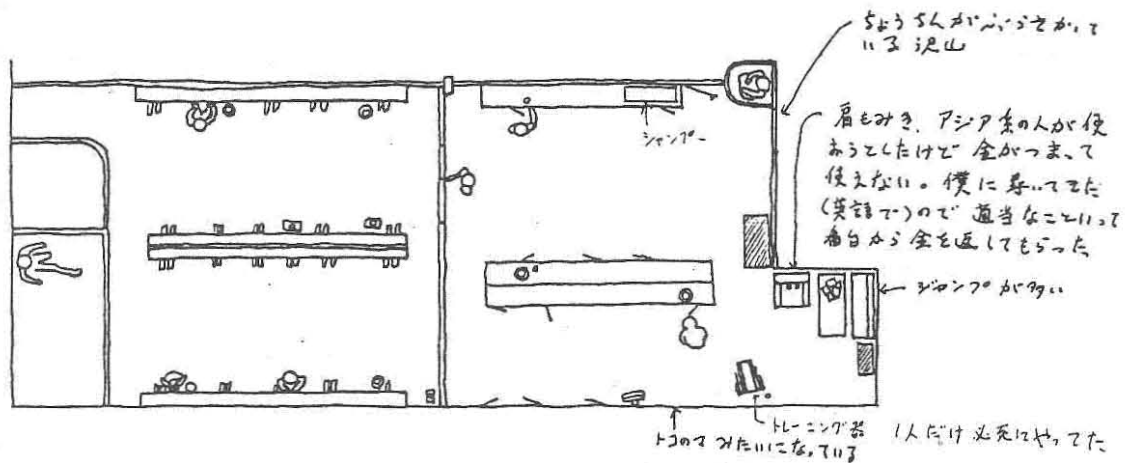
『はい、いいですよ。……昭和27年9月19日落成。ここは15年前に建て直したんだけど、もう古くなっちゃいました。……そうですか？……表には4時から10時半までって書いてありますけどねえ……やっぱり遅くなりますねえ、みなさん疲れて仕事終わっていらっしゃるのに帰っていただくこと出来ませんからどおしても12時頃まではやっています。……ええ。こっちの方はソウジに来られる人がいるんですが、お風呂場は主人と二人でやりますから……ええ…ええ寝るのは2時半から3時頃になってしまいますねえ。……主人は富山です。私は神田。……15年前まではお昼から夜の12時までやってたんですよ。ええ……人がねえ……昔は今みたいに皆さんが大学行く訳じゃなかったですから、中学出るとすぐ働きに来ていたんです。富山県と石川県から、昔だから兄弟多いでしょ、長男以外順ぐりに毎年みたいによこしてくれたんですよ。

大きくなったら女の子とくっつけてお店出させたり、他の商売やったりとかねえ。

はい、はい やってます 12月21日にゆず湯 5月にショウブ湯あと昨年から 12月12日にレモン湯をやってるんですよ。ええレモン。

お風呂屋さんは減っていきますねえ、お客さんが少なくなった分、お金が高くなったからやっていけるんです……ええ 手いっぱいです。もう残すなんてできませんよ。皆さん やめないでって云ってくれますから続けますけど…はい、子供達も働いていますから、どうするんでしょうねえ……子供にまかせますよ。この仕事は』

### 34. 玉の湯



「ここはいつからですか」

「そーねいつからかしら 人は替ったけど大正時代からよ」

「そんな古いんですか」

「そおよ、うちのおばあちゃんが買い取ったの」

「営業時間は？」

「3時半から11時半でことになってるけど12時から1時頃になるわねえ」

「それで寝るの遅くなるでしょ」

「そおよ それからかたづけて お風呂入って お茶飲んで寝るんだもの 2時半とか3時ね」

「どこの風呂屋さんもそのくらいになるみたいですねえ」

「そーよ 肉体労働よ たいへんなんだから」

「ウチの近くに三波春夫が住んでたのよ。そのころはまだ三波春夫じゃなくて浪曲うなってたけど」

「ここにも来てたの？」

「そーよ もーお婆ちゃんなんか仲よくってなんだっけ Q&Aとかいうテレビ番組と一緒に出て、あそこにかかってるでしょ、「お客様は神様です」あれ直筆よ。もう一枚あるけど。」

(おじいさんの話し)

「あれだよ、昔あそこには開くようになってたもんだから『兄ちゃんいるかいっ』てよく三波春夫が来てたんだ。芸



名も考えてくれて云われたけど……思いつかんかったねえ。自分で三味線の三とって三波春夫にしちゃった。」

「当時全部このあたり焼けちゃったから。ウチは戦後復興第一号だよ。ワラ半紙のやつがまだあるもの。すきかわで洗い場セメントで、住むところだって出来てなかったのにフロ屋がやっていけるのかって云われたけど なんとか出来た、そしたら客はいっぱいきたねえ 電車乗ってくる人もいた」

「昔はすごかったわよお。私が嫁に来たのは30年前だけどそのころはお金もらうでしょ、おつり返すのがまにあわないだもん。じゃ帰るときに返すからっていっておつりここにおくの、そしたらいっぱいになるのよここ、も一大変だったんだから」

「赤ちゃんとか子供がへったんでしょ」

「そ、ふたりとか3にんとか、お年寄りもふえてるみたいね。あなた知らないかもしれないけど女湯にはベッドがあるんですよ。赤ちゃんおいとく30年前なんてそれがいっぱいになるの、だからもう競争みたいに……店あけると同時に赤ちゃん抱いたお母さんがパーって。」

「へーッ走ってくるんですか、家に風呂があってもくる人はいるんでしょ」

「そりゃいますよ。内風呂にあきた人とか……あれでしょこうやって冷房しているでしょ、夏なんか暑いものねえ」

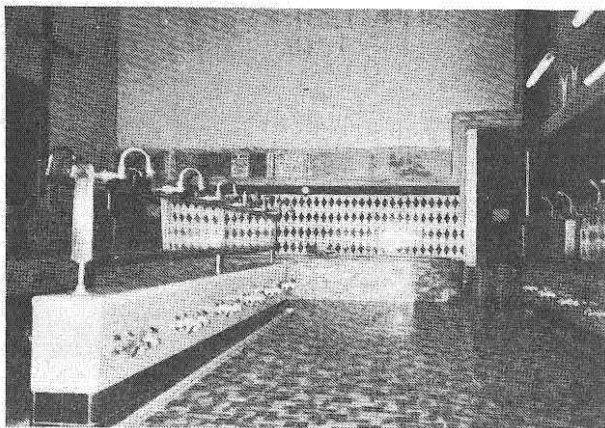
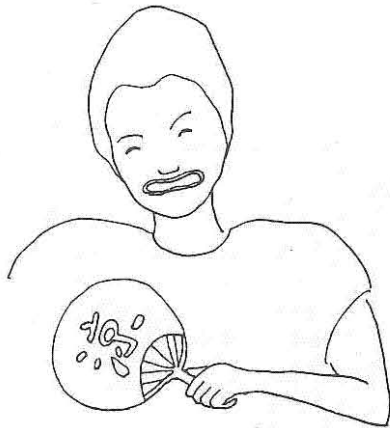
「最近外国の人がふえたわね。パキスタンとかインドとかアジアの人。」

おっかしいのよ、はじめみんなバスタオルみたいなまいてシャワーだけ浴びて帰るのそのうち慣れてくると湯舟にも入るけど手ぬぐいは取らないの、スポンポンで入るのは本当に日本になじんだ人だけ。

あっあこのあいだすごかったの、あなた男の子だから云ってもいいんだろうけど出てきたお客さん達が『ありゃすごいよ 血い流しながらやってるよっ』ていってんのよ。それで私がのぞいたの、そしたらあっちの人がこーやって持って、オチンチンの毛そってんのよ。血流しながらきれーに 宗教かなんかだと思うけど。」

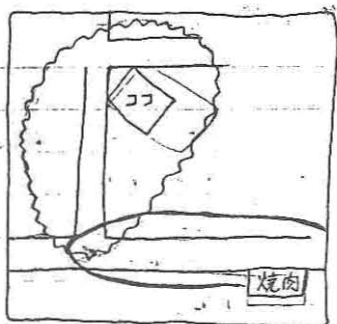
「毛ジラミじゃないかな？」

「今時ないでしょ そんなの。」





### 35. 齊藤湯



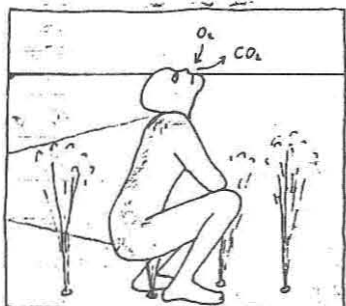
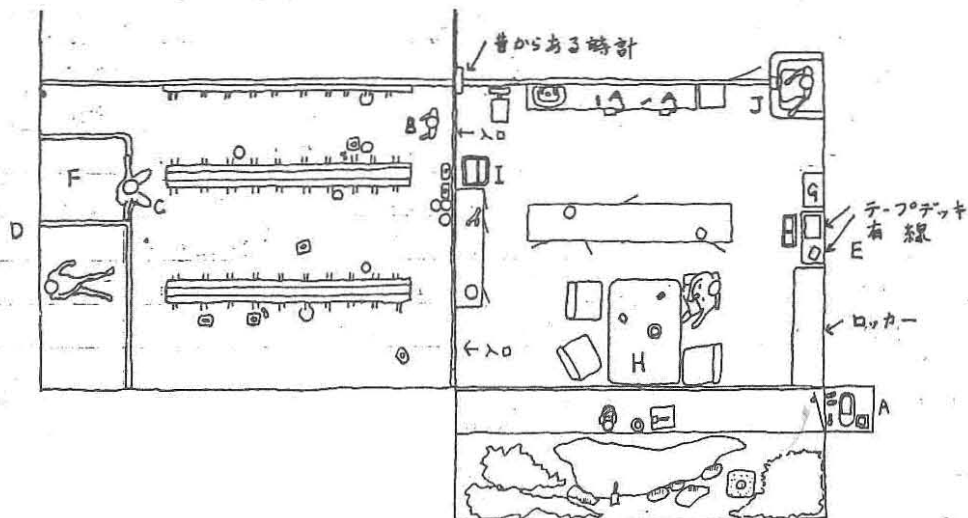
(図1)

まず周囲を歩いたが近くに焼肉屋があるのが鼻についた。

(図1) 風呂屋から出ると腹がすく訳だがここで焼肉のにおいをかがされると下宿する者はつらいはずだ。

----- 風呂屋のにおい

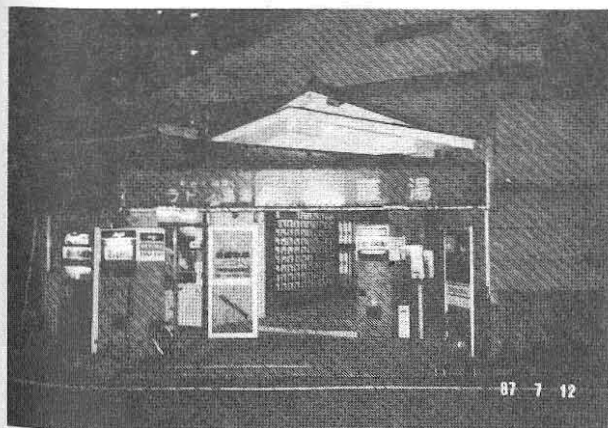
—— 焼肉屋のにおい



問題のラドン湯だが、色々コーナー書きを読むと有難くなってくる。一番感動したのは、赤ガイ線(?)のランプである。

湯の中にスポットライトがあるみたいでなかなかセクシャルである。自分でポーズをとってみようと思ったが、スネ毛が見苦しくやめた。あと真下からのジェット水流を局部にあてたら気持ちいいと思ってトライしたが いかんせん湯がヘソの高さくらいまであって 呼吸が出来なくなるので断念せざるを得なかった。

『えっ?……結婚して私がここにくる前からだから、20年以上前からやってるわよ……3時半から11時半。……金曜日……子供がへったわネえ……話し?……しますよ……2時間こうたいだから……えええ、続けますよ……え;? いいわよハイ……あっ番台は撮っちゃダメよ……ダメ!』

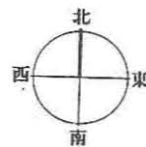
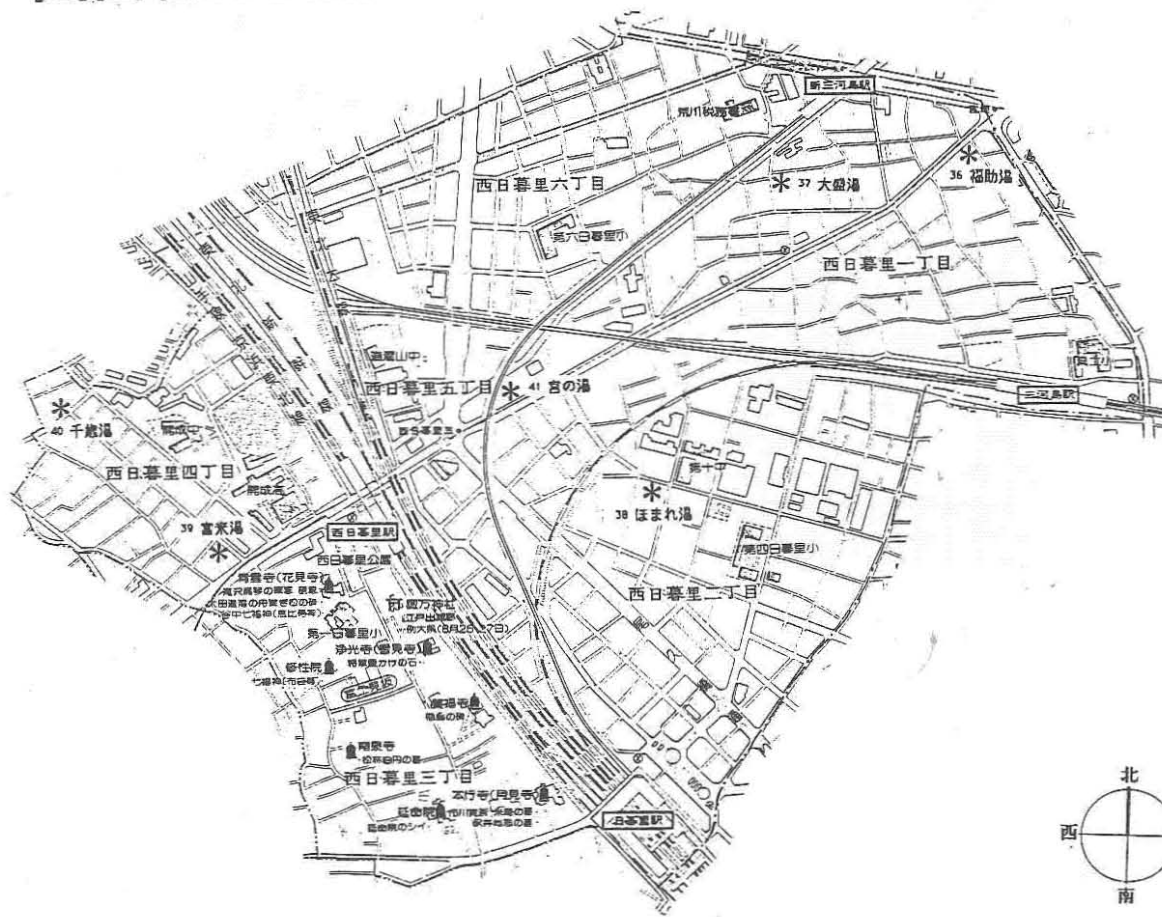


07 7 12

## 4. 西日暮里地区



# 西日暮里地区



	名前	住所	電話番号
36	福助湯	西日暮里 1-13-2	(891)1066
37	大盛湯	西日暮里 1-40-8	(805)2328
38	ほまれ湯	西日暮里 2-41-1	(891)5634
39	富来湯	西日暮里 4-22-10	(828)0230
40	千歳湯	西日暮里 4-8-4	(828)0229
41	宮の湯	西日暮里 5-26-8	(801)0612

\*荒川区の玄関である西日暮里地区は、駅前商店街が発達し、商業の中心地となりつつある。

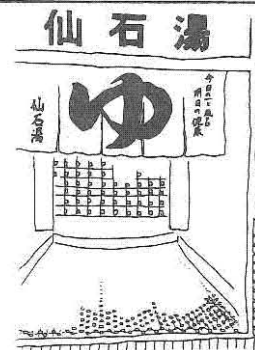
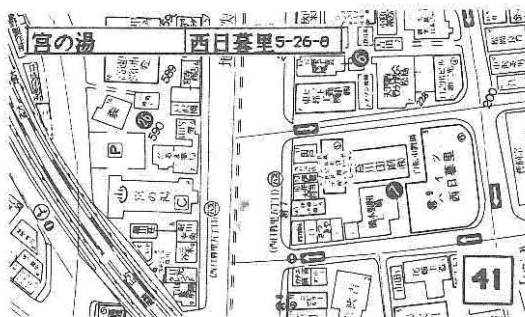
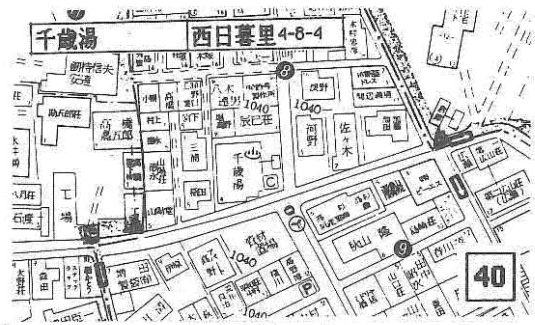
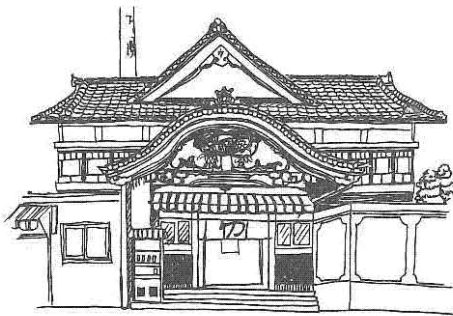
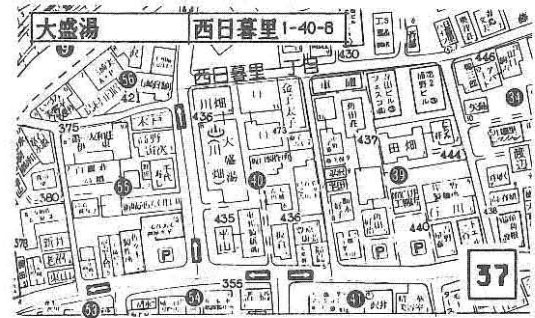
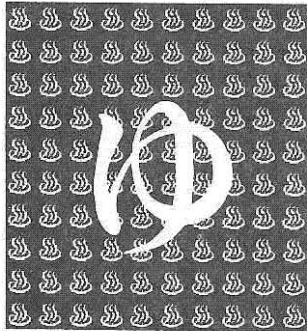
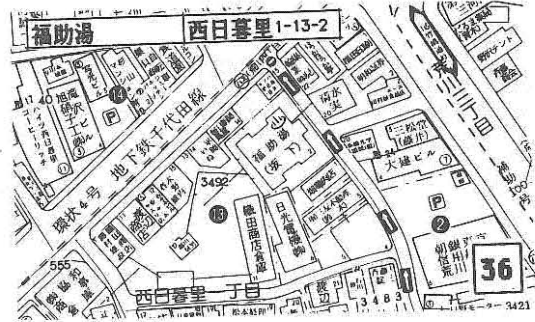
\*面積、人口とも区内、最下位である。また商業中心地ということで昼間人口指数も高い。

\*地区内に6軒と区内でもっとも少なく、また銭湯を取りまく状況が厳しい中で、半数が、最近、新築、改装しており番台からフロント形式に変えているのが目立つ。

\*改装した風呂やは客数が増え、地区内の競争を激しくしている。客の絶対量が大きく増減するとは考え難いので、増えてる所があれば減っている所があるという図式となる。ために、客数減の銭湯が消滅していくことになる。誘致圏域の広さからみて今の軒数が最低レベルと思われるが、これ以上の減少は老人の行動圏域を考えると深刻である。

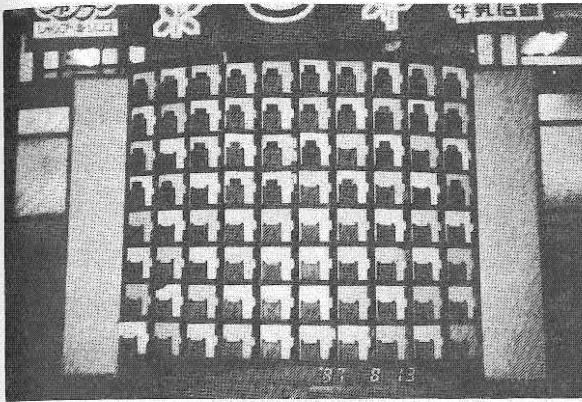


# 案内図



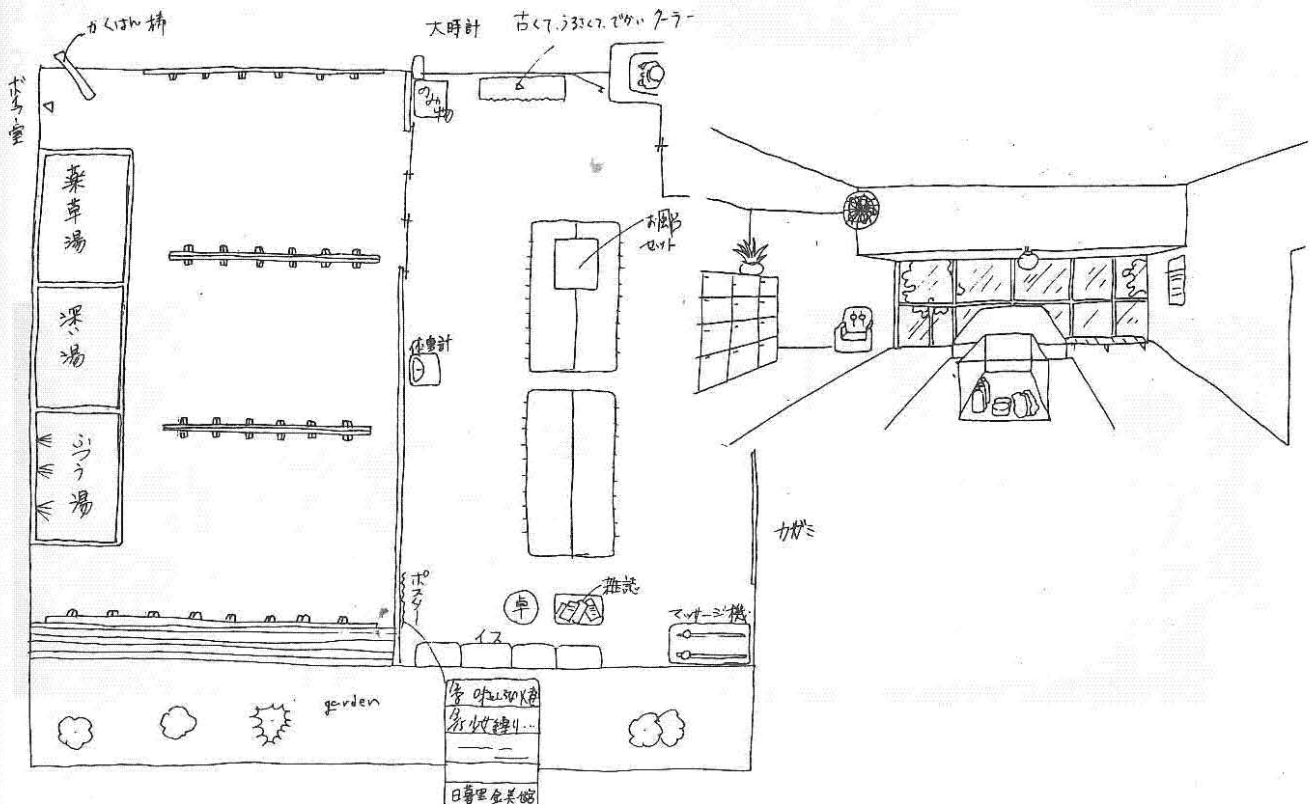
## 36. 福助湯

- 創業……36年（借家）。
- 設備……クーラー、自動販売機、マッサージ機、体重計、薬草湯、せん風機。



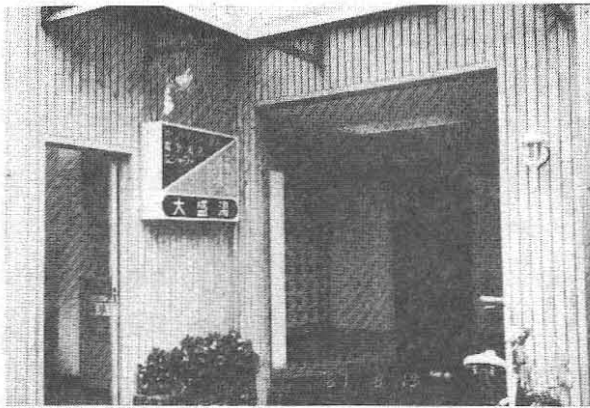
▷とてもシンプルにまとまり、清掃がいきとどいた銭湯である。若干の改装はあるもののやはり古い。ここの特徴として間取りが横に広くとられ、番台から湯舟の方が良く見えることであろう。たしかに古さはあるが、すべてが整然と手入れされ配置されている。お客は多いと言いがたいが、みなさん黙々と体を洗っている。ご夫人に今後についておたずねすると「先のことはわからない。改築の予定もない」そして最近のカウンター形式の二つ一銭湯について、「番台というものは、お客が安全にお湯を楽しみ、事故がないよう監視するのが役目というものだ。カウンターのように入浴室の外にあって中が見えないようなものはおかしいよ」と熱っぽく語ってくれた。

とても地味な雰囲気の中で、元気のよいご主人が、好対照にみえても、本人は楽しみながら銭湯を続けている様子ですが、お客の方は減っているようで、とにかく頑張っている状態を維持してほしいものです。

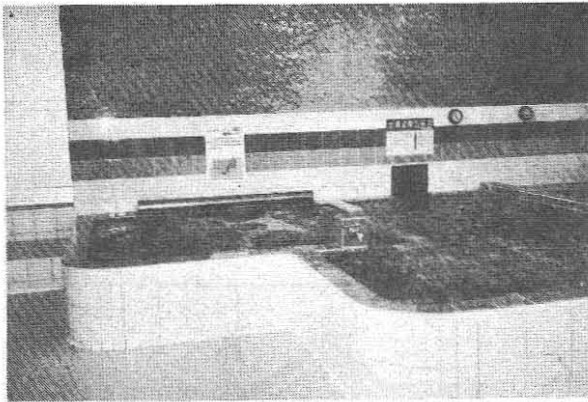


## 37. 大盛湯

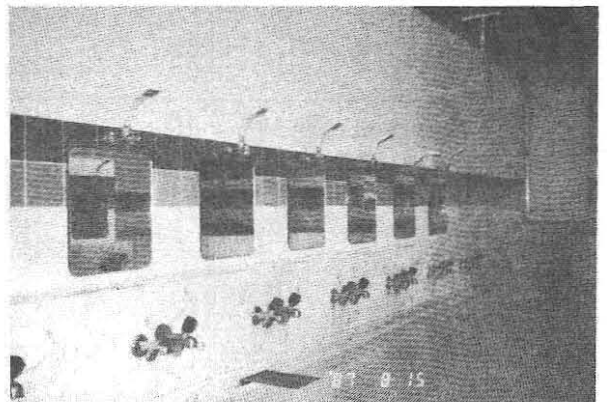
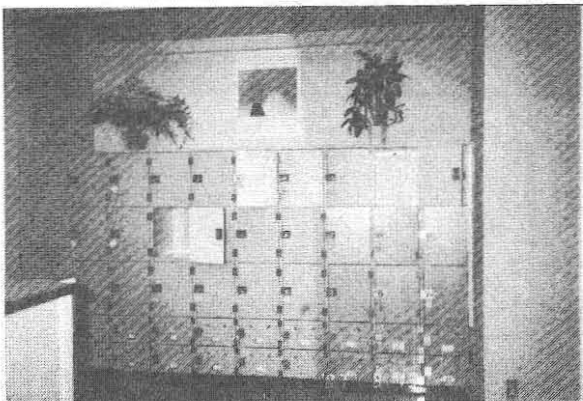
- 創業……（S60年建て替え）。
- 設備……TV、デジタル体重計、クーラー、マッサージ機、自動販売機、低周波電気風呂、マッサージ風呂、バスクリン風呂、洗濯機。



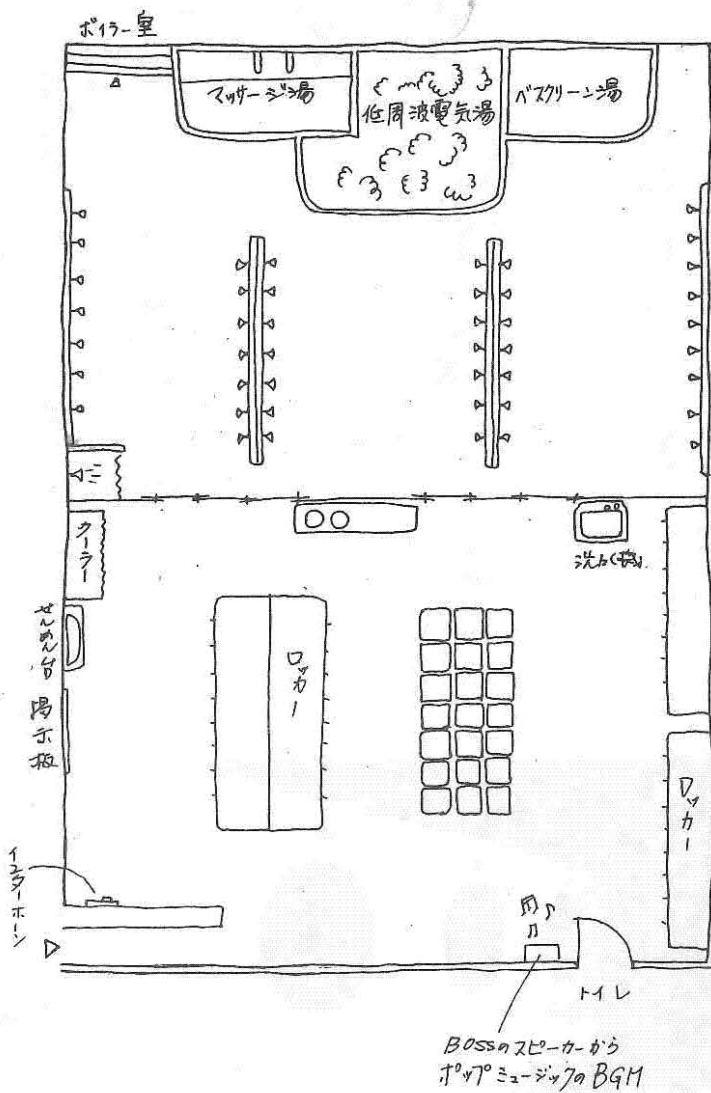
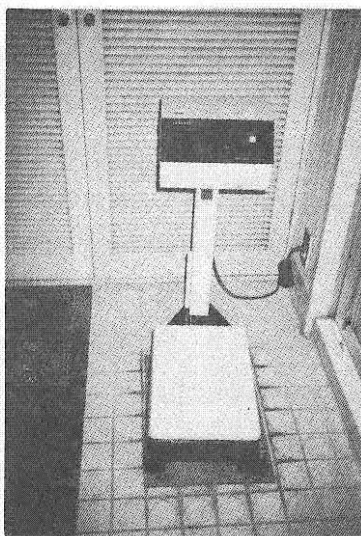
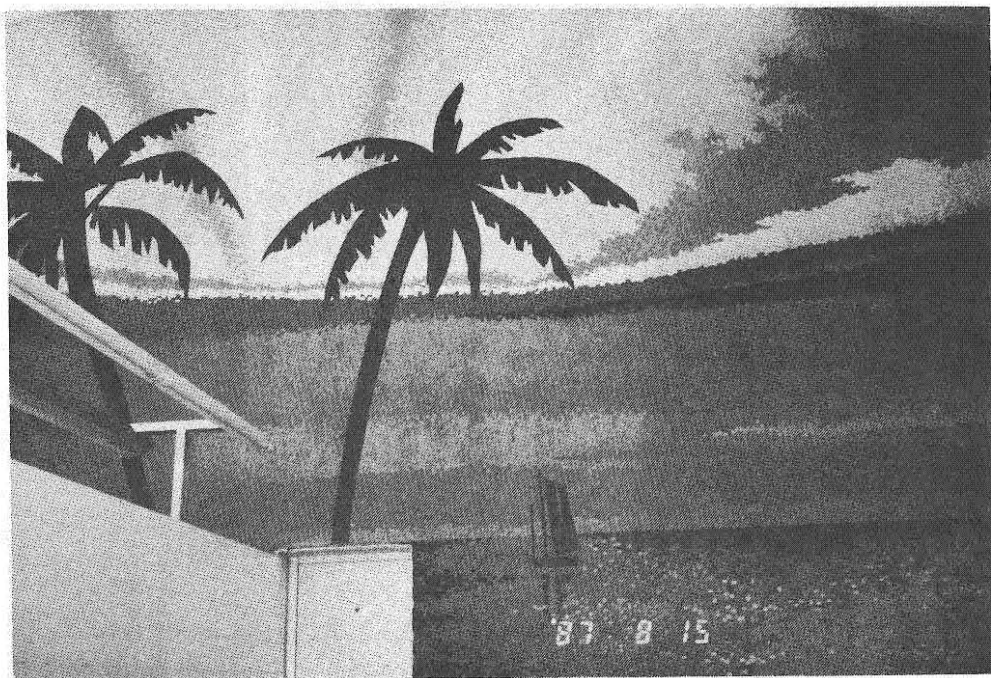
▷2年前に建て替えたという大盛湯は、ホテル並みの豪華なフロントを構え、シャンデリアが、きらびやかに輝くのである。カウンターもその設備に負けないようにおばさんがクラブのママ風にビシッと気めている。そこを下町のおじいちゃん、おばあちゃんが入って来る光景はミスマッチで違和感がある。やはりこういう雰囲気のところは若ものうけがよく、お客は増えているそうです。当然脱衣室内部も白で統一され、高い天井に明るい照明、寒いぐらいの冷房、BGMは有線放送からポップミュージックが流れている。またカウンターと脱衣室のアクセスはインターホンを介して行なわれ、現代最先端の作りになっている。浴室のほうも低周波電気風呂、マッサージ風呂、バスクリン風呂、と設備も今の健康ブームと合いまって、お客増に一役かっている。



今後の銭湯は、この大盛湯のようなホテル流の雰囲気、設備、をもつ利用優先のものと、頑固に古い番台を守る、オールド銭湯と2極分化していく傾向がますます強まると思われる。減少する銭湯の生き残りとしてどちらが残っていくのであるか。





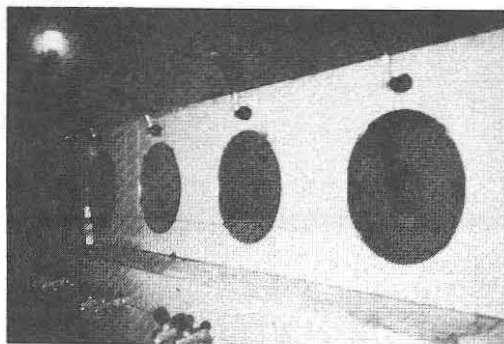
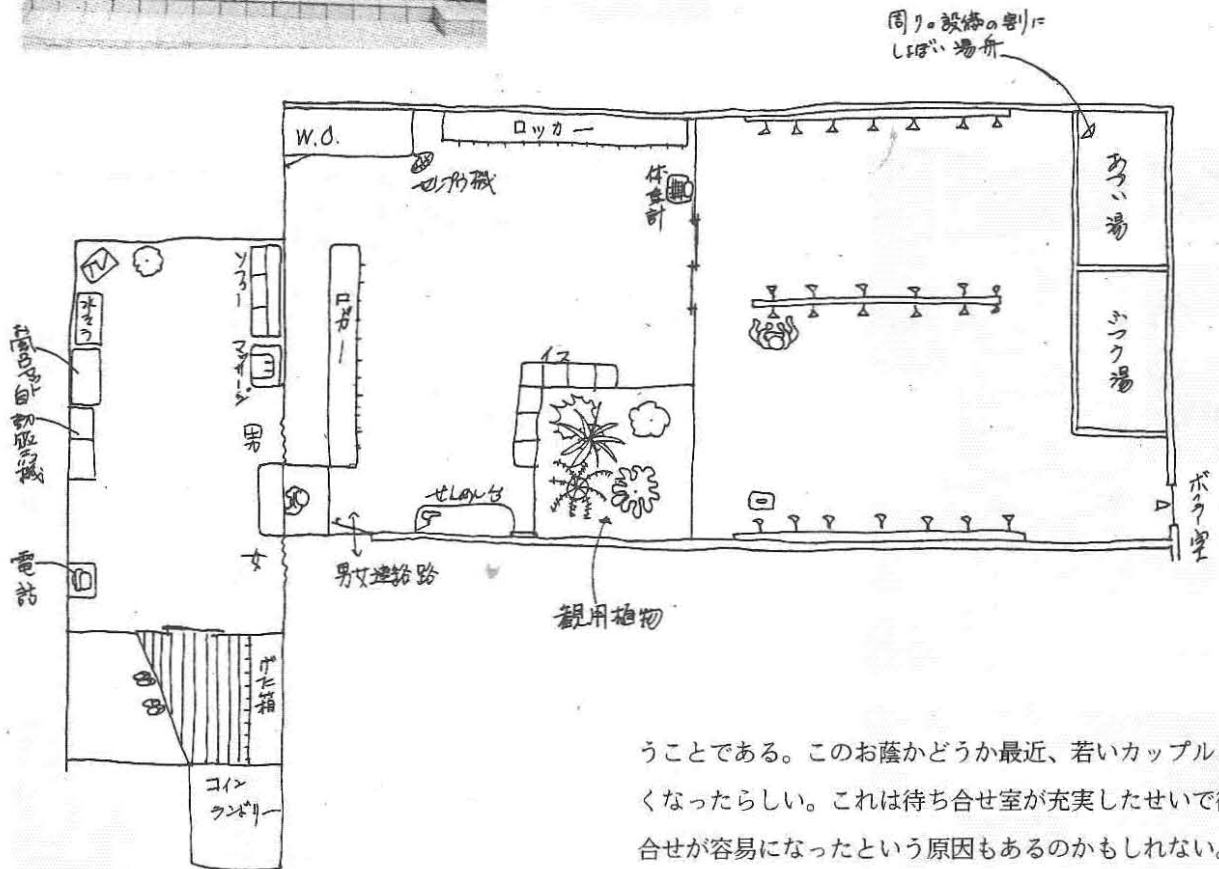


## 38. ほまれ湯



- 創業……24年（S60年建て替え）。
- 設備……TV、マッサージ機、コインランドリー、自動販売機、せん風機、クーラー、体重計。

▷ここほまれ湯は、財テクブームを反映してか、2、3階を共同住宅、1階部をカウンター形式の銭湯に2年前、大改築をし、ファサードも建物全体をブラウンのタイルで統一している。自動ドアから中に入るとシティホテル並のとても落ち着く雰囲気に仕上げられている。この辺のことを御主人におたずねするとここを改築するにあたり、いろいろ銭湯を回り研究なされたそうで内装にも細やかな心づかいがいろいろなされている。カウンター形式にした理由というのも「若い女性が番台だときらうからねえ。」とい



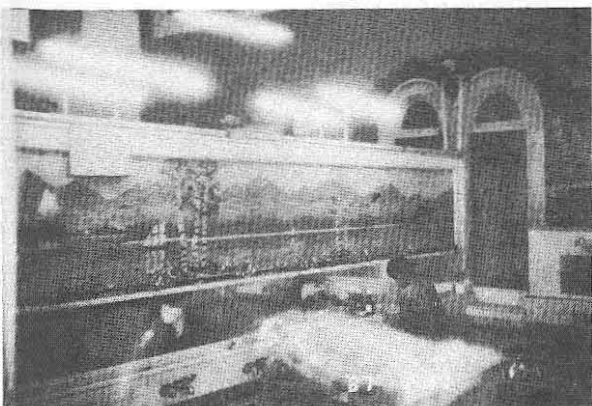
うことである。このお蔭かどうか最近、若いカップルも多くなったらしい。これは待ち合せ室が充実したせいで待ち合せが容易になったという原因もあるのかもしれない。当初、ニューエビス湯のような設備の導入を検討なさったそうですが、荒川銭湯組合から反対に合い、結局、2つの普通の湯舟になったそうである。お客も若い層を中心に少しは増えている(150~200人/日) そうであるが、銀行などからの借金などがあり、先行きはまだまだ不安みたいである。経営努力の方も地下水利用、廃材の利用と頑張っている。



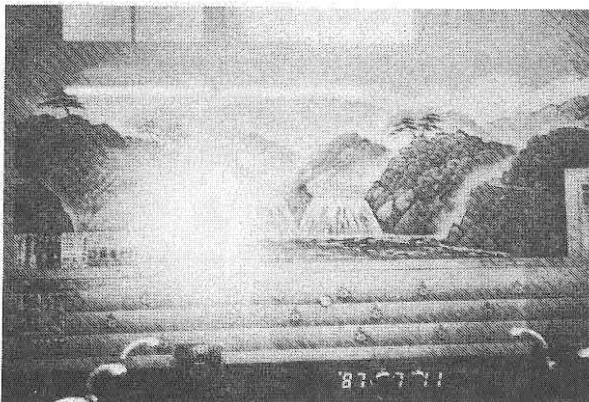
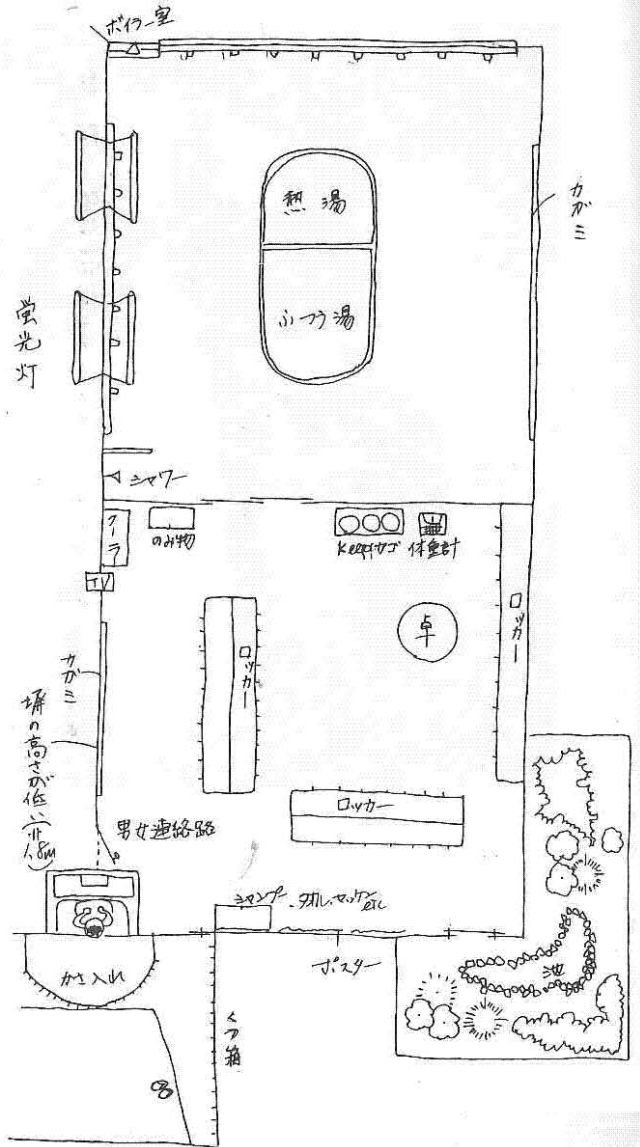
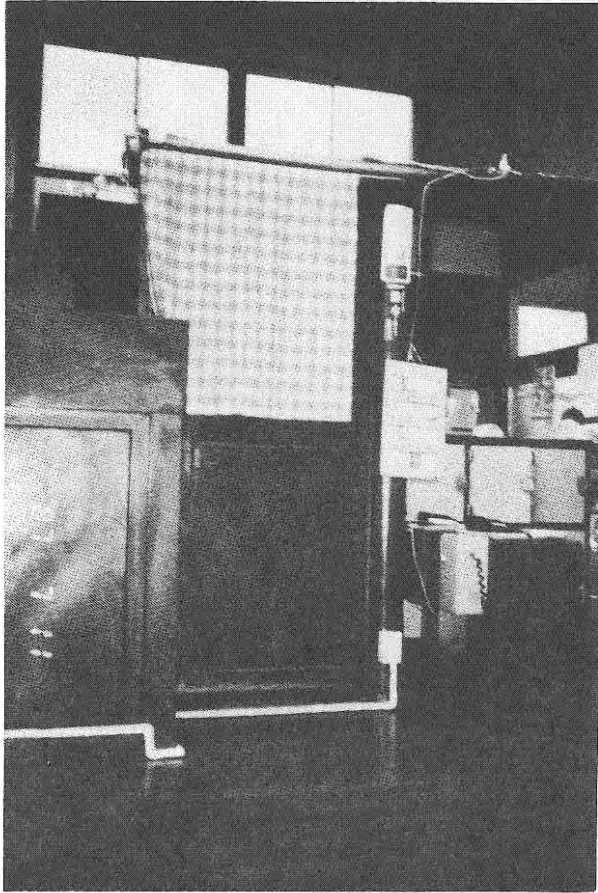
### 39. 富来湯

- 営業……30年当時のまま。(立て替えの予定なし)
- 設備……TV、飲み物販売機、クーラー、体重計、お風呂セット。

▷坂の多い開成学園近くに位置する富来湯は重厚な作りと高い煙突で回りの人の目を引いている。現在1代目ではほぼ30年。当時のままの造りで頑張っておられる。中にはいると、薄暗く、高い天井が広がり、全体的に雑然とした雰囲気の中に古さを感じる。男女境界壁も低く身長190cmもあれば向こう側が見通せそうである。お客の方は、子供、若者が多く年々、減っているそうである。将来的にも特別の思案がある訳でもなく現状を維持し、平凡に続けるとのことである。浴室は、当時のはやりであった中央部にデンとだ円の湯舟が据え付けられており、当然、カガミは各3面に取り付けられ、空間的には、少し無駄が目立つようである。タイムスリップした銭湯だが、どうも、こういうスタイルは現代には合わないような気がする。リハビリ的どこか悪いところを直した形跡もなく、オーナーの無策が、れっきとしたポリシーがあるのかは、うかがいしれなかった。客を増やすためには、もう少し工夫が必要である。番台のおばさんはやさしく気さくな方である。

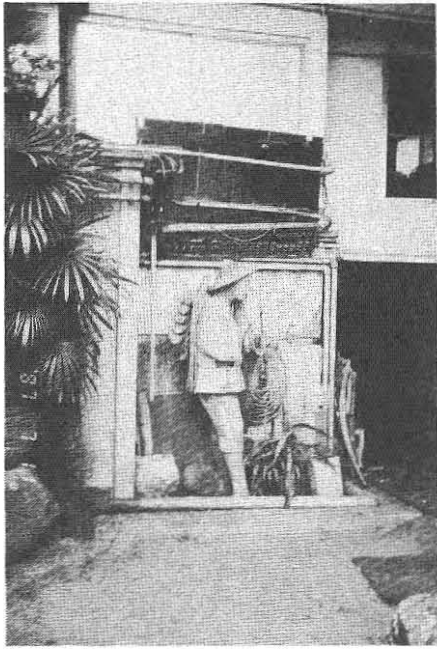




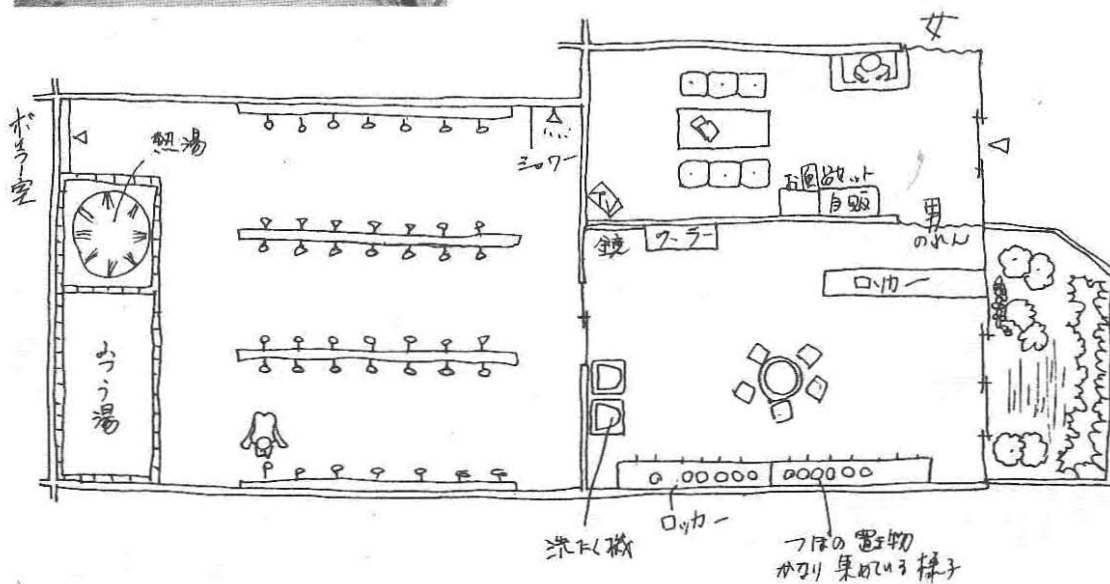


#### 40. 千歳湯

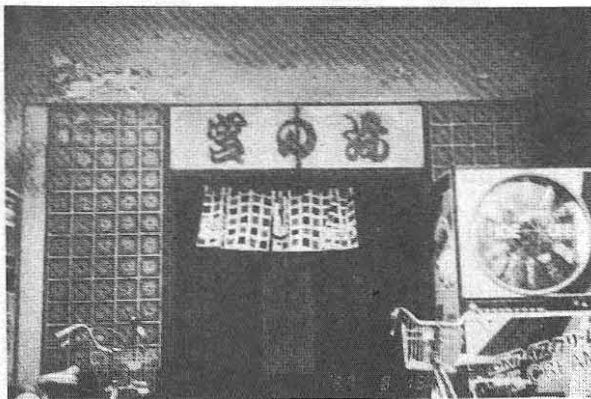
- 営業……30年（S59年改装）。
  - 設備……TV、マッサージ機、クーラー、ソファ、飲み物販売機、体重計、せん風機、コインランドリー。
- ▷ここ千歳湯は築30年の歴史で現在2代目（新潟出身）夫婦が店を取り仕切っている。自動ドアをくぐると3年前に改装したというカウンター形式の番台が目にはいる。この。この一室にはテレビ、ソファ、雑誌、飲み物が揃い、小ぢんまりまとまった雰囲気である。カウンター形式といっても本来のものよりも昔ながらに近くお金を払うと左右のれんをくぐる形式となっている。このためか、番台



での会話は途切れず、活気があふれている。客層も老人を中心に関店から賑わっている。一方、脱衣室の雰囲気と言え、さほど広いとはいいがたいが、シンプルにまとめ、湯舟もブルーを基調にカガミも円形、色もワインカラーでまとめた明るいポップな仕上げとなっている。

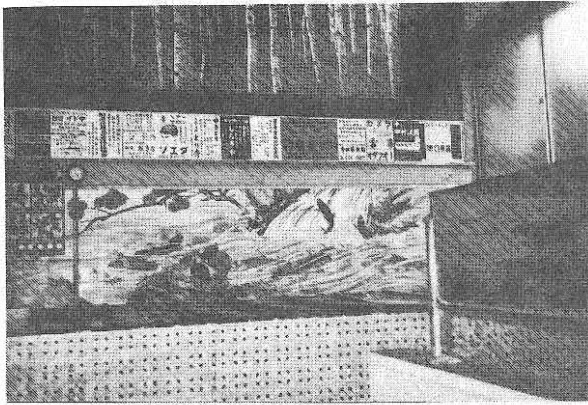


#### 41. 宮の湯



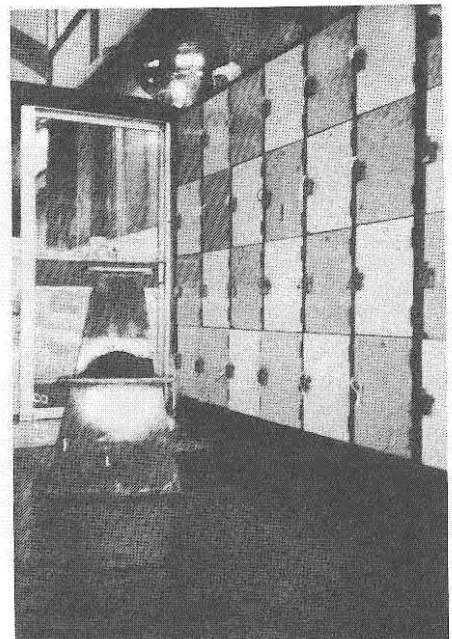
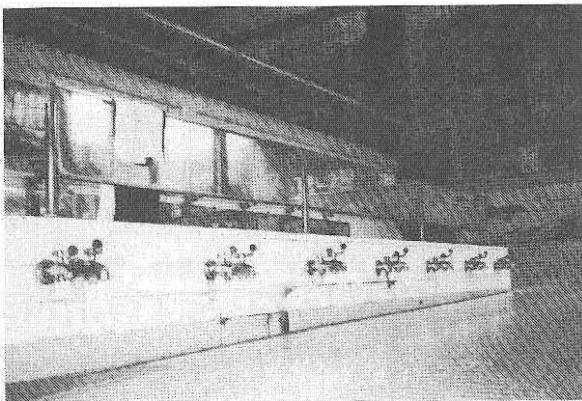
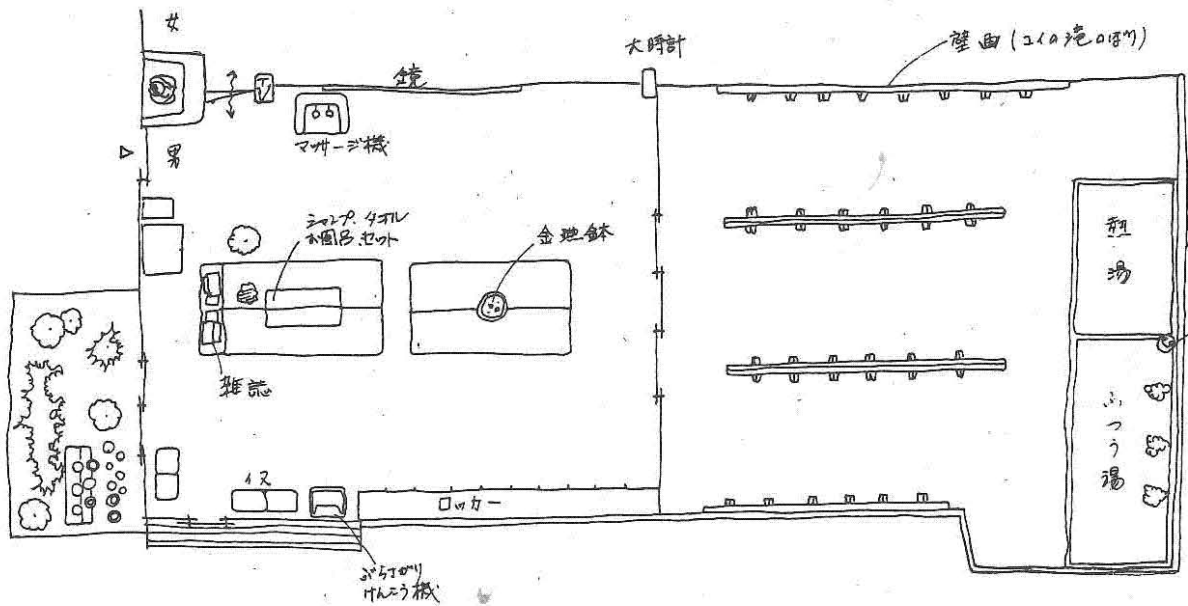
- 創業……30年（借地）。文京区に本店。
- 設備……TV、ぶらさがり健康機、体重計、飲み物、マッサージ機、金魚、観用植物、せん風機、雑誌。

▷富来湯同様、創業当時のおもかげを今に残す銭湯である。中央にあった湯舟が壁に接したぐらいで他のディテールにはその歴史が刻まれている。たとえば番台、堅いケヤキの板は何千、何万回のお金の受け渡しで数センチのくぼみができている。他にも踏み台、つるつるに光る床タイル絵など探せば切りない。またお客も子供から老人まで、番台とのやり取りがにぎやかに進んでいる。こういう雰囲気のためか、わざわざ遠くからいらっしやるファンのおばあちゃん



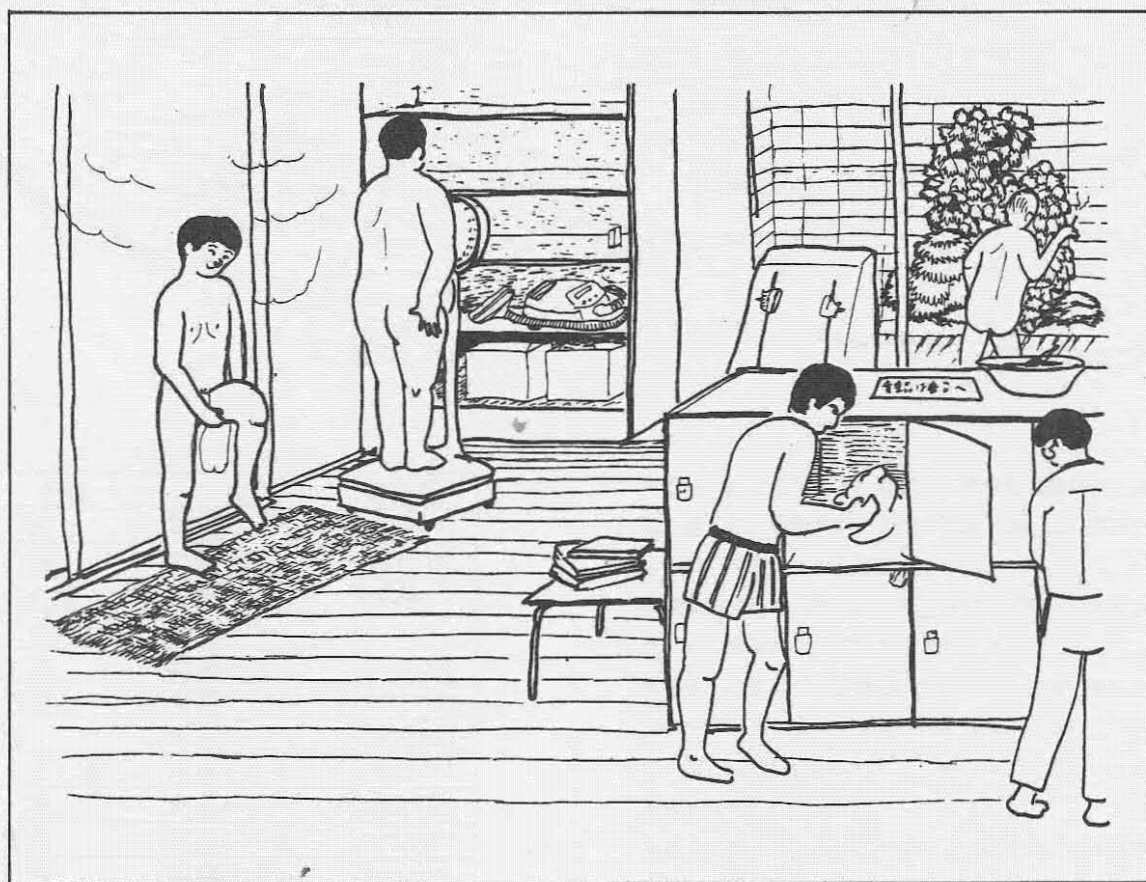
んもいる。おかみさんの話によれば何よりもの楽しみというのが赤ちゃんを持つ母親と親しくなり、先輩が育児を教え合うコミュニティーの場となることである。時には盗難事件もおき、番台の役目として監視がまあかった時など、とてもさびしいとおっしゃっていました。この盗難も昔は衣服全てを持ち帰るものが多かったが、最近は財布の中身だけ、ぬき取る手口の仕業があるとのこと。

全体としてはとても頑固に古い伝統を守り続けた結果、レトロブームと合いまってか、ファンのお客もたくさん利用し続けている、とっても、あったかい銭湯である。

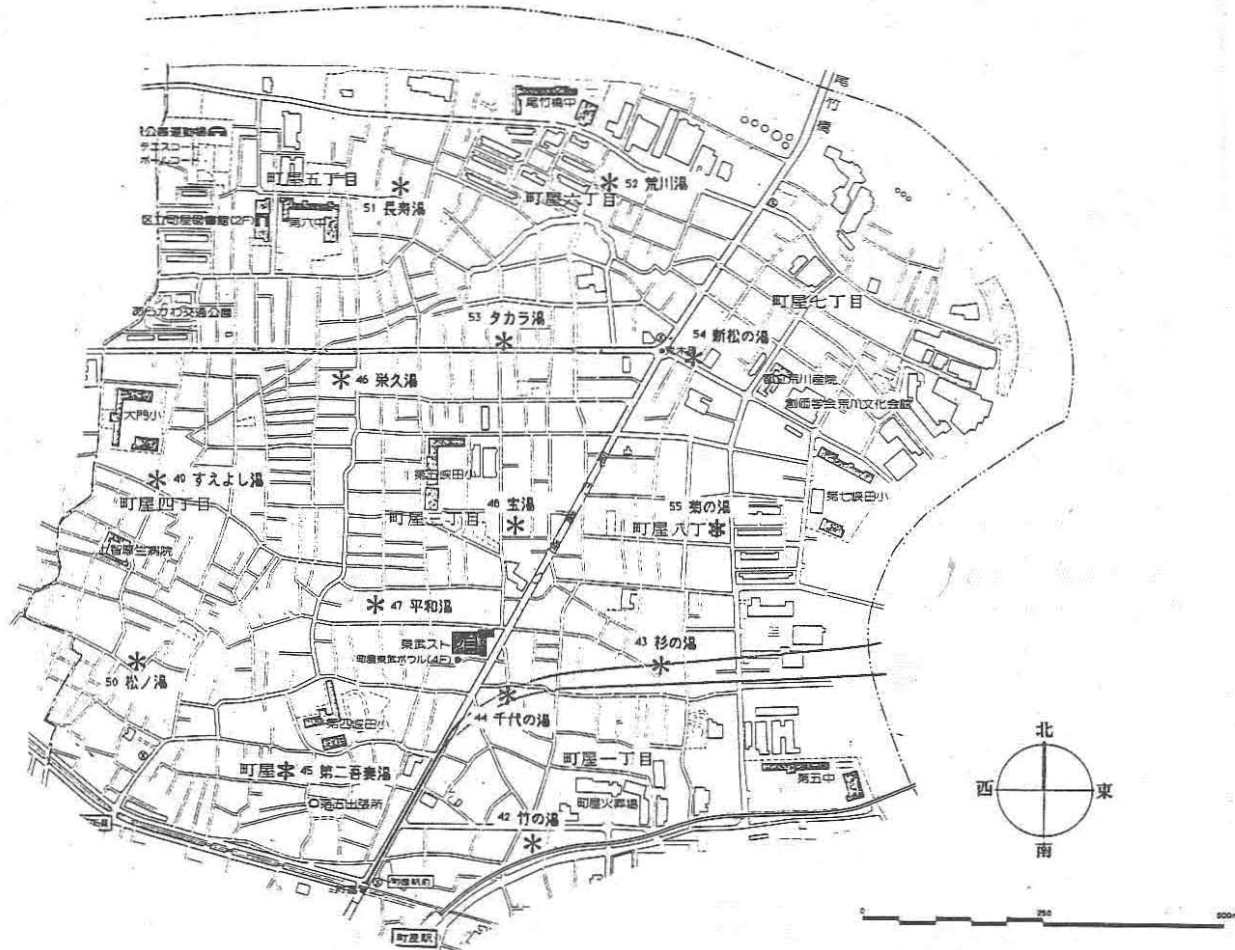




## 5. 町屋地区



# 町屋地区



名前	住所	電話番号
42 竹の湯	町屋 1-21-14	(895)6159
43 杉の湯	町屋 1-30-6	(809)1126
44 千代の湯	町屋 1-6-9	(892)6304
45 第二吾妻湯	町屋 2-10-3	
46 栄久湯	町屋 3-33-6	(895)6336
47 平和湯	町屋 3-5-17	(895)4828
48 宝湯	町屋 3-9-7	(895)7620
49 すえよし湯	町屋 4-25-3	(892)5007
50 松ノ湯	町屋 4-4-1	(895)3473
51 長寿湯	町屋 5-15-2	(895)7831
52 荒川湯	町屋 6-29-3	(895)1451
53 タカラ湯	町屋 6-4-1	(892)8489
54 新松の湯	町屋 7-1-17	(895)4010
55 菊の湯	町屋 8-11-16	(892)7748

\*最近、住宅化が進み、地区の主要な製造業はほとんど姿を消した。町屋駅前市街地再開発事業により整備が進められ、マンションも増加している。


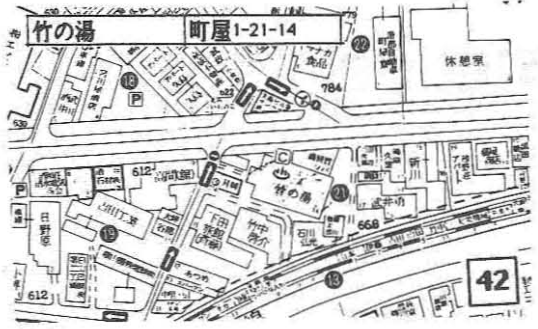
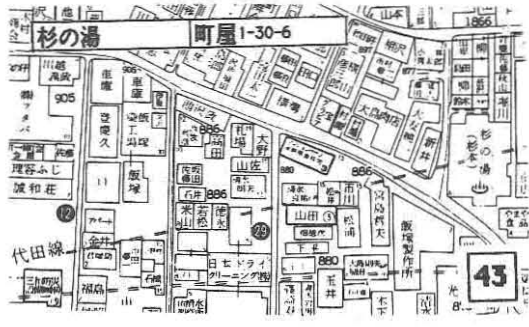

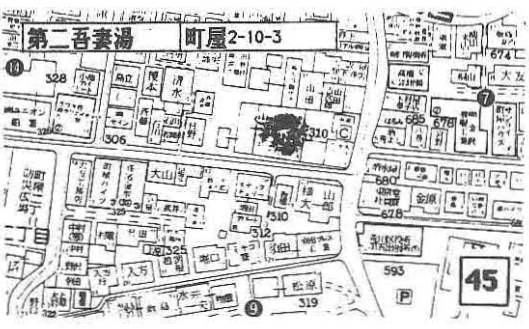
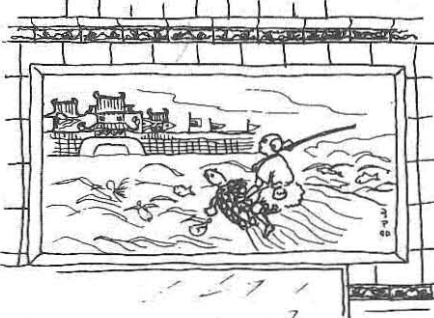

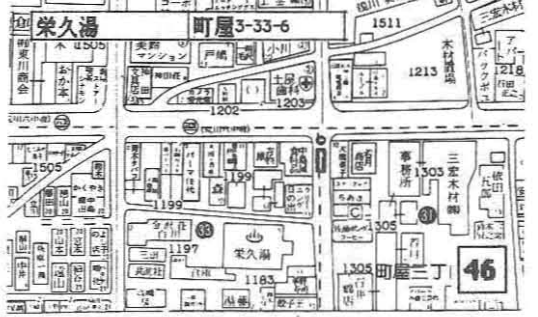
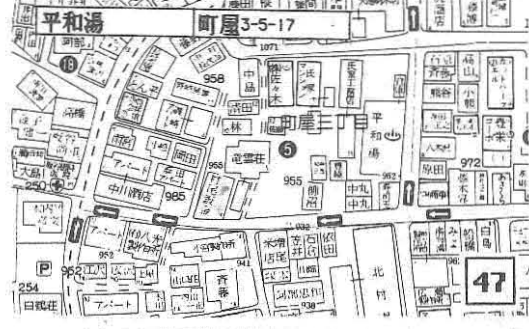
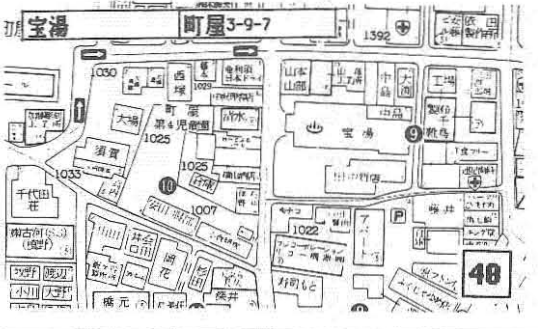
\*世帯数に対する銭湯数の割合は荒川区随一であり、それゆえに特徴ある風呂屋が生き続けている。

\*共通した意見だと客数は以前の1/3程度、最盛期は1000~1200人ぐらい入り通称1000人風呂と言われていた。だいたい銭湯の整備は10年に1度、改装するというのが一般的だそうだ。

\*近くに老人福祉センターがあって65才以上の人は朝から午後3時ごろまでそこで風呂に入れるということで、以外にも老人が少ないという。

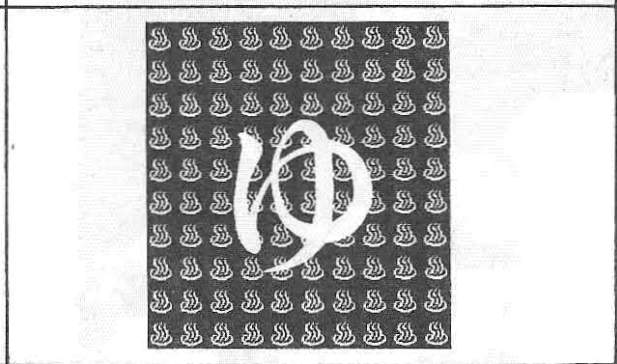
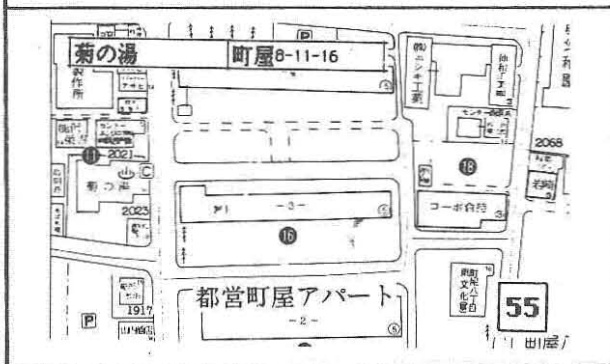
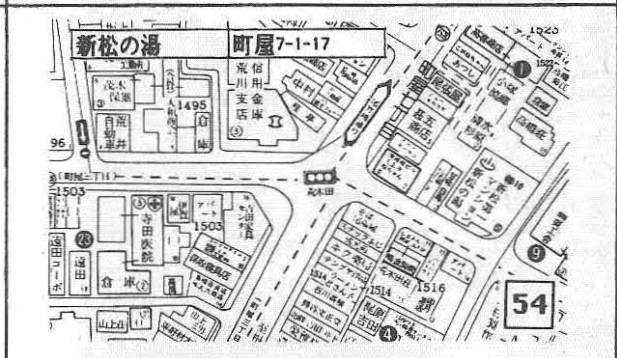
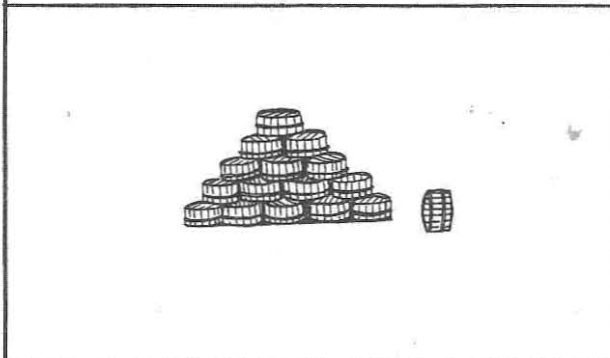
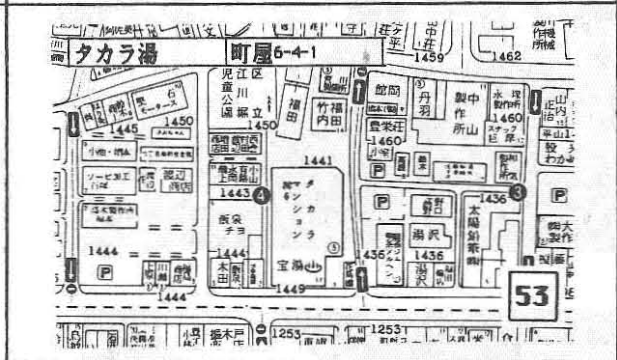
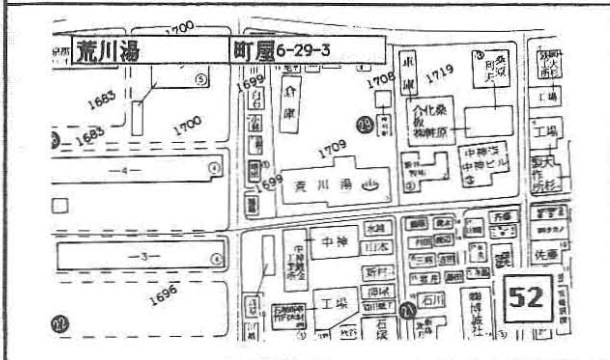
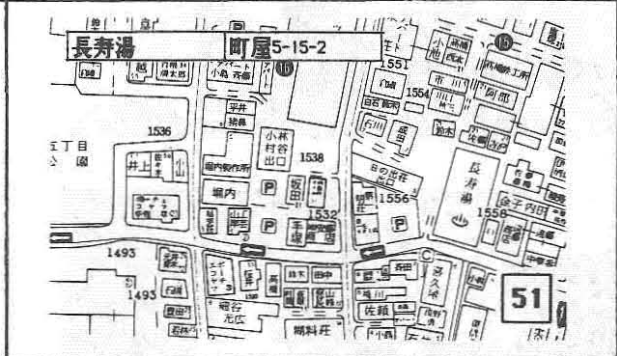
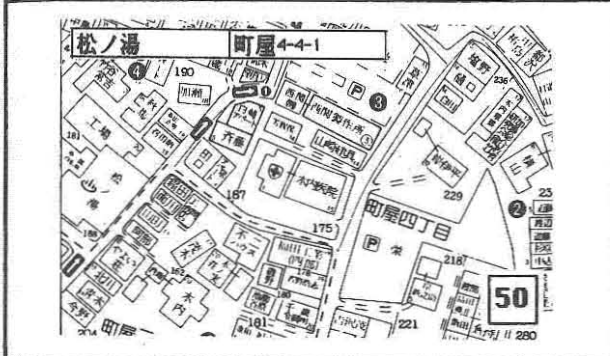
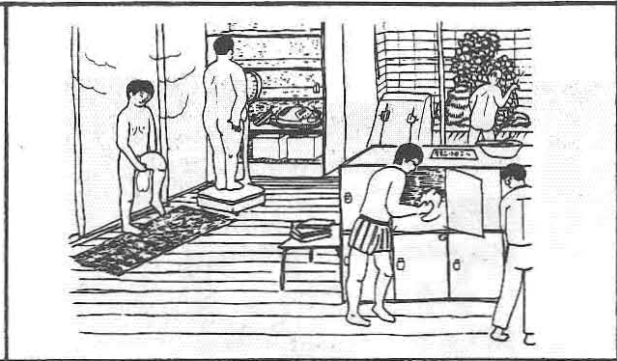
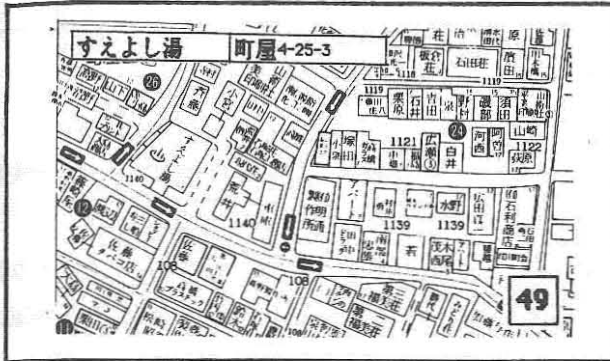
\*どこの銭湯も、今の厳しい状況を把握しており経営分析もきちりしているようだ。例えば最近コインランドリーがないと若い人が来ないということで、前庭をつぶして設置しているのが普通になっている。

# 案内図

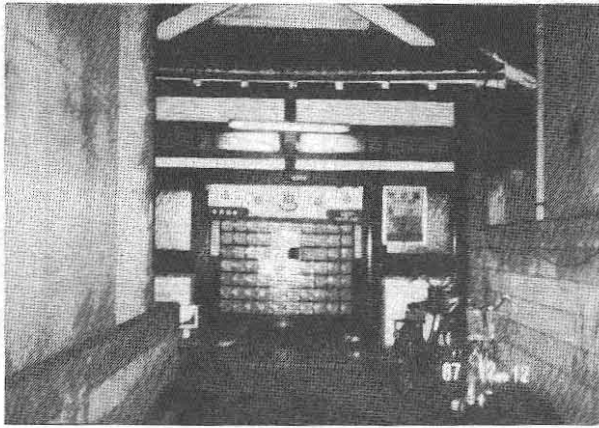
	<p><b>竹の湯 町屋1-21-14</b></p>  <p>42</p>
<p><b>杉の湯 町屋1-30-6</b></p>  <p>43</p>	<p><b>千代の湯 町屋1-6-9</b></p>  <p>44</p>
<p><b>第二吾妻湯 町屋2-10-3</b></p>  <p>45</p>	
	<p><b>栄久湯 町屋3-33-6</b></p>  <p>46</p>
<p><b>平和湯 町屋3-5-17</b></p>  <p>47</p>	<p><b>宝湯 町屋3-9-7</b></p>  <p>48</p>



# 案内図



## 42. 竹の湯

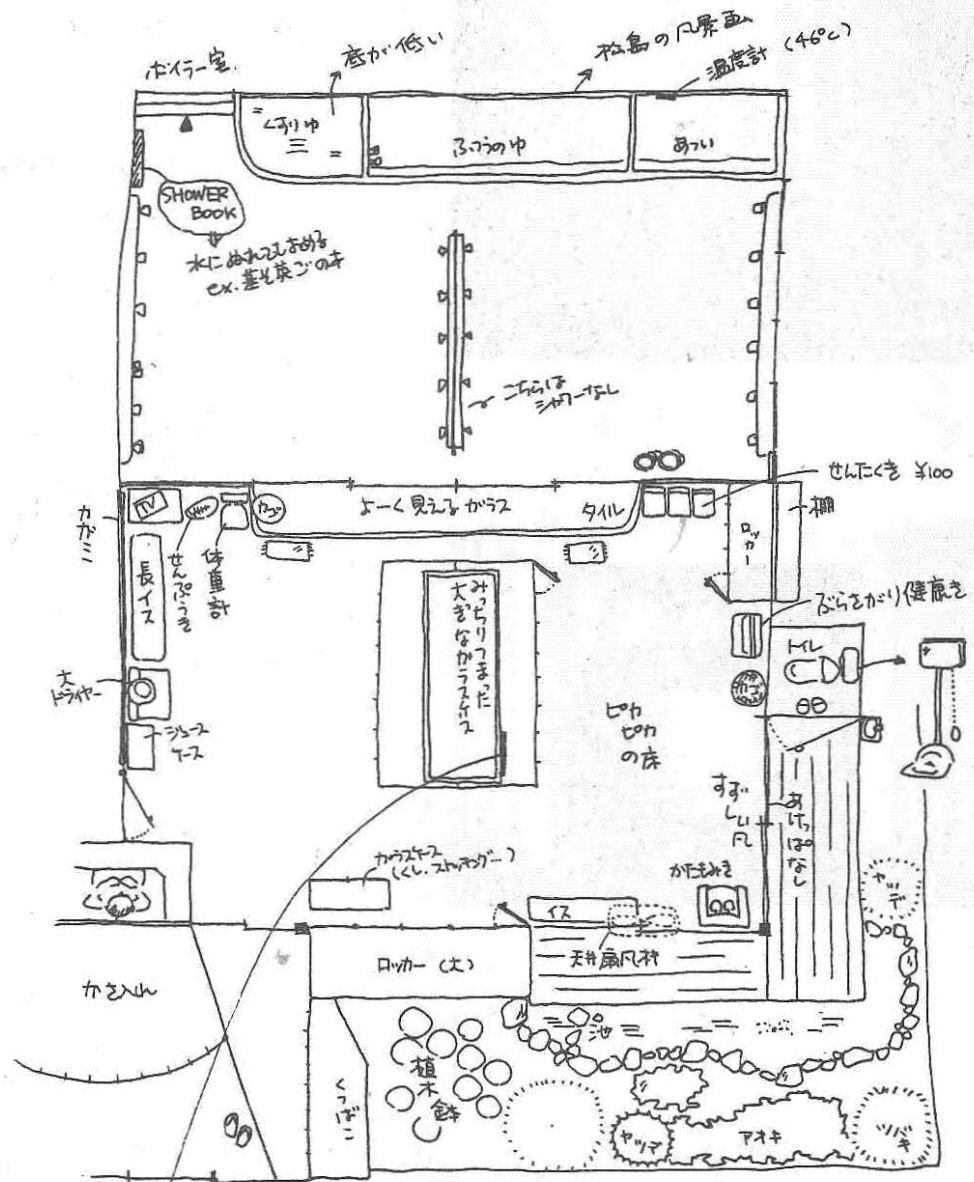


- 戦前については不明……S. 25に建て替え
- お客さんについて……7割が老人で占めている。  
これはおそらく“竹の湯”の古風の店構えとオーナー夫妻の人柄の良さが、起因していると思うナ…。  
ほんとうに周りにはおばあさんがたくさん（もちろん女湯だから）で、まるで“老人天国”の様な顔をして夜風に当たってたヨ。
- 経営は……この銭湯は平均的収入があり現在の経営で十分良いそうだ。私はきっとこのご夫婦のきさくで親切で世話好きで思いやりのある性格が経営にもあらわれてると思うのでした。
- 設備は……戦後の建て替え以来、設備はそのまんま。→維持管理が大変だそうです。渋い大きな扇風機がとっても気に入ってしまった。（うーん ほしい!!）
- 湯舟は……くすり湯!! すごく定評があるそう…。(厚生省認可!!) 私も入ったけど、黄色と白色の絵の画を水に溶かしたようなきれいなレモン色のお湯で、ちょっとぬるめの温度。  
“森林浴”が人気あるそうです。
- 企画は……毎月“温泉巡り”をやってます。(日・祭日のみヨ。) 今月は秋田県玉川温泉。先月、霧島温泉のハイビスカスのお風呂でした。また、なぜか、先月21日は“コーヒー風呂”(ちゃんと豆をひいて使ったのです。すごいっ!!)
- これはすごい!!……お金を洗ってる。(ほんとうにピカピカひかてる。)  
お客さんにきれいなお金でつり銭を渡したいから、毎日洗剤で洗ってる。(えらいナァ…)  
おくさん談…日本橋の呉服屋さんがやってる、というのをきいて、私達もお客様に対する心を少しでも示せたら…と。
- 壁画について……2年に1回かきかえています。(松島の絵でした。)昔は隣家との間の塀に富士山とか松島が描いてあったそうです。今はやはりブロック塀でした…。
- 思ったこと……第1にとっても清潔!! S.25の建て替え以来1度も扱ってないというのに、床も壁も柱も光ってる光ってる!! きらきら☆きらきら☆  
おくさんとだんなさまがすごく仲良くて仕事熱心。銭湯経営に燃えてる。おくさんにご親切に銭湯の本(THAT'S

SENTO)を貸していただきました。謝謝

プラス、お年寄がほんとに多い。

ちょっと遠い人でも、“ここがいい”と行って通ってくる  
そーです。うんうん。



貼紙  
お客様へ  
心に残る温泉を訪ねて  
美しい温泉。施設清潔  
温泉気分を竹の湯で  
お楽しみ下さい。  
今日は玉川温泉です。  
(水田)

クラー入ってみたいと  
自然の風が  
気持ちいい!



### 43. 杉の湯

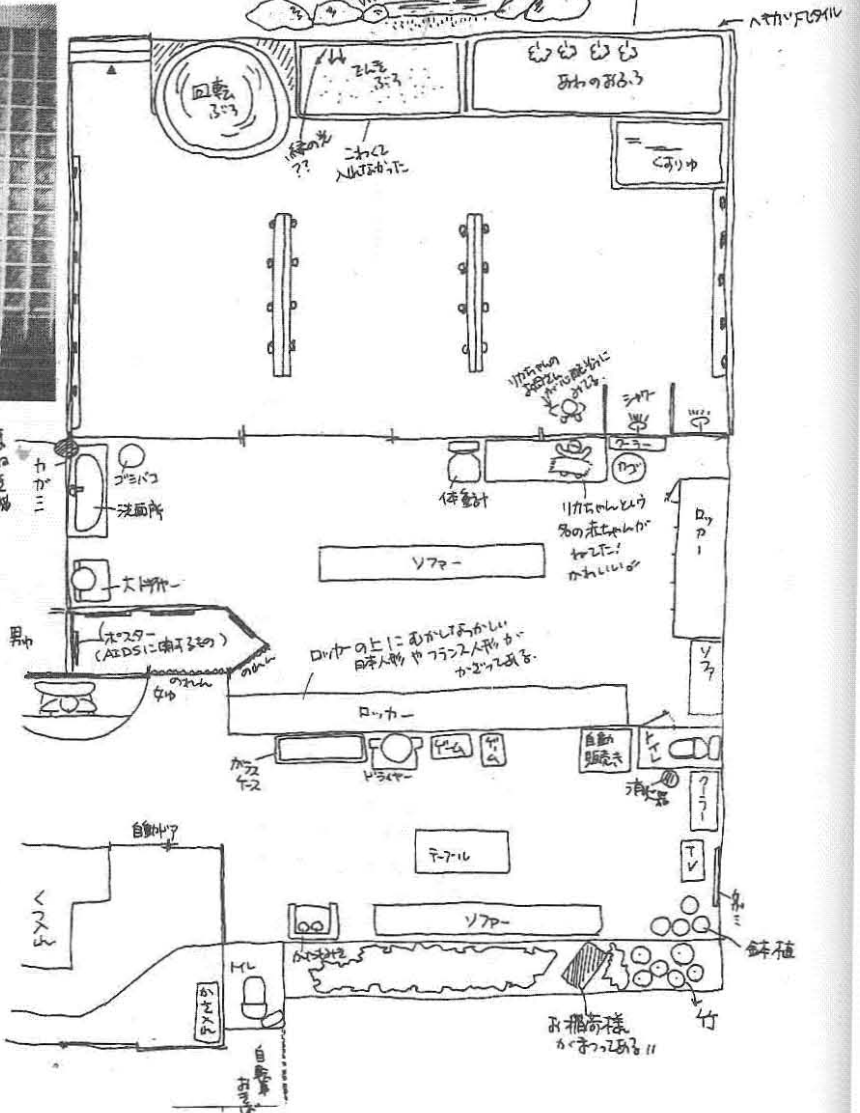
- S. 10年以來……つづけています。52年目。
  - 客数について……戦前の客数の1/3程度。
  - 設備は……戦後、3回、設備改善しました。……（20年に1回くらい）。
- 3度目の改装の時、番台をフロント型式にした。（2年前）。ヘキガも、タイルにかえてある。となりにコインランドリーあり。
- 湯舟は……回転風呂・電気風呂・泡風呂・くすり湯があるヨ。でも、くすり湯は、ふつうのバスクリンみたいだった。



銭湯すたれば人情とすたる  
 銭湯を知らない子供たちに  
 集団生活のルールとマナーを教えよ  
 自宅にしろぬいぐるみなども  
 そのボリボリと洗うのしやべり合う場  
 にあらずたのしみうだけ  
 タオルのしぼり方体を洗う順序など  
 基本的ルールはだれが教えるのか  
 われは、わがルールをもとめて銭湯へ

詩人 山崎 浩一

187

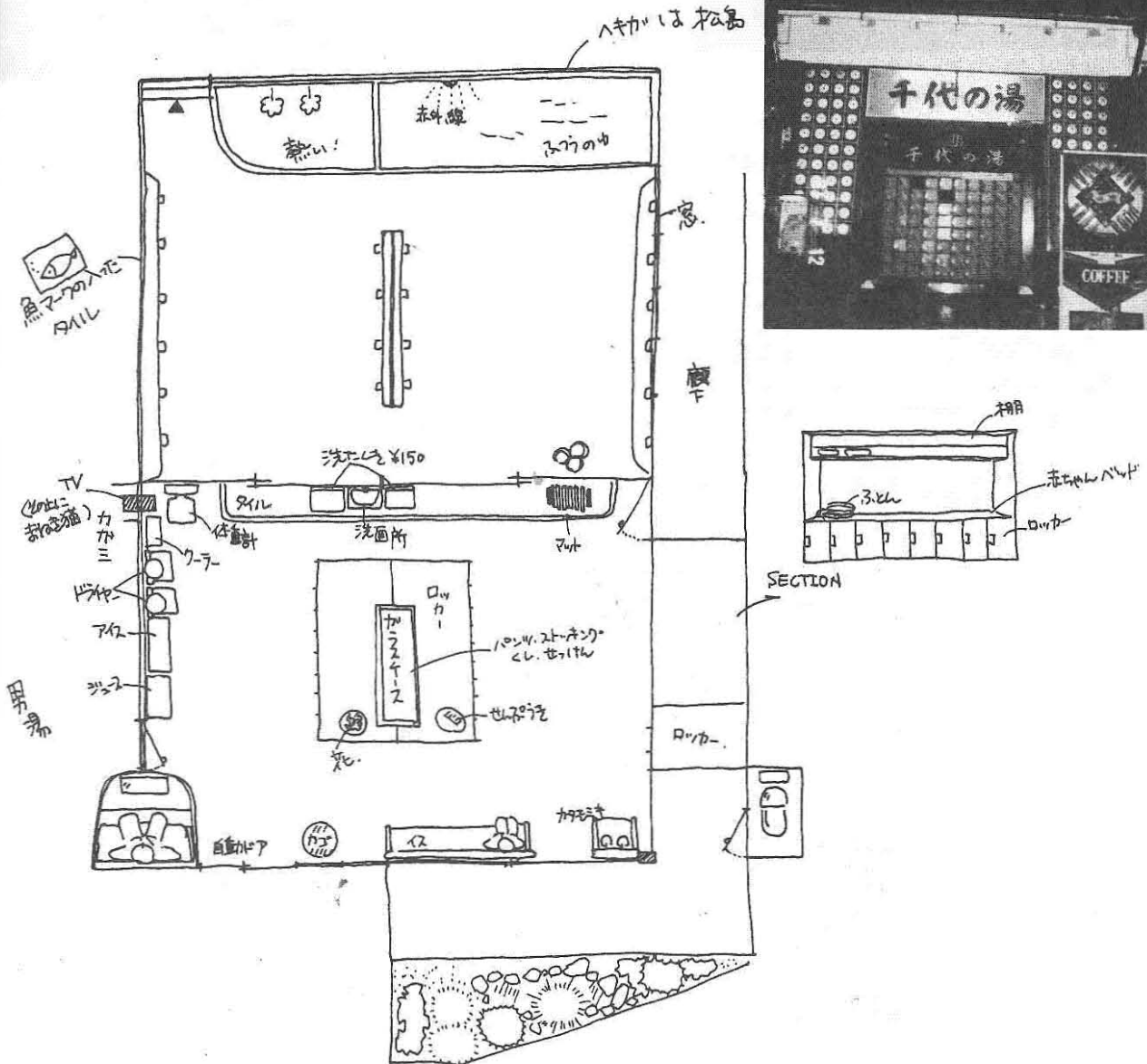
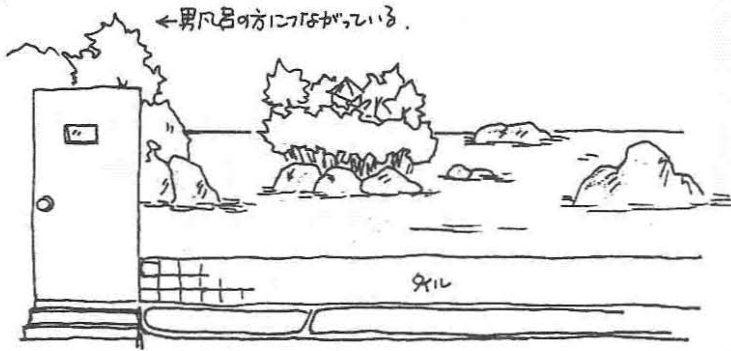


## 44. 千代の湯

- この番台のおじさんは私のさいさんの説得にもかかわらず、“そんなのしらねえよっ!”と怒鳴って何もおしえてくれなかった。



冷たい顔のおじさん。

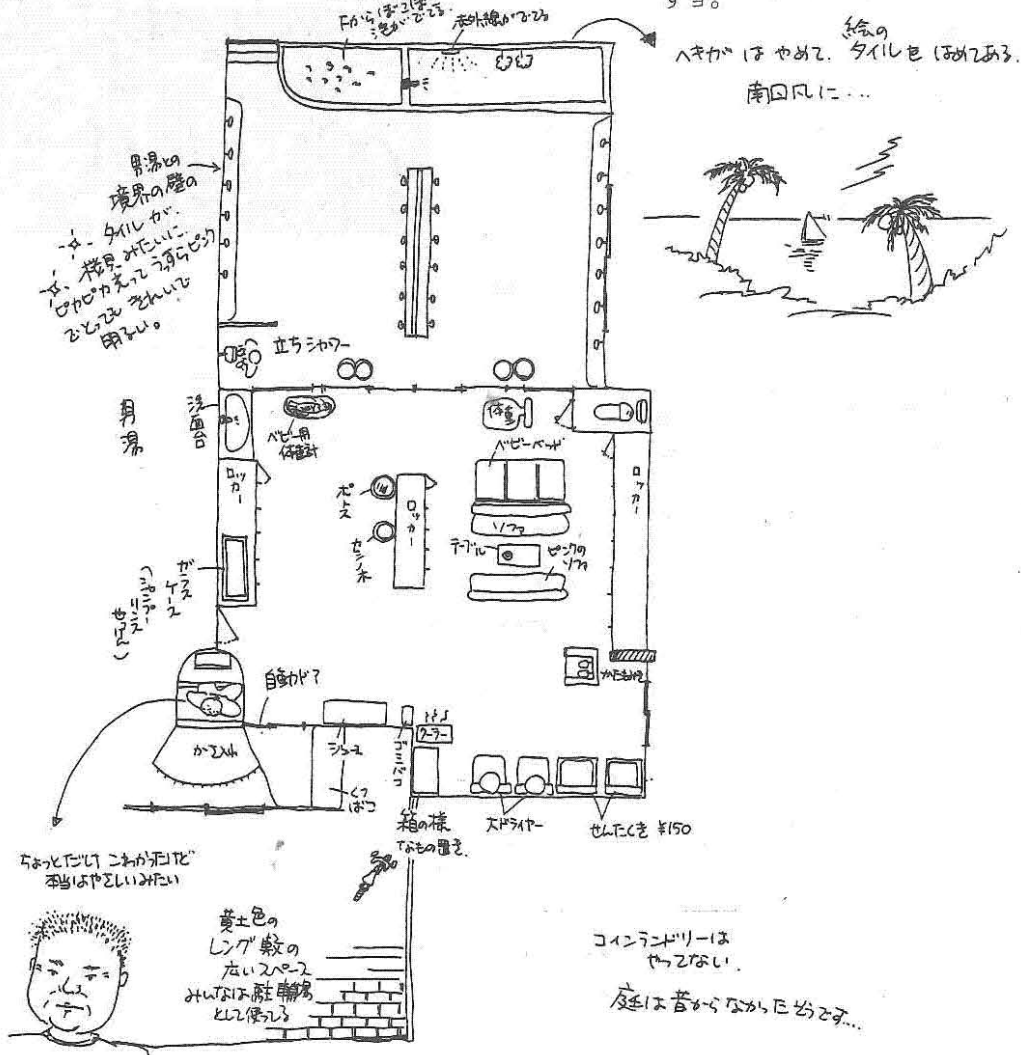


## 46. 栄久湯

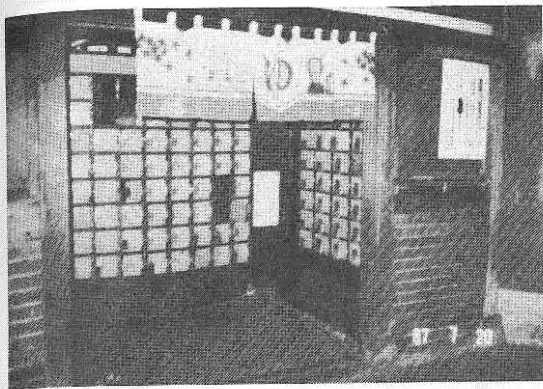


- S20年前後から、やってます……およそ40年間。改築したのはS.58年…。
- 客数は……数量的にいくらと出してないからわからないヨ…でも、銭湯代が270円と値上がりしても、利益がかわらないのは客数の減った証拠だね。
- アプローチがとっても広いのは……昔、区の方で、道路を拡張するという話がでて、うちもその範囲だったんですヨ。それで広いスペースを前面にとって、銭湯をたてたという話だったけど…で、結局、その道路拡張は没になって、こんな形のまま現在に至ってるというわけですヨ。
- お風呂やさんでの地域住民のための企画は……べつになにもない。

でも早い時間帯ってのは、どうしてもお年寄が多くていすにすわって、とか、湯舟の中でとか、背中を流しあいながら、井戸端会議風になってるから、それでいいと思いますヨ。

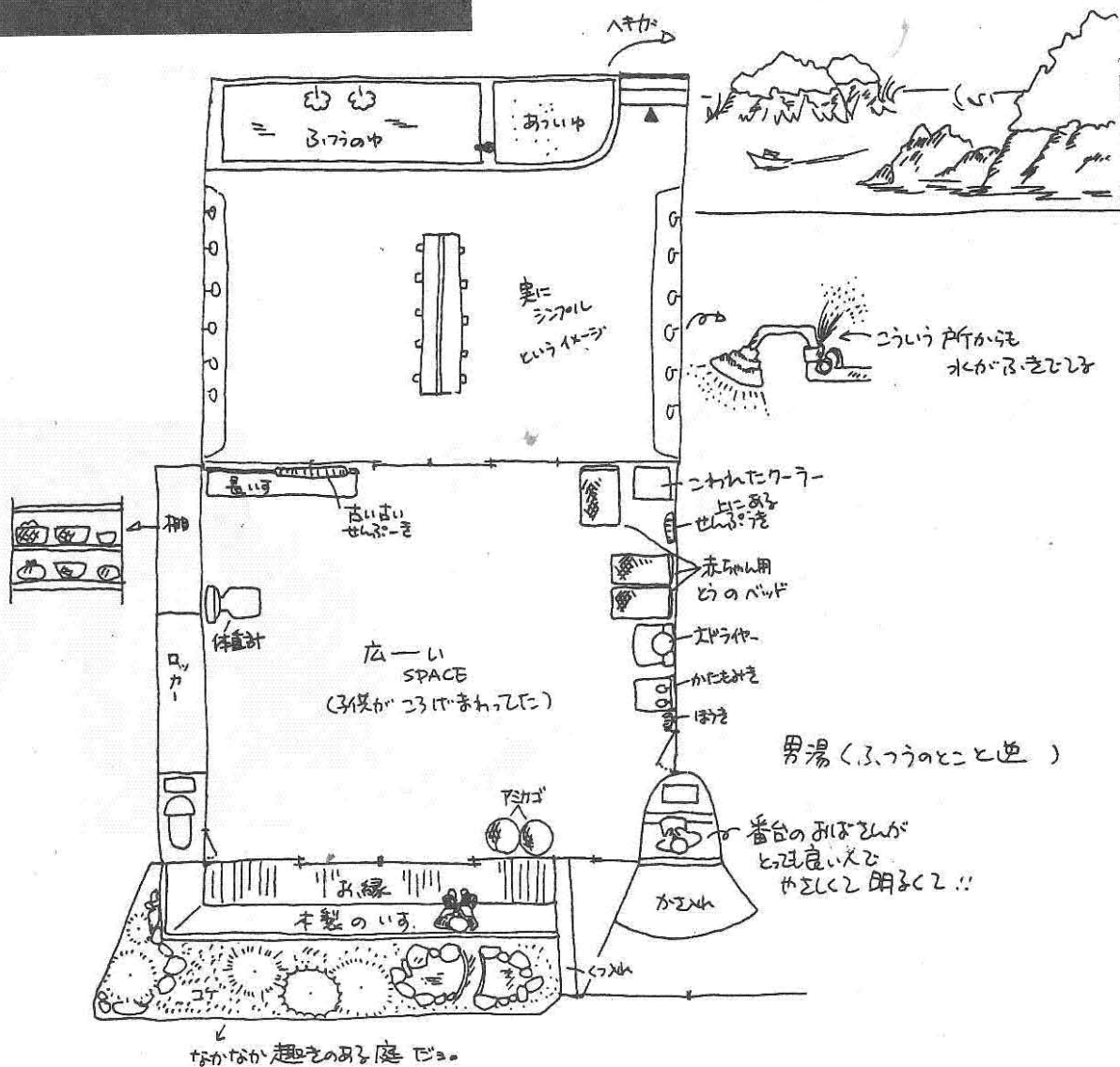






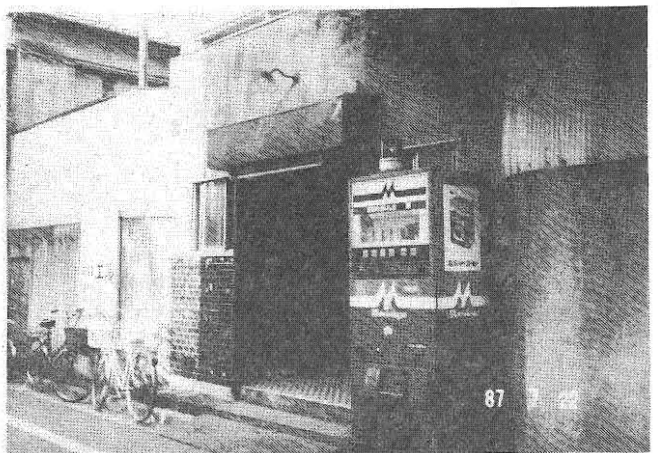
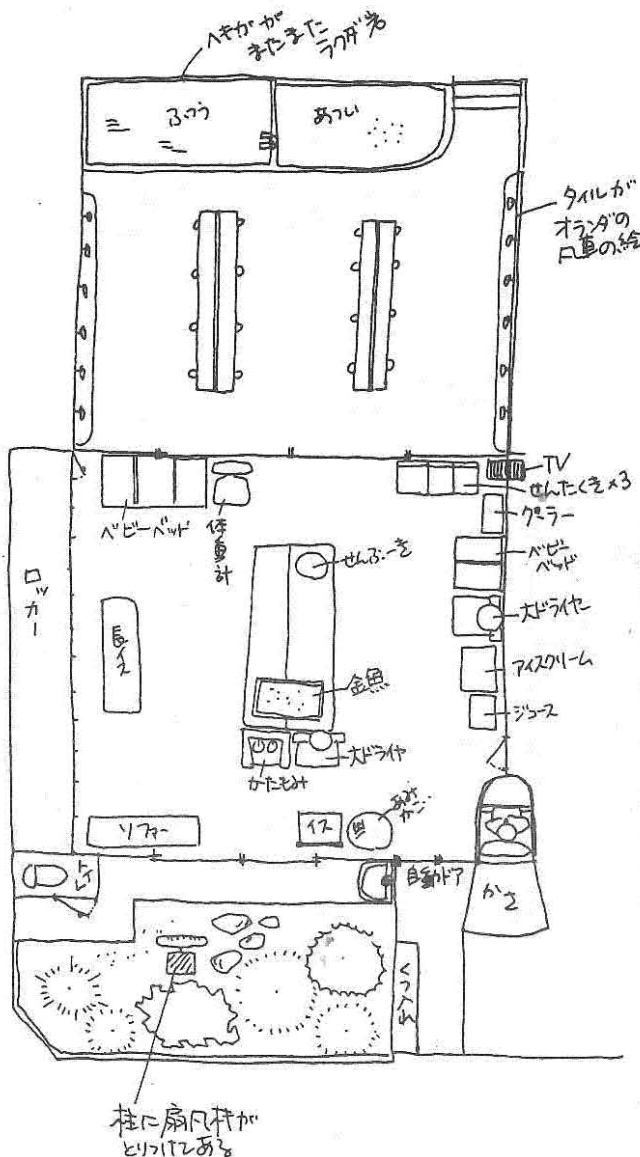
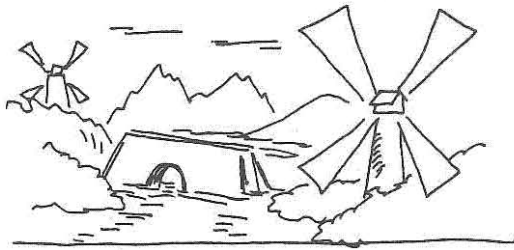
## 47. 平和湯

- 客数は……営業方法はかわらないんだけどね、客数ははじめ頃の1/3程度にへってるね。恐らく荒川区の人口減少や、内風呂の増加とかが影響してるんじゃないかな。
- 老人は……この近くに老人福祉センターがあって、老人がとっても少ないんですよ。
- 設備は……うちはコインランドリーをやってないからネ…コインランドリーがないと、若い人は帰っちゃうの。でコインランドリーの備えてある所へいくみたいヨ（本当は置きたいけど、貸りているだけなので無理だそう。）



## 48. 宝湯

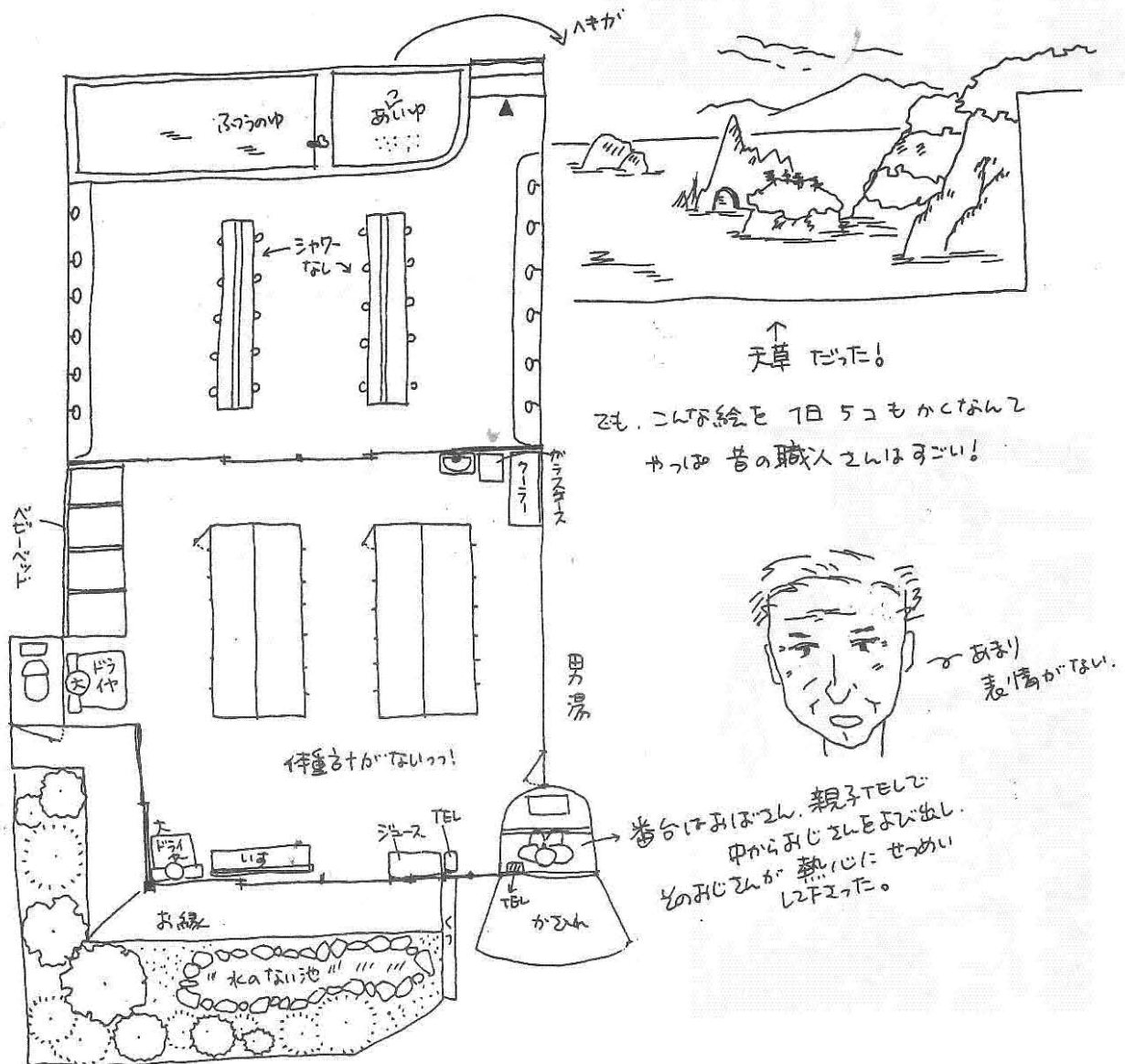
- 創業……？ → かりてるだけ…この場所をかりて21年目。
- 客数は……始めた頃の半分位にへったヨ。昔、昔は 1,000 人風呂といってくらい繁盛してたのにナ…と少し悲しそうでした。
- 企画は……10月10日に“レモン湯”を毎年やるんです。子供に無料でのみものあげて…ネ。
- 改装……15年前に建て替えをしたんだが…、本当は10年に1度は内装をかえるというのが一般論のようだが、費用がネ…、やはり最低 5,000万はいるから。
- 庭……昔は、すごく大きな庭があったんだヨ。大っきな滝つばに、池や山もあって、それはそれはすごかったんだが、建てかえのときに全面的に前に出したから、庭も猫の額くらいしかないけど…（昔のをみたかったナ…）
- 老人……意外にも老人が少ないという。“WHY?”という疑問に対する答えは…荒川には老人福祉センターがあって、65才以上の方は、朝から午後3時ころまでそこで風呂に入れるんだヨ。だから、銭湯にくる老人は少なくなつたヨ。



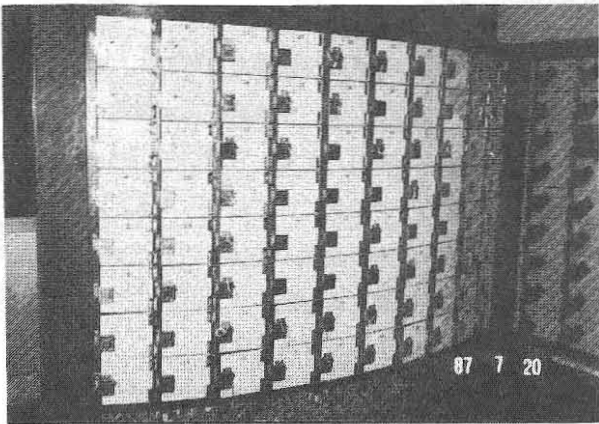
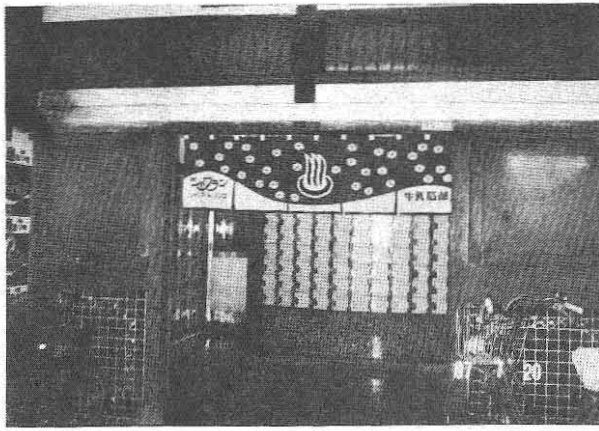


## 49. すえよし湯

- 現在で3代目だが創業は何年かわからない。
  - 客数は……やっぱり戦後からすると1/3未満だネ。12~13年前は、1日1200~1300人来てたんだけど…。
  - どういうわけで……昔はお風呂に入る習慣が1日に1回ってかんじだったが、ちかごろは若い人の間でシャワーでいい、という人が増えたしね。昔はちゃんと座って身体を洗っていたのに、いまの人は立ったまま洗っちゃうもんネー。
- それに、生活における経済的な影響も大きいんだよ。銭湯は中学生から大人料金でしょ。家族構成に中学生が入ってくると来る日が確実に減るね。学費・食費いろいろかかるから、我慢できるところで風呂に行く日をへらすんだよね。今、毎日いらっしゃる方は全体の10%くらいだよ。だいたい1日おきから、1週間おきだね。







- 設備は……だいたい銭湯の設備は、10年位しかもたないんだよ。でも改造しても客がふえるかどうかは疑問だね。
- 経営は……とにかく合理的にやってる。人件費にかけられないから、今は“ニチャン”（とうちゃん・かあちゃん）でやってる。これが最低人員だから。客の方とボイラーの方と2人は必要なんだよ。

掃除に4時間（外まわり・内まわり）、営業が8時間…1日12時間労働してるよ。

昔は、昼夜8～10人程雇ってた。労賃安かったからね。

…赤字⇒値上げ⇒減客数⇒赤字⇒値上げ…という悪循環が延々とつづいてるかんじ。

- ヘキガ……今、職人さん（名人）は関東圏にいま3人しかいない。埼玉と浅草と…？

昔、職人さんたちは、1日に5軒位回って描いてたんだヨ。

今、美大生とかにたのむと1週間でやっと1軒ってとこだね。そうそう、昔は路地堀に富士山とか松島とかの絵がかかれてた。

- 他に……人口密度の関係で、太田区・世田谷区が収入多いんです。賃帯が多いのも原因の1つ。

世田谷・新宿区には本物の温泉があるんだヨ。低温だから、あたためて供給してるけど…。荒川区にはそういう目玉的なものが何もないからね…。そういう意味で、地域的収入は荒川区は最低だと思うヨ。

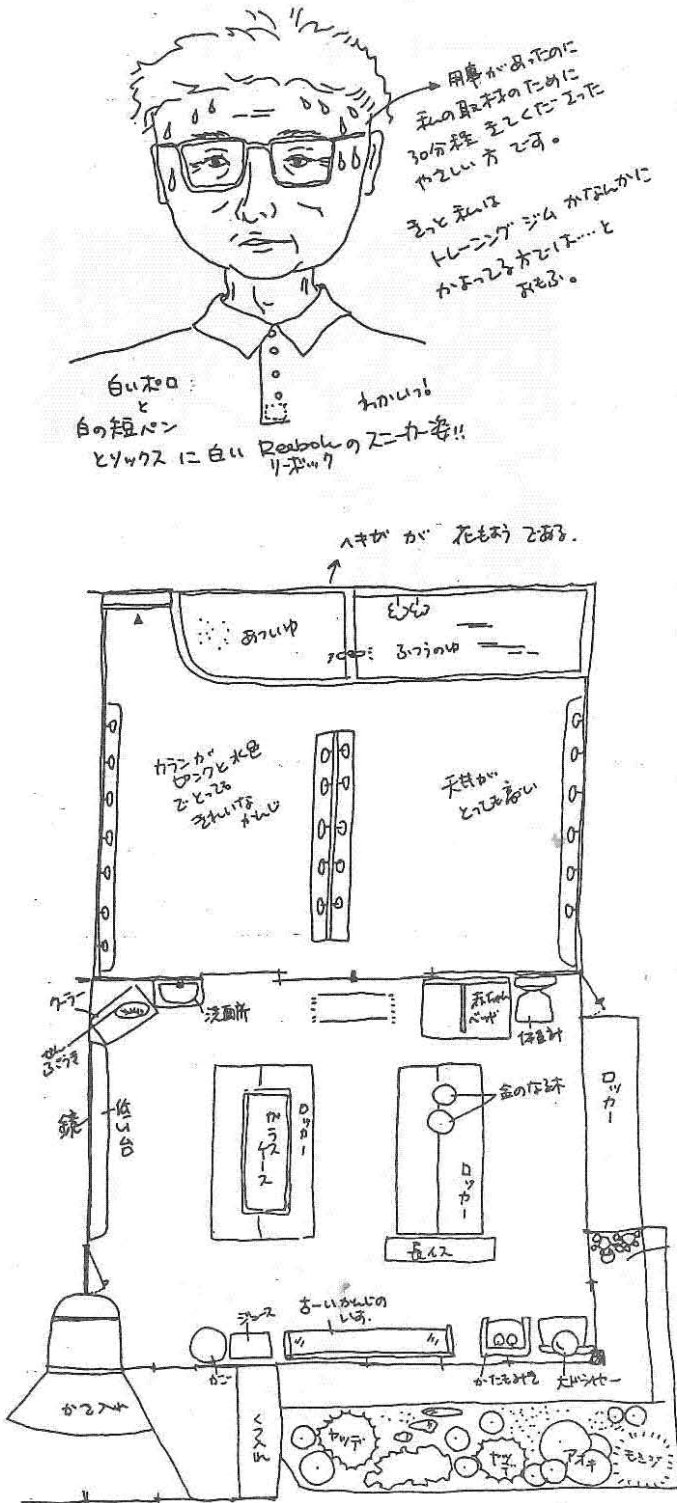
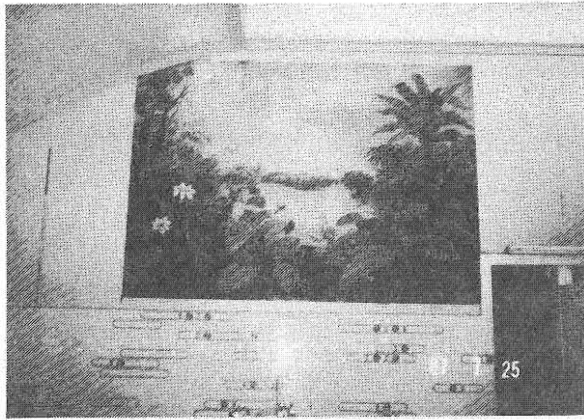
- 現在で3代目だが創業は何年かわからない。



## 50. 松の湯

- 戦前からやってる……S. 23に建て直した。3年前内装をかえた。
- お座敷……うちのおじいさんの案なんだけど、お年寄のために、たたみの間があった方がいいんじゃないか、ということ、つくったんです。
- 客数は……戦前は墨田区向島で経営してた。その頃からすると、すごく減りました。
- ヘキガは……改装前は富士山の絵だったけど、かきかえとかにお金かかっちゃうから、やめたの。
- 企画は……ラドン温泉やってます。  
仲々人気ですけどネ。（維持が大変そう…）





## 51. 長寿湯

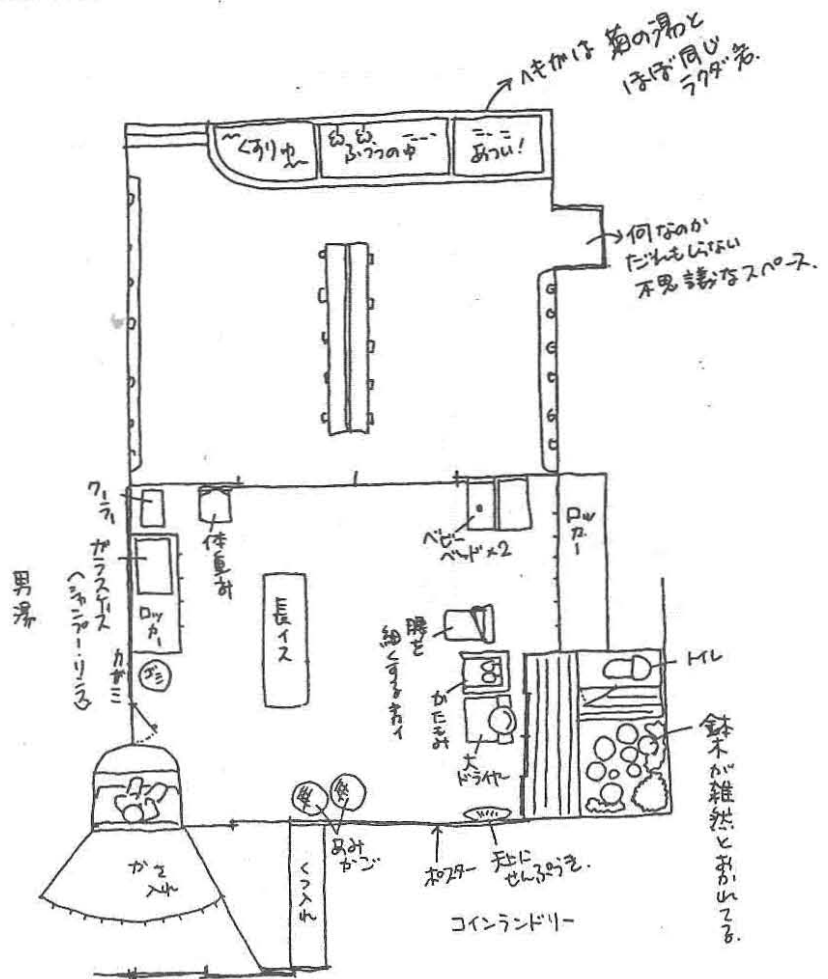
- 66年目です。2代目さん。1代目のおじいさんは84才で、もう引退していらっしゃるそう…。
- 1代目の頃は神田でやってた。そのあと…（戦前）浅草にいたが、戦争で新潟に疎開（5年間）してました。戦後、町屋にきたそうです。
- 客数は……年々減ってますネ…それも女の人が減ってますよ。やはり、内風呂もそうですが、生活費の問題がネ…（この話は、すえよし湯で…）
- 設備について……改装しても需要がおいづくかどうか疑問だな。もし私が改装するとしても、この昔の建築様式を残したいネ…、庭があって、天井が高くて、番台から全てみわたせるような…、そんな下町の良さを残す方がいいと思うヨ。銭湯も近代化のみが能じゃないからネ…。
- 忘れもの……最近では忘れものがなくなったんだよ。それだけ生活が厳しくなったんだね。7～8年前の景気のいいときは、せっけんやシャンプー、タオル等の忘れ物がたくさんあったんだよ。
- 燃料は……まきを製材所（近所）にたのむようです。
- ヘキガ……なんとも風変わりなヘキガ。男湯はジャングル（?）、女湯は花、喫茶店の絵を専門に取り扱ってる業者に頼むそうです。40万円也…。
- 企画は……まあ荒川区とタイアップしてやる9/13のはだかまつりくらいだね。老人の団体ってのは、銭湯入ったあと、みんなですにすわって、コミュニケーションしてるんだヨ。それで十分だと思うヨ。
- オーナーのおじいさんについて……とっても良い人です。私が灼熱の太陽の下、汗をふきふき銭湯に入って、名をあげると、“まあ、飲みなさい。”とってポカリスエットをくださったんです!! う…感涙。あのポカリの味は、一生忘れられないでしょう。But…もう銭湯はやりたくない派だそうです。息子さんは去年御結婚なさって別に世帯をもっていらっしゃるんですけど…そこところは、まだ複雑みたいですよ。
- 最後に……逆に質問されてしまった。銭湯に対する疑問、要望、希望とかありませんか?…と。



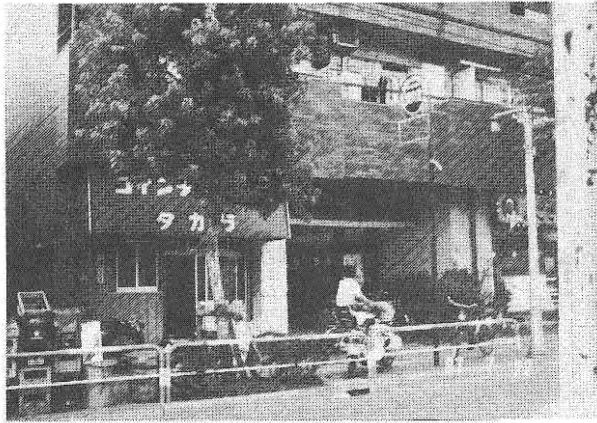
## 52. 荒川湯



- S. 18～……（現在貸りているだけ、大家さんは別にいる。）
- 近くのマンション……“ルネ町屋”とか、都営アパートとか、が周囲をとりかこんでるため、客数は、戦前の半分程になった。  
経営は今、とっても苦しいですネ…。
- 昔は男女逆……昭和30年頃までは、番台からみて、右が男湯、左が女湯だったが、女の人がおしゃれーになったせいとか、お湯をたくさん使う（きっと髪を洗うのに多量必要…）ので、下水が通ってる側に女湯をもってこようということで、逆にして、現在のような感じになったそうです。
- 湯舟は……うちは、薬湯をやってるのヨ。今日は薬草だけどネ。何の効能があるかは、よく知らない、と言われてしまった。!
- コインランドリー……庭を半分つぶして、8年前にコインランドリーを備えました。若い人の利用が多いよう…。

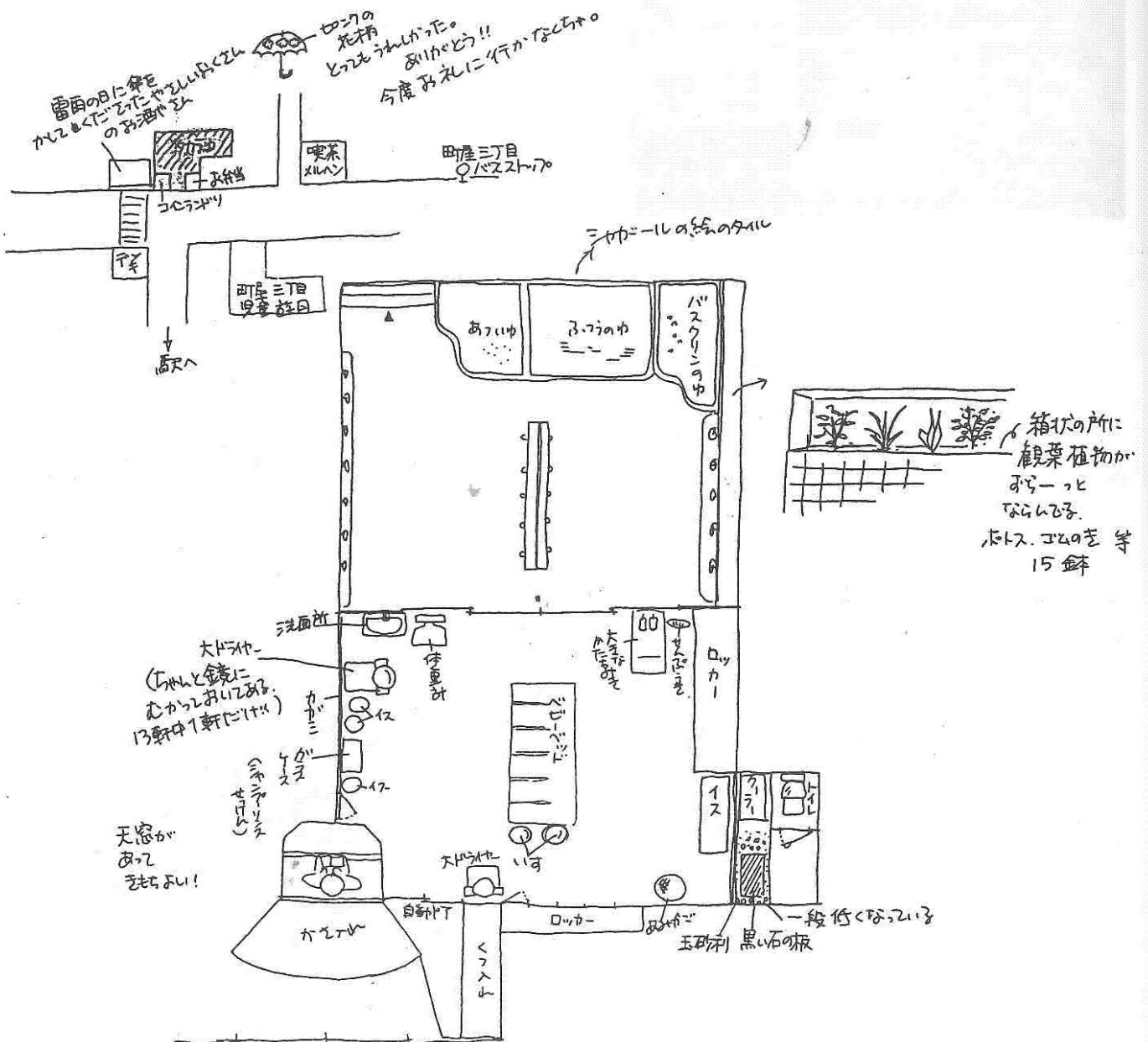


## 53. タカラ湯



- S. 24から借りてる。……（創業はわからない）建てかえ（S. 54. 4）←大家さんがやった。
- 客数は……減ってるみたいだけど…、あんまりこだわらないからよく知らないね、…と大変あっさり味の奥さんです。
- 改装は……全て大家さんがやったもんだから…何もわからないヨ。…だって。

玄関前のアプローチは十分にスペースがとられている。左隣にコインランドリー、右隣にお弁当屋という絶妙なコンビネーションの店構え。上は3F建てのレンガ造りマンションとなっている。



## 54. 新松の湯



俺もが イギリス留学 してらっしゃるとして……

将来 総いでくはるか どうかは

わからないとー びる。

•設備……回転風呂、座風呂、バイブラ風呂、スチームサウナ、となりにコインランドリーあり、上はマンション(26へや)6Fです。とにかく最新式の銭湯という印象をうける。

•経営は……今の収入はおそらく荒川区No.1でしょうね…、というおじさん談、とってもエコノミックな話題に精通していらして…、大学で経営学を学んだとおっしゃってました。この銭湯は、町屋地区の中で最も近代的ですけど、それについて⇒『やはり、近代化しないと遅れてしまうんですヨ。資本投資して、お客さんみんなによろこばれるものをつくっていかないとね。

浴場界も“ドーナツ型経営理論”というのがあってね、人口がドーナツ化している様に、足立・墨田・荒川等、家屋軒数が多い所が経営状態がよいんですヨ。うちは、こんな風にマンション化してますけど、これで、3億5千~4億程の建設費がかかってるからネェ…。』…と、熱っぽく、経営について語っていただきました。

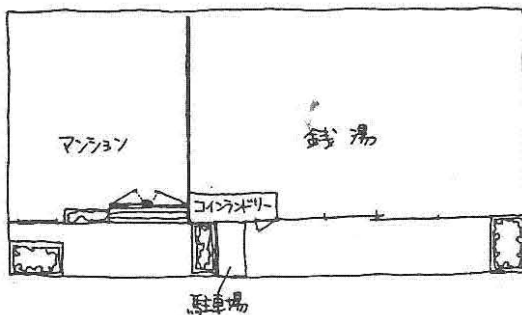
•燃料について……この近くには、ガソリンスタンドが多くなって、廃油が安く手に入るんだヨ。B重油ってのは、200リッターで7,000~8,000円するけど、廃油だと1,000円だもんネェ…。

それに廃材も使ってるヨ。まきの解体は2tで1,000円くらいだから、そういう所で、利潤がでるようにしてるんだヨ。

•よいおじさんでした……ここは1番最初に入った銭湯で、すっごく緊張して、タジタジしてたけど、おじさんがとってもやさしい人で、「ゆっくりしていきなさい。またなんかわからなかったら、いつでも来ていいよ。」と言ってくださいました。とってもうれしかったー！！。

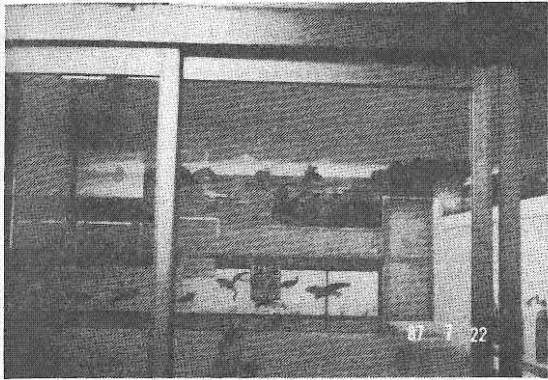
全体平面図

1F



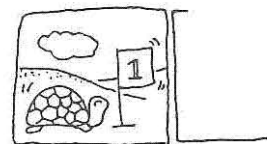
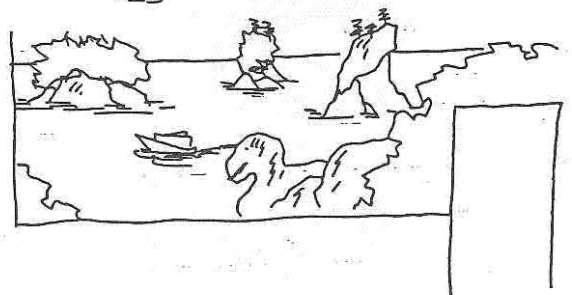
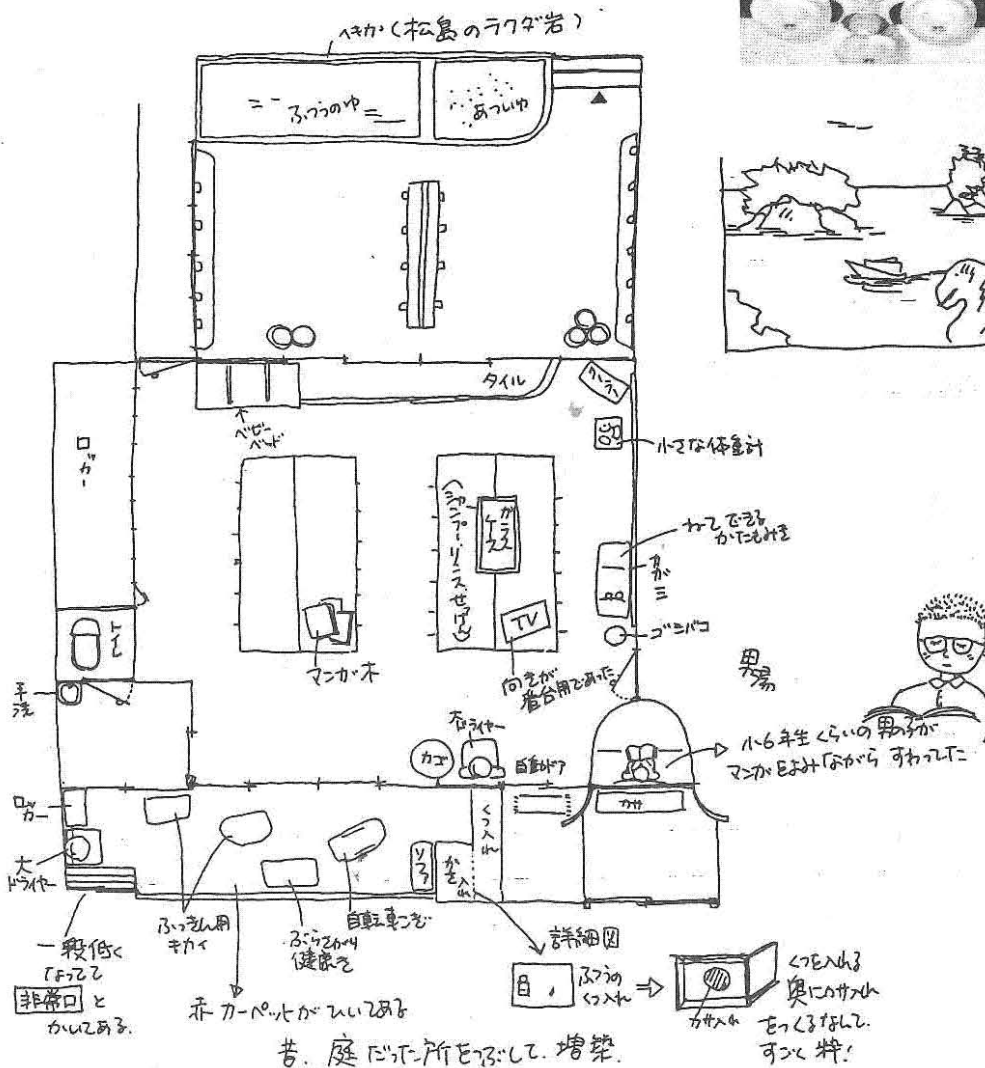
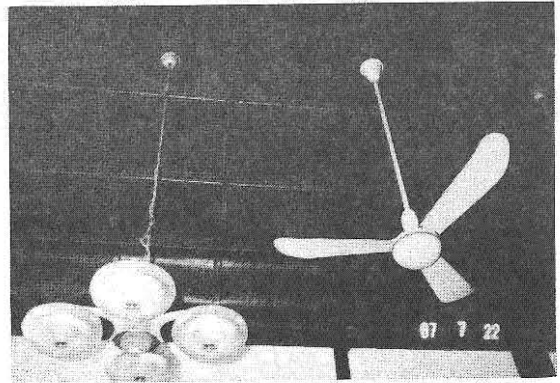


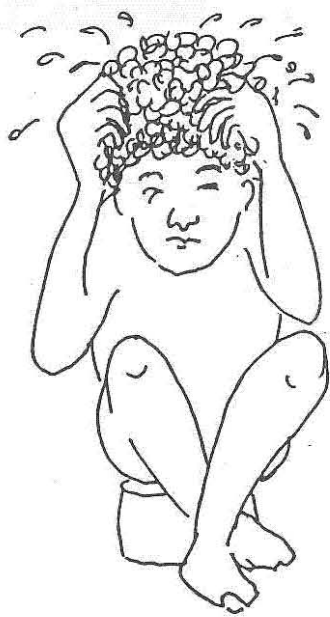




## 55. 菊の湯

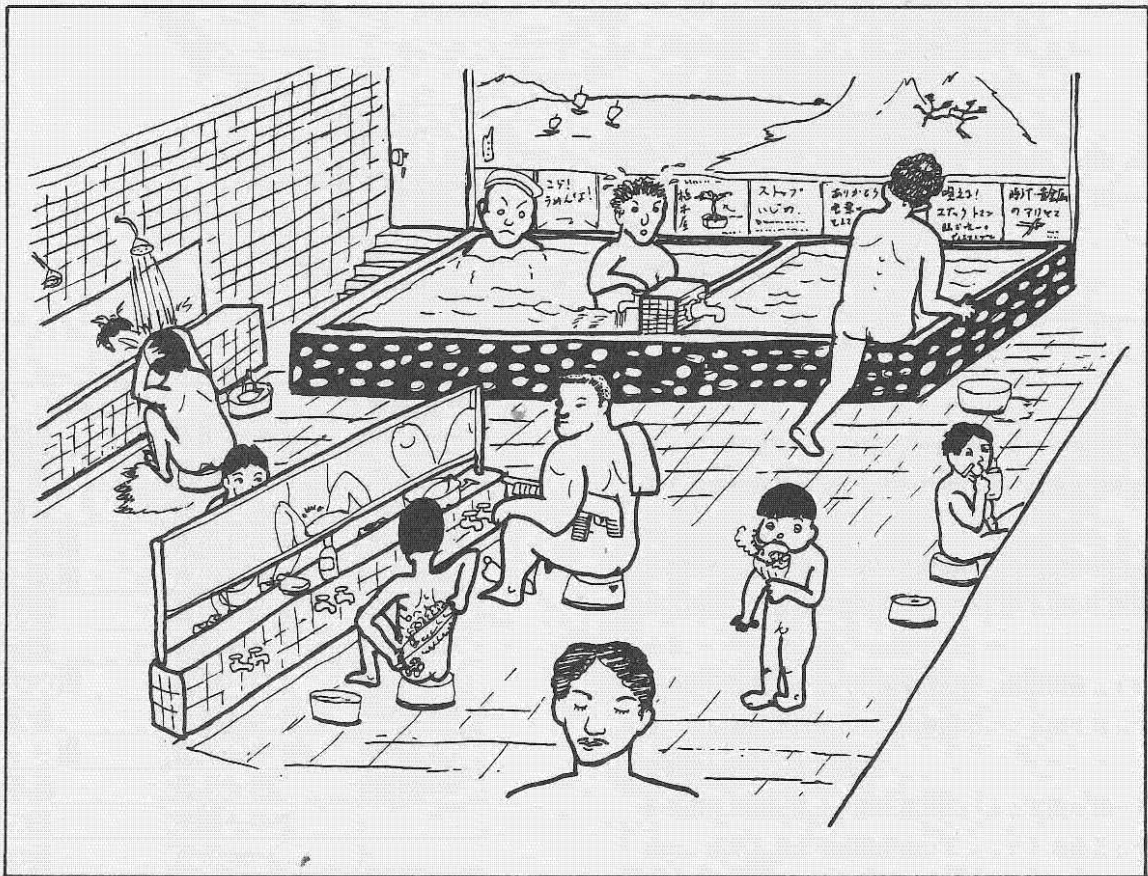
- S. 6 創業…… (S30に建てかえたが、戦争で燃えなかった。)
- 客数は……道路をへだてて、前にアパート群ができたので、それ以前の1/3程度に減った。
- ヘキガは……1年に1回職人さんに頼むんですヨ。昔は、風呂場の男女の境の壁に1ます1ます、物語の絵がかかれてました。その物語は、“カチカチ山”とか“うさぎとかめ”ですけど…。







## 6. 荒川地区



# 荒川地区



	名前	住所	電話番号
56	喜楽湯	荒川3-59-11	(891)3654
57	藤の湯	荒川3-16-4	(807)1569
58	宮地湯	荒川3-68-2	(802)4559
59	第三桜湯	荒川1-21-3	(803)4559
60	富士見湯	荒川2-29-8	(803)4765
61	立花湯	荒川5-10-4	(807)1641
62	野崎湯	荒川2-59-2	(801)5854
63	千代の湯	荒川1-32-3	(801)0823
64	能登湯	荒川4-30-1	(807)1750
65	さくら湯	荒川6-48-10	(892)1275
66	熱海湯	荒川7-7-6	(801)5187
67	清の湯	荒川4-43-9	
68	仲の湯	荒川4-6-6	
69	カネカ湯	荒川6-4-2	(895)3735
70	梅の湯	荒川6-40-1	(895)5016
71	栄湯	荒川6-53-11	(895)6311

\*下水処理場等の大規模施設が割拠する中の地区である。多くの零細企業が立地していたためか、銭湯も16軒と多い。

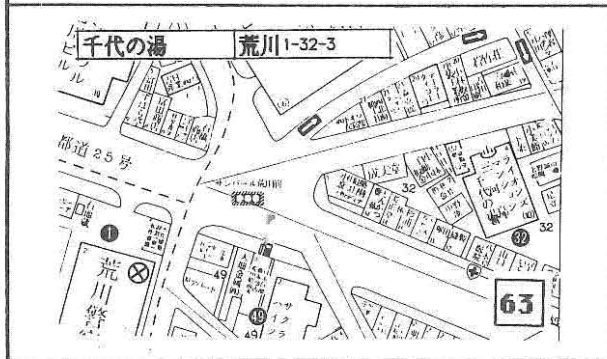
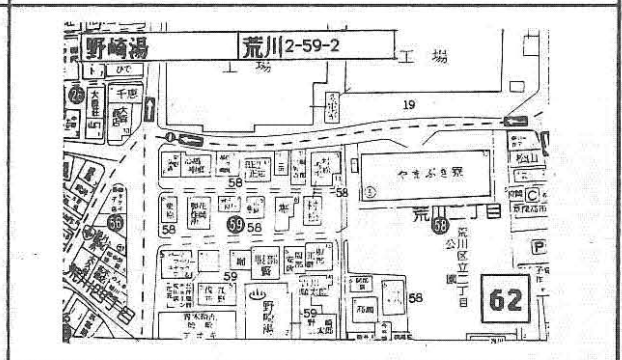
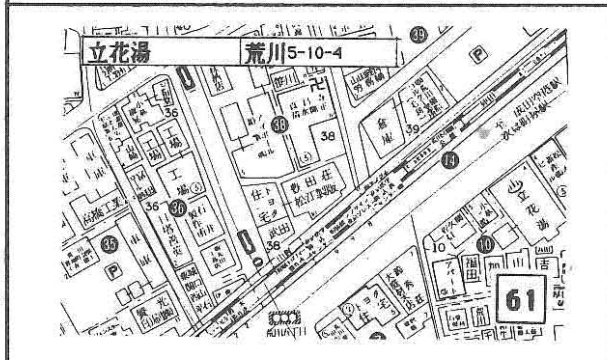
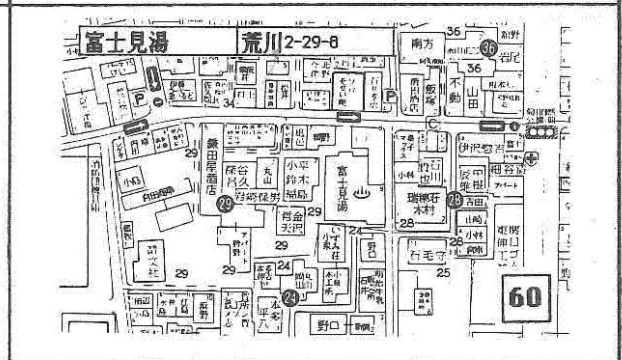
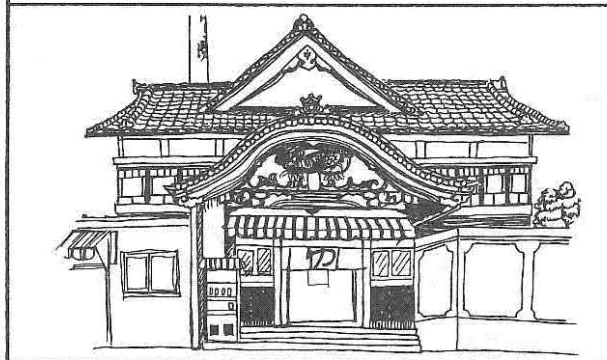
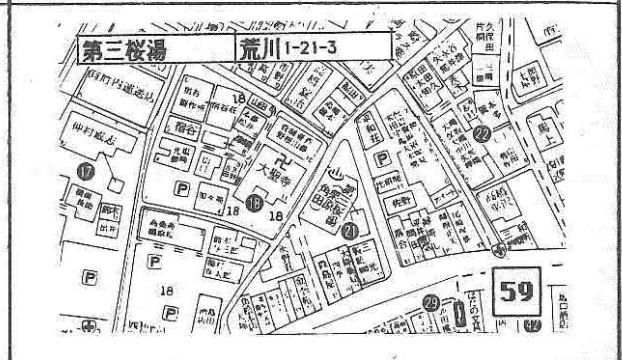
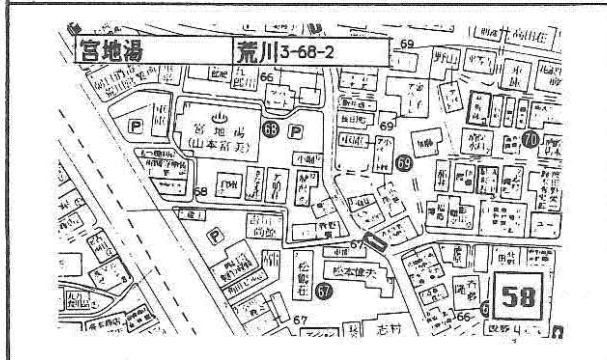
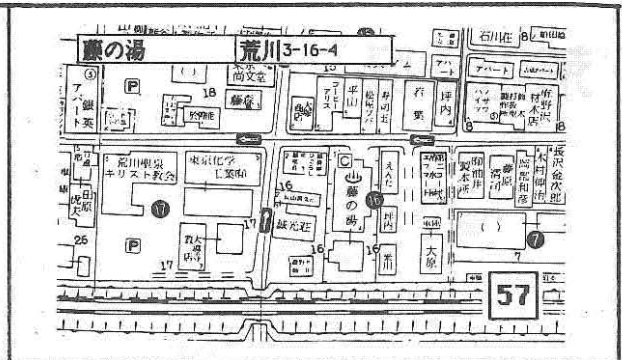
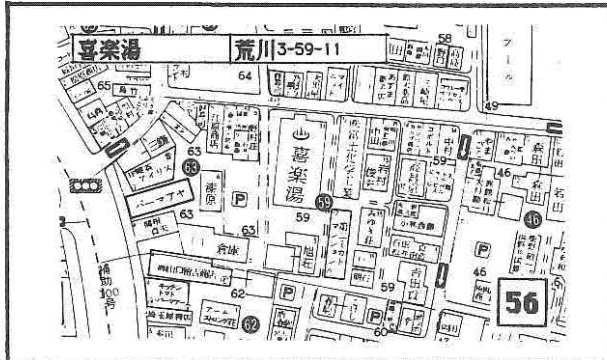
\*戦前から焼け残った銭湯も数軒あり、周囲の変わる街並みの中、大きな屋根がそそり立っているのが印象的である。

\*最近、改築した千代の湯を除けば、比較的皆よく似かよっている。改装をしても、壁面のタイル画を残している銭湯が多いのが心強い。

\*客層は老人が多く、最盛期に比べると客数は減っているが、常連さんたちは銭湯をコミュニティの湯として最大限、利用しているように感じた。

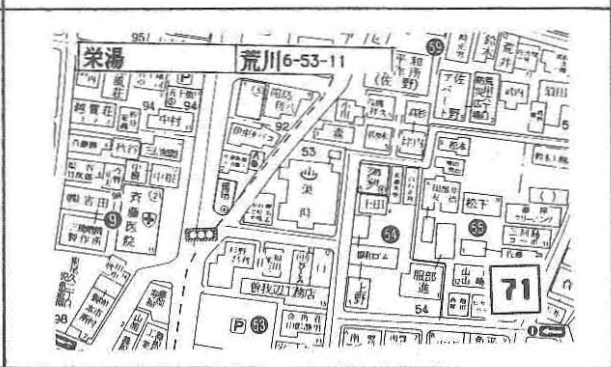
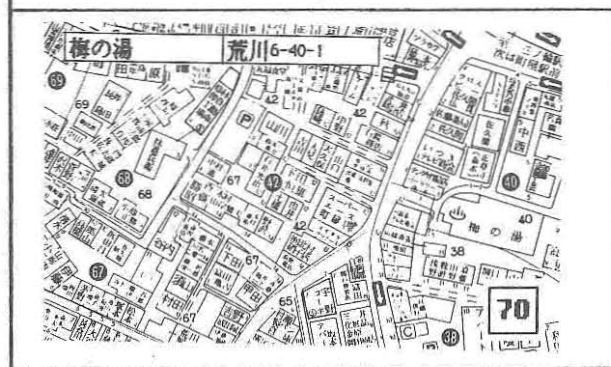
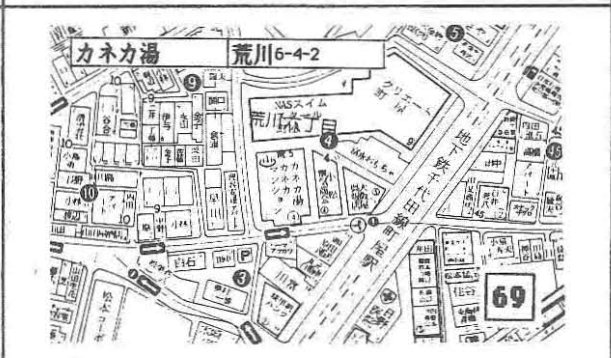
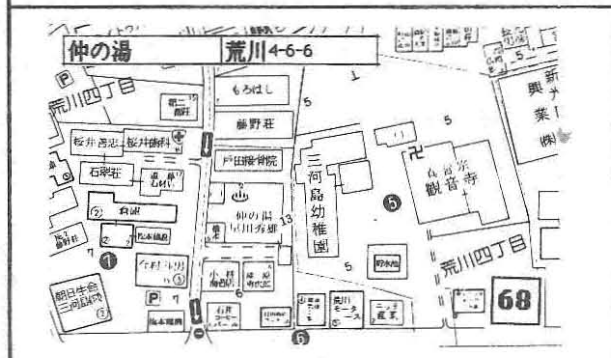
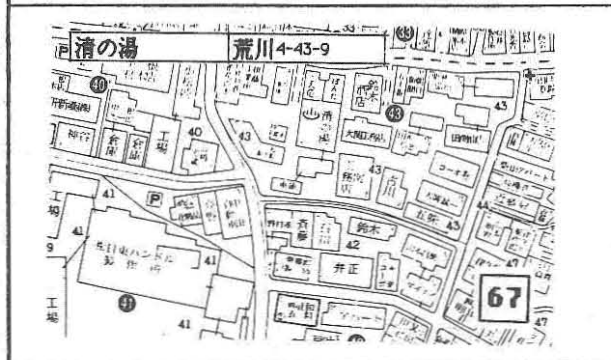
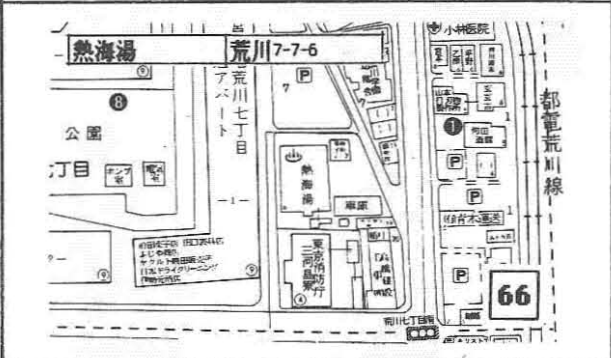
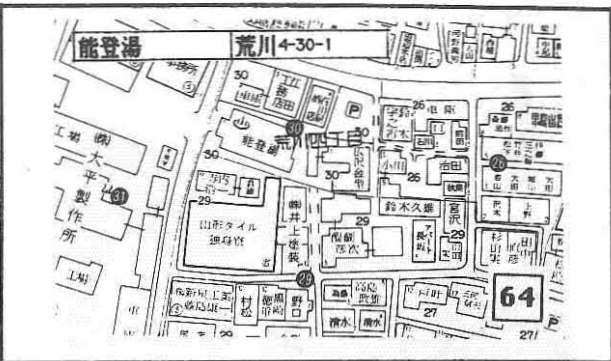
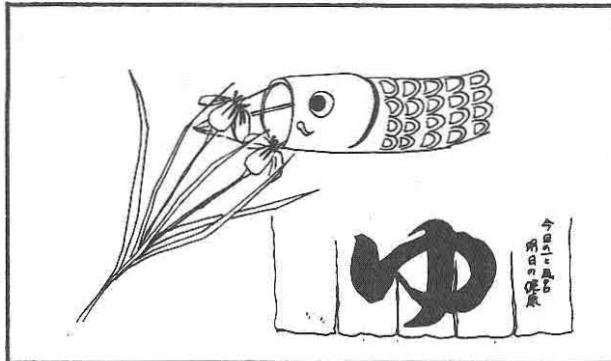


# 案内図





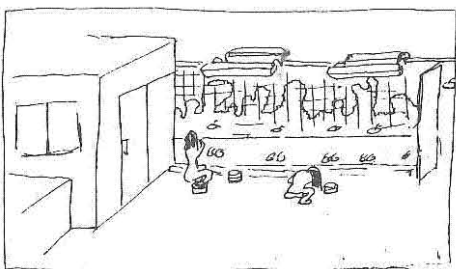
# 案内図



## 56. 喜楽湯



商店街の一角にある



•しょっぱなからポシャるとあとあとまで尾を引くという。初めよければすべてよし、だとかいろんなコトワザもあることだし、緊張しながらも元気な好奇心の塊りのようになって、とにかく潜入。

おばあさんばかりで自身がつきますね。ハダカになると、私が一番。と思いきやエスニカン2人組がはいってくる。すごいプロポーションでねたましい限り、つかの間の優越感であった。

さておふろである。初めてのところなので少し緊張してしまう。

エスニカン2人組は、まず最初にぎしぎし歯を磨き、タンを吐きまくってしまう。銭湯ではパンツや石けんと共に歯みがきセットを売っているところもあるが、銭湯で歯を磨く、という行為は一般的には認められないように思う。ときたま若い子でもいるけどね—ちょっと困るんだよね—  
(実は私も一時期やっていた)

思ったより混んでいる。赤んぼを含めて20人くらい。例えば湯舟につかるときはゆっくり手足を伸ばして、と思うけれど、なかなかあきが生みだされない。ここのお風呂はよくわからない小部屋があるので、湯舟が狭いのである。小部屋の中にも湯舟はあるが、おばさん2人がなにやら密談しており、はいつていくとなんとなくプレッシャーをかけられ落ちついて湯につかれない。しかたがないので、ちょっときゅうくつそうだが狭いほうの浴槽につかろうとしたら、あっ！！であった。熱いのである。これは江戸っ子粋人熱い湯好みや、ガマン大会で熱いお風呂つかり競争で人がはいる、なんて生やさしいものではない。異常に、あついのである。見ると、横にちゃんと注意書きがあった。だけど、何のためにあるのかよくわからなかった。お尻や顔をつけるのだろうか。でも手や足を入れるよりもっと熱い思いををすると思うのだが。

男女の境のタイル画もちょっと不可解。

でも、何かすごくお風呂屋さんだって雰囲気や五感にぐいぐいせまってくるのである。私は現在松戸市という近郊新興都市でアパート住い、そこでも銭湯通いをしているが、そこでは感じられない何かがある。うーんと考えて、だいぶたってからピンときた。音なのである。ここ喜楽湯は、木のおけを使っているの、床におくときすごくいい音が





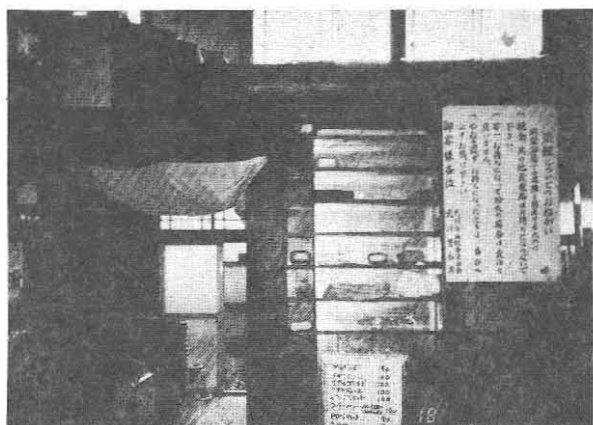
## 58. 宮地湯



草も根づいてしまった



みごとな彫り物



このタナに常連さんのおフロ道具がある。

(ここ宮地湯ではロッカーはほとんど使われていない。カゴが主流)

・尾竹橋通りをちょっと引っ込んだところに、古色蒼然の見本みたいなこのお風呂屋があることは前から気になっていた。だからすこしわくわくしてこの宮地湯に入る。

正しい日本の銭湯、というかんじである。外から見ても木造でちょっと傾きそうなんだけど、うーんとうならせるものがある。番台に座っているのは肝っ玉おばちゃんて汗をダラダラ流している。

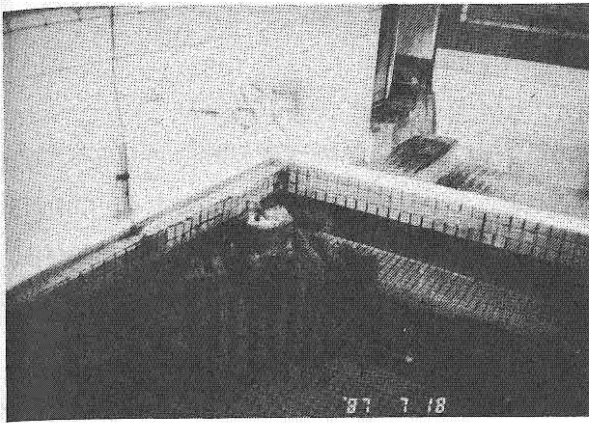
みごとなまでにおばあさんばかりである。スケッチをしている私をのぞきこんだおばあさんいわく、おねいさん何やってんの、え、銭湯の調査、そりゃあ銭湯はいいよ、なんだってコミュニティがあるからねである。コミュニティである。80過ぎくらいのおばあちゃんである。このへんのお年よりはすごい。荒川って存外ハイカラなのかもしれない。

番台の肝っ玉かあさんは最初は愛想よかったのだが、実は誇り高いツワ者であった。写真を撮ることを断固拒否されるが、私の再三のお願いで明日一時に来たら撮ってもよいというところまでこぎつける。

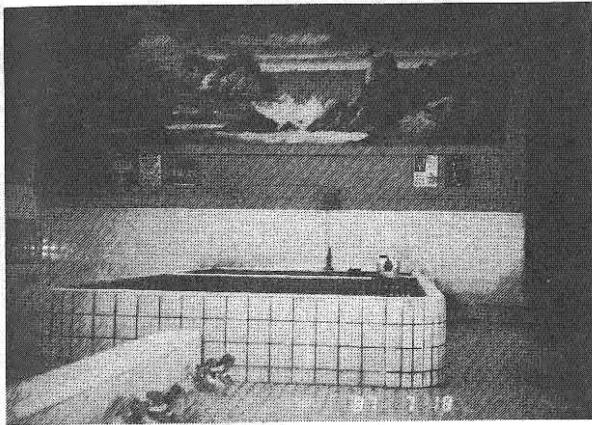
・再挑戦……なんか自転車のペダルが重いような気がする、という状態で宮地湯へたどりつく。う、案の錠であった。1時頃来たら写真だけとっていい、1時には表あけてそうじしてるからっていったのに、表の戸はあく気配はないし、もう、やりきれない思いで裏に回ったら、オジさんが汗みどろになって木を割っていた。

「これから仕込みなんだから、戦争だよ戦争、かまってるんないんだよね。一番いそがしいんだ一番。え、写真撮るだけだって？あんた写真ってのはね、撮るほうと撮られるほうと2通りあるんだよ、えっ」(これは、かなりコワイ調子でいっている)「そんなに撮りたいなら、10時頃なら撮らしてやってもいいけどよ」(これもわりとコワイ)ふだんの私ならここで必ずめげますが、どうしてかわからないけどこのおじさんはぶっきらぼうで怖いところもあるが、本当は気のいい人なのだ、ということが一瞬にしてわかってしまい、はい、じゃ、絶対来ますから、よろしく願います、と心から明るく元気にわかれたのであった。

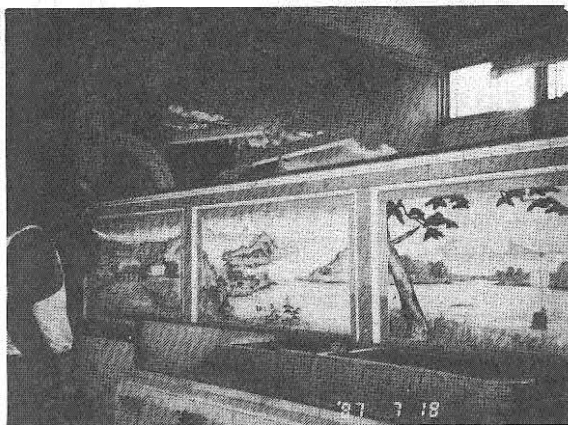
・再々挑戦……なぜかいざ行くとなるとだいたいぶぐったりしてしまう。あのおじさんはきっとほんとうは人のいい、優しい奴なんだ・忙しいとついつい邪険にしてしまうんだ、と



鎮座ましますカエルくん  
(下の木のオリにはラジウム鉱石)



やっぱり白タイルが浴場の基本ではないか?

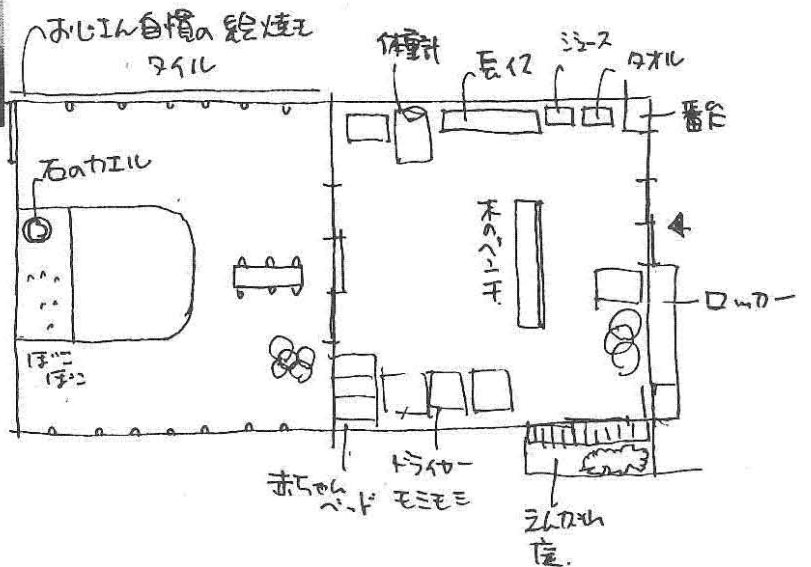


おじさん自慢の絵焼きタイル

いう内容をぶつぶつぶやきつつご当地へむかう。

うーん、やっぱり出てこない。明らかに人の気配がしてるのに何べん呼んでも出てこない、もうダメなのかな。けどしばらく腕組みをして立ちつくしていたらおじさんがどこぞから車で帰ってきた。わりいね、わりいねと言いながら中へいれてくれた。ばんざい。

「あんだねー、古いでけがとりえだからね、ここは。化粧焼きのタイル（男女のしきり、帆かけ舟の絵）は、もうここくらいしかあるめい。いんや維持していくのは大変だよ。あんだかだどちょちょこ修繕はするよ。昭和12年からちょっと建ってるんだから。戦災でやけのこったんだしね」という訳で、帰りになんだかわかんないけどジョンソンペビーローション（大）をくれました。やっぱり気のいいおじさんでした。

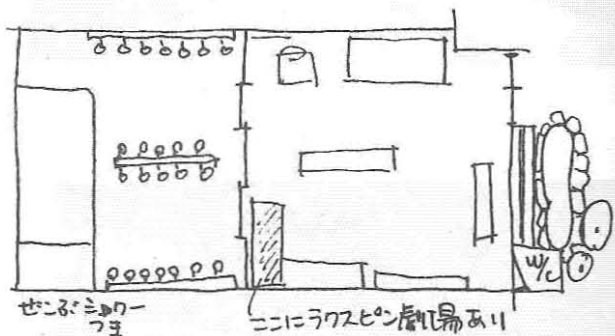


### 59. 第3桜湯



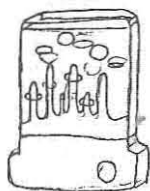
湯あがり美少女たち

藤の湯で混乱させられ、宮地湯で冷たくあしらわれ写真も拒否され、だいぶめげていたところである。なんだかやーだなあやんなきゃよかったとかブツブツ言いながら、めざすはサンパール荒川近くの第3桜湯である。あたらしいタイプのお風呂やである。でも外見はしぶい。子供が異常に多い気がする。ぬいぐるみ、ゲームをはじめ「ラクスキン」という名のボタンをおすと冒険物語をのべるクマとかラクガキ板、あおぐと音のでるウチワとか、もういたれりつくせりで、子供向けするように設備したのかな、と思ったらそうでもないようである。(と、番台のおばちゃんと言っていた。やさしい人で一安心)



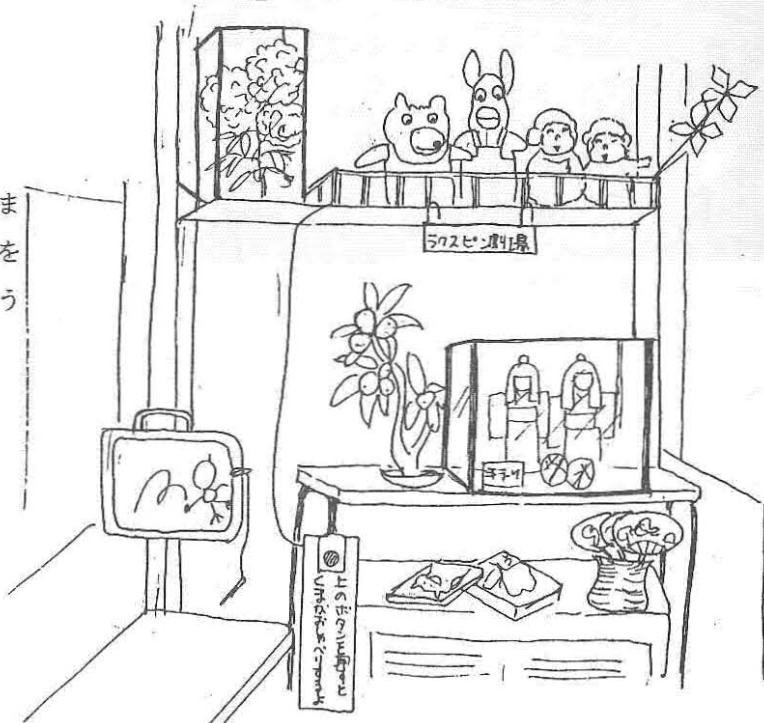
- ラクスキンのしゃべる内容  
「とつぜんぼくちはへんないきものにとりかこまれたんだ」  
「大きなケムクジャラの生き物が滝でシャワーをあびていたんだ」  
(サンダーバードよりちょっと口ごもる、口のうごきをする)

- ゲーム



中に水のはいった

こういうやつ



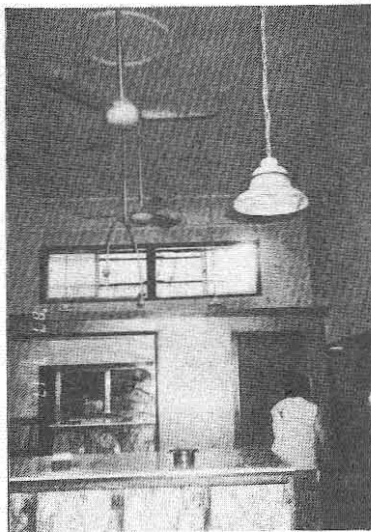
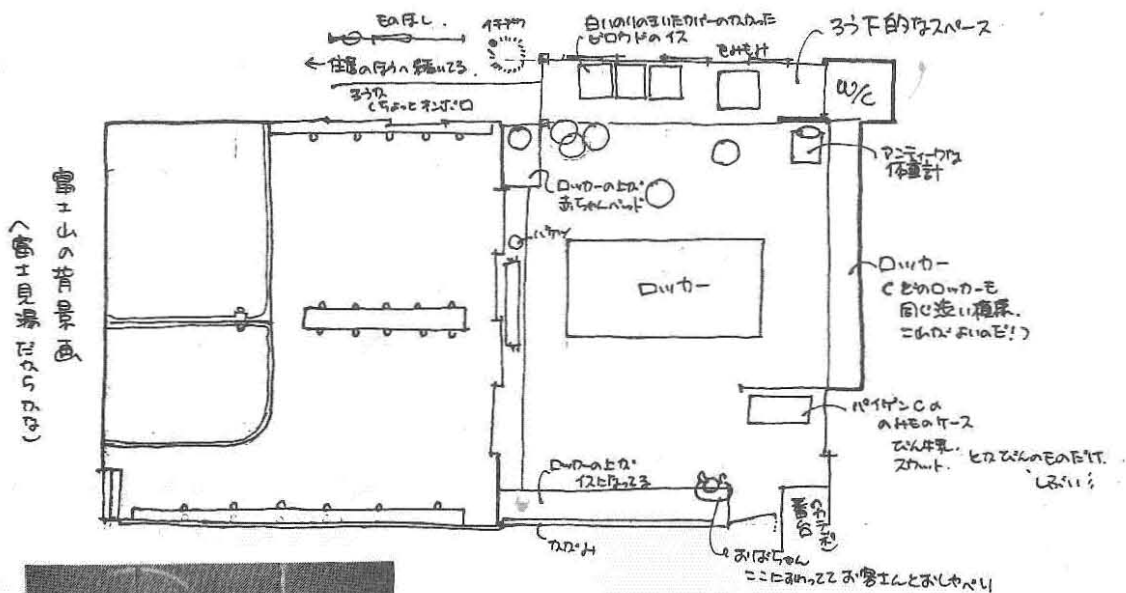


## 60. 富士見湯



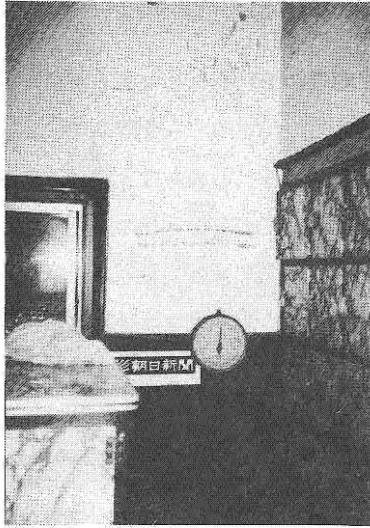
おとなしい外観なんだけど  
黒光りする柱  
ギンガムチェックの手作り  
ノレン

なんとなく商店街を形成しつつあるかな、どうか、というようにどっつかずのおみせ群の中に、ちょっと引こんで富士見湯はある。いつもは今日は△△湯にいくぞ！と行って出てくるのだが富士見湯の場合はなんとなく行きあたってしまった感じである。でもここは「お風呂であるぞ」という主張がある訳ではなく、あれお風呂屋の匂いだ、どこだどこだ、とうろろうしているうちに、や、こんなところに、という感じにかなりひかえめに建っている。そういう訳で目立たない子なんだけど内装はなかなかどうして大正ロマネスクなんだよ。おばちゃんは番台にすわらずこちら側（女湯側）に降りて来ていておしゃべりに興じている。男湯に来た客は気配で感じとっているようだ。すこし怖そうで話しをする糸口をハイエナのように狙う。



電燈が素敵なんだ

だれかが死んだと大さわぎがはじまる。番台のおばちゃんいわくいくらお金があってもエラくなっても死ぬときは一緒だそうです。死んだ人というのは石原裕次郎であった。銭湯のもつメディア機能の恩恵にあずかってしまった。え、え、誰が死んだのですか、というかんじに話をはじめた私だ。なかなか巧者であるなと満足である。どのくらい古いかという話でいろんなおばあさんも話しに加わり、いやあずいぶん変わったねえ、と懐かしの娘時代に思いをはせるおばあさん多数、はじめたのは大正の初期、まわりが



シックなロッカーの模様に  
注目

農家ばかりだった時分ボツンとお風呂屋があったそう  
で、昭和22年空襲で焼けて、それ以来のたてものである  
らしい。水はなんと井戸水である。驚いてしまったがどこ  
もそうなんだって。おばちゃんが私におやつをくれてつめ  
たい井戸水もコップにくんでくれました。冷たくて、す  
こーし甘いみたいな very good な水でした。

おばちゃんは客が減った、減ったと嘆きつづける。昨日  
休んでこれだけなんだからね、やんなっちゃうよまったく、  
今どこいったった銭湯はカラッポだよ、という訳で写真  
をとったりして銭湯に目を向ける私に非常に好意的である。  
なんだったら男湯のほうがきれいだからはいってごらんよ、  
今誰もいないからって訳で感動の男湯潜入初体験をする。  
誰もいないといってもそれは脱衣場のことで浴場のほうは  
おじさんがひしめいているのだ。突撃レポーター的いき  
おいで写真をとるまくっているとみんな気がついてきて、異  
常に嬉しそうにこっち向いてにこにこしている。何が嬉し  
いんだまったく。そのうちおじさんが完全無防備でぶら  
ぶらあがってくるし、いたたまれなくなって引きあげた。  
おばちゃんは帰るときに出口までおくってくれました。

## 61. 立花湯

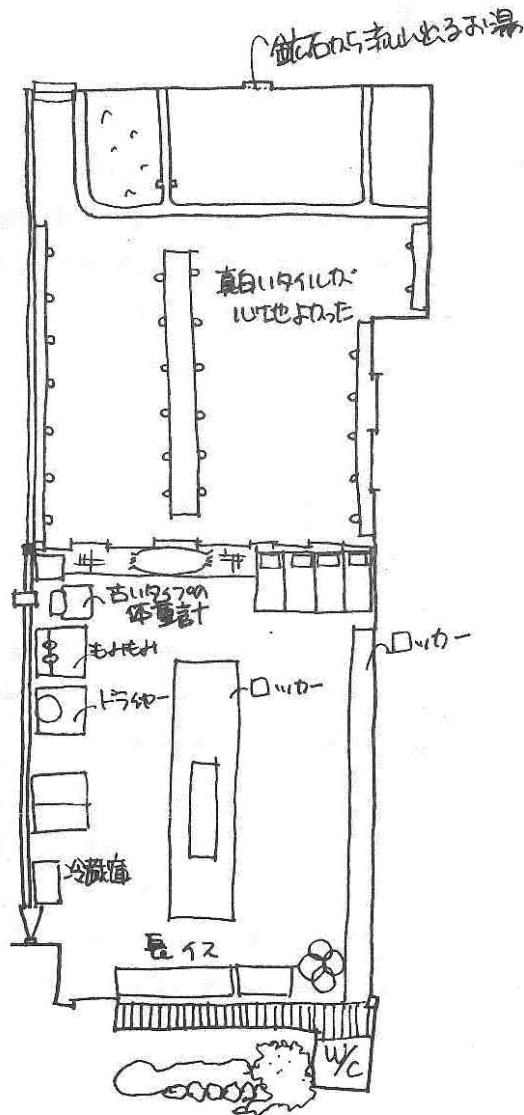
京成電車のガード下に小さな印刷所とかトロフィー屋と  
かが並び、その向かいにこの立花湯がある。古くて広く、  
あかり採りの窓の意匠が素敵である。

番台に座っているのは80を越していると思われるおば  
ちゃんだ。お金をはらうとき誰にでも大変にこやかに「は  
い、ありがとう」をいうので私もつられてにこにこしてし  
まう。しめしめ、これならにこにこなごやか和気あいあい  
ヒアリングができそうだと安どし、まずは汗を流すこと  
にする。

広いお風呂である。すいていて落ち着いて湯につかるこ  
とができる。赤ちゃんベッドの上にベビーパウダーを置く  
棚があり、めいめいの缶にマジックで名前が書かれている。  
当湯出て左へ 100mの飲んで唄えるスナックユーセブンや、  
甘納豆の店福島屋のハリガミがある。青いビロード地から  
ワタのはみでそうな古い木の丸イスがある。…というよう  
にどこの銭湯でもそうだけど、ちょっとした物たちについ



ガード下にひしめくお店たち



ているちょっとした匂い、たとえばイスにまつわる思い出やスナックで燃えるカラオケおじさんの歌声を想像させてくれる匂いがわたしは大好きだ。

立花湯は昭和29年建立、にこにこおばあさんの一族は49年12月15日にここへやってきた。場所が悪いのでこのあたりでは一番すいているそうだ。うーんなる程すいている。一日に何人くるかうーんと考えておしえてくれたが、あとでやっぱり聞かなかったことにしてくれ、といわれてしまった。3、4年前からお客さんは減ってしまったそうだ。写真をとらせて下さいというと、はじめはにこにこええいいですよ、だったのにそのうちだんだん不安になってきたようで、やっぱり外はやめて頂戴ね、といわれてしまった。どうしてかという建物の写真をとるところを近所の人に見られると、あんな古いのに建てかえないでまったく、瓦がおちてきたらどうすんのよ、という苦情がきつとでるだろう、という、ちょっと不可解なものであった。今日はカメラを忘れたのでまたこなくてはならない。

- 8月12日(木)……すいている立花湯だから営業時間中でも写真とれるかなと淡い期待をいだいて行ったら案の錠立花湯であった。番台の心配症のおばあさんは私の顔を覚えていてくれたけど、私を認めたとたん目に今までとは違う光が宿った気がしてちょっとぐったりしてしまった。だけど笑顔で誤魔化して写真とらせて下さいねーといったら静にウナズいたので、いぶかしげなおばさん客達の間隙をくぐってパシャパシャやってしまう。

写真をとり終えたたん、異様に気が楽になって放心状態でお風呂につかった。脳がじわじわと溶けていくようでもまらなかった。お風呂あがりにラムネを飲むかスカットを飲むかで真剣に悩めその余裕がうれしい。あたり前だけど銭湯はお風呂につかってくつろぐところなんだなあ、てのがはじめて荒川で実感できたように思った。最後おじゃまいたしました、といって出るとき、わたしをずっと警戒していたはずの心配おばあさんが、「忘れものはない？だいじょうぶ？」と言ってくれたのが単純に嬉しかった。

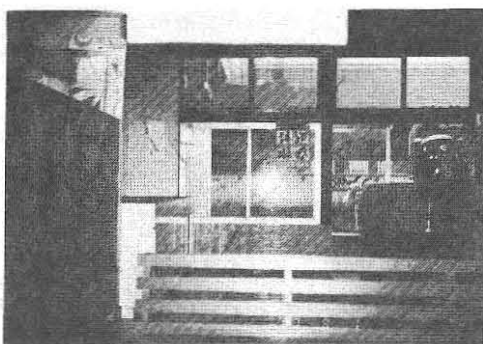




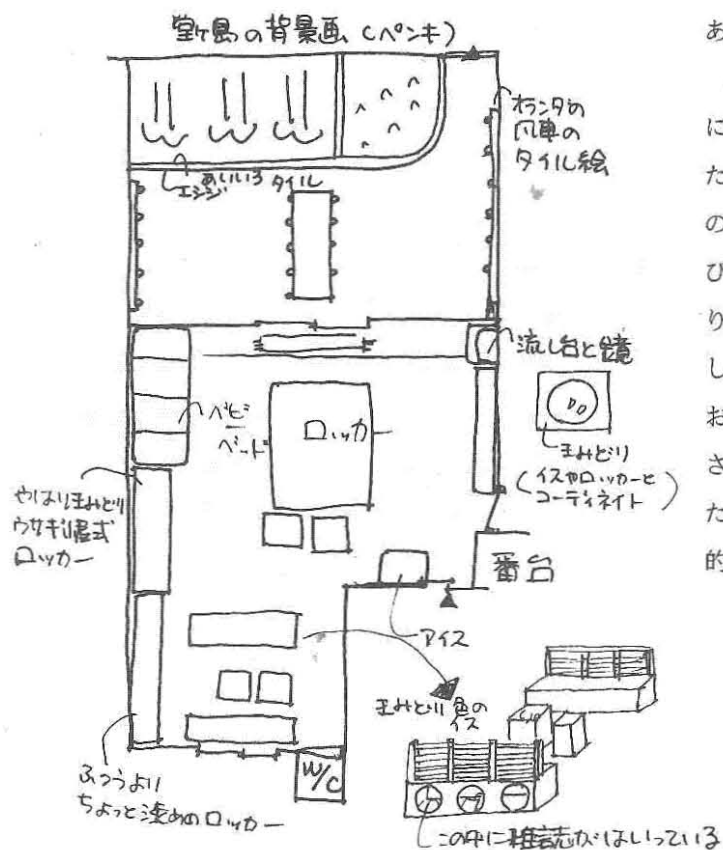
## 62. 野崎湯



感心感心の佳津代ちゃんです。



ウサギ小屋風手作りロッカー



荒川の魅力をさぐりたいと思う。外の人間である自分だからこそ、わかる魅力がたしかにあると思う。それがこの街にはまだたくさんあって、それはうかうかしてると消えてしまうものだ、ということをお町のの人に伝えたい。けどなんか、なんか…なのである。うまくいえないけど私やっぱりストレンジャーだし一時的感覚で銭湯はいいんだコミュニティだなんていったってちっともリアリティがない。よそ者が何を言うんだと言われたら下向いちゃうだろう。なんだかこの街に向かうべき姿勢をどうとったらいいいのかわからない…

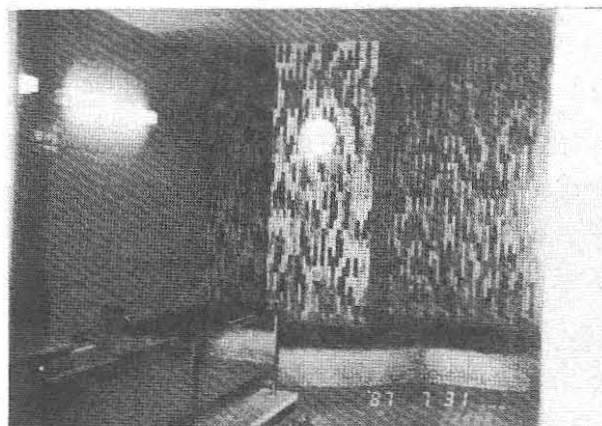
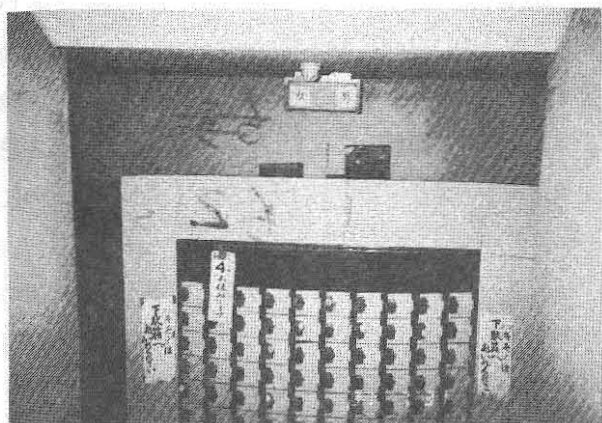
と、いうように雷鳴夕立ちのあとの私の心はぐちゃぐちゃに混乱していました。要するに姿勢を決めようとかするから混乱してビビって緊張しちゃうんだろうな。もうどうでもいいから、汗かいたからお風呂は行って、お腹すいたからモンジャ食べようというノリでやるしかないと思う。でなきゃしんどくてやってらんない。と、いうわけで野崎湯のノレンをくぐる。

番台にすわっているのは小学校6年の佳津代ちゃんである。4年生のときから番台に座っているんだって、1時間交替できまることもあきるけど、だいたい毎日座るそうである。いつ建ったかどうかはよくわからない。

必然的なのかどうかおばあさんが多い。「この暑いのに、サラシ巻いてんの」「暑いとねべたべたするから巻いたほうがいいんだよ、あらやだ、このサラシだれか他の人のだよ。他の人の服着るとこだったよ」とかいう会話がとびかう。イスやテーブル、ウサギの小屋式ロッカーは手作りのようだが、前からあったそうである。2年前に引っ越してきて、その前のことはわかんないんだって。

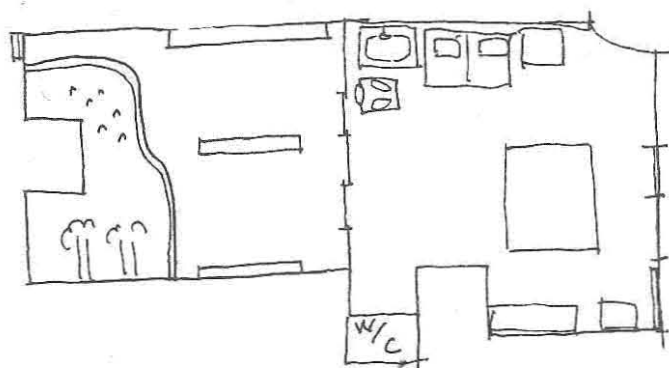
おばあさんたちが、交替してすわったおばさんに、「神埼さんがきたら、これ渡しといてよ」とか、「大田さんがきたら心配してたっていって」とか伝言を頼むのが印象的だった。

### 63. 千代ノ湯



マンションの地下階段を降りると千代ノ湯があった。マンション地下千代ノ湯へ降りていく階段はなんだかおかしな雰囲気である。地下駐車場に出入りする人のための階段だろうか、と思う入り口に、おなじみ伝統ノレンがかかっている。階段を降りた先にはいつもの伝統ゲタ箱や伝統カサ入れがおさまっている。おぼうさんがゲサがけでスクーターに乗っているのはちょっと違うが、最先端アークヒルズのつるつるびかびかの中にやきとり屋のちょうちんが下がっているのと似た感じである。とっても歯切れの良くない、人生の辛酸をなめすぎて無感動になったようなかんじのおばちゃんがすわっている。

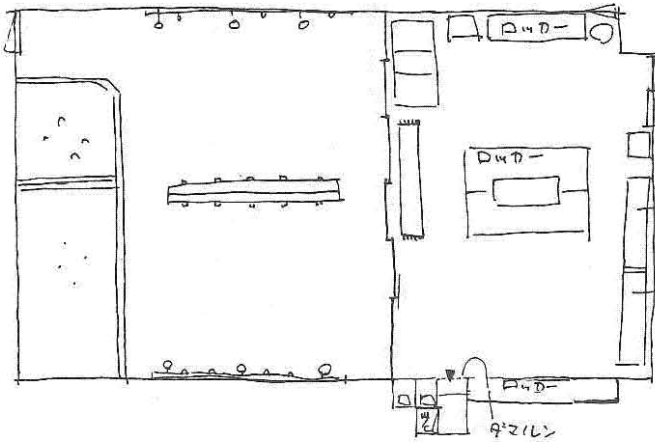
脱衣場は狭くて、天井はとてあえず高いのだが、ロッカーのはざまでもそもそ脱がなくてはならない雰囲気がたまらなくきゅうくつである。浴場のほうはゴツゴツした壁画とか、円形のライトとかが当湯は新しいタイプの銭湯であるのだ、という主張をほのかにかいま見せてはくれる。と、いう訳ではじめてはいったマンション銭湯だったけど自分の好みでいえばピンとこなかった。不興を買った原因の一つは飲み物である。飲み物は自動販売機に全面的に頼っており明治ブリックパックのグレープフルーツ、リンゴ、ヨーグルト、コーヒー牛乳の4種類のみである。これではあんまり飲みたくない！という人が多数いることを私は信じる。お風呂あがりにはビールかトマトジュースかウロン茶か、という以外認めない人もいるはずなのにこれではあんまりである。



ここは昭和40年からやっており、6年前に改装したそうです。はじめは5階につくりたかったのだがいろいろあって地下になってしまったそう。あったまるとマンションの住人もくるそう。よかったですね。

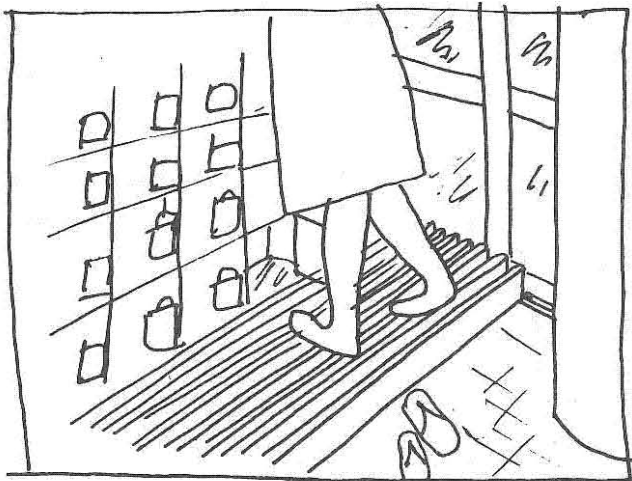
▲ なんだからちょっと見やちょっと感じが気に食わないと、何か他に凶悪なものはないかと重箱のすみつきを始めたくなるんだから、自分をもてあましてしまった。

## 64. 能登湯

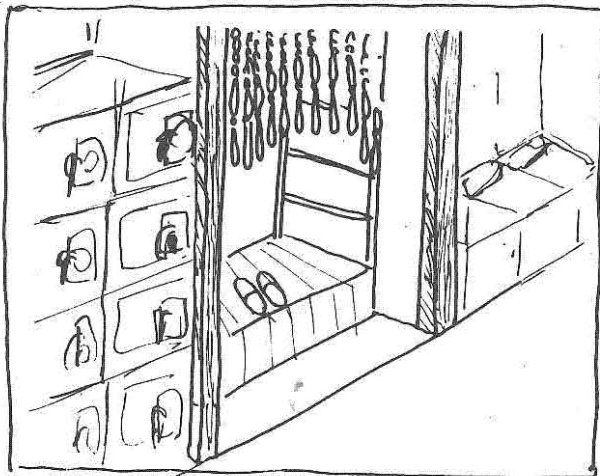


お風呂屋めぐりもこれで9件目である。もっとたのしいものだと思うのになかなかたのしめないでいる。何が元凶かといえばやはり番台の人を含めてこの街の人々の、異物である私に向ける警戒のまなざしへのやりきれなさだと思う。最初の1、2件の頃は割りと元気よくやっていたのになあ。

身がまえないで自然体でいこうとする。すると“自然体の身がまえ”をしらずしらずのうちにやっていたりする。例えば、天井のカーブの線がいいなと思い天井を見る。でもその直後に、あ、わたしするどい目で天井を見つめてしまった、私はおフロにはいりにきたんでヒヤリングやスケッチはついでなんだ、というふうに、探偵の探索の目をケムにまいて、普通人に化けようとしてしまう。これじゃくたびれちゃうの当然だ。好奇心マルだしのミーハー観光人のどこがわるいんだ。もうひらき直ってもいいんじゃないか。とにかくもう深く考えないほうがいいと思う。あんまり頭よくないんだし。



と、いう訳で9こめの能登湯である。私は無条件に日本海にあこがれるのでこのおふろ屋にもひかれるものを感じる。外から見た感じも実に威風堂々である。サンダルを脱いでわたり板（のちに“目ざら”というのだとわかる）にあがるとポコポコでとてもいい感じなのだ。これは青竹健康法にも匹敵すると思う。しばらく足踏みをする。



なかなか、わたしの好きな雰囲気である。ロッカーもいつものありきたりのやつじゃなくて、鉄製の水色ペンキ塗り金庫風のもの、木製のつやつやした明治の文豪の書類入れ風（勝手に想像しただけなんだけど）の2通りがある。ちょっと悩んで金庫風を使うことにする。好奇心からというよりも必然性からトイレを使用する。ここのトイレのアプローチはなかなかおもしろい。坪庭づたいわたりろうかタイプももちろん捨てがたいが、このいきづまりを玄関風ダマノレンつき、というのが突発的にふつうの壁面にあるのも、それなりに風変りなわびさびがあるのではないか。番台にすわっているのは目のうるんだ、こじんまりしたおばあちゃんである。

「え、わたし使われるだけだから、だんなさんに聞かないとね、ほら、よけいなこというとおこられるだけだから、ね、なんもいえないよ。」営業時間くらいおしえてくれ



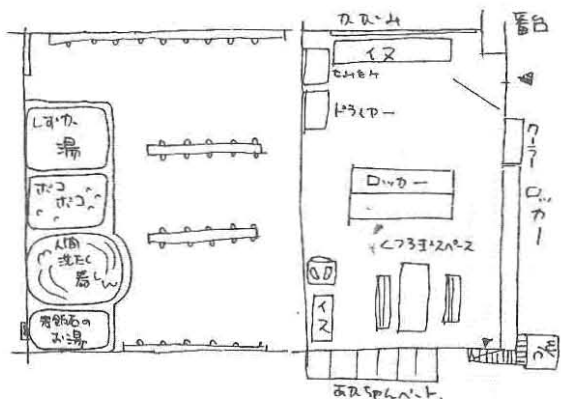
たっているのに。

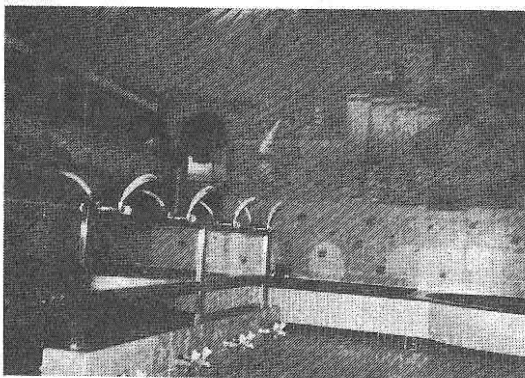
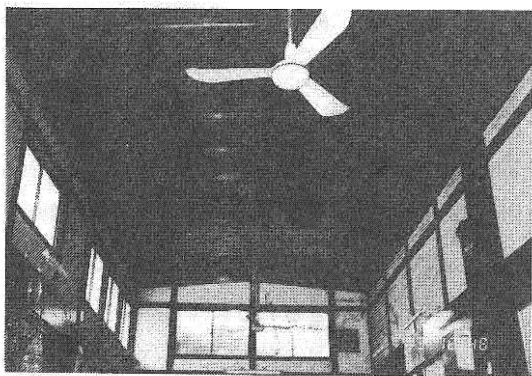
ここは、シャンプー、せっけん類をはじめ売っているものが少ない。湯あがりにぐいっと…と思って見まわすが、値段を書いたはり紙はあるのだがモノは見えない。聞くと、男湯のほうに冷蔵庫があって、境界の戸から自由に出はいりしてとってくるしくみである。若いわたしが多少ちゅうちょしていると、牛乳を求めるおばさんが私のパンピーももってきてくれました。

## 65. さくら湯

さくら湯である。住宅地図にはたださくら湯だけだけど、実はここは第2さくら湯で、なんと一丁目の子供大好き湯桜湯の兄弟なのだ。すごく昔、明治の頃にさくら湯が創立され、それが3倍に発展して今に至っているという由緒正しい話であるが、実はここ第2さくら湯のおばちゃんたちは借家人で、家賃を払ってお風呂屋をやっている。(こういうところって以外に多いのだ) このあたりは荒川6丁目と一応荒川なんだけど、町屋銀座商隆会という結構正しい商店街があって、そのせいかすこし町屋っぽいような気がする。(もっとも私は町屋地区をよく知らない)。第2さくら湯はこの町屋商隆会の表側のすぐ下、おそば屋のうしろにある。間口の広い、堂々とした立派なかまえなのに、正しい商店街にその姿を堂々とさせないなんてなんとも残念。そういえば荒川のお風呂屋さんて相当立派構えなのに、わりとひかえめに建っている場合が多くてなんとも歯がゆい。でも家が建てこんじゃってるからしょうがないのかなあ。

広い広いお風呂屋である。この建物が建ったのは昭和のはじめで、戦災で一度たてかえてから基本的にはそのままであるが、おととしに大修理をしたそうで、外見は悪く言えば由緒正しいとは言い難い、新しいお寺の雰囲気に一脈通ずるところがある。でもそれなりに年月を経れば貫禄でてるんだろう。改修には2、3千万かかった、ということだ。ふんふんなるほど。大変だなあ。背景画はユングフラウという感じのタイル画であるが、これは25年建て直して以来のものだそうで、大修理のときもこれは温存したみたい。ペンキで背景画を描くと汚れやすいし、もたないんだって。お客さんの数は最盛期の1/4、だんだん人が





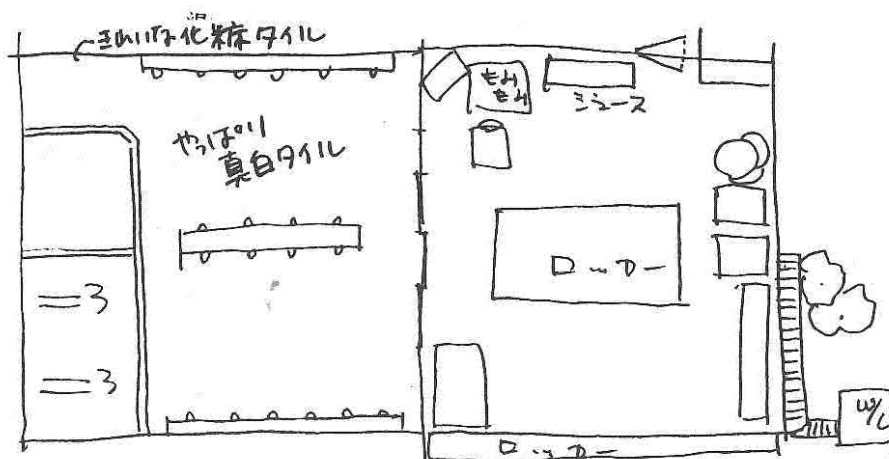
減るにしたがってマナーも悪くなったということも言っていた。この商売をやってよかったことはなんですか、との問いには、他の商売をやったことないからわかんない、という答えがかえってきた。強いていえば、あまり近くに商売敵がこないことかな、だそうだ。それ以外は、朝から晩までだし、維持費はかかるし…でもお客さんが、いい気持ちでお風呂につかれるんだからねえ、ということも言っていた。燃料はマキや木材で、解体屋から安く買うそうである。ちょっと耳貸してごらん、て感じで柱が一本百円で買える、というお買得情報を内緒でおしえてもらっちゃった。ウッシッシ。

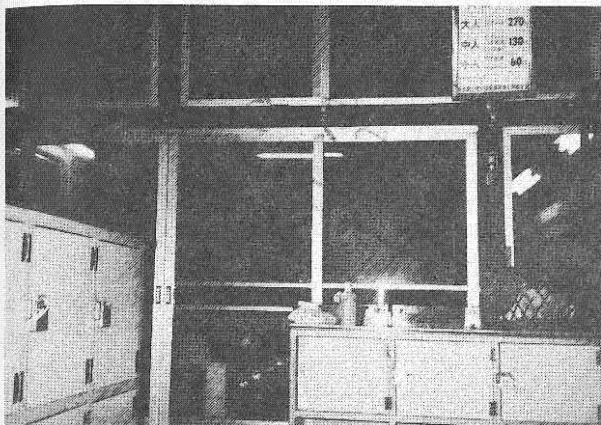
## 66. 熱海湯

本日は2件のノルマを絶対にこなすぞ、ときばってセンターを出て来た。最初行った竹ノ湯は、実は私の担当のお風呂屋ではなく徒労に終わりそうだったが、おじさん、おばさんが大変よい方で、よい出会いをしたとほのぼのとした気分であることができた。それで2件目の熱海湯である。言い訳をするようだが、私は基本的に一日一件しか銭湯には入れない。映画も2本立てを真剣に見ることは無理がある。ゴハンを食べながら気のきいたおしゃべりが出来ない。損な性格だと思う。

と、いう訳で熱海湯に着いたときは既にだいぶのぼせてしまっていた。

熱海湯は、都営アパートとか、消防庁の寮だとかのはざまにある。そのせいかどうかわからないけど、私が行ったときはお客さんが7人くらいで、なかなかすいていた。そのうち2人は、ここんちの子供であった。





牛乳	70
コーヒー	70
パンピ	80
リンゴ	80
ミリンダ	60
ペプシ	60
ラムネ	55

子供2人の内訳は、小学校1年のひろきくと、5才のあきらくんである。11時だというのに2人ともピカピカに起きていて、お風呂でおおさわぎしているなんて（それも女湯である）なかなか将来性があると思った。彼らはお風呂でとびはね、きゃーきゃー実によくいい声でサワぐのだが、そのたび番台のおばあさんがおりてきてやさしい目をしてしかるのである。はじめはヨソの子が故あって子供のみでできるのかな、と思い、さすが下町人情助け合い他人の子にも愛あるしつけ、と感動しかけたのだが、そういう訳ではなかった。2人ともすごく仲良くてみんなほほえまげに見守っている。眠くないのかと話しかけるととても健全なかんじで照れるのがよかった。私がラムネを飲みにくそうにしてると、「おばあちゃん、あの人にストローあげたら」って間接的に気をつかってくれるのがよかった。

安い!!わたし同じラムネを他で80円で飲んだぞ。もみもみも10円で（ふつうは20円）ウンザリするほどもまれてしまう。浴場の床のタイルも真っ白で美しく好感がもてた。

子供のおかげでにこにこヒアリングができた。熱海湯は昭和2年に建て、この一家は終戦後からやっている。男女の境の瀬戸内海の島々を描いた美しい化粧タイルは、建てかえるときも残したいといっていた。ということは建てかえの意思はあるようだ。

おばさんどうしの会話が盛り上がっている。

「よくまあ50なんてからだがもつね」

「まだ50だよ、あかんぼみみたいなもんだよ」

「むかしは50だったらおばあさんだね」

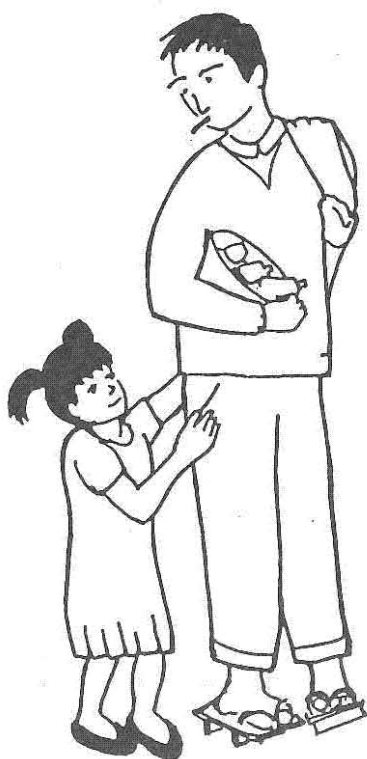
「わたしら1日中働いてエライよね」

「ウチの23になるセガレがね、食って寝て会社行って酒のんで、ほんとわたしたち1日中働きっぱなしなのよ、おめーはちゃんと働いてんのかって言ってやったよこないだ」

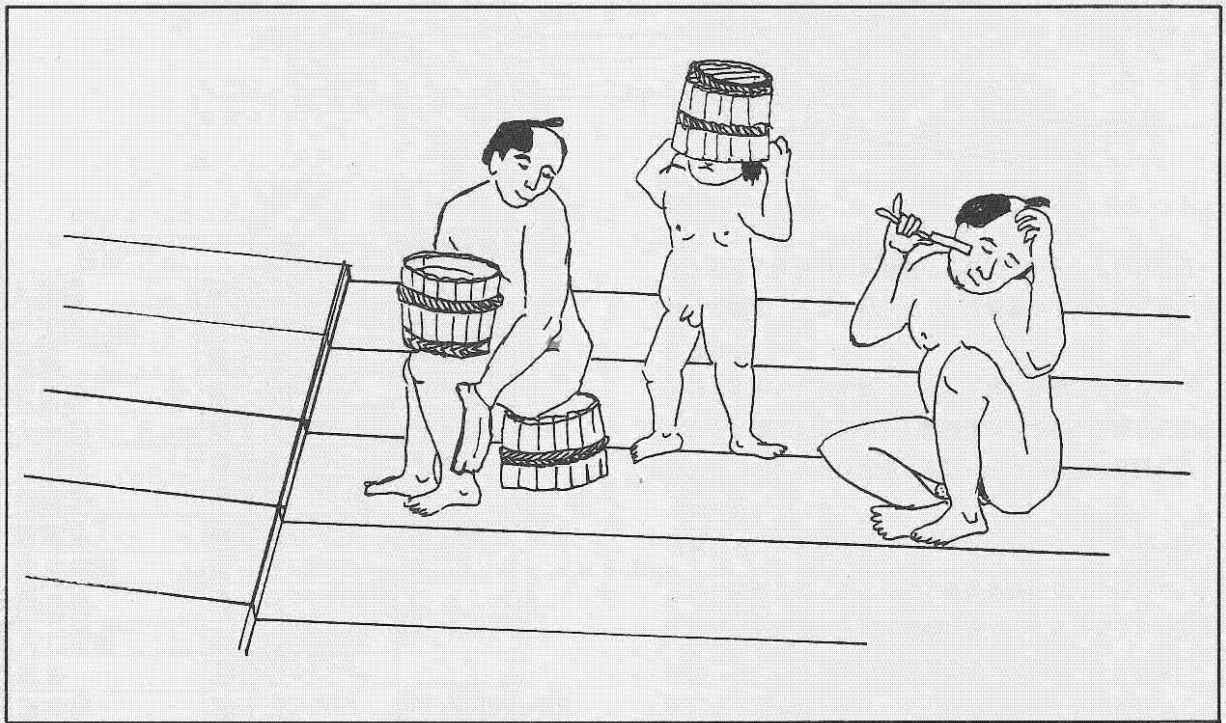
「でもねえ、今のうちだよ、そうやって文句いえんのは。あんた、嫁さんもらった日には…」

というかんじに、こんどは嫁姑論に談義が高まっていく。

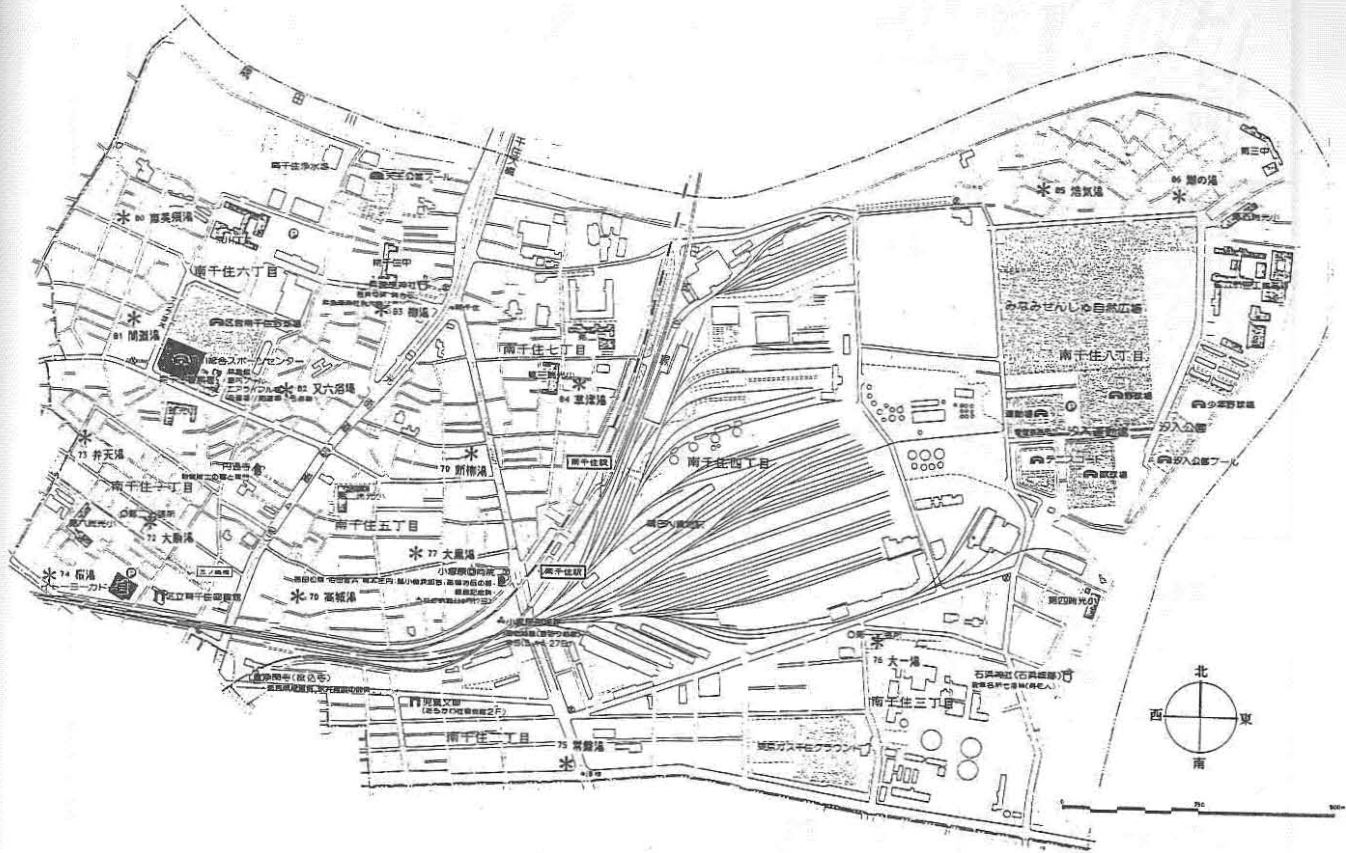




## 7. 南干住地区



# 南千住地区



	名前	住所	電話番号
72	大勝湯	南千住 1-19-4	
73	弁天湯	南千住 1-23-11	(805)1063
74	桜湯	南千住 1-5-9	(891)5745
75	常盤湯	南千住 2-28-7	(801)4867
76	大一湯	南千住 3-26-1	(807)0939
77	大黒湯	南千住 5-23-14	(807)1566
78	高城湯	南千住 5-26-13	
79	新柳湯	南千住 5-40-8	(801)5353
80	恵美須湯	南千住 6-15-9	(891)0512
81	間道湯	南千住 6-28-7	
82	又六浴場	南千住 6-51-19	(805)0630
83	柳湯	南千住 6-57-9	
84	草津湯	南千住 7-26-2	(801)5574
85	浩気湯	南千住 8-16-14	(801)6908
86	潮の湯	南千住 8-28-6	(801)2500

\*大部分の銭湯が西側地域に位置している。これは後背地に工場やプラントが立地し、労働者が住みついたためであろう。

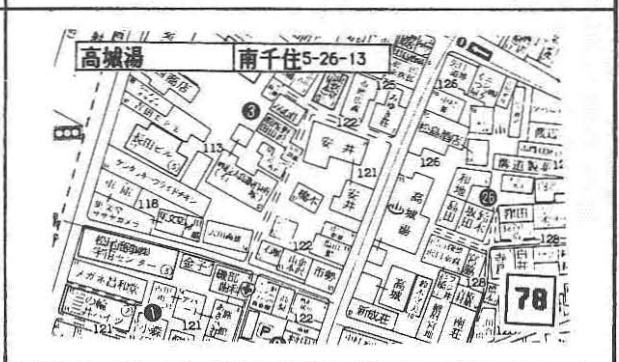
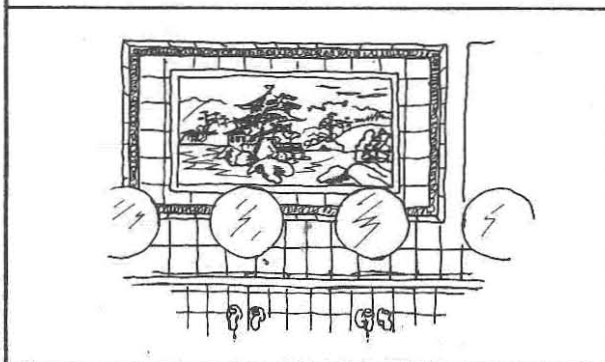
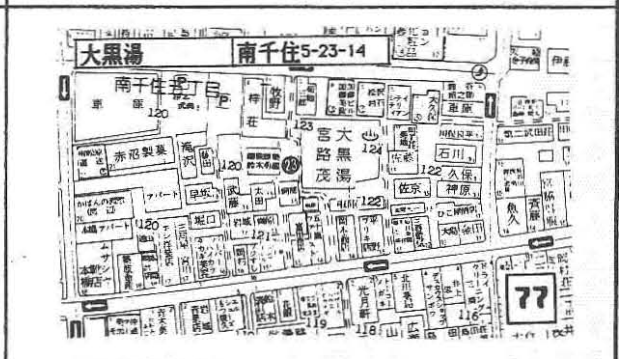
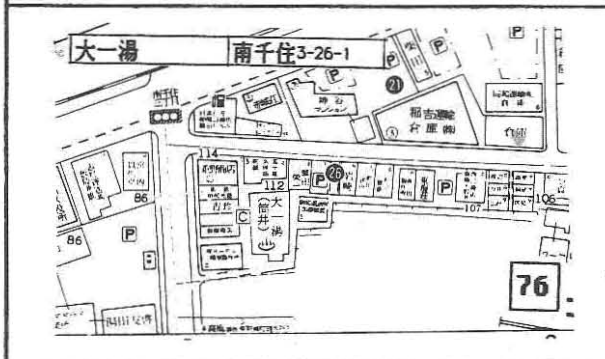
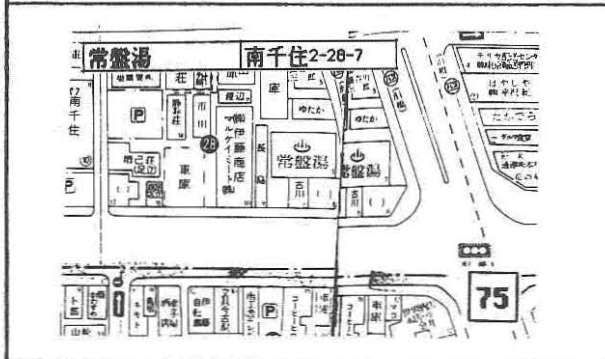
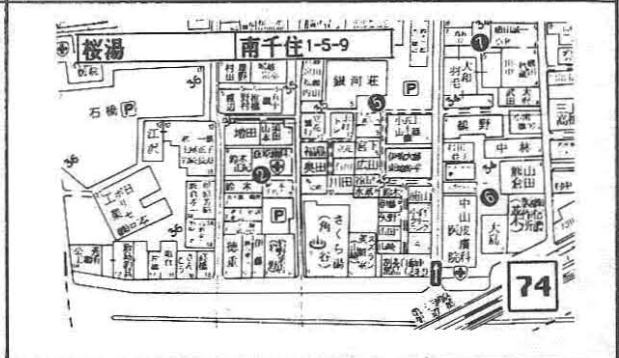
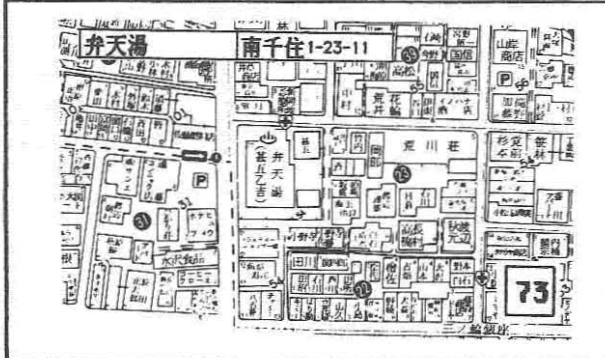
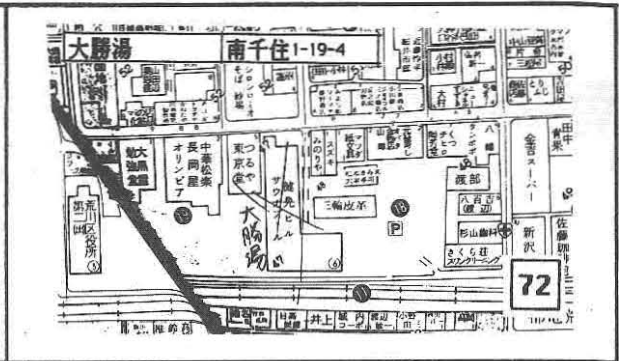
\*ほとんどが昭和初期化、それ以前に創業し古さを誇っている。店門えは大振りな唐破風か、古びた外観のどちらかで、どれも古さを感じる。ハデさでは他の地区に比べ群を抜いている。

\*外観のハデさに負けじと内部も高い天井、広い脱衣室、立派な壁画やディテールに古き良き時代を今に伝えている。その立派さゆえに改装期に来ている店は資金不足に悩み、またこの地区は再開発の渦中であり、その歴史にピリオドを打つのを、ただ静かに待つだけの様に感じられる。

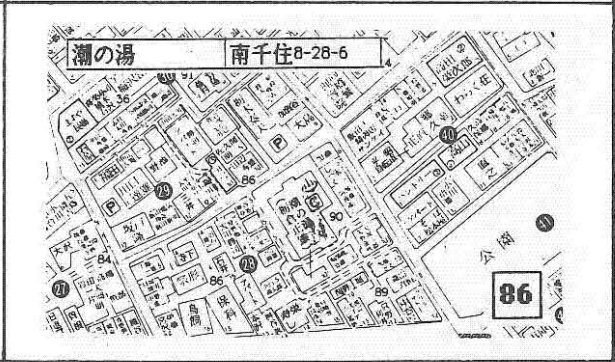
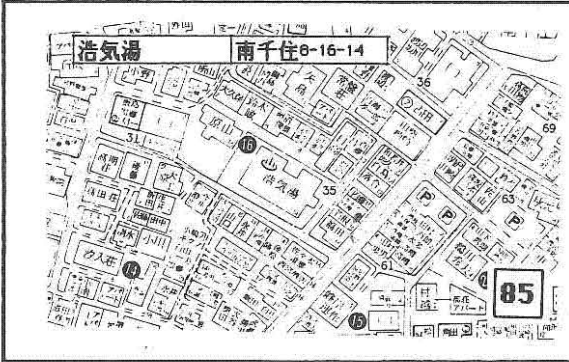
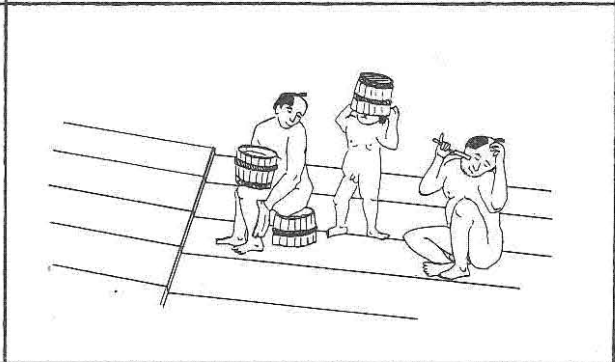
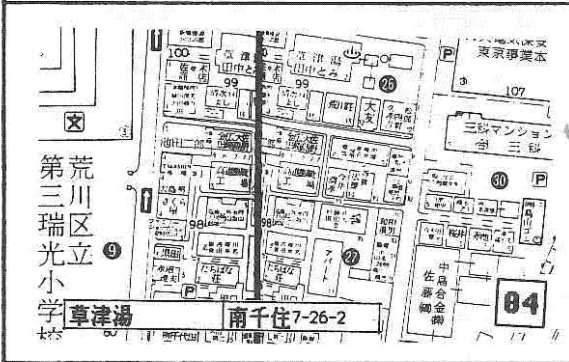
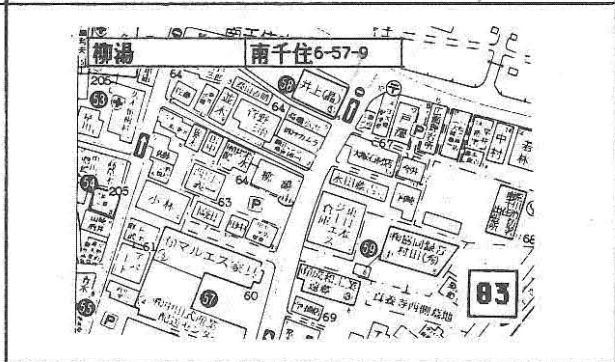
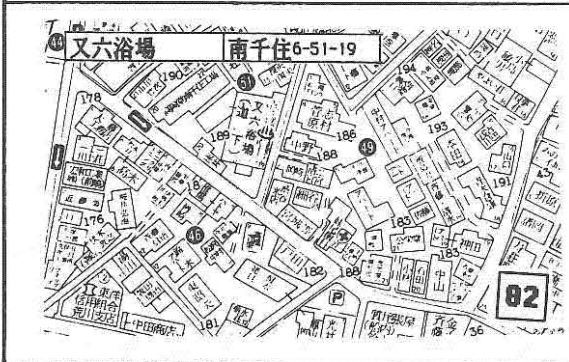
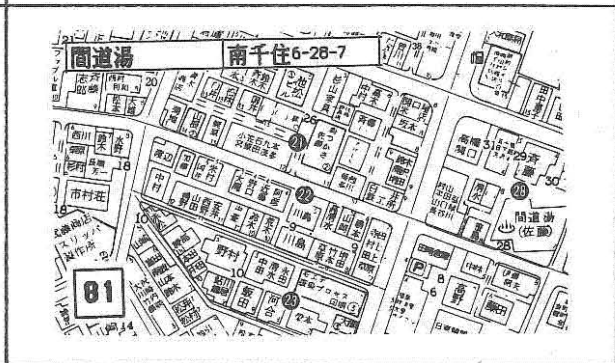
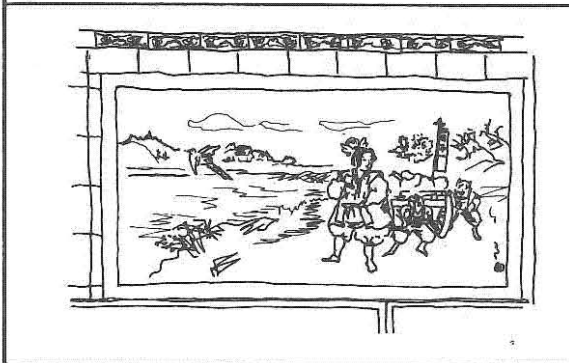
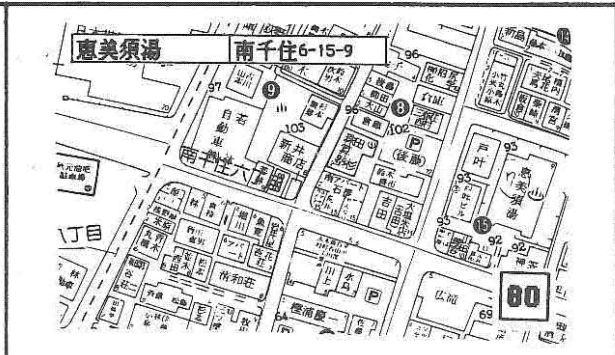
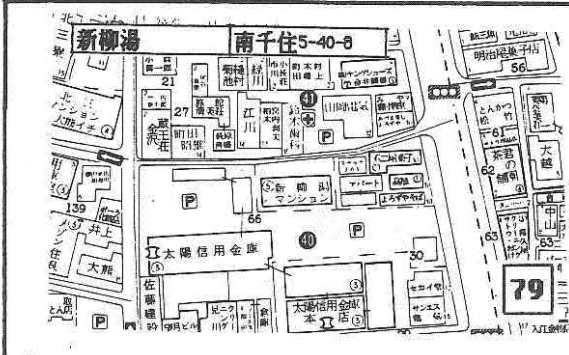
\*長い伝統のある店々ばかりであるが、経営者の方々はその歴史性を守ろうと必死である。だが解決策、選択の余地は余りない。しかし大勝湯のように最新設備を導入し客数を増やし成功している例もある。現在の社会状況の中、古いものと新しいものの融合はうまくいくか、銭湯経営者はこうした悩みを抱きながらその渦中を生きている。



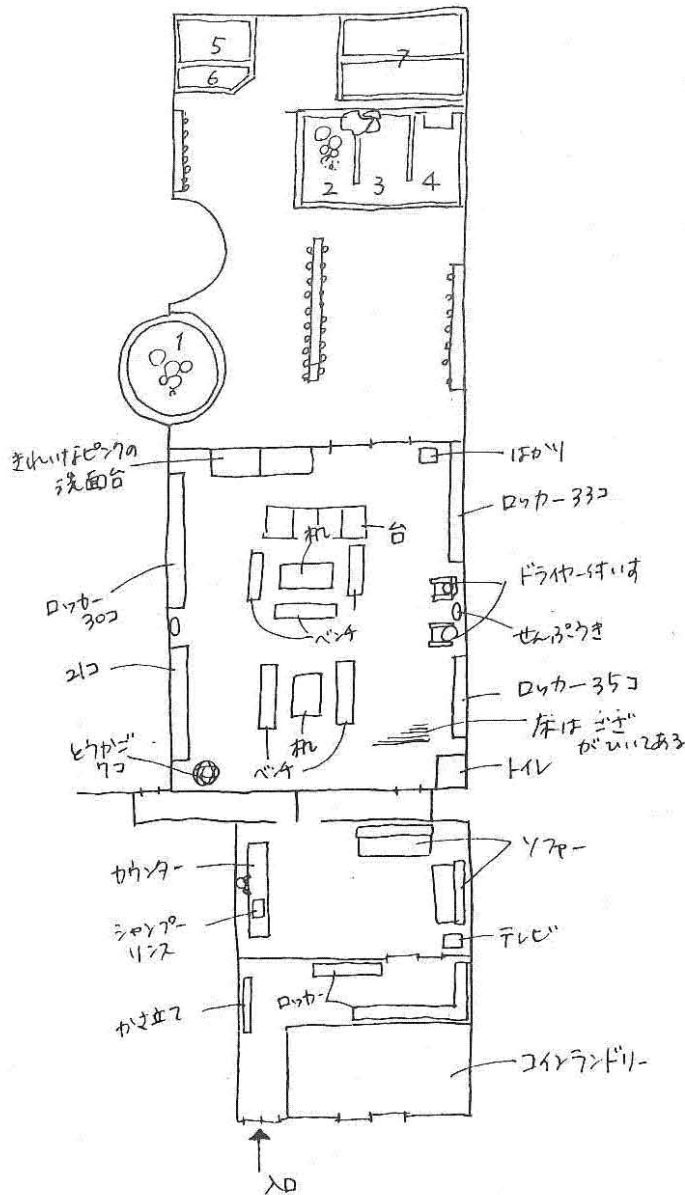
# 案内図



# 案内図



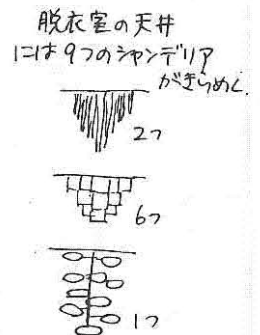
女



## 72. 大勝湯

- 店構え……にぎやかな商店街のまん中にあるビルの1階。ビルにはほかに、サウナ、スイミングスクールが入っている。
- アプローチ……のれんあり。
- 脱衣室……番台はカウンター形式で、ロビーにはソファやテレビがおかれ、客がくつろいでいる。天井にはシャンデリアがきらめき、ホテルのロビーの雰囲気さえある。
- 浴室……7種類もの浴槽がある。とにかくぜいたく、レジャー施設のような。  
コインランドリー……12台あり。
- ヒアリング……新しく改造してから客が増えた。次の代はまだ考えていない。  
サンケイ新聞にのったことがある。  
混んでいて、みんなお風呂を楽しんでいる感じ。  
駅、商店街の近くでアパートが多いという好立地条件。  
こんな景気によさそうなお風呂やさんは初めて。

1. 疲労回復湯
2. 座風呂
3. 低周波風呂
4. 打たせ湯 (上から湯が落ちる)
5. ラドン風呂
6. 水風呂 (ビズクリン)
7. 寝風呂 (白色)



## 73. 弁天湯

- 大正10年ごろ創業、2代目。
- アプローチ……外に看板がまったくない。のれんあり。
- 脱衣室……ごくふつう。庭に二の宮キンジロウ、福の神、とうろうなど、風流な石の置き物がいくつもある。
- 浴室……正面のかべに、色タイルでモザイク状に描かれた絵、横のかべに九谷焼の絵、浴そうが大理石、床がオパールのように光るタイルでできている。  
かなりお金をかけていると思われる。  
コインランドリー……なし。

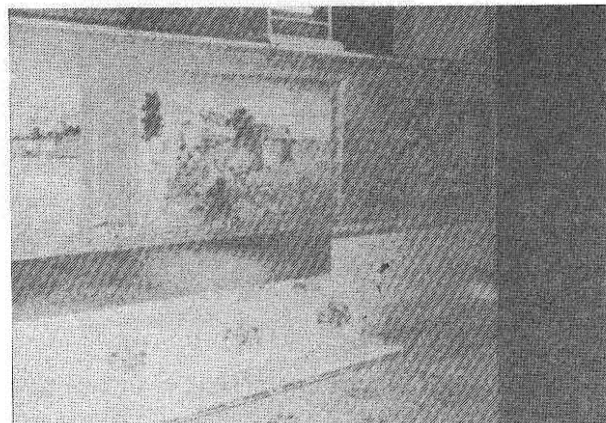
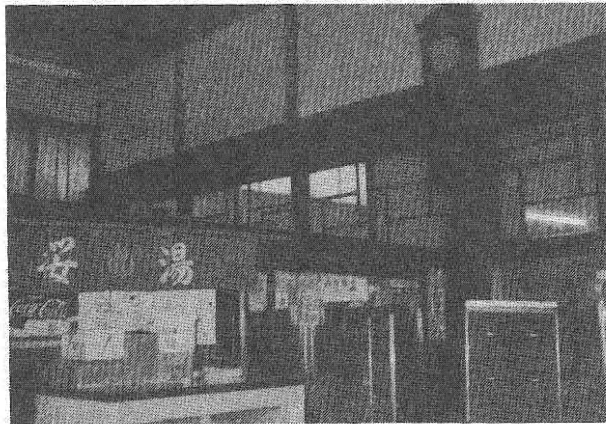






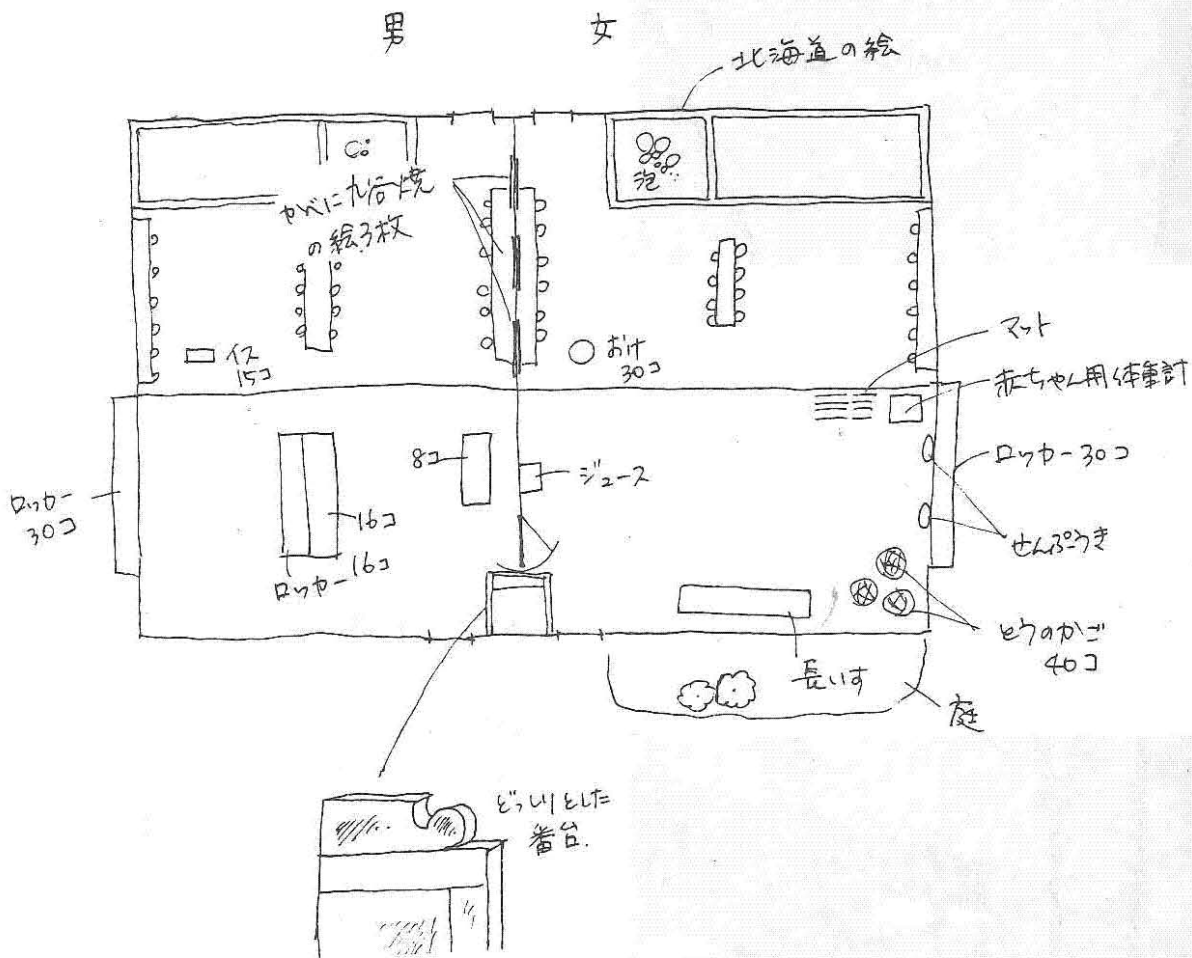
- ヒアリング……夫婦2人でやっているので大変。パートを少し頼んでいる。まきは労力がかかるので電気。いやなときは、酔って文句を言う客。いいときは、がんばってください、ありがとうと言ってくれるとき。つらいのは夜2時から3時に仕事がおわること。でも、がんばろうと思っても、お金が入らなくちゃやっていけないわよ。うちなんか、明日にでもつぶれるかもしれない、と悲観的なことばかり言う。子どもに、「大勝湯は温泉でうちは公衆浴場だ」と言われるそう。このおばさんは頭が痛くてもなおっちゃうぐらいお風呂が好きだから、やっているのだそう。規模が大きいだけに修理にお金がかかるのでできない。子どもはつがない。ビルにするとかいう人がくる。

## 74. さくら湯



- 店構え……明治通り沿いにあり、南千住のお風呂やさんの中ではもっとも歴史を感じさせる外観。白ぬりのへいと、黒い瓦が重厚な雰囲気をつくり、車の騒音の中、ここだけがひっそりと異次元の空間をつくっている。
- アプローチ……接道部は長い方だが、表通りに面しているため、かえって目立たない。のれんあり。
- 脱衣室……女湯には藤のかごが40コもある。男性はロッカーを好むらしく、7コと少ない。女性でも慣れない人はロッカーを好むそうだ。番台が重々しい木造りで光っている。若いお母さんと子ども用の小さなマットがたくさんある。赤ちゃん用の体重計が珍しい。赤ちゃん用ベットがこれまた藤製！
- 浴室……かべの絵が九谷焼で素晴らしい。天の橋立て、琵琶湖、コイなどが描かれている。男湯のみいすあり、女性はあまり使わないそう。
- ヒアリング……燃料は重油とまきを併用。夫婦2代で仕事を分担してやっている。客は、以前は8～9割の人の名前がわかったが、今はマンションや下宿住まいの人が増えてきているので名前もわからなくなってきた。

お客さんが減っても、借金はせずに、食べられるところまでがんばるつもり、という若旦那さんは4代目、ほかのところで、この旦那さんは養子とうかがったが、とても生き生きしていてあまりいない貴重なタイプ。やはり古いのれんに誇りをもっていらっしゃるからなのでしょう。



## 75. 常磐湯

- 店構え……明治通り沿いの交差点にあり、山谷のまっただ中。
- 看板、のれんなく、さびしい外観。
- 脱衣室……ごくふつう。
- 浴室……ごくふつう。
- コインランドリー……並びにあり。洗たくき12台ぐらい。
- ヒアリング

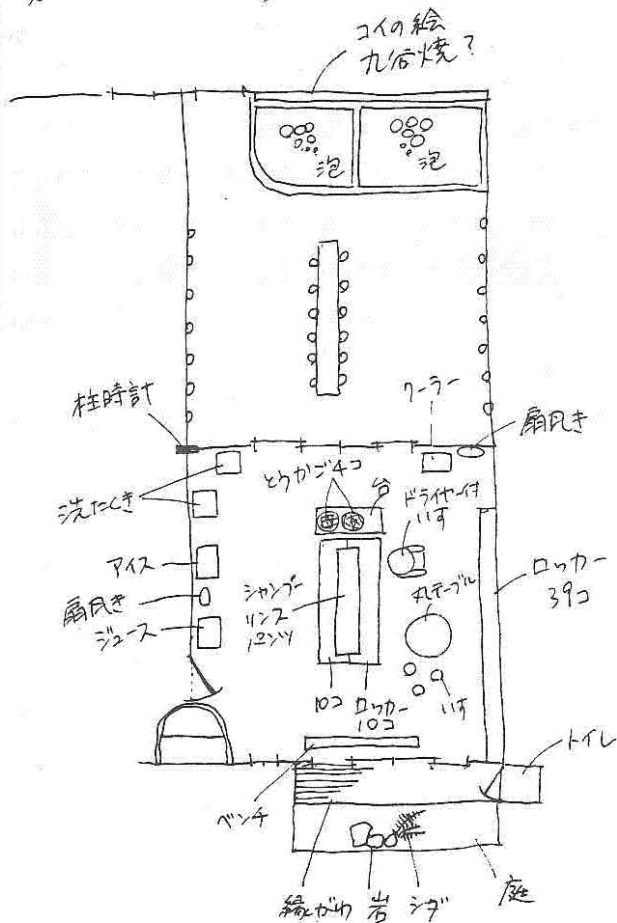
この女主人は、着物の似合う、とても上品なかたで、山谷に咲く一輪の百合とでもいった雰囲気でした。25年間働いている従業員の女性2名と、女性ばかり。

昔は、現金商売だからぜいたくしなければやっていけるいい仕事だったのよね。でも今は、入りが少なくてね。

この辺は労働者の多いところなのだけど、その人たちの泊

男

女



まる宿にお風呂がついたり、仕事が減って、人自体も減ってきたのよ。オリンピックのころが一番よかったわね。だんだん減って、オイルショックでさらに減ったわね。それから、前は子どもが多かったけど、今は手持ちになるとアパートを出なくてはいけないから子どもが減ったし、女性も少なくなったわね。

やってよかったと思うことは、いろいろな人がいて話が聞けることだけど、今は女の人が少なくなったから、前ほどではないとさみしそう。

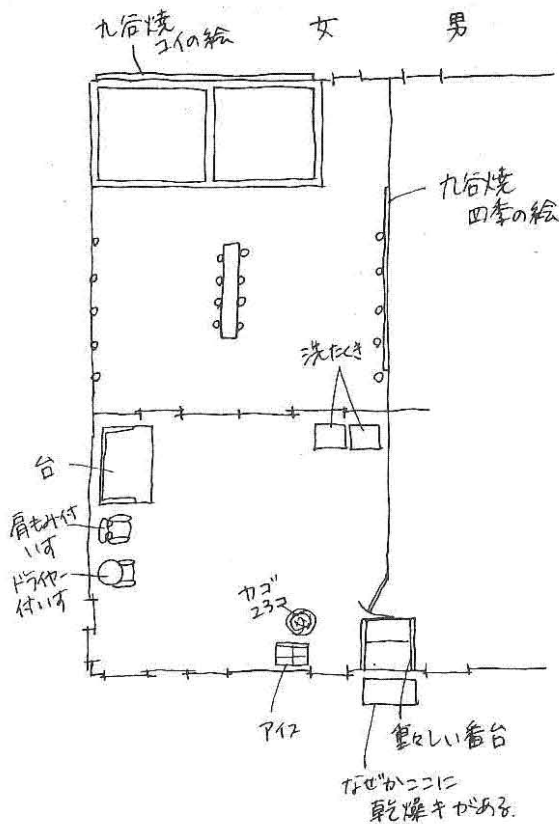
この辺の風呂屋では、隣の2件が失なってしまったけれど、場所によってはよくなったところもあるはずよ。大勝湯さんなんか、とても立地がよいもの。

森光子の「時間ですよ」見ました？あれなんかはとてもよい時代の話よね、としみじみおっしゃっていたのが印象的でした。

## 76. 大一湯

- 大正12・13年創業、3代目。S.42.7.1 から借りている。この辺ではさくら湯の次に古い。
- 店構え……ごくふつうの木造。なにげに廃屋に近い……スミマセン!!
- アプローチ……細い横道に入ると入口があるので、わかりにくい。他のいくつかの風呂やと同様にまきがドットつみ上げてあるので気づく。看板あり。
- 脱衣室……番台が木製で、みがきこまれたどっしりと重々しいもの。さくら湯と同じタイプ。やはりどちらも古い風呂やさんだからかな。そのほかは、ごくふつうで、うすぐらい感じ。
- 浴室……入って正面のコイの絵と、男湯との境の壁の四季の絵が、九谷焼のタイルで描かれており、素晴らしい。絵の左端下に陶山画、鈴栄堂と入っている。お客さんの中にはこの四季の絵を写真にとったり、又、それを写してふすまに描いてもらう人もいるそう。色が鮮やかで、60年もたっているとは思えない美しさ。この九谷焼もやはりさくら湯と共通。
- ヒアリング……夫婦2人でやっている。燃料はまきのみ。製材所から自分で運んでいる。重労働だが、昔、岩手にいた時には木炭を扱っていたから慣れてい





る。

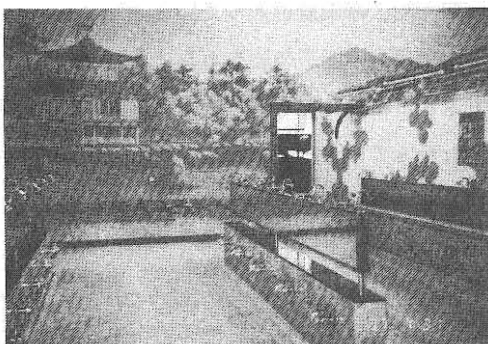
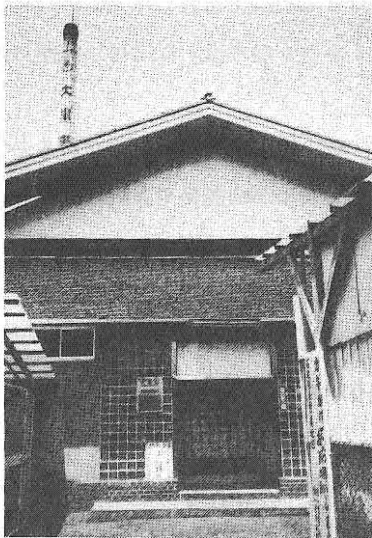
わかすのにかかる時間は、夏1時間半、冬は3時間以上かかる。

客数が減った。原因は工場・国鉄がいなくなったのと、ふろつきマンション。若い人も所持持つと郊外へと移って行く。若い人が少なく、年寄りが多い。赤ちゃんは1人も来ない。この辺は小学生が少なく1つの学校に100人もいない。そのため、汐入の小学校といっしょにしようかという話もある。

客が減っちゃって、うちはやっそこ風呂屋やってるようなもの。

- コボレ話……とても人のよいおじさんとおばさんでした。この辺は昭和17・8年ごろにガスに変わった。昔は石炭とか燃料屋が多かったそうです。最近是人が越したあとは、駐車場になってしまう。でも、堀切、足立、亀井戸なんかには比べるとこの方がガス、水洗トイレ、交通の面でもよい。

駅の跡地に大企業が入ればここも地価が上がるだろう、とのこと。

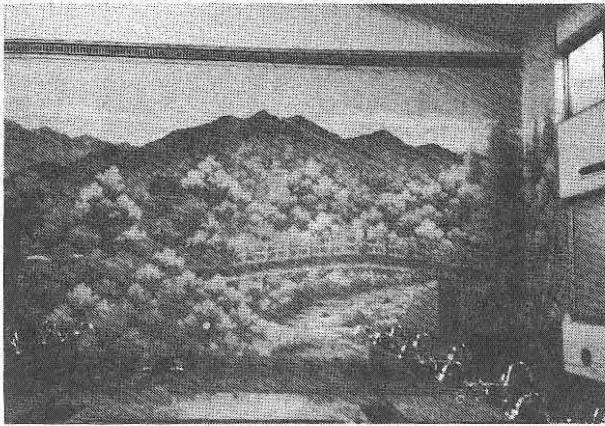


## 77. 大黒湯

- 昭和24年以前に創業、昭和56年改装。
- 店構え……敷地面積が他に比べてとても広い。店構えも立派、えんとつも立派で、マークと大黒湯という字が光っている。
- アプローチ……商店街からごく細い道を入ったところにある。
- 脱衣室……南千住一の広さ。
- 浴室……同じく、南千住一の広さ。
- ヒアリング……夫婦と番頭さんの3人でやっている。番頭さんはもう7年になる。10:00から6:30まで手伝ってもらうので、その時間はまきでわかし、それ以降は手のかからない重油でわかすのだそうです。

最近、自家風呂がふえ、人口も若い人の数も減ったので、お客さんも減ってしまった。昔は赤ちゃんも多くて、ベットが10コ以上あったそう。

20年前はよかったけれど今はよくないと暗い表情。風呂屋やめてほかに商売することもできないから、ぶっこわれる



までしょうがないよ。

駐車場にしたいくても、接道部がたりないし、ビルの建てかえは、資材の運搬が、道が狭いので、長時間かかってしまうから、その間、収入が入らないのでできない。

ご夫婦で家の中に通してくれました。お話を聞いていると、行く末に不安を抱いていらっしやるようでした。

こんな立派で大きなお風呂屋さんなのに、さびれていってしまうのはさみしいなあ。

## 78. 高城湯

- 昭和30年創業 1代目。
- 店構え……接道部は広く、立派。
- アプローチ……煙突が常磐線からよく見える。
- ヒアリング……お母さんと息子の2人でやっている。

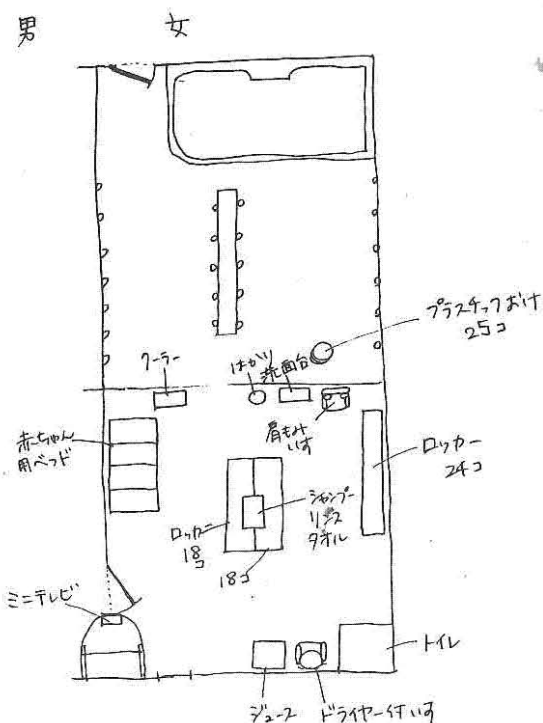
重油でわかす。

昔は5人くらいで働いていた。

ビルに建て直し、人には貸さないつもり。

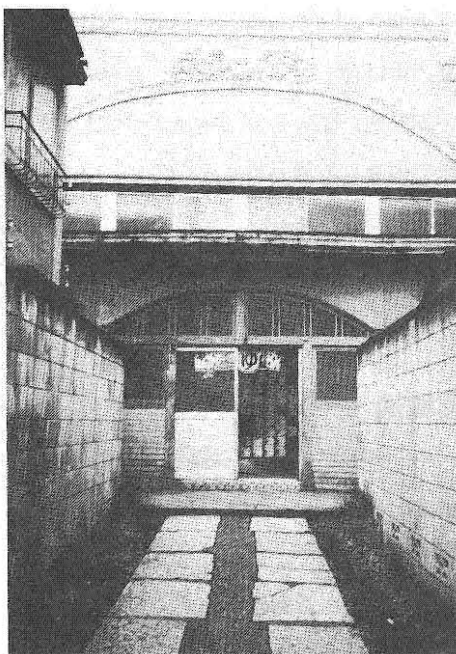
冷たい対応 クスン

## 79. 新柳湯



- 店構え……マンションの1階にある。
- アプローチ……商店街から細い道に入るとある。目立たない。小さい看板が2つほどある。マンションのわきにまきがドットつまれていて妙な感じ。
- 脱衣室……ごくふつう。
- 浴室……ごくふつう。
- ヒアリング……3度目に約束とって出掛けたのに「お父さん昼寝している。」と生意気な坊主。その後 Telしたら「うちがいい、忙しい、そなひまはない。」ということで、開店前に勝手に上がりこんで、スケッチしてきてしまいました。

## 80. 恵比寿湯



- 昭和の初めに創業、2代目。
- 店構え……古い建物。
- アプローチ……のれんあり。
- 脱衣室……ごくふつう。  
男湯の方が庭が広く、日の当たる側にある。  
木製のたらいが珍しかった。
- 浴室……ごくふつう
- ヒアリング

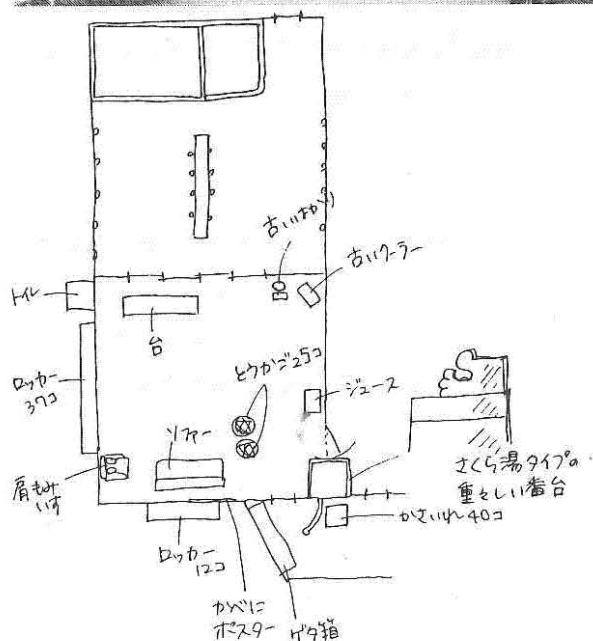
客は減ってきている。長屋が新築され、風呂がつくようになった。

夫婦2人でやっている。そうじの人がやめたので大変。  
重油がほとんどで、まきをたまに使う。

お客は常連ばかりで、げた箱、ロッカー、座る場所なども決まっている感じ。

風呂やをやっていて「よかったと思ったことなんかあったかしら」勤め人と違いのんびりマイペースでできる点はよいが、夜にでかけられないので不便。

番台の上にあるテレビには、昔は黒山のひとだけりができたそうである。



## 81. 間道湯

- 昭和7年につくった建物。S. 38年から借りてやっている。
- 店構え……古い建物で、ちょこんとある。
- アプローチ……のれんあり。
- 脱衣室……番台が歴史を感じさせる。さくら湯と同じタイプ。
- 浴室……ごくふつう。
- ヒアリング……夫婦2人でやっている。子どもにつがせる気はない。

このお風呂の持ち主も、新宿で風呂やをやっている。  
お客は、若い人や子どもが減ってきた。来る人は常連がほとんど。

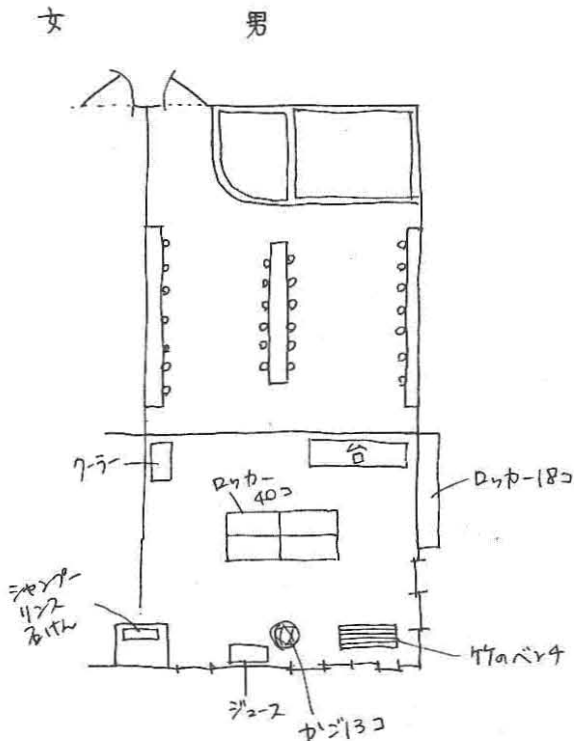
風呂やをやっていてよかったと思うのは、お客と世間話ができるとき。

お話して下さった若い大柄なスポーティな奥さん、そう



じ中のところいやな顔一つせずお相手してくれました。

## 82. 又六浴場



- 店構え……ごくふつう。
- アプローチ……住宅街にまぎれこんで目立たない。のれんあり。
- 脱衣室……ごくふつう。
- 浴室……ごくふつう。
- ヒアリング……奥さんと2人でやっている。

近ごろは家族づれがいなくなった。

この辺にいる人はだんだん越谷や草加へ移っていってしまう。

「下町のよさ」なんて10年前になくなったよ。みな、住みたいとは思わなくなって、捨てていってしまうんだ。

おふろやはもうはっきり言ってだめだ。

お客さんが喜んで、経営している方はたまらないよ。

荒川区の人口が35万から17万に減ったって知っているのかい？

固定資産税がおっつかないから、いずれは土地を売るつもりだよ。ビルをたてようたって、先立つものがないからね。

おじさんの口調は荒かった。麻布10番出身、麻布中学卒業のおじさん、賢いだけに、風呂屋をやっていることを腹立たしく思っらっしゃるようで、私は気の毒でした。

## 83. 柳湯

- 店構え……ちょっとハイカラ風な外観。
- アプローチ……細い道沿いにあるが、接道部が広く、しゃれた建物なので目立つ。
- 脱衣室……男湯にはロッカーしかないが、女湯にはかごがある。やはり好みが違うのであろうか。
- 浴室……ごくふつう。
- ヒアリング……夫婦2人でやっている。たまにバイトが1時間くる。  
B重油とまきの半々でわかしている。

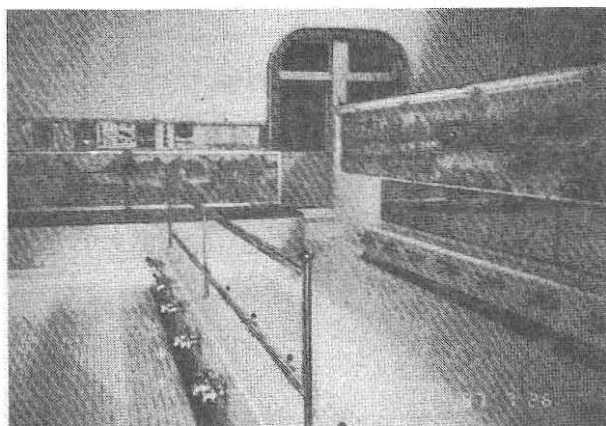
戦後～昭和30年ごろには、1日に1,000人来たが、今は200～3000人と減ってしまった。

たてものがいたんだときのことが問題だが、いけるところまでいくつもり。やっていてよかったと思うことは、やはりお客さんがよかったといってくれるとき。社会奉仕的な仕事だよ。

きついのは、夜の2時に寝ることと、休日に休めないこと。

ビルにしてしまうと、複数の所有者や、住居者がでてくるので、あとあとめんどろ、それにビルにするのはさみしいから断っている。駐車場にでもしようかと思う。

リヤカーからまきを降ろし終わったころ、声をおかけしたら、汗いっばいのまま、にこにこ話してくれたやさしいおじさん、ジュースありがとう。



## 84. 草津湯

- 大正13年以前に創業。昭和23年から2代目。35年に建てかえ。
- 店構え……黒い瓦が重々しく風格あり。
- 脱衣室……ピカピカで広い。  
きれいに整頓されていて気持ちよい。  
赤ちゃん用ベットの上にはおもちゃがぶら下がっている。
- 浴室……かべに兼六園の九谷焼の絵あり。建てかえのときにした。
- ヒアリング……お母さん、長男夫婦、三女の4人でやっている。

以前は重油だったが、今はほとんどまきだけでわかしている。

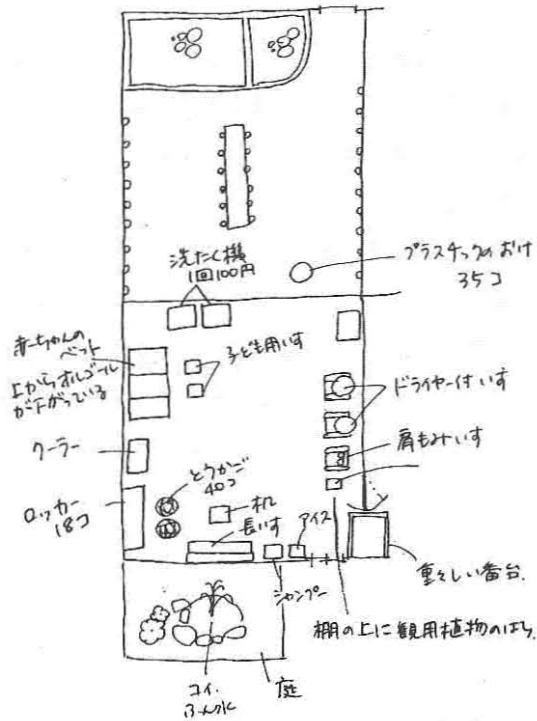
家庭風呂がふえて、お客はへったそう、マンション住まいの人が、たまに温泉気分でくるそうです。

子どもが少なくなって、1才の赤ちゃんが1日に1人か2人、幼児が5～6人、小学生が5～6人くらいしかこないそうです。

この下町チャキチャキのお母さんはお風呂が大好きでそうじすると気持ちいいでしょと言って、ほんとにもうどこもかしこもピカピカで気分そう快、私はピカピカ大賞をあげたい。

今の人は楽しんで生きたいから、風呂やなんていやでしょう。

女 男



うちは息子があきらめてついでにしてくれているけど、ふつうは勉強しちゃうと、風呂やなんてバカバカしくてつがなくなっちゃうのよ。

番台が上がってもらって、写真をとらせてもらったときにはかみ方がかわいかったなあ。お風呂から生まれたような肌のきれいな、気さくで品のよい、ステキなおばあちゃんでした。下町のお母さん大賞もあげちゃいたいくらいです。

ちなみに、このお母さん、実家も「草津湯」というお風呂やさんで、親せき30件が風呂やをやっているという、風呂や一族のかたでありました。

写真送りますね。

## 85. 活気湯

- 店構え……木造・目立たない。
- アプローチ……細い道に折れたところに入口があるのでわかりにくい、つみ上げたまきが見えるので気づく。
- ヒアリング……夫婦2代4人でやっている。

まきのみ利用。春日部にある知り合いの解体業者から買う。

S.54 までは油だったがオイルショック後に変えた。

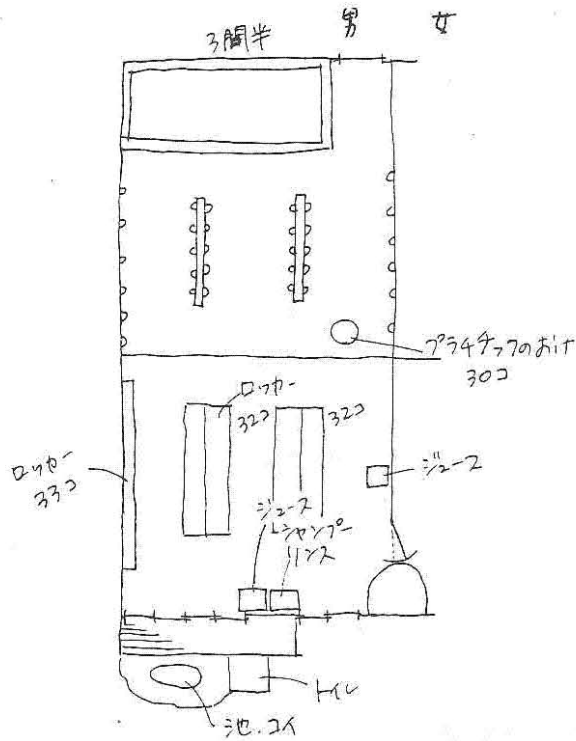
客数は減った。近くの紡績会社が2社つぶれた。客の年齢層は高くなった。あと2~3年すれば再開で営業できなくなる。ここは広場になるらしい。改造してもお金がムダになるからしない。

風呂屋は都心ほどやっていけない。銀座には、テアトル東京の裏に1件あるのみ。代官山みたいにおしゃれなところじゃ、1日30~50人くらいしか入らないヨ。(よく知っているなあ)

おじさんが湯や番のときのミュージックはディスコティック、おじいさんは民謡をかけるのだそうです。楽しいお風呂屋さん。

- コボレ話……新小岩の大黒湯(丸山さん)は親せきで、テレビにも出た超近代的な風呂屋だから是非行くようにと勧められた。なんでも、カウンター形式、電気湯(電気でおかすのは金がかかるが安全でかつ便利)、コインランドリー設置(都内初)など先端をいく風呂やだそうで、「では、日本の風呂やの将来はそこで聞くとわかりますか?」





と聞くと、大きくなずいてらっしゃいました。その若だんなはたいそうなやり手だそうです。

忙しい中、仕事の手を休めて話して下さったこのおじさん、話題が次から次へと出てくる頭の回転の速い、下町にはめずらしく実業家肌のかたでした。新小岩の若だんなといい、やはり血すじかしら。

風呂やのほかに貸店舗、アパート(八千代台)ももっていて、貸屋のノウハウまで教えてくれました。多少値は高くても、質の高いものが好まれるそうです。"今の人"の感覚をお客から常に仕入れているそうで、私にも質問が飛んでくるほど研究熱心でした。この人ならどこへ行っても生き残れるんだらうなという強さを感じました。ほかのお風呂やさんにもこの強さを分けてあげてほしい。

## 86. 潮の湯



- ・大正12年創業 3代目。昭和18年に買って、30年に改築。
- ・店構え……とても立派でひととき目をひく、どっしりとした屋根には鬼がわらが光っている。
- ・アプローチ……住宅地の中にあるが、接道部が大きく、建物も立派なので目立っている。
- ・脱衣室……ごくふつう——と思ったが天井を見てびっくり、赤松のはりと、けやきの板がみがきこまれて光っている。壁との境目のカーブが美しくアールデコしている。また、天井近くに大きくとられた窓は、その枠組みがやはり美しくデザインされ、大正ロマンを感じさせる。

コインランドリーが建物の並びにあり、4台、洗濯機

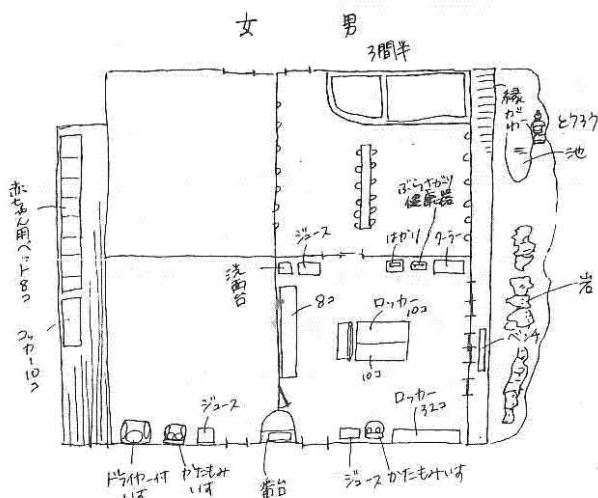
- ・ヒアリング……おじさんと子ども夫婦、パート2人の計5名でやっている。

まきと廃油(重油より安い)を使う。

客数はS.32年ごろは1日1,000人入ったが、今は350人くらい、1日に400人は入ってほしいそうです。減少の原因は家庭風呂がふえたためだろうとのこと。

建物は、外人の方や、雑誌記者がわざわざ見にくるそう。脱衣室の天井にわたしてある赤松はご自分で千葉の山で採った大木を使ってあるそうで、今ではもう手に入れるのは難しいとのこと。

- ・コボレ話……この地区は都による再開発の渦中にあります。このご主人(おじさん)はどうやら付近の地主さんの集





まりのまとめ役をやってるらしく、なかなかの貫ろくと落ちつきのある方でした。最近はや所との話し合いでとても忙しいそうです。ご主人曰く、都のやり方は地主にとって不利である、税金控除と、高額買取を望むものである！

また、この方は、汐入りの歴史についても造詣が深く、お聞きしたところによると、ここは上杉謙信の家臣5人が北条氏に追われ、住みついたところで、その子孫のつくった寺が残っており、また、住人にも高田、など特定の姓が多いとのこと。さらに自分のところで井戸をほったら110m地下に貝がらの層が見つかったことから、ここは昔、海であったとも、おっしゃっていました。



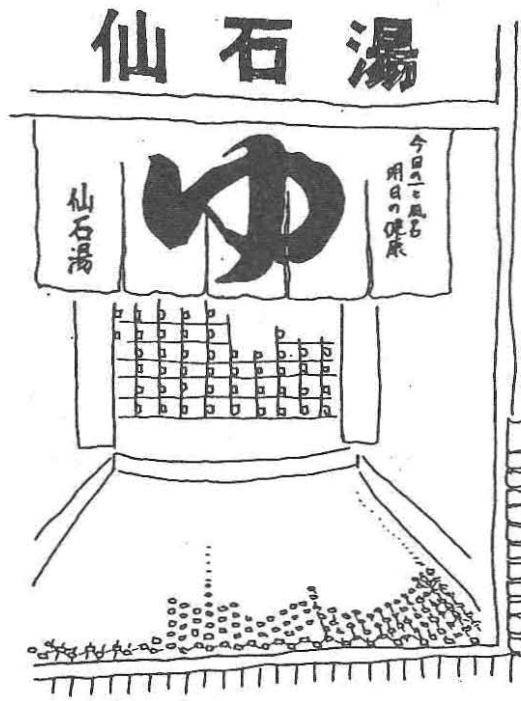
「はだかのふれあいイベント」

## 2. 荒川 銭湯考





## 2-1. 銭湯の現在と傾向



その1. 今は銭湯がもうかる時代ではないことを経営者は皆んな感じていてあきらめながらも続けている。「もうダメだなあ」とか、「仕方なく、意地でやっている」人が多い。

その2. 入口の暖簾に「ゆ」とか「男女」とか描かれたのが以外と少なかった。また、小さなノレンが多くて、残念だった。ノレンそのものが持っている「お風呂屋さん」的雰囲気をもっと大切にできればと思う。

その3. 番台の対応が感じよいと、風呂に入っても気持ちが良い。また、親切な番台は風呂もキレイな例が多かった。



その4. お金を置く番台の天板が、すりへって汚れている風呂屋があった。お金を毎日洗剤で洗ってピカピカにしている銭湯もあった。「お客さんにきれいなお金で、つり銭を渡したいから」とのこと。



その5. 新築の場合、番台をフロント式にするケースが多い。その理由として、

- (1) 番台からの視線を気にする客がいる。
- (2) フロントにすると、男女共通の待ち合い室ができるから、カップルの客には便利である。
- (3) 風呂上がりにくつろぐスペースをゆったりとるには男女一体の方が都合が良い。
- (4) コミュニティの場としては男女がいっしょになる空間が必要である。
- (5) マッサージやアスレチック、大きなテレビなどの設備を男女別々に設置するのはたいへんである。

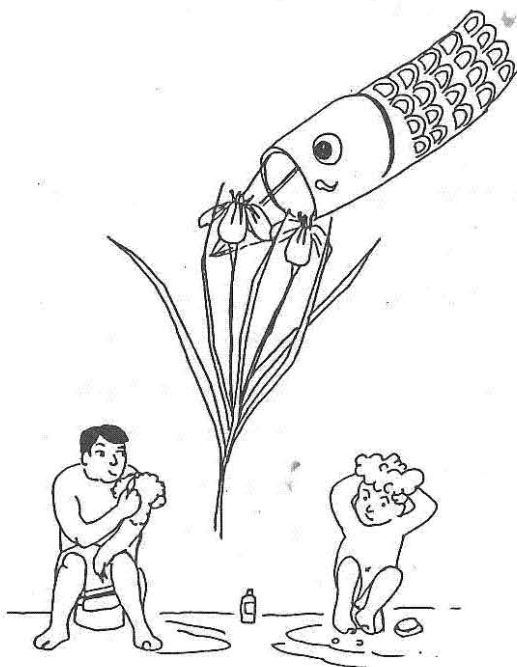


等が挙げられる。フロント式にすると若い客（特にアベック）が増えるとのこと。確かに、家族ぐるみで楽しむためには、また銭湯のレジャーランド化にとっては、フロント式は時代の流れであるように思う。

その6. フロント式を採用して新しい空間づくりに努める銭湯がある反面、やはり昔からの番台形式を大切にする銭湯もある。フロント式の最大の弱点は、入浴中のお客さんを見れないところにある。「私たちは、お客さんが無事に入浴しているか、最後まで責任を持って見とどけないといけないんだヨ、お年寄りも多いし。お客に背を向けて商売はできないネ」の言葉が印象的だ。



その7. 男湯、女湯の位置は定まらなく地域差もなかった。入って、右手側に女湯のケースが若干多く、男女湯の左右位置の設定理論はまだわからない。



その8. お風呂の経営は、オーナーの意欲によるところが多い。またオーナーの意欲は客にすぐ反映するから、楽しいところもある、とのこと。例えば

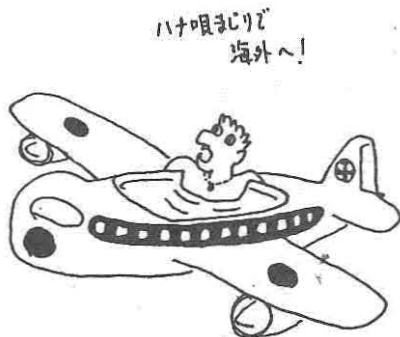
- (1) しょうぶ湯、ゆず湯、レモン湯のほかに、コーヒー湯（ちゃんと豆をひいて使っている）などを行っている。
- (2) 常連の人たちと、毎月1回「温泉巡り」を企画、実施している。6月は霧島温泉、7月は玉川温泉……を続けていると口コミで仲間が増えるので営業効果もあるし、楽しい。
- (3) 「お風呂セット」を30セット常備している。おけの中に「セッケン、湯あらいタオル、洗髪ブラシ、シャンプー、タオル」の5点が入って300円、毎日フル活用で余ることは少ない。

その9. 最盛期には客数が1,000人以上いたため、「千人風呂」と呼んでいたが、今はどこも2～300人程度になっている。都心では区立の銭湯とか、補助金がないと経営できなくなった。荒川がそうなるのも近いのではないか。



その10. 湯舟の数は、2個が通常だが、新築したものでは、4～7個とレジャーランドのような浴室もできている。調査できた湯舟の種類は以下の通り。

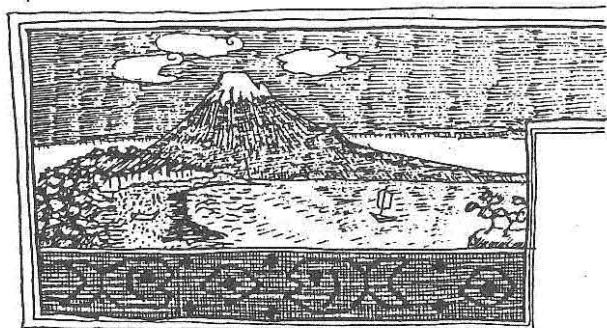
1. 疲労回復湯
2. 座風呂（浴槽が椅子式で気泡が流れている）
3. 低周波風呂
4. 長音波風呂
5. 打たせ湯（上から湯が落ちる）
6. ラドン風呂
7. 水風呂
8. 鉱泉風呂
9. 寝風呂（お湯ぶとん）
10. 激熱湯（手足を入れないで下さいの注意書きがある高熱の湯舟、利用はさし湯とのこと）
11. あつい湯（44℃、46℃、48℃と温度差順に湯舟があるのが最高）
12. ふつうの湯
13. くすり湯（バスクリン、にんじん、ガリウム）
14. 電気湯（6ボルトの電流が流れている）
15. バイブラ風呂（熱音波風呂）
16. 回転風呂
17. 低周波電気湯
18. 薬草湯
19. ジェット湯
20. 露店風呂
21. ジュピナバス（四方八方からシャワーが噴射するシャワーバス）
22. その他 サウナ客がある。



その11. 銭湯の構成、雰囲気と同じように見えるのは、都条例で規制されるようになったからとのこと。



その12. 男湯だけにイスがあり、女湯はマットに座るのが比較的多かった。



典型的風景画のタイル画

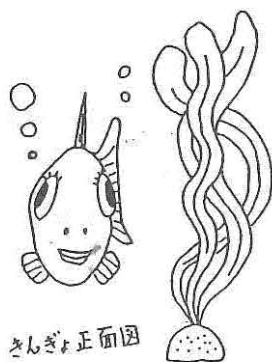
その13. 壁画は富士山のペンキ画が最も多かったが、割合では1割程度（8軒）と少なく以外だった。壁画のない銭湯もあり、新改築後はタイル画が増えている。その理由は、ペンキ画の職人が関東圏で3名しかいないほど減ったためらしい。

その14. 銭湯の経営者は北陸出身が多いが、荒川のタイル壁画でみごとだったのは、九谷焼による絵付きタイルである。60年以上経過しているのに、その画の鮮やかさは驚きである。写真にとってふすま絵の見本にする人が後をたたないとか、の必見物。



その15. 女湯の脱衣室には必ずベビーベットがあるが、利用者は年々減っている。赤ちゃんができると自家風呂で生活するのが、現代のパターンになってきている。

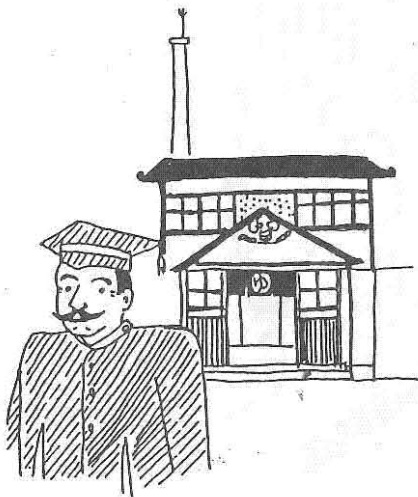
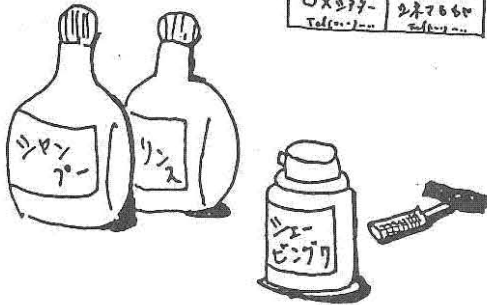
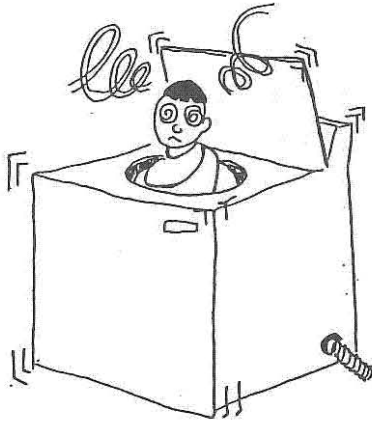
その16. 常連の多い銭湯の脱衣室には、比較的籐のカゴが多いが、男性や若い女性はロッカーを好む傾向にある。



さんざん正面図

その17. 脱衣室は、本当に満艦飾である。置かれてあるものを列記すると、

1. テレビ（大型がでてきた）
2. せんふうき（天井からぶらさがっているのは少なかった）
3. 体重計（大人用、子供用、デジタル式もある）
4. ぶらさがり健康機
5. マッサージ機（足の裏から背中、かた用までいろいろ）



6. 金魚 (何故かよくみかけた)
7. 飲み物 (自動販売機が増えている)
8. 観用植物 (ポトス、センノ木、金のなる木)
9. 雑誌
10. クーラー、エアコン
11. 洗たく機 (コインランドリーが増えている)
12. ソファー、長イス、イス、子供用のイス
13. TVゲーム
14. ロッカー、籐のかご
15. シャンプー、カミソリ、下着などのショーケース、ガラスケース
16. 洗面台
17. ゴミ箱
18. ベビーベット (女湯に多い、上にオルゴールがあったりする)
19. 時計 (昔ながらの柱時計も少なくなった)
20. デッキや有線のチューナーなど
21. スピーカー
22. 床の間と置き物
23. ポスター (映画、広告など)
24. 洗い場用のマット
25. 足ふきマット
26. ガガミ、姿見
27. ドライヤーのあるコーナー
28. 常連さんの洗面器コーナー
29. ぬいぐるみや人形が物語を語る子供劇場
30. 灰皿
31. たたみ、おぜん
32. のれん
33. トイレ

その18. 風呂屋の子供は、頭が良くなるらしい。何故か。一日中働くおやの重労働をみて育つため、「風呂屋だけは、継ぎたくない」と思い、よく勉強するからだろう。

その19. 親の方としても子供に後を継がせたくないし、また、

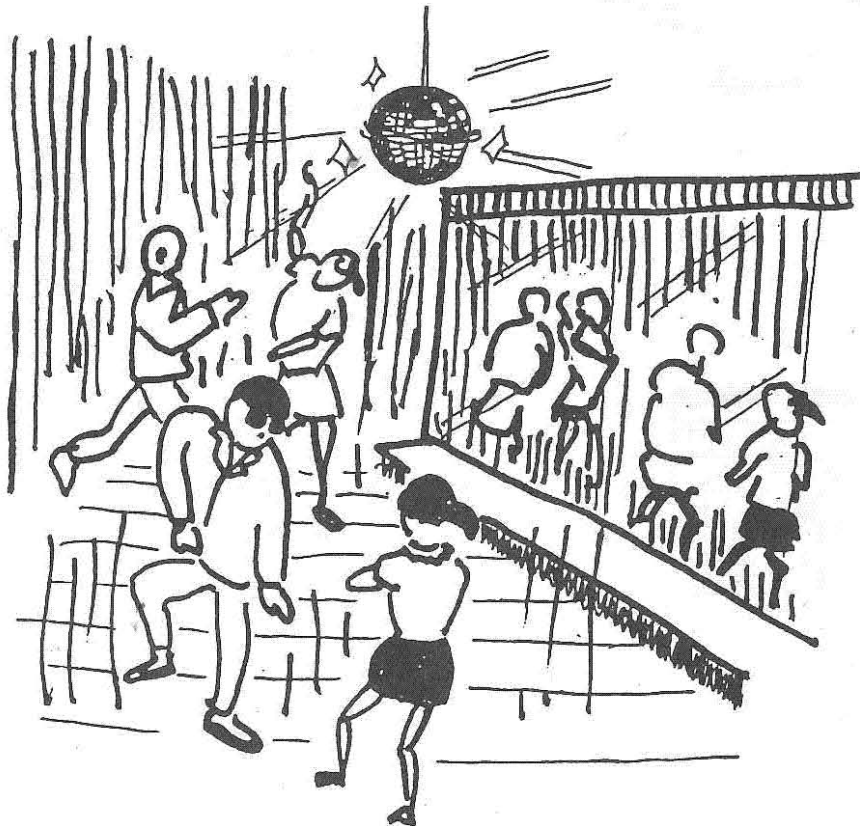
継ぐ人も少ないため、代変わり時に廃業する銭湯がかなり発生しそうである。

その20. ある経営者の言葉「銭湯は江戸時代にまちの要の施設として確立されたものだ。縁談をまかされたり、まちの人の生活ぶりがわかる情緒のある場でもあった。それが明治になると個人主義が入り、高度成長の自家風呂政策で衰退していった。それが、最近では、人のつながりのもてる施設としてみなおされてきている。けれど、ほんとうのまちづくりやコミュニティを考えるなら行政の方からの補助が必要です。」



その21. おじさんが湯や番の時は、ディスコティックで、おじいさんは民謡をかけている銭湯もあるが、総じてかかっている音楽は、演歌系が多い。青年層にとっては、ちょっとつらかった。

## ディスコ風呂





## 2-2. 銭湯ちょっと考現学

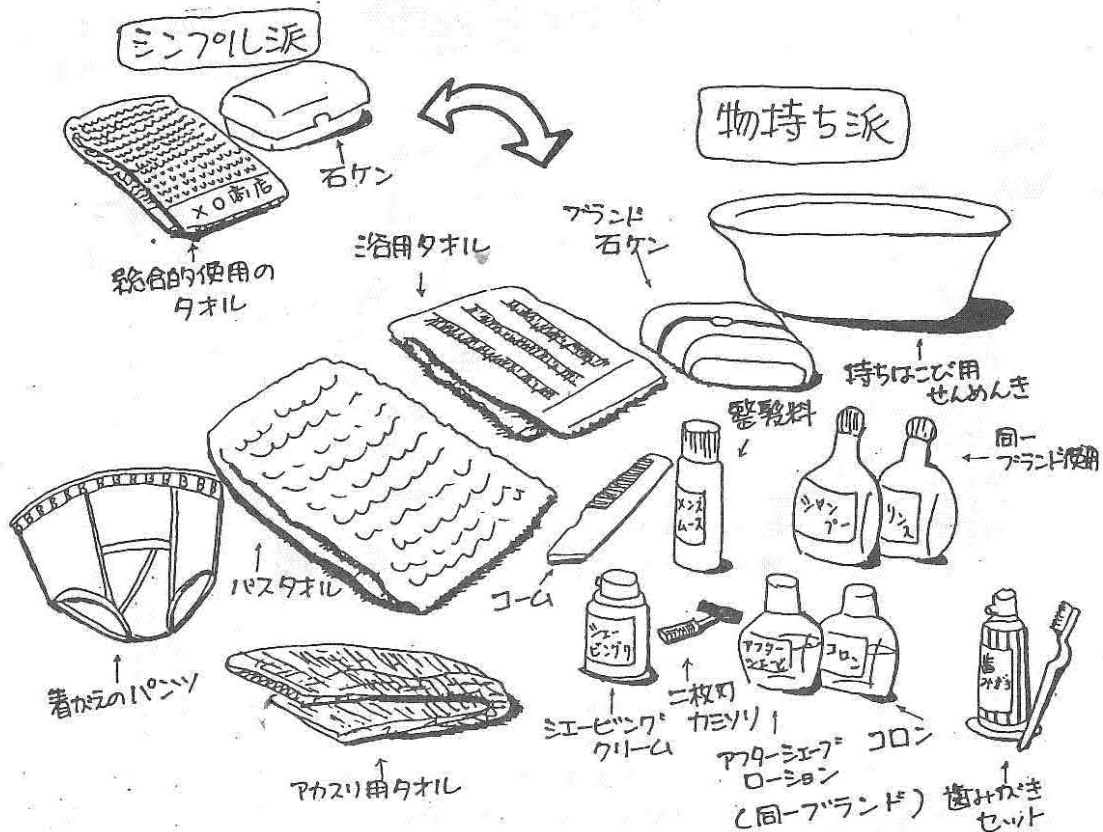
足まめに銭湯に通い、注意深く、辛抱強くモノやヒトを眺めまわすと、はっとすること、うーんとうなること、ふふふと微笑んでしまうこと……結構おもしろいものなのです。

「考現学」というのもなんだけど、とにかく観察しまくって、拾いあつめた気になるモノたちの表情や、人々のオコナイをここにご紹介いたします。

### 何を持っていこうかな

石けん、タオルをぶらさげて、ふらりと銭湯に行く人は、いない訳ではないけれど、ちょっと少なくなりました。最近ではスキンケアに情熱的な人、男の子でも結構いるもんね。スクラブ洗顔とかパックまでやっちゃうんだから。

ある日私は、アライとタオルのみで銭湯に来ていたおばさんに会いました。何故アライをもってきてたのかわからないけれど、ちたすらずばーんずばーんとお湯を浴びて帰ってしまっただ。



# 銭湯に行くいでたちは？

浴衣がけの色、ほい奥さんにはもうめったにお目になれない。



ヤングの夏の定番はやはりTシャツとジョウパンです！

夏のおばあさんには「あっぱっほ」が人気



プラスチックのかご、赤や黄のカラフルなものが多い。

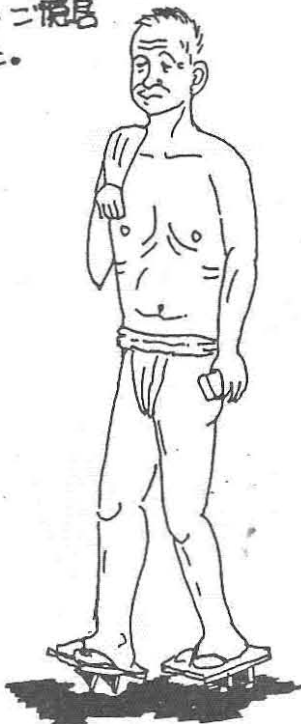
ビーチサンダル



通は下にサラシを巻く。ペタペタしないのでよい。

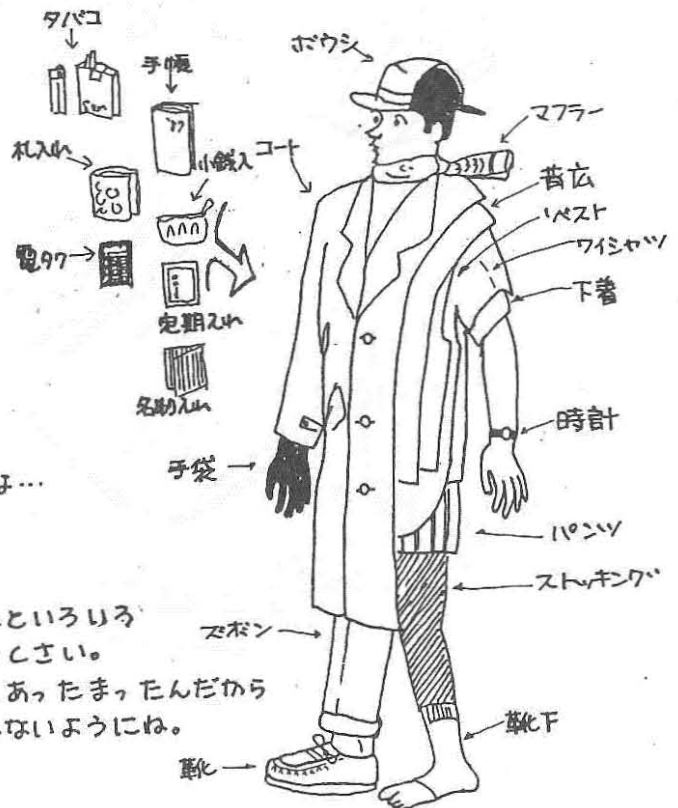
この格好で銭湯に行くと手間がかわるの☒

昔はこの格好で来る二階層だった。



若い女の子に嫌がらいそうだな...

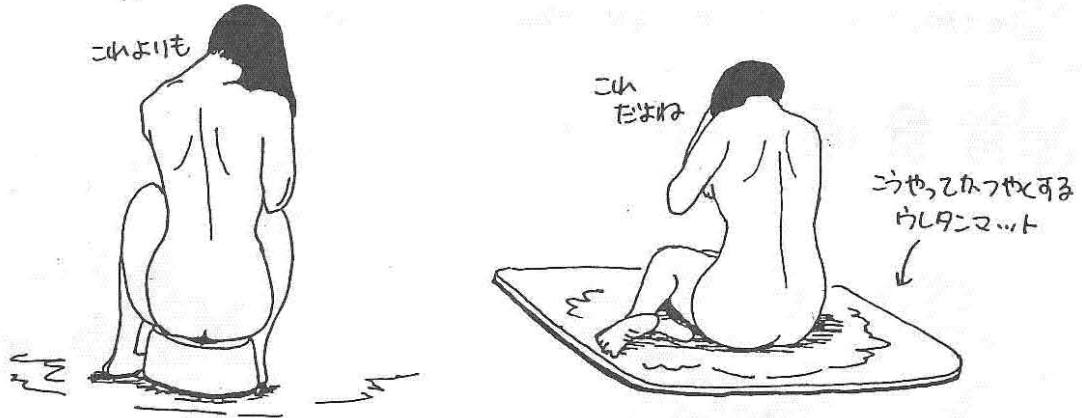
冬になるといろいろめんどうさ。せっかくあったまんだから湯がめしないようにね。



# 男はこしかけを使うけれど...

男の人は腰掛けに座って、足を広げてさまになるが、女の人はいただけない。女性にとって腰掛けはかえってやりにくいこともあるのである。と、いうわけかどうかわからないけど、女湯に腰掛けが備えつけてあるところは以外に少なかった。

その代わりに登場するのがラタンマットで、マジックで名前を書いたものを脱衣場の隅に積み重ねておいたり、子供に持たせて持参するケースもある。

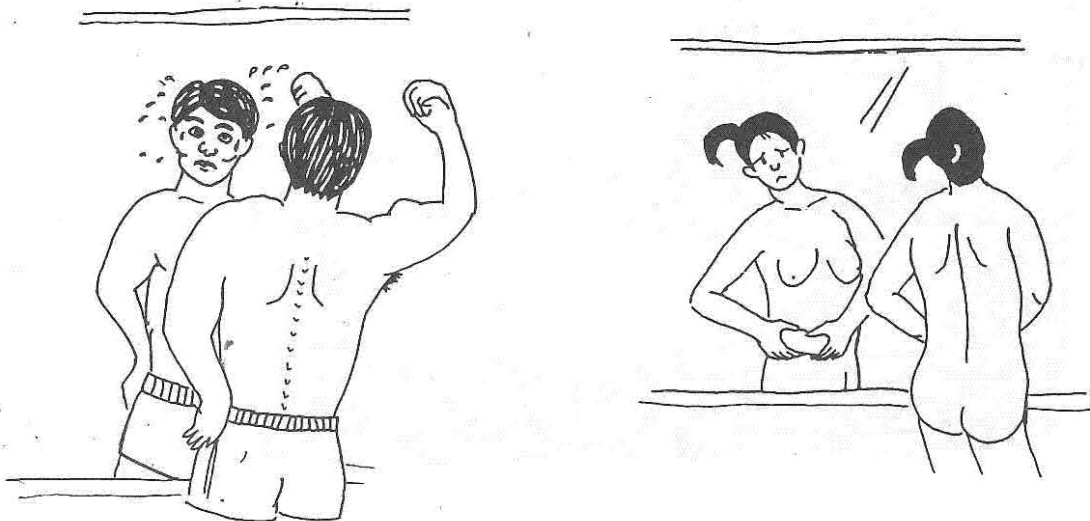


# 鏡のむこうは何するんぞ

脱衣場の男女の境を分けるついでには、だいたい高さ2m。多くの銭湯ではここに大きな鏡がはられている。

自分の全身を姿を鏡にうつして見るなど、銭湯に行かない人はまず出来ないだろう。お風呂は家にあっても、全身鏡も家にあるというのはちょっと特別な家だと思う。裸の自分の全身をしげしげと見ても、異常さを感じなくとも羨望のはここくらいのもんですよ。お嬢さん、ボディ・チェックはちゃんとやんなきゃあ。

鏡に向かって何をやるかという、やはり男は筋肉を硬直させポーズをとり、女はみななの肉のつきどあいを見るのが大半のようだ。ついでこの向こうとこちどいどい自分をなめながら、うーん俺の上腕三角筋だとか、やあねえおやつ減らさなきゃだとか、つぶやき入るのである。なんだかおもしろいな。





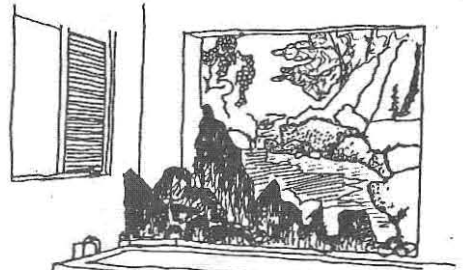
# お湯の間に間に銭湯芸術

銭湯芸術の美学を語るとき、その大きな特徴の1つに「混濁」がある。シマン珪のうしろにエペレストなどびえ、その延長のキューリップ畑に風車が回っている壁画なんて朝飯前だ、その下の絵タイルには、純日本風の錦鯉がゆらゆら泳いでいたりもする。こうなってしまうのも細かい修繕改修を日常の忙しさの間をぬってちょこちょこやらざるを得ない事情があるんだろう。だけどこの予定調和とは無縁な、ごった煮、マンダラ的組み合わせが、不思議な魅力をつくらちゃう場合もあるんだからな。好みの問題だけど、私は好きだな。

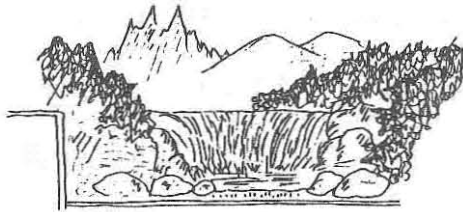
## 1. 背景画 いわすもがなの代表選手



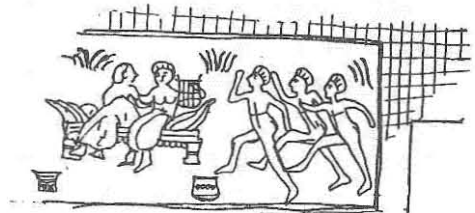
瀬戸内海、ラクダ岩、  
突然同居しちゃうコアラ



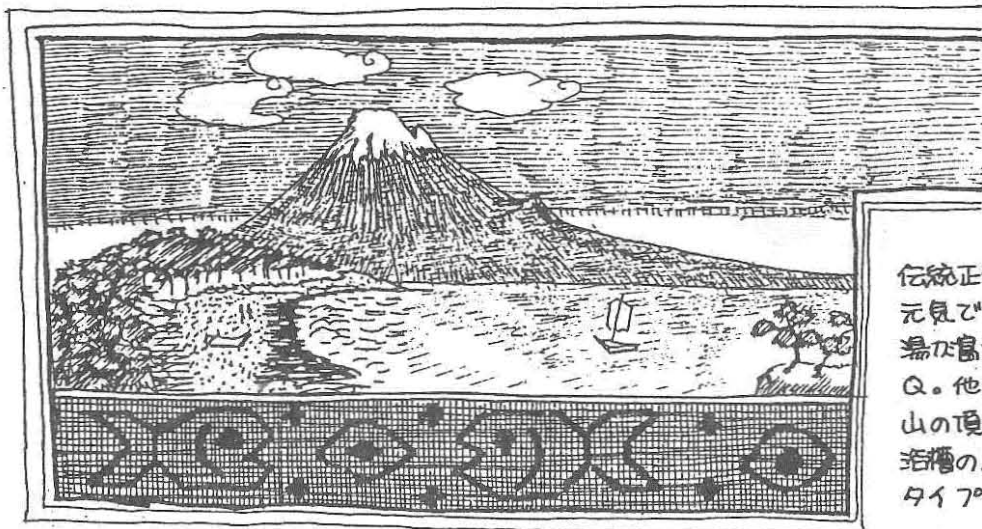
三次元的立体背景画  
(カラフルタイルの渓谷)  
+ 本物のごつい岩



アルプス風鋭峰とタイアガラ風滝、  
そして日本風森林と岩石



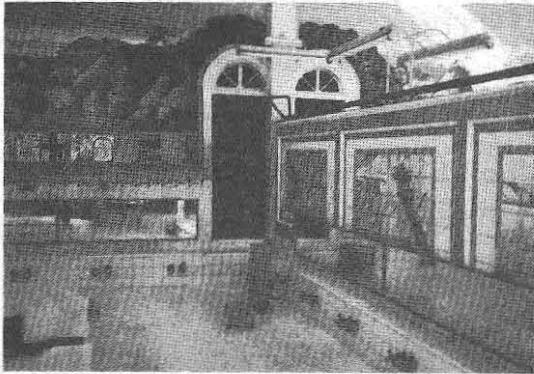
こゝはタイル画でも変わりリダネ  
エジプト神話かな。



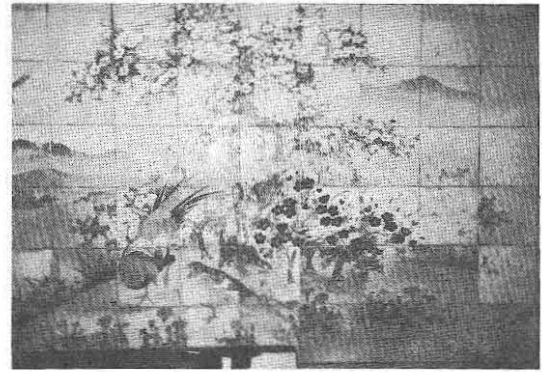
伝統正統の富士山だって  
元気です。この場合は男  
湯が富士山で女湯はオバ  
Q。他に男女の境に富士  
山の頂上なまで、互いの  
浴槽の上に裾野の広がる  
タイプもある。

## ロ. 男女境のタイル画

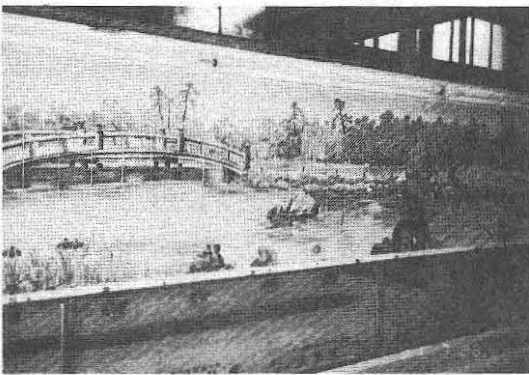
洗い場の男女を生きるタイルの壁は、ただのタイルのこともあるが、意匠もこらした素敵なおものである場合も少なくない。特に数年も経たぬ絵焼きタイルは秀逸。



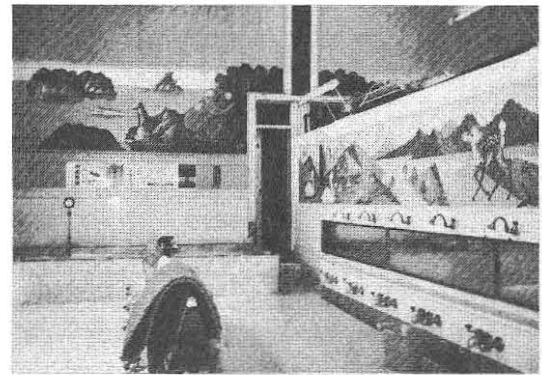
日本のむかし話。みちびりのタイルもなかなか  
凝っている。



ふすま絵のお手本にもなる  
九谷焼タイル



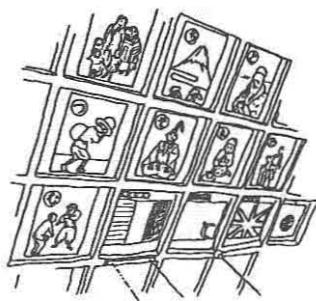
こちらも自慢の九谷焼  
(経営者が北陸出身)



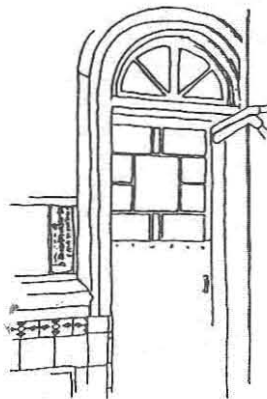
ハクキョウとパンピのモザイク模様。このタイ  
ルが多い。

## ハ. ディテールの妙

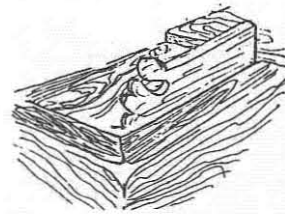
伝統銭湯では、ちょっとしたものたちのちょっとしたこ  
ろが、それぞれの時間やおもいごをすいこんで、本当にいち  
ち素敵である。つばやまに耳を済ましてみて！



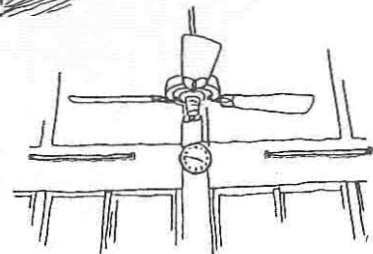
カルタ天井



洗い場から住居へ通じるドア



番台のロココ



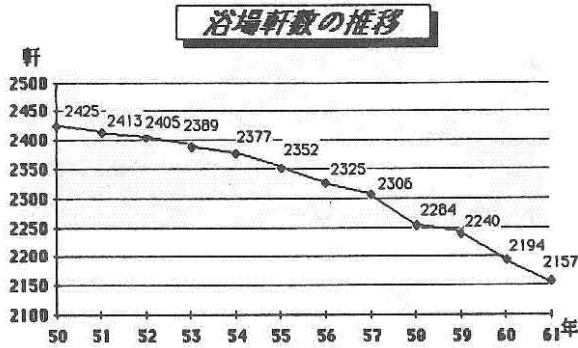
ぶら土なりせんぼうき

## 2-3. 銭湯分布の概況

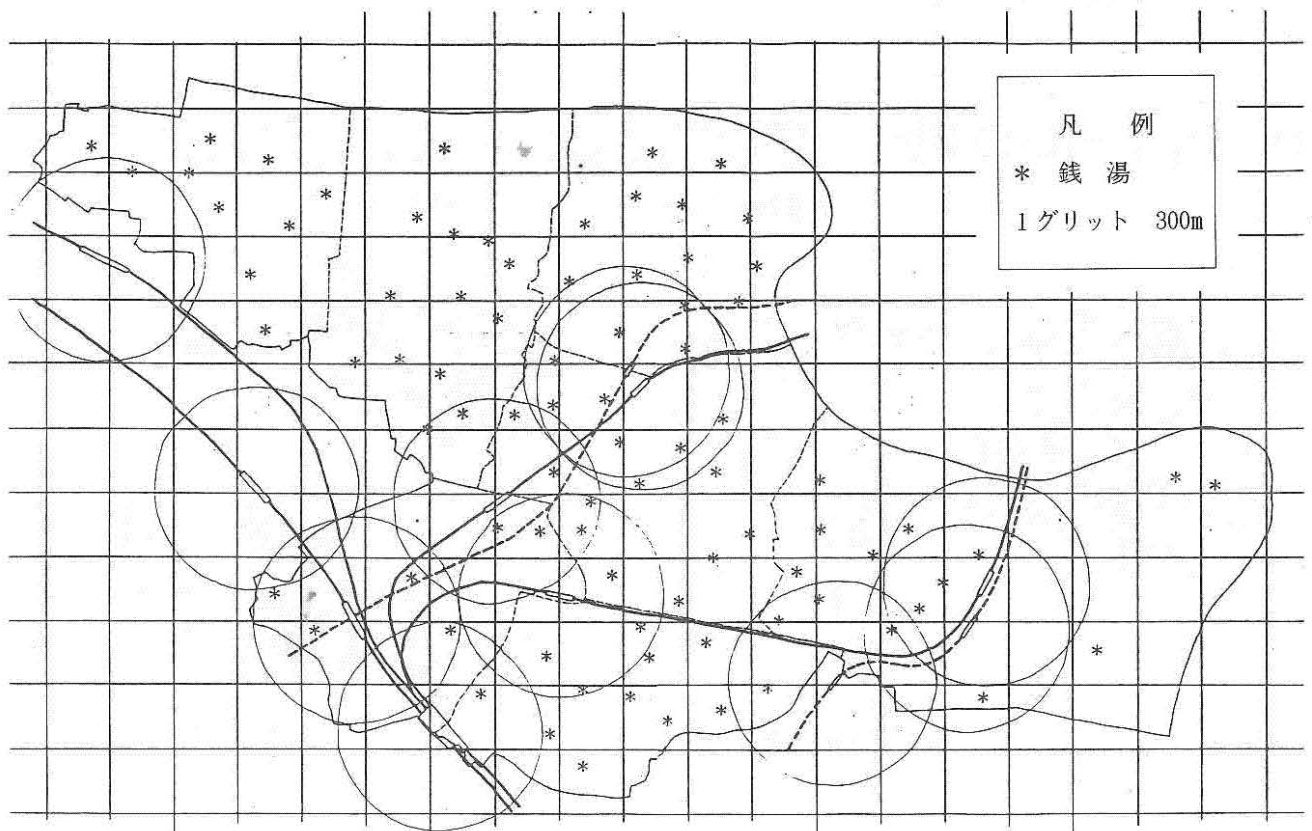
適性に保たれている銭湯配置？

我々にとっては銭湯は近ければ近いほどありがたい。銭湯まで5分も歩くようではつらい。特に冬はその距離を考え、入浴回数を減らすこともある。近頃は自転車はおろか自動車ですらやって来るのも見うけられる。また銭湯のオーナーにとっても銭湯間の配置、距離は死活問題である。歴史的にみて浴場の配置距離を法的に制限したのは明治19年警視庁が2町～3町（140～175m）と定めたのに発する。これ以後、業者にとって浴場間の距離と入浴料値上げは重大関心事項となった。S6年頃、大阪府で業者の圧力で距離制限（市部216m、郡部270m）を撤廃した結果、数十軒が林立競争となり、これがために減収、廃業とおいこまれた。（このようながい経験は東京都、神奈川県にも数多く存在する。）

戦後は公衆浴場法により距離制限は幾度の改正で300mとおちついている。このような背景に自由経済でありながら法的制限を加えると言うことは、個人企業であっても「公衆浴場」という性格上、自由競争により「衛生的で安くてもしかも快適な銭湯が増えれば」という一般要望も一定の経済原則を越えては成り立たなくなり、公共性を失う。そこで営業採算、



銭湯配置距離図 (図1-1)



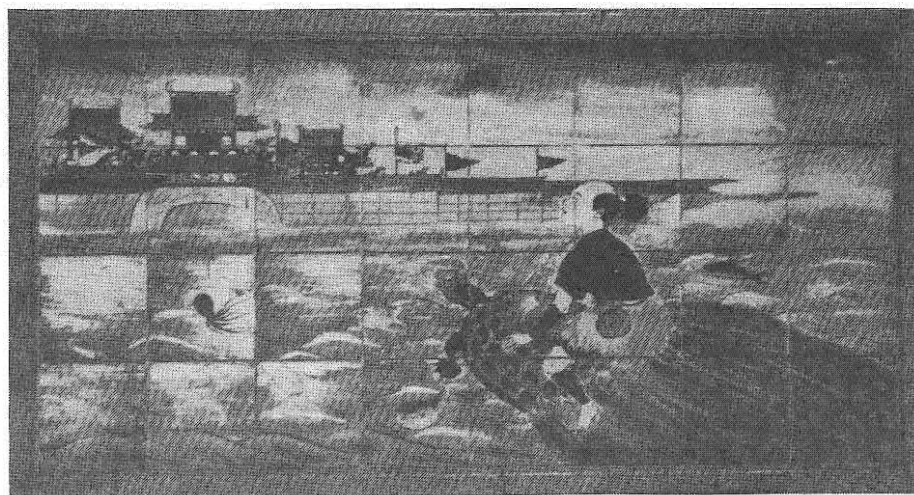


衛生向上の見地から距離制限を設けた訳である。これにより世界に類のない安くて快適な公衆浴場が風呂好きの国民性と合いまって、自然発生的に全国に普及していったと思われる。

荒川区の場合、銭湯間の距離平均は 329mである。地区別に見れば町屋の 283mが最も近く、西日暮里の 430mが最遠となっている。大部分の銭湯が戦後、創業していることと、最近の銭湯数減少を考慮すれば、法的制限距離はほぼ一致する。しかし最近、みられる最新設備導入の銭湯の出現は、経済原則を無視し、公衆性を保護してきた距離制限をくずし、自然淘汰の道を早める一因となっているように思える。

(表1-1)

	人口	面積	世帯数	人口密度	昼間人口指数	銭湯平均距離	銭湯/世帯数
東尾久	28,665	1,518	10,369	18.8	82.8	292	1.23*03
西尾久	27,087	1,196	9,887	22.6	91.3	314	1.01*03
東日暮里	22,533	1,157	8,976	19.4	107	341	1.33*03
西日暮里	19,149	1,093	8,308	17.5	128	430	0.72*03
町屋	27,029	1,371	9,850	19.7	90	283	1.42*03
荒川	29,666	1,516	11,190	19.5	98.5	319	1.42*03
南千住	29,093	2,489	11,701	11.7	99	321	1.23*03

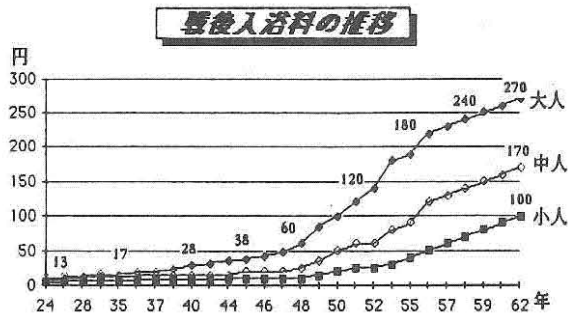


銭湯のバックグラウンドに工場がある？

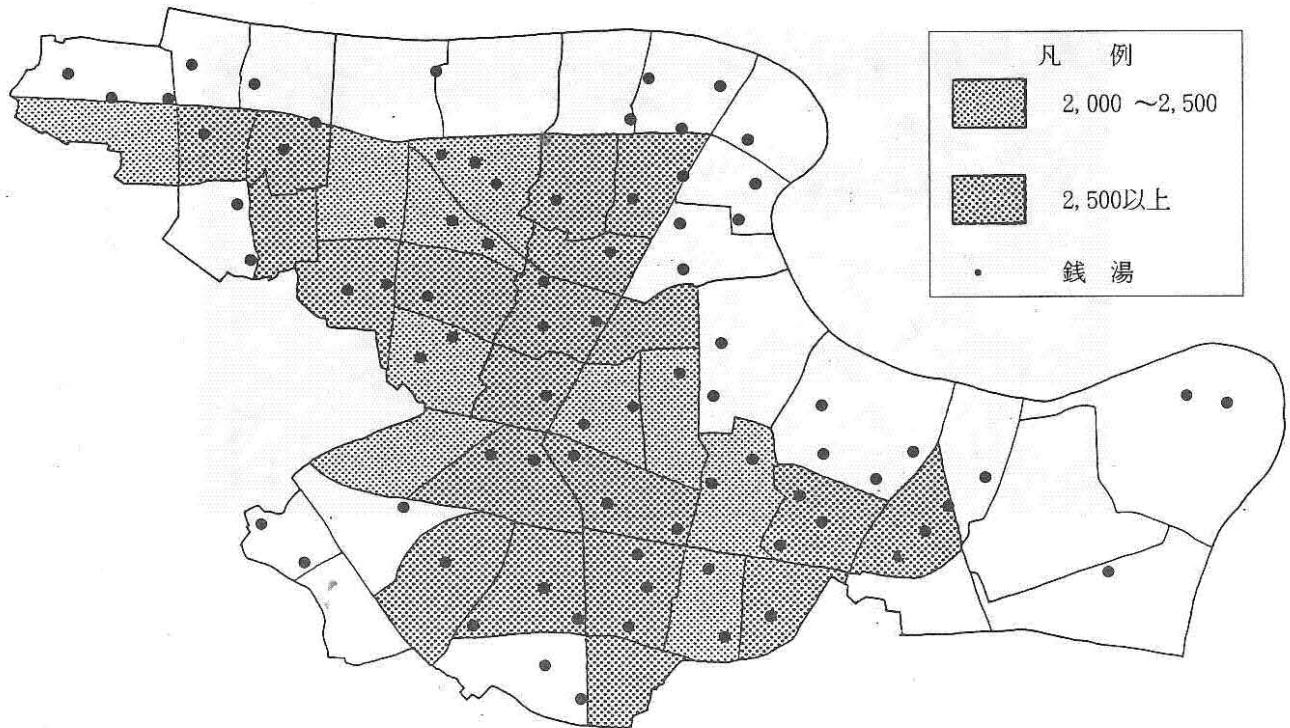
図1-2は町丁別1km当たりの事業所数と銭湯の分布をオーバーレイさせたものである。

ここで言う事業所とは物の生産またはサービスの提供が事業として行われているすべての場所である。ただし、次のものは除外される。1) 農、林、漁業に属する個人経営の事業所。2) 家事サービス業に属する事業所。3) 外国公務に属する事業所。

これを見ると明らかなように事業所が多いところには銭湯も多く分布する。今は減ったが、南千住に多くの銭湯が集中していた時期があった。これは後背に工場、プラントが立地し労働者が住みついたためである。また都市計画的側面から見れば土地利用はほとんど準工業地域で、住商工混在となっており、江東、墨田区同様、そこには銭湯が存在する背景がある。なお用途指定建築群においては公衆浴場は養老院、託児所、診療所と同じ扱いを受けている。



事業所及び銭湯分布図 (図1-2)



## 老人が支える現代銭湯？

〔動物編〕		〔植物編〕	
①鶴の湯	30	①松の湯	51
①亀の湯	30	②梅の湯	26
③竜の湯	6	③竹の湯	22
④熊の湯(泉)	3	④桜の湯	18
④鳩の湯	3	⑤藤の湯	17
⑥鶴亀湯	2	⑥橋の湯	7
⑦燕湯	1	⑦柳の湯	6
⑦狸湯	1	⑧菊の湯	4
⑦鹿の湯	1	⑨萩の湯	3
⑦うさぎ湯	1	⑨人参湯	3
他15種		他15種	

★都内銭湯名ベスト10 1986年現在

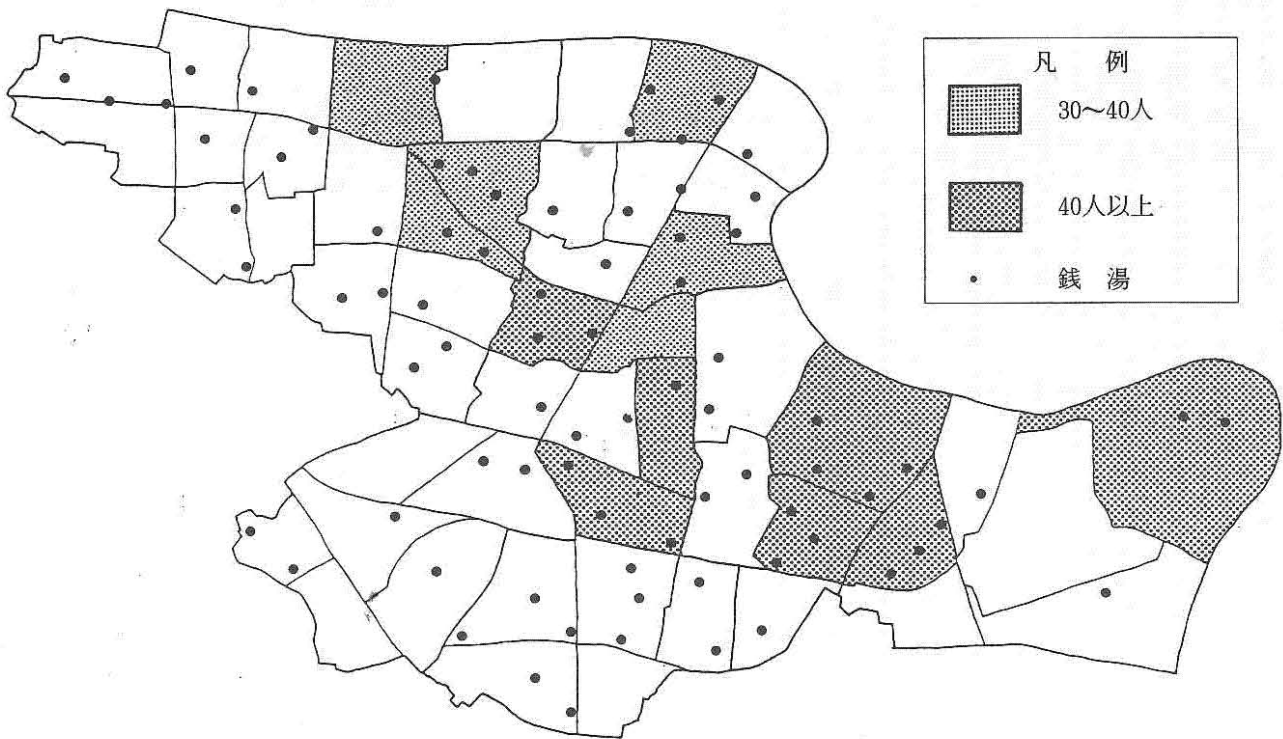
\*出典 藤森昭信+荒俣宏 著「東京路上博物誌」

都内総合ベスト10の

①松の湯	57
②栄湯	39
③寿湯	36
④鶴の湯	34
⑤大黒湯	33
⑥梅の湯	32
⑦亀の湯	29
⑧日の出湯	28
⑨竹の湯	25
⑩富士の湯	23

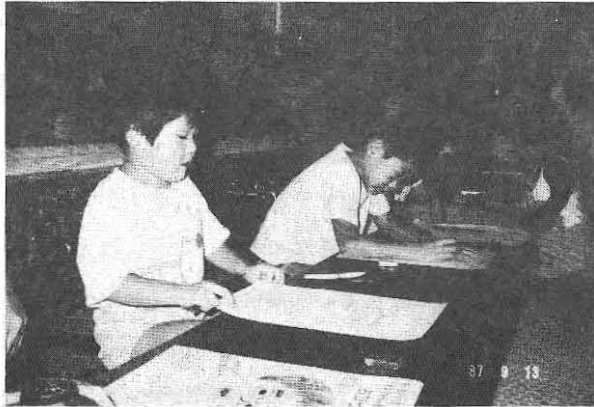
一人暮らし老人数と銭湯件数の関係は、図1-3を見れば一人暮らし老人数が、多い地区に銭湯が多く分布しているが、これは果たして前者が先か、後者が先かについては、銭湯の立地が先だと思われる。最近の銭湯件数の減少の中、この老人パワーがその銭湯の存在意義を保ち、偽らざる真実である。よく考えてみれば銭湯を利用するのは学生、老人が大多数であり、ぜいたくに成りつつある学生を除けば老人は大スポンサーである。荒川区にとっていや東京にとって銭湯を知り、最大限利用し、存続させているのはこの人たちかもしれない。しかし入浴料 270円を惜しむため、老人福祉センターまでわざわざ出むき、入浴する老人が近年増加する傾向にあるという。

1人暮らし老人数と銭湯分布図(図1-3)





## 2-4. 「はだかのふれあい」 イベント報告



◆地域の銭湯を利用して、子供とお年寄りのふれあいをはかろうと、「はだかのふれあい-心のふれあいプラザ」が開かれることになりました。

- ① 子供たちが、昔から伝わる、けん玉やお手玉などの遊びをお年寄りから習う。
  - ② お年寄りと子供が昔の生活や習慣を語り合う。
  - ③ お年寄りと子供が銭湯近くでゲートボール等のスポーツを楽しんだあと、一緒にお風呂に入って汗を流し合うといったことが行われます。
- そして、子供たちがお年寄りに対する尊敬・いたわりといった豊かな心を培い、あわせて地域のコミュニティづくりを図ろうとするものです。

◆私たちが行ったのは、町屋2丁目の竹ノ湯、ご夫婦ともども銭湯に情熱をもやしており、人気も高いお風呂屋さんです。今回のイベント会場は荒川区86の銭湯すべてで行われたのでありますが、何故竹ノ湯へ行ったのかというと、調査のときは是非いらしてください、と熱心に誘われ、2、3日前には電話もかかってきたのである。これで知らんぷりをするのは不人情というものである。そこで我々は、団員の女の子3人と特別参加の東大生との総勢4人、2台の自転車に乗り合って、よめめながら到着した。

◆イベント開始は、1:30、私たちが着いたのもちょうどその頃でした。14.5人、人が集まっていた、子供がかけずりまわっていた。ご主人は声をかけていたお年寄りが来てくれるかどうか心配で、ちょっとそわそわしていた。私たちの来訪を大変よろこんでくれた。

◆イベントの内容は、けん玉、かみ風船、メンコ、コマを区役所で用意し、入浴料を無料にしてお年寄りと子供の交流をはかろうというものである。具体的にどんなことをして遊ぶのかは各銭湯の創意と工夫と熱意にまかされているのだ。

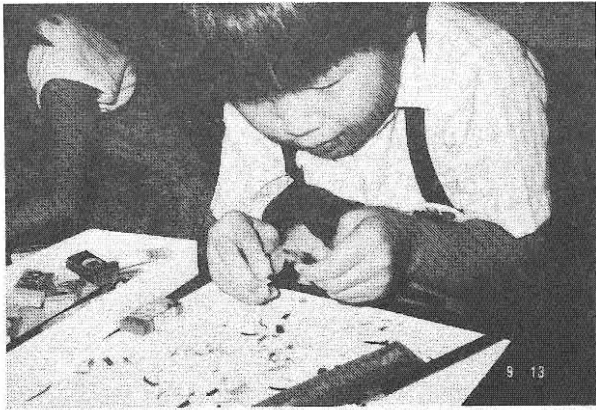
ここ竹ノ湯では、エンピツけずりをお年寄りが子供におしえ、けずれたエンピツで子供がお年寄りの似顔絵を画くというもの、そのあと湯ぶねのふちに並べたリングをおもちゃの弓で射ぬき、お風呂にうかべてリング湯を楽しむと

日時 9月13日(日)  
午後1時~3時  
場所 区内48公衆浴場(下表参照)  
対象 小・中学生とお年寄り  
入浴料 無料  
申込み 事前申込みの必要はありません。入浴道具を持参のうえ、近くの銭湯へおいで下さい。  
主催 荒川区・東京都公衆浴場組合荒川支部  
協力 荒川区少年対策地区委員会連絡協議会・荒川区町会連合町会会長会・荒川区老人クラブ連合会・荒川区少年団体指導者連絡会  
※各会場ごとの遊びやゲームの内容は次へお問合せ下さい。  
問合せ 区民課青少年対策係  
区内線2417、東京都府中組合荒川支部市川会89  
217798

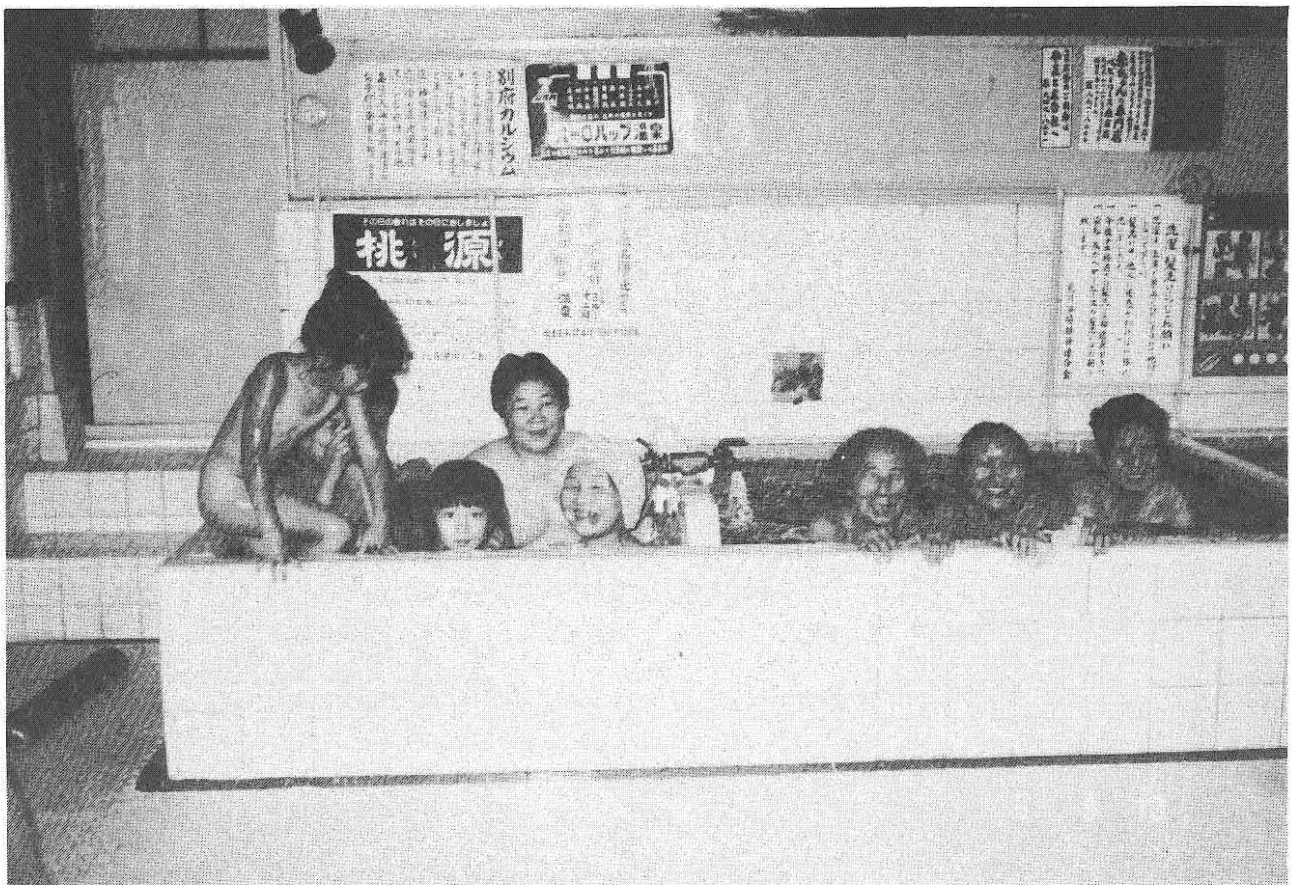
「はだかのふれあい」会場一覧

【東久地区】			【南千住地区】		
小昭福助	湯	1-15-3	桜大井大	湯	1-5-9
酒和助	湯	1-31-17	勝天一	湯	1-19-4
まの恵々	湯	2-42-6	天一	湯	1-23-11
二天改大	湯	3-2-2	須	湯	3-26-1
源	湯	3-13-3	津	湯	5-26-13
	湯	3-34-12	六	湯	5-40-8
	湯	4-17-9	津	湯	6-15-9
	湯	4-41-11	気	湯	6-28-7
	湯	5-14-5	丸	湯	6-51-9
	湯	5-27-5	湯	湯	6-57-9
	湯	6-11-2	湯	湯	7-26-2
	湯	6-27-9	湯	湯	8-16-14
	湯	8-21-2	湯	湯	8-28-6
	湯		湯	湯	
【西尾久地区】			【荒川地区】		
仙宮小松	湯	1-22-3	桜	湯	1-21-3
代々の日田	湯	2-3-2	見	湯	1-32-3
	湯	2-28-5	崎	湯	2-29-8
	湯	3-21-12	の	湯	2-59-2
	湯	4-13-2	菜	湯	3-16-4
	湯	5-22-14	地の	湯	3-59-11
	湯	6-33-4	登	湯	3-68-2
	湯	7-19-11	の	湯	4-6-6
	湯	7-41-5	登	湯	4-30-1
	湯	8-38-3	の	湯	4-43-9
	湯		花	湯	5-10-4
	湯		カ	湯	6-4-2
	湯		の	湯	6-40-1
	湯		ら	湯	6-48-10
	湯		海	湯	6-53-11
	湯		湯	湯	7-7-6
【東日暮里地区】			【町屋地区】		
正大鶏野	湯	1-20-4	千	湯	1-6-9
帝野	湯	2-7-5	竹	湯	1-21-14
野	湯	2-20-10	の	湯	1-30-6
日平	湯	3-16-4	音	湯	2-10-3
玉	湯	3-22-3	和	湯	3-5-17
	湯	3-27-10	宝	湯	3-9-7
	湯	4-12-3	の	湯	4-4-1
	湯	5-8-6	上	湯	4-25-3
	湯	5-26-8	久	湯	4-33-6
	湯	6-13-14	野	湯	5-15-2
	湯	6-40-20	カ	湯	6-4-1
	湯	6-59-2	川	湯	6-29-3
	湯		の	湯	7-1-17
	湯		湯	湯	8-11-16
	湯		湯	湯	
【西日暮里地区】					
福大	湯	1-13-2			
助	湯	1-40-8			
盛	湯	2-41-1			
れ	湯	4-8-4			
ま	湯	4-22-10			
成	湯	5-26-8			
浴	湯				
の	湯				

いう、よりどりの内容である。エンピツけずりは、以前近所にあったエンピツ工場が移転するときに、たくさんエンピツをくれたのがあったので思いついたアイデアだそうで、町屋ならではのアイデアだ。

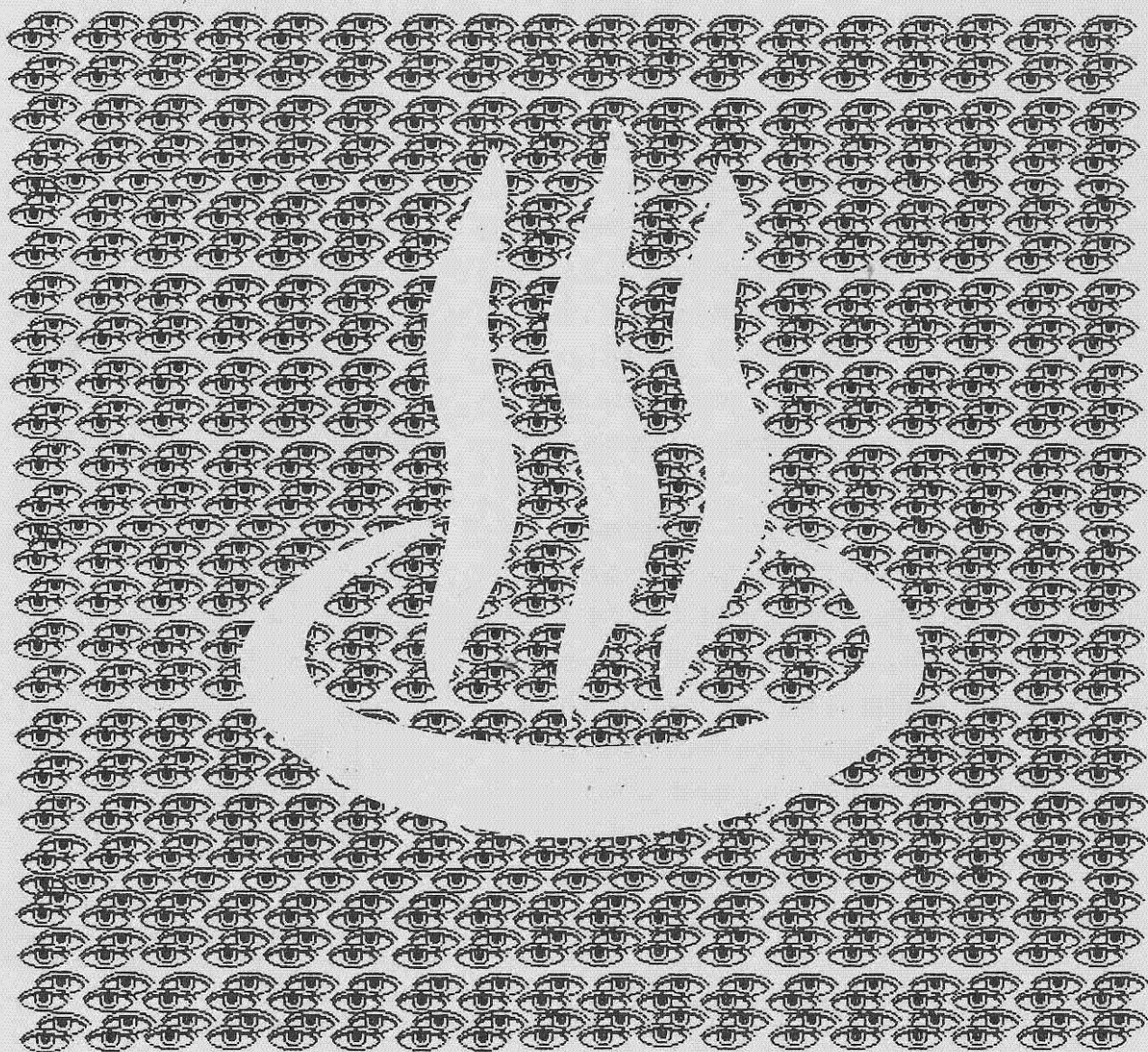


子供が歯をくいしばって鉛筆をけずっているのが、印象的であった。これは良いことを企画してくれたと喜ぶお母さんもいた。中にはただ風呂だけ入りに来るちゃっかりものもいたが、全体的には不慣れな感じはしたけど、参加者がみな顔みしりで、いるだけで楽しいって感じがあった。こういう地区だからこそ成功したんだと思う。





### 3. 「ゆ」アラカルト





### 3-1. これだけ知ればあなたも銭湯通

#### 湯番頭三助と湯女

今日、湯屋の三助といっても、これを知っている人はおそらく明治生まれの人たちだと思う。この三助とは江戸時代から親しまれた銭湯に働く男衆である。この男衆にも種々の階級があって、最初は見習いといって昼頃までは、車を引いて街から燃料となる木クズを拾うとか、大家の庭木の手入れをし、浴客が通いはじめると下足番を夜遅くまで勤め、2・3年たったら釜たき番を見習い、それが一人前になると、はじめて流し場に出て浴客から「三助さん」と愛称で呼ばれる番頭となる訳である。

江戸時代では銭湯に働く男衆の最上が番頭で、主人に代わって番台にも座り、のちに主人や親方の世話で湯株を手に入れて、一軒の湯屋の主人となった。

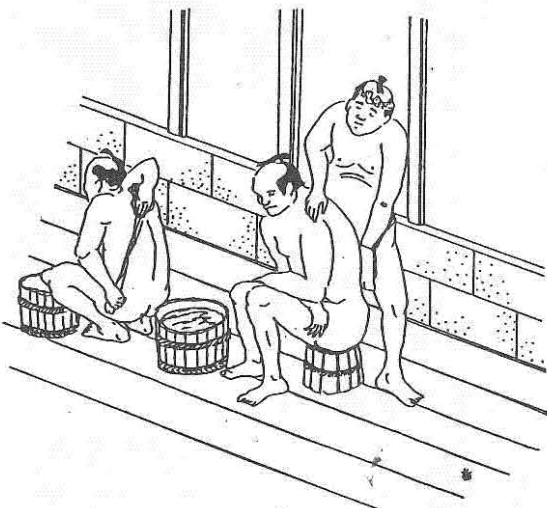
この湯屋の男衆は、寺院温室大湯屋の役僧の名を受け継いで湯那と称したが、湯屋に湯女があらわれ、男衆は遂に湯女となり、これを湯女と呼び、この湯女が後には遊女の類となり、この湯女の置いてある湯屋を一般に「遊女風呂」と呼んだ。江戸時代、この湯女を風紀上、はじめは人数を制限し、遂には禁止したので、再び男衆が流し場に現れ、以後、明治、大正の間は、この男衆三助は浴客に親しまれたものである。

#### 銭湯の出現

銭湯のルーツは仏教が深くかかわっており、四天王寺、東大寺などの大寺院では七堂伽藍に決まって温室や大湯屋があった。この温室参詣人にも解放し、うわさを聞きつけ、来る人は増えるばかり、寺側も一般参詣用の温室を施けた。今日の銭湯の外観が寺社造りと類似するのは、よく解る。

しかし、銭湯は入浴料、湯銭を払って入る訳だが、寺院での入浴は施浴と呼ばれるように社会事業で無料である。この施浴は貴賤の差なく病人や囚人にも温室を解放したものであり、鎌倉時代に全盛を迎える。入浴料をとって営業する銭湯（町湯）が出現するのは鎌倉末期であり、室町時代に入り町湯は増え、公家たちは一般庶民との同浴を避けるため町湯を借り切った。これを留め湯、もしくは留め風呂とよんだ。

この町湯は湯槽が長い長方形の木槽でその上に戸棚をかぶせたようになっており、入口は引き違い戸で、湯気は充満し、蒸風呂状態で人々に喜ばれた。



#### 留め湯……銭湯の定期券

入浴回数に関係なく、1カ月いくらと定め、大人8文の頃1カ月148文くらいであったという。

なお室町時代にも留め湯はあったが、意味が異なる。すなわち当時の公家は貧乏で銭湯を利用したのだが、身分上、庶民との同浴を好まぬため銭湯を2時間位、借りきった。そして一族同輩が料金を負担し入浴した。



#### 留め桶……自分専用の桶

いきつけの銭湯に自分専用として備えつけている湯桶で屋号や家紋を入れている。客が来ると三助は番台から拍子木の合図で、留め桶に上がり湯をくんでおき、客が湯槽から出ると、背中などを流すのである。

#### 湯札……銭湯の回数券

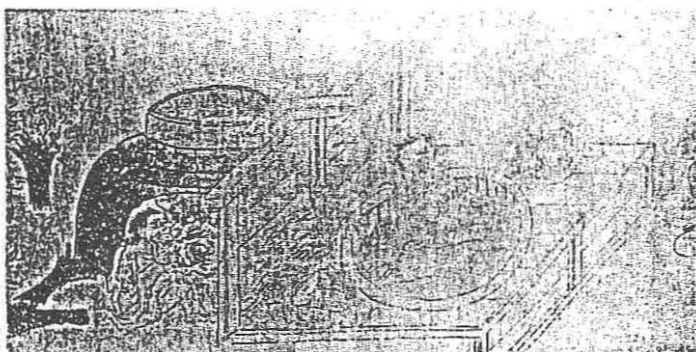
客はその度、小銭を用意するのは不便もあり、店側も釣り銭の用意や手数を除くため回数券を売り出した。この湯札を羽書（はがき）と呼んだ。これは今日の郵便はがきはその型がこの湯札に似ていることから、そう呼ばれたらしい。



## 湯槽の変遷

## 家庭の風呂

〔取り湯〕…別棟壁殿で浄水をわかし、これを桶で運ぶか、壁外より桶で内部の湯桶へ流し込むかである。



流し込み式の浴槽 (尾形坊草紙)

湯槽は古くは鉄槽すなわち鉄釜であった。しかしなかには木製の湯舟桶もあったと思うが焼失、汚損などで残存していない。

じか焚き…湯槽にあたる大鉄釜を下から直接に焚き、適温のときか冷水を加えて数人が一度に入浴できるもの。僧侶が入浴方法を考案した。

鎌倉時代に湯釜のじか焚きのものもあったらしいが確証する資料はまだない。

室町時代に入るところまでに木製のほぼ円形の湯槽が考えられる。

これを一般に風呂桶と呼んだ。この湯槽を桶形にするには、木材の選択と製造技術を要することから遅れたと思う。なお、これらの木製の湯槽は直接に焚くことができず、みな取湯式で江戸時代初期に、鉄砲風呂の類が考案されるまでは不便さがあった。

戸棚風呂…風呂と洗場とを兼ねた湯槽が考案された。湯槽は横に長い長方形の木槽で、その上部があたかも戸棚をかぶせたようになっており、その戸は引き違いで、入浴の都度引き違い戸を開閉するもので、その特徴とするところは湯槽の湯は少量でも戸の密閉によって内部に湯気が充満し、その効果は人々によろこばれていた。



戸棚風呂 (『軽口箱子』の挿図)

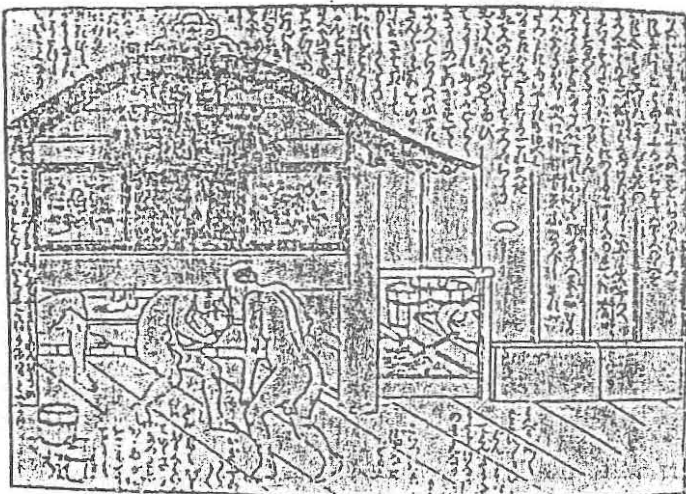
平安・鎌倉時代

室町時代



## 湯槽の変遷

柘榴口…これはそれまでの戸棚風呂の引き違い戸を固定させ、その下三尺くらいの入口より入る方法である。すなわち江戸時代に入り、都市での銭湯が繁栄すると浴客が多くなり、戸棚風呂の戸の開閉が頻繁で戸を閉めて、内の湯気の外部への流れ出ることを防ぐことのできないことからの苦心の考案である。



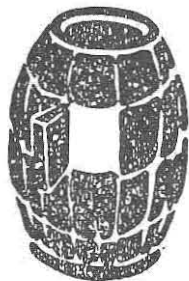
柘榴口 (宮島旅館新築)

江戸時代

改良風呂…明治10年、湯屋主人鶴沢紋差衛門が、各地温泉場の湯槽からヒントを得て、柘榴口の外囲いを全部取りのぞき、湯槽を低く下げて、流し場とほぼすれすれにし、改良風呂と称した。

明治時代

飛び込み風呂  
正式の名前は近江八幡の飛び込み風呂。風呂桶に穴のあいたよたをかぶせ、その穴から首を出して入浴するもの。



観音開き風呂  
すでに江戸時代前期に戸棚風呂と知られ、これに個人用に改良して酒樽に戸口をつけた型のもの。

## 家庭の風呂

へそ風呂  
木の桶に竹のたがをはめた湯舟に、燃焼燃料を内蔵したもの。たき口が中央に出へそ状に外に突き出しているのが特徴。

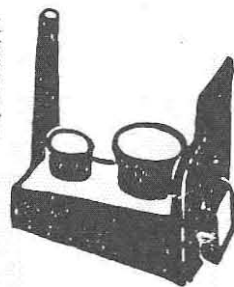


鉄砲風呂  
据え風呂の一種。木の桶に竹のたがをはめた浴槽の外部に釜を取付け、内側に仕切りをつくって上がり湯も使えるようになっている。



これらの鉄砲風呂、へそ風呂の湯槽は、はじめ円形であったが、後には楕円形のそれぞれ桶で、さらに長方形の箱型のももできた。

五右衛門風呂  
正式には長州風呂と呼ばれるもので、鉄砲風呂とやらんで関西地方でひろく使われた。



佐渡オロゲ  
近世初期に戦陣用として用いられた給湯式の風呂であったが、佐渡の一般家庭で使われるようになり、佐渡オロゲと呼ばれた。



\* 出典「公衆浴場史」

### 3-2. 年譜でみる銭湯史

年 号	西 暦	事 項	重 要 事 項
明治 2	1869	東京府、混浴の禁止、隔日または浴槽の仕切り営業 東京府、葉湯の混浴の禁止 このころ新政府、風俗習慣の改善としてまず銭湯に着目	箱館五稜郭の戦い終結
明治 3	1870	東京府、重ねて混浴の禁止、入口、二階格子等に暖簾、簾垂を を下げ往来よりの見通しの防止の厳達	
明治 5		銭湯大人1銭五厘、中人1銭、小人5厘 このころ東京市内の町名整理のため、町営浴場の私営困難のため 1,300軒が800軒に激減	太陽暦採用(6、1、1)
明治10		このころ神田連雀町鶴沢紋左衛門、柘榴口を改め、世に改良風呂、 温泉風呂と呼ぶ 「勇みの熱い湯」漸次に衰える	
明治12		東京湯屋 1,030軒	
明治13		東京市内湯屋数 1,021軒	
明治14	1881	東京の湯屋 908軒に減ず	東京府下、もりかけ1銭2厘
明治19	1886	警視庁、湯屋の距離により営業の許否を決議(直径1町以上、 2町半以上、3町以上、1町以上、暫定)	を1銭5厘に値上げ協議
明治20		福沢諭吉、三田演説館で「私権論」中に銭湯の情景を引いて自由 平等を説述 警視庁、焚き釜、煙突高(30尺)を定める 東京市内銭湯大人2銭、中人1銭5厘、小児5厘	東京もりかけ1軒5厘
明治23	1890	警視庁令、湯屋取締規制改正(出願免許、7歳以上混浴の禁、 距離市部直径2町、郡部2町半)	
明治27		東京市内湯銭1～1銭5厘(平均1銭2厘5毛、本所、深川の み1銭)	日清戦役宣戦布告 もりかけ1銭2厘～1銭5厘
明治33		警視庁令、東京府湯屋取締規制改正(距離、市部直径2町以上 郡部同2町半以上)	
明治38	1905	東京市湯銭大人3銭、中人2銭5厘、小児1銭 大阪市湯屋 400軒、湯銭2銭5厘 このころ、井戸水のツルベより手押しポンプに代わりはじめる	日露両国平和回復
明治41		大阪市湯屋 423軒 東京市湯屋 879軒、郡部 338軒	
大正 9		警視庁令、浴場及浴場営業取締規則制定(10、15施行)距離市 部 100間以上、郡部 120間以上☆従来の湯屋の文字が浴場となる	
大正10		東京市入浴料大人6銭、中人5銭、小人4銭☆郡部も変更	

年 号	西 暦	事 項	重 要 事 項
大正 1 1		一般に朝湯の廃止（例外はある）、特殊環境以外は午前11時開湯	
大正 1 2	1 9 2 3	東京市入浴料大人 6 銭、中人 4 銭、小人 2 銭 関東大震災で東京市浴場 971軒のうち 630余焼失	関東大震災
昭和 2		このころより湯水両水道式カラン備えつけはじまる	モラトリアム実施
昭和 7		警視庁令、浴場および浴場業取締規制の一部改正☆市街地の距離	
昭和 1 6		東京の一浴場に対する人口数 2,130、大阪 1,941	真珠湾奇襲、太平洋戦争に突
昭和 1 9	1 9 4 4	東京都設浴場条例制定、入浴料大人 6 銭、小人 4 銭	入
昭和 2 0		終戦当時、東京都残存浴場約 400軒	終戦
昭和 2 2		東京都令、浴場および浴場営業取締規則制定	独占禁止法公布
昭和 2 3		東京都条例、公衆浴場衛生措置基準等に関する条例制定☆地方もまた同じ	
昭和 2 4		東京都浴場数 780軒（区部）1浴場人口 4,919人（建研研究員久我新一調べ） 東京都公衆浴場商業共同組合創立総会、設立同意者 999名	
昭和 2 5	1 9 5 0	公衆浴場法第二次改正（距離規制） 東京都条例、公衆浴場法施行細則改正☆地方もまた同じ 東京公衆浴場数 1,436、温泉12	建築基準法公布
昭和 2 7		このころ、東京新宿三光町 500メートル四方に新規「文化湯」と在来の「花園湯」、「喜楽湯」、「新光湯」の抗争	
昭和 3 1		このころ都内に民謡風呂、トルコ風呂流行のため、公衆浴場業者より法律改正の陳情 都内特殊浴場約50軒	
昭和 3 3	1 9 5 8	東京都公衆浴場数 2,352、従業員 1 軒平均男 1.66 東京都公衆浴場の井戸有無（あり 1,482、なし 342） 東京都条例改正（トルコ風呂）	メートル法実施
昭和 3 4		東京都緑地帯関係八区代表協議（緑地帯の浴場配置基準距離現行 200メートルを 300メートルに延長の陳情書作成、後日提出） 東京都浴場数 2,411 大阪府浴場数 2,018 秋田県浴場数 241	もりかけ30円
昭和 3 5		豊島区七色温泉天井落ち 7 人重軽傷 全国公衆浴場22,798	
昭和 3 6		「消える都心のふろ屋、年に56軒」（日本経済新聞）	
昭和 3 7		浴場脱衣場でジュースの販売が始まる	



年 号 | 西 暦 | 事 項 | 重 要 事 項

昭和39	トルコ風呂の取締強化	S26	S29	S31	S35	S36	S39
		トルコ風呂数	1	4	13	35	84
昭和40	家庭風呂備えつけ全国平均67.8% (厚生省調べ) 芝浦工大橋本教授研究による東浴64型気泡発生器を量産販売 大阪市浴場数 1,315、府下 1,038、市新設21、廃止47						
昭和43	都内浴場 2,700軒に「参院選近づく、20歳だ、選挙人名簿登録に」の暖簾を掲げる 都経済局アンケート自家風呂80%						
昭和44	東浴、建設省告示の都特別区内緑地地域の住居地域指定変更による浴場距離 200メートル短縮につき、都議会に従来どおり 300メートル維持請願						
昭和45	TBSテレビ毎週火曜日夜9時30分『時間ですよ』放送、浴場経営者の家族生活						
昭和47	東京都は内規により公衆浴場にサウナの併設を認める						
昭和48	貸洗濯機につきSYCと契約、タバコ販売も許す						
昭和50	港区は区内公衆浴場の釜等の更新費用として 520万円の予算を決定						
昭和52	テレビ朝日にて公衆浴場PRのCM放送始まる						
昭和54	ゆず湯を20年ぶりに復活						

\*「公衆浴場史」参照



### 3-3. 銭湯関連ブックレビュー

#### ・公衆浴場史

全国公衆浴場業環境衛生同業組合連合会

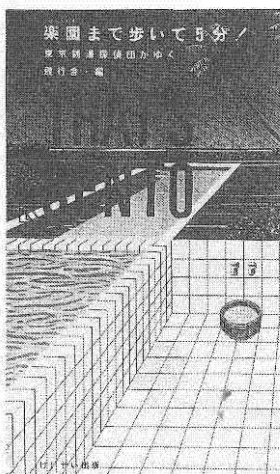
S47に公衆組合創立15年の記念事業の一環として編集されたものである。その配布先も各県組合、学校、図書館といった限られた範囲である。当然、内容は総数500ページを越え格調高く、学術的にもアメリカの研究所から問い合わせがあるほど評価されている。そのためか取っつきにくく読みづらいかもしれないが、これ一冊あればお風呂に関してはすべてが解る名書である。



#### ・TOKYO銭湯MAP

文芸春秋 ¥980

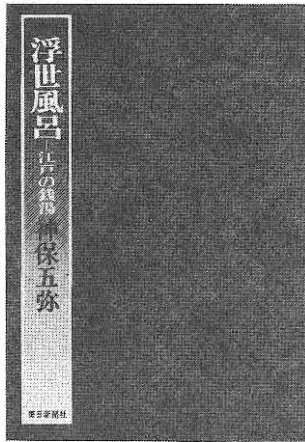
今、風呂屋は変わりつつあるという。露天風呂、カラオケ会場を導入したりしエンターテイメントの場として新しくなりつつある。また一方で古き良きノスタルジックな銭湯も今に残る。そんなとっておきのお風呂屋を都内から55軒よりすぐり紹介している。



#### ・THAT'S SENTO

けいせい出版 ¥1,010

TOKYO銭湯MAPから遅れること一年、この書は我らと同じく東京銭湯探偵団なるものを結成し、潜入、観察、徘徊、追跡を繰り返した結果の汗と涙のページである。一見、軽い内容に見られるが、探偵団員が集めたずるどい切り口によって、読めば読む程、味わいの湧く一冊である。



・浮世風呂－江戸の銭湯

毎日新聞社 ￥980

タイトル通り、式亭三馬の「浮世風呂」の舞台となった江戸の銭湯について書いたのが本書である。大長屋の路地口にある銭湯を舞台とした浮世風呂はそのまま江戸の庶民の生活を写している。内容は文学作品のだが、そこには現代の銭湯にはない、江戸の庶民の容器でにぎやかな社交場の雰囲気伝わってくる。現代でも広々とした銭湯の湯槽につかった時、身心ともに開放感を覚えることはまちがいない。



・風呂のはなし－物語／ものの建築史

鹿島出版会 ￥1,030

住宅の二要素である風呂を建築史的に体系化しようと試みようとしたものである。これまでは風呂について風俗学・民族学の立場から、あるいは社会世相の観点からの文献、資料が大多数である。本書では先の著書、文献をよりどころにしながら風呂の建築的側面に焦点を定めその諸相を考察している。

各節は短く、内容的にも読みやすい。歴史書、入門書としては推薦したい一冊である。

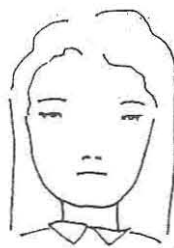


## 団員紹介



探偵団のリーダー。日本人離れた風ぼうと、安定した精神構造は、ヒアリングに向いているに違いない。三助になる修行中の身と聞く。

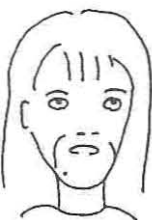
広瀬将人(24) [西日暮里担当]  
香川県生まれ



南千住調査中豪雨に見舞われ、雷にうたれ、変なおじさんに遭遇しながらも、お店の人から貸してもらった一本の傘で「人の真心を信じる」と言った伝説の主。

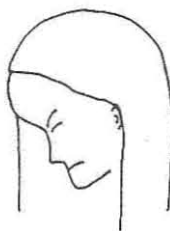
聖女が単純なだけか意見は割れる。

飯島玲子(24) [南千住担当]  
埼玉県生まれ



今回の調査で一番時間をかけたとされる人である。かいあって良質な仕上がりと変わったが、今後の課題は脳の容量に見あったやる気の制御であろう。

真鍋千恵子(23) [荒川担当]  
福岡県生まれ



一見素直な女の子であるが、実は頑固な壁と鋼鉄の額を持つ頑固者。一瞬でも壁の向こうをかいまみると、いじらしくて泣けてくる。ガウディとチャンポン好き。

田口智子(22) [町屋担当]  
長崎県生まれ



剣道の心得があるだけに、立ち振舞いが武士の娘である。日本女性の鏡とうわさされながら、印度生まれ。男ならば一度は「無礼者！」と怒鳴られたい。

辻 知子(24) [西尾久担当]  
印度→埼玉



正体不明。そのふところの深さは初代北の湖をほうふつさせる、インパクトを持ちながら本性はつかめずリアリティーの寸止めと評される。彼女と対座して30分気がつくとすべてをさらした自分がいる。

宮迫三代子(23) [東尾久担当]  
鳥取県生まれ



もんじゃ喰い放題、銭湯入り放題にだまされ探偵団員となる。調査後突然人情に目覚め、周五郎などと繰りながら涙することに快感を覚える。

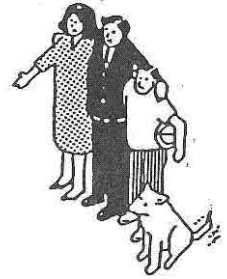
福田真琴(23) [東日暮里担当]  
鳥取県生まれ



どんな話題でも一席ぶてるストックの豊富さ美意識の高さは賞賛に値する。気持ちの若さと肉体の衰えのズレをどこで補正するのかいらぬ心配をしてしまう。伸縮自在のヒワイな口ビルが魅力。

藤沢 毅(35)  
福井県生まれ

Special thanks



編集スタッフ 藤沢 毅  
広瀬 将人  
真鍋千恵子  
福田 真琴

作画協力 荻原 哲雄  
青木 実穂  
大達 智子

編集協力 飯島 玲子  
辻 知子  
宮迫三代子  
田口 智子

アドバイザー 小林清三郎  
渡辺 信雄  
大久保 誠

発行日 ・昭和63年1月

編集・発行 ・荒川探偵団

連絡先 ・〒116 東京都荒川区西日暮里2-7-3

栗原マンション 201号

(株)荒川すまいづくりセンター気付

TEL 801-8184

FAX 801-8376